

Oracle® GoldenGate

For Windows and UNIX エラー・メッセージ・ガイド
11g リリース 2 (11.2.1.0.2)

B72459-01 (原本部品番号 : E36543-01)

2013 年 5 月

ORACLE®

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

OGG-00001 から OGG-05502

OGG-00001: 実行を続行できません - プログラムを終了しています

原因: これは、プロセス障害を示す一般的なメッセージです。

処置: プロセス・レポートやエラー・ログ内で、この障害に対してさらに多くのコンテキストを提供する他のメッセージを探します。問題を特定および解決することができない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00002: ディレクトリ名が欠落しています

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY パラメータの DIRECTORY オプションにディレクトリ名が欠落しています。

処置: DIRECTORY オプションで一時記憶域のディレクトリを指定するか、DIRECTORY オプションを削除してデフォルト記憶域を使用します。

OGG-00003: ディレクトリ名の終了引用符が欠落しています

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY パラメータの DIRECTORY オプションで、ディレクトリの指定に末尾の（終了）引用符が欠落しています。

処置: ディレクトリ名を二重引用符で囲みます。

OGG-00004: ディレクトリ名が長すぎます

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY パラメータの DIRECTORY オプションで指定されたディレクトリ名が、オペレーティング・システムがサポートしている長さの上限を超過しています。

処置: パス名の長さがオペレーティング・システムの制限範囲内のディレクトリを指定します。

OGG-00005: ディレクトリ・ファイルのサイズの数値が無効です

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションに、最大ファイル・サイズの無効な値が含まれています（数値以外の値や無効なサイズ指定子など）。

処置: 有効な値を指定してください。有効なディレクトリ・サイズや、有効なサイズ指定子（ギガバイトの GB、メガバイトの MB など）については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00006: ディレクトリのオプションはカッコで囲む必要があります

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションのディレクトリの指定が、カッコで囲まれていません。

処置: ディレクトリの指定全体をカッコで囲みます（「DIRECTORY (c:\test\dirtmp, 3000000000, 3000000000)」など）。

OGG-00007: ディレクトリ・サイズの数値が無効です

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションに、最大ディレクトリ・サイズの無効な値が含まれています（数値以外の値や無効なサイズ指定子など）。

処置: 有効な値を指定してください。有効なディレクトリ・サイズや、有効なサイズ指定子（ギガバイトの GB、メガバイトの MB など）については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00008: ディレクトリ・ファイルのサイズが欠落しています

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションにファイル・サイズの指定が欠落しています。

処置: ディレクトリの完全修飾名、ディレクトリの最大サイズ、各ファイルの最大サイズを指定します（「DIRECTORY (c:\test\dirtmp, 3000000000, 3000000000)」など）。

OGG-00009: ディレクトリのカッコ内には有効なオプションが含まれている必要があります

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションにカッコだけが存在し、カッコ内に指定が含まれていません。

処置: ディレクトリの完全修飾名、ディレクトリの最大サイズ、各ファイルの最大サイズを指定します（「DIRECTORY (c:\test\dirtmp, 3000000000, 3000000000)」など）。

OGG-00010: ディレクトリのサイズおよびディレクトリ・ファイルのサイズが欠落しています

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションに、ディレクトリおよびファイルの最大サイズの指定が含まれていません。

処置: ディレクトリの完全修飾名、ディレクトリの最大サイズ、各ファイルの最大サイズを指定します（「DIRECTORY (c:\test\dirtmp, 3000000000, 3000000000)」など）。

OGG-00011: ディレクトリ・ファイルのサイズが欠落しています

原因: TRANSMEMORY または LOBMEMORY の DIRECTORY オプションに、ファイルの最大サイズの指定が含まれていません。

処置: ディレクトリの完全修飾名、ディレクトリの最大サイズ、各ファイルの最大サイズを指定します（「DIRECTORY (c:\test\dirtmp, 3000000000, 3000000000)」など）。

OGG-00012: コマンド・ライン・エラー: 起動構文が無効です: {0}

原因: コマンド・ラインから起動中の Extract または Replicat プロセスに対して、不明なパラメータが指定されています。

処置: 構文を修正します。コマンドに指定できるのは、PARAMFILE パラメータと REPORTFILE パラメータのみです（「/oggdir/extract paramfile dirprm/ext.prm reportfile /user/reports/ext.rpt」など）。

OGG-00013: 起動時に引数 {0} が欠落しています

原因: 指定されているパラメータから引数が欠落しています。

処置: 正しい構文を使用します。Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00014: パラメータを認識できません: {0}。パラメータのスペルが正しくないか、サポートされていない可能性があります。

原因: 指定されたパラメータは、Oracle GoldenGate のこのバージョンで有効ではありません。

処置: 構文、スペル、セミコロンなど必須の終了文字が正しいかどうか、パラメータ・ファイルを確認します。また、パラメータが Oracle GoldenGate のこのバージョンでサポートされていることを確認します。これら両方を確認するには、使用中のバージョンの Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00015: {0} はサポートされていません。スペルを確認するか、Oracle GoldenGate リファレンス・ガイドを参照して、サポートされているパラメータを確認してください。

原因: 指定されたパラメータは、Oracle GoldenGate のこのバージョンで有効ではありません。

処置: 構文、スペル、セミコロンなど必須の終了文字が正しいかどうか、パラメータ・ファイルを確認します。また、パラメータが Oracle GoldenGate のこのバージョンでサポートされていることを確認します。これら両方を確認するには、使用中のバージョンの Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00016: {0} はサポートされていません。スペルを確認するか、Oracle GoldenGate リファレンス・ガイドを参照して、サポートされているパラメータを確認してください。

原因: 指定されたパラメータは、Oracle GoldenGate のこのバージョンで有効ではありません。

処置: 構文、スペル、セミコロンなど必須の終了文字が正しいかどうか、パラメータ・ファイルを確認します。また、パラメータが Oracle GoldenGate のこのバージョンでサポートされていることを確認します。これら両方を確認するには、使用中のバージョンの Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00017: スタック・スペースが十分ではありません。FUNCTIONSTACKSIZE に {0,number,0} より大きい値を指定してください

原因: Oracle GoldenGate の列変換関数の処理に使用されるメモリー・スタックのサイズを増やす必要があります。

処置: パラメータ・ファイルの、変換関数を含むパラメータのリストの前に FUNCTIONSTACKSIZE パラメータを追加して、エラー・メッセージに示す値以上の値を設定します。この値によって、パラメータ句内で許可する関数回数数が指定されます。

OGG-00018: RMTTASK として実行中、{0} は無視されます。

原因: 指定されたパラメータは、リモート・タスクではサポートされないため、無視されています。

処置: 今後このようなメッセージが表示されないようにするには、パラメータ・ファイルからこのパラメータを削除します。

OGG-00019: EXTRACT パラメータ・ファイル内の RMTTASK に GROUP 値が指定されていません。GROUP group_name とします。

原因: RMTTASK パラメータに必須の GROUP 句が欠落しています。

処置: GROUP 句を追加して、RMTTASK REPLICAT, GROUP group_name という構文にします。group_name はターゲット上の Replicat グループの名前です。

OGG-00020: EXTRACT パラメータ・ファイル内の RMTTASK の GROUP 値が長すぎます。

原因: RMTTASK の GROUP 句内のグループ名が長すぎると考えられます。
Oracle GoldenGate のグループ名の長さは 8 文字以内です。

処置: グループ名を短くしてください。

OGG-00021: EXTRACT パラメータ・ファイル内の RMTTASK に REPLICAT パラメータが存在しません。

原因: RMTTASK パラメータには REPLICAT キーワードが必要です。

処置: 正しい構文は RMTTASK REPLICAT, GROUP group_name で、group_name はターゲット上の Replicat グループの名前です。

OGG-00022: EXTRACT パラメータ・ファイル内の RMTTASK 行に GROUP パラメータ、GROUP group_name が存在しません。

原因: RMTTASK パラメータに必須の GROUP 句が欠落しています。

処置: GROUP 句を追加して、RMTTASK REPLICAT, GROUP group_name という構文にします。group_name はターゲット上の Replicat グループの名前です。

OGG-00023: RMTTASK モードでは、TCPBUFSIZE および TCPFLUSHBYTES はサポートされていません

原因: RMTHOST パラメータに TCPBUFSIZE オプションまたは TCPFLUSHBYTES オプション（あるいはその両方）が含まれていますが、これらはリモート・タスクではサポートされていません。

処置: これらのオプションをパラメータ・ファイルから削除します。

OGG-00024: '{0}' に対して、FORMATASCII と ENCRYPTTRAIL を同時に指定することはできません

原因: FORMATASCII を使用して ASCII 形式でファイルにデータを書き込む場合、ENCRYPTTRAIL および NOENCRYPTTRAIL は使用できません。暗号化を使用する場合は、証拠またはファイルへの書き込みをデフォルトの Oracle GoldenGate 正規形式で行う必要があります。

処置: 構成要件に応じて、FORMATASCII または ENCRYPTTRAIL のどちらかをパラメータ・ファイルから削除します。

OGG-00025: バルク・ロードは Oracle 8i 以降でのみサポートされています。

原因: Oracle 8i より前のバージョンで、Replicat に BULKLOAD パラメータが使用されています。

処置: BULKLOAD による初期ロード方法は使用しないでください。サポートされている他のロード方法については、Oracle GoldenGate の管理者に関するドキュメントを参照してください。

OGG-00026: バルク・ロードはこのデータベース・タイプには実装されていません。

原因: Oracle データベース以外のデータベースで、Replicat に BULKLOAD パラメータが使用されています。

処置: BULKLOAD による初期ロード方法は使用しないでください。サポートされている他のロード方法については、Oracle GoldenGate の管理者に関するドキュメントを参照してください。

OGG-00027: {0} が指定されていません。Oracle GoldenGate のドキュメントで正しい使用方法を確認してください。

原因: 指定する必要のあるパラメータがパラメータ・ファイルから欠落しています。

処置: パラメータを追加します。構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00028: 表定義の取得中に、表 {0}、列 #{1,number,0} の列ハンドルの取得に失敗しました。

原因: このプロセスでは、指定された表のメタデータを取得できませんでした。表が存在しない可能性があります。

処置: この表を TABLE 文または MAP 文から除外します。

OGG-00029: 表定義の取得中に、表 {0} の列リスト・ハンドルの取得に失敗しました。

原因: このプロセスでは、指定された表のメタデータを取得できませんでした。表が存在しない可能性があります。

処置: この表を TABLE 文または MAP 文から除外します。

OGG-00030: パラメータ {0} を解決できませんでした。パラメータ・ファイル内のスペルおよび使用方法を確認してください。

原因: Oracle GoldenGate では、指定されたパラメータを解決できませんでした。スペルや使用方法が正しくない可能性があります。

処置: 正しい構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントで確認してください。

OGG-00031: パラメータ名が指定されていません。

原因: ランタイム置換パラメータが指定されていません。

処置: パラメータ置換を使用するには、実際の値のかわりにランタイム・パラメータを宣言し、EXTFILE ?EXTFILE のように、ランタイム・パラメータ名の前に疑問符 (?) を付けます。その後、プロセスを起動する前に、オペレーティング・システムのシェルを使用して、環境変数を通じてランタイム値を渡します。詳細は、Oracle GoldenGate の管理者に関するドキュメントを参照してください。

OGG-00032: パラメータ {0} はすでに指定されています。

原因: 指定されたパラメータは、パラメータ・ファイル内で複数回使用されています。

処置: このパラメータのインスタンスを 1 つ残してすべて削除し、目的とする構成に対して適切なオプションおよび値がそのパラメータに含まれていることを確認します。

OGG-00033: パラメータ {0} はすでに指定されています ({1})

原因: 指定されたパラメータは、パラメータ・ファイル内で複数回使用されています。

処置: このパラメータのインスタンスを 1 つ残してすべて削除し、目的とする構成に対して適切なオプションおよび値がそのパラメータに含まれていることを確認します。

OGG-00034: 起動パラメータ {0} の値が欠落しています。

原因: 指定されたパラメータに値が指定されていません。

処置: このパラメータに値を指定します。使用可能な値については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00035: {0} は追加パラメータをとりません

原因: 指定されたパラメータに対して、提供されている値が多すぎます。

処置: 正しい構文、オプション、および値については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00036: パラメータ・ファイルで表が指定されていません

原因: Oracle GoldenGate によって処理される表を指定する TABLE パラメータまたは MAP パラメータが、パラメータ・ファイルに含まれていません。

処置: Extract パラメータ・ファイルに TABLE パラメータを 1 つ以上追加するか、Replicat パラメータ・ファイルに MAP パラメータを 1 つ以上追加します。

OGG-00037: {0} のファイル {1} はすでに存在します

原因: 指定されたファイル名はすでに存在します。

処置: 別のファイル名を指定するか、既存のファイルを削除します。

OGG-00038: TCP/IP を開始できませんでした (ステータス {0,number,0}, エラー {1,number,0})

原因: Oracle GoldenGate が TCP/IP サービスを開始しようとしたときに、Windows Sockets (Winsock) エラーが発生しました。

処置: Winsock エラー・メッセージでレポートされた問題を修正します。

OGG-00039: タイムアウト値 {0} が無効です

原因: Collector のタイムアウトの値が、1 から 1800 秒の範囲外の値でした。

処置: -w Collector パラメータに 1 から 1800 の値を指定します。

OGG-00040: タイムアウト値が欠落しています

原因: -w Collector パラメータの値が指定されていません。

処置: -w Collector パラメータに 1 から 1800 秒の値を指定します。

OGG-00041: データ・ソースが指定されていません

原因: Oracle GoldenGate の Extract (取得) プロセスが、不明なデータ・ソース・タイプで構成されています。

処置: TRANLOG、VAM、EXTTRAILSOURCE、または SOURCEISTABLE など、サポートされているデータ・ソース・タイプで Extract グループを再作成します。データ・ソース・オプションの完全なリストについては、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントの「ADD EXTRACT コマンド」に関する項を参照してください。

OGG-00042: {0} はこのタイプの Extract では使用できません

原因: 指定されたパラメータは、現在の Extract 構成で使用する場合有効ではありません。

処置: パラメータを削除します。要件に応じた Extract の構成については、Oracle GoldenGate に関するドキュメントを参照してください。

OGG-00043: {0} パラメータは、PASSTHRU パラメータ使用時のみ使用できます

原因: PASSTHRUMESSAGE および NOPASSTHRUMESSAGE パラメータが、PASSTHRU パラメータなしで使用されています。

処置: [NO]PASSTHRU パラメータを削除するか、PASSTHRU パラメータをパラメータ・ファイルに追加します。

OGG-00044: PASSTHRU パラメータは、Extract データ・ポンプ使用時のみ使用できます

原因: プライマリ Extract または Replicat グループのパラメータ・ファイルで、PASSTHRU パラメータが指定されています。

処置: 要件に応じて、PASSTHRU を削除するか、またはデータ・ポンプとなる Extract グループを作成します。

OGG-00045: {0} 使用時には、証跡は使用できません

原因: この構成の Oracle GoldenGate にはリモート・タスクが指定されていますが、RMTTRAIL または EXTTRAIL パラメータも使用されています。

処置: 証跡のパラメータを削除します。

OGG-00046: {0} に開始時刻を指定する必要があります

原因: パラメータ・ファイルに SPECIALRUN パラメータが含まれていますが、BEGIN パラメータがありません。

処置: BEGIN パラメータをパラメータ・ファイルに追加して、特別実行の開始時刻を指定します。

OGG-00047: タスクには {0} パラメータが必要です

原因: RMTTASK パラメータがパラメータ・ファイルから欠落しています。

処置: RMTTASK パラメータを追加します。

OGG-00048: SOURCEISTABLE/SOURCEISFILE が指定されている場合、{0} は指定できません

原因: 指定されたパラメータは、同じパラメータ・ファイル内に SOURCEISTABLE または SOURCEISFILE が使用されている場合使用できません。

処置: パラメータを削除します。

OGG-00049: SOURCEISTABLE/SOURCEISFILE が指定されている場合、証跡は使用できません

原因: Extract プロセスを作成する ADD EXTRACT コマンドが、リモート・タスクを作成する SOURCEISTABLE または SOURCEISFILE オプション付きで発行されました。リモート・タスクではデータ用にディスク記憶域を使用しないのに、パラメータ・ファイルに証跡のパラメータが指定されています。

処置: EXTTRAIL または RMTTRAIL パラメータを削除します。

OGG-00050: {0} が指定されている場合、ソース・ファイルは 1 つしか指定できません

原因: Extract パラメータ・ファイルに NOHEADERS パラメータが含まれていますが、Replicat パラメータ・ファイルでは MAP 文で複数のソース表が指定されています。NOHEADERS が使用されると、Replicat は、入力される抽出ファイルには単一の表の挿入レコードのみが含まれるものとみなします。

処置: Replicat パラメータ・ファイルを編集して、すべての MAP 文でソース表を 1 つだけ指定するようにします。

OGG-00051: {0} を指定する場合は、抽出ファイルを指定する必要があります

原因: SPECIALRUN パラメータが使用されているのに、出力記憶域ファイルを指定する EXTFILE または EXTTRAIL パラメータがありません。

処置: EXTFILE または EXTTRAIL パラメータを追加します。

OGG-00052: レプリケーション・マップが指定されていません

原因: ソース表とターゲット表のマッピングを指定する MAP パラメータが、Replicat パラメータ・ファイル内にありません。

処置: 1 つまたは複数の MAP パラメータを Replicat パラメータ・ファイルに追加します。

OGG-00053: 抽出マップが指定されていません

原因: データを取得するためのソース表を指定する TABLE パラメータが、Extract パラメータ・ファイル内にありません。

処置: 1 つまたは複数の TABLE パラメータを Extract パラメータ・ファイルに追加します。

OGG-00054: パラメータ・ファイルで、リモート・ホストのエントリが先に行われていないのに、リモート・タスクのエントリが検出されました

原因: Extract パラメータ・ファイルで、リモート・タスクを指定する RMTTASK パラメータが使用されていますが、RMTHOST パラメータでターゲット・ホストが指定されていません。

処置: RMTHOST パラメータを Extract パラメータ・ファイルに追加します。リモート・タスクの構成については、Oracle GoldenGate の管理者に関するドキュメントを参照してください。RMTHOST および RMTTASK の詳細については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00055: {0} はパッシブ・モードではサポートされていません

原因: ADD EXTRACT コマンドを PASSIVE オプションとともに使用することにより、Extract グループがパッシブ Extract として作成されましたが、このグループのパラメータ・ファイルに指定されたパラメータが含まれており、このパラメータはパッシブ・モードではサポートされていません。

処置: このパラメータを Extract パラメータ・ファイルから削除します。

OGG-00056: パッシブ・モードで証跡/ファイルの定義が多すぎます

原因: この Extract プロセスは PASSIVE モードで構成されていますが、RMTFILE または RMTTRAIL 定義が複数あります。

処置: RMTFILE または RMTTRAIL 定義を 1 つだけ残しすべて削除します。

OGG-00057: パッシブ・モードでは REMOTE 証跡/ファイルのみ許可されています

原因: PASSIVE モードで Extract グループが追加されましたが、パラメータ・ファイルでは、EXTTRAIL または EXTFILE のローカル証跡またはローカル・ファイルが指定されています。

処置: ローカル・ファイルの指定を削除し、そのかわりに RMTTRAIL または RMTFILE パラメータを使用します。

OGG-00058: 開始時刻 ({0, 日} {0, 時}) は終了時刻 ({1, 日} {1, 時}) に先行する必要があります

原因: パラメータ・ファイルに、開始時刻と終了時刻を入力として受け取るパラメータが含まれていますが、終了時刻が開始時刻より前に配置されています。

処置: パラメータの構文を編集して、終了時刻の前に開始時刻を指定します。Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00059: GGS はエラー {0,number,0} を {1} に内部的に設定し、{2} に対するエラー・レスポンスを上書きすることはできません。

原因: REPERROR パラメータには、指定されたエラー番号に対するレスポンス・ルールが含まれていますが、このエラーは Oracle GoldenGate によって内部的に処理されるため、REPERROR の設定は無視されます。

処置: エラーの原因となっている REPERROR のルールを削除します。

OGG-00060: アーカイブ・ログ専用モードの場合、Extract は、パラメータ {0} に値を指定する必要があります。

原因: Extract がアーカイブ・ログ・モードで動作している場合、指定されたパラメータは必須のパラメータです。

処置: このパラメータを Extract パラメータ・ファイルに追加してから、プロセスを再起動します。構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00061: DEFERAPPLYINTERVAL には EOFDELAY より小さい値は指定できません。

原因: DEFERAPPLYINTERVAL パラメータをパラメータ・ファイルで使用するにより、Replicat がデータをターゲットに適用するまでの待機時間を制御できますが、この値が、Replicat が証跡内の新しいデータを確認する間隔を制御する EOFDELAY の値よりも小さくなっています。

処置: EOFDELAY より大きい値を DEFERAPPLYINTERVAL に設定します。

OGG-00062: DEFERAPPLYINTERVAL には 1 週間を超える値は指定できません。

原因: DEFERAPPLYINTERVAL の値が、7 日間（1 週間）を超える値に設定されています。

処置: 値を減らして 7 日以下の日数（またはこれに相当する秒、分、時間）にします。有効な単位については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00063: CHECKOPCOMPLETE: VAMRead で操作タイプが設定されていません

原因: VAM API から渡されるレコードの操作タイプ属性が、VAM モジュールで設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00064: CHECKOPCOMPLETE: DDL データベース・オブジェクト・タイプに無効な操作タイプが含まれています: {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードの操作タイプ属性が、DDL データベース・オブジェクト・タイプのどれとも一致していません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00065: CHECKOPCOMPLETE: 表データベース・オブジェクト・タイプに無効な操作タイプが含まれています: {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードの操作タイプ属性が、表データベース・オブジェクト・タイプと一致していません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00066: CHECKOPCOMPLETE: データベース・オブジェクト・タイプが無効です: {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードのデータベース・オブジェクト・タイプ属性が、既知のデータベース・オブジェクト・タイプと一致していません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00067: CHECKOPCOMPLETE: DDL データベース・オブジェクト・タイプを持つレコードに対する DDL 文を受け取っていません

原因: 処理中の DDL レコードに対して、VAM API によって DDL 文が指定されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00068: CHECKOPCOMPLETE: 操作タイプにオブジェクト名が設定されていません : {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードのオブジェクト名属性が、VAM モジュールで設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00069: CHECKOPCOMPLETE: 操作タイプにオブジェクト所有者が設定されていません : {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードのオブジェクト所有者属性が、VAM モジュールで設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00070: CHECKOPCOMPLETE: 操作タイプにタイムスタンプが設定されていません : {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードのタイムスタンプ属性が、VAM モジュールで設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00071: CHECKOPCOMPLETE: 操作タイプにトランザクション識別子が設定されていません : {0,number,0}

原因: VAM API から渡されるレコードのトランザクション識別子属性が、VAM モジュールで設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00073: CHECKOPCOMPLETE: 主キーの更新の変更前キーが操作タイプに追加されていません : {0,number,0}

原因: VAM API から渡される主キーの更新レコードに対して、変更前イメージ・キー・フィールドが送信されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00074: CHECKOPCOMPLETE: 主キーの更新の変更前キーが列 {1} に追加されていません : 操作タイプ : {0,number,0}

原因: VAM API から渡される主キーの更新レコードに対して、変更前イメージ・キー・フィールドが送信されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00075: CHECKOPCOMPLETE: キー列が列 {1} に追加されていません : 操作タイプ : {0,number,0}

原因: 更新レコードに必要な変更後イメージのキー列の値が、VAM API から渡されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00076: GG_OBJ_RECORD: GG_ATTR_OBJECT_NAME: オブジェクト所有者属性がオブジェクト名の一部としてすでに設定されています

原因: VAM API から渡されるレコードのオブジェクト所有者属性が、すでにオブジェクト名属性に含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00077: GG_OBJ_RECORD: GG_ATTR_OBJECT_NAME: オブジェクト所有者属性は、オブジェクト名を設定する前に設定する必要があります

原因: VAM API から渡されるレコードのオブジェクト所有者属性が、オブジェクト名属性が設定された後に設定されました。これをオブジェクト名属性の前に設定することが VAM API の要件です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00078: DDL 処理はこのターゲットには実装されていません

原因: トランザクション・ログ内に DDL レコードが検出されました。Oracle GoldenGate は、このタイプのデータベースに対して、DDL の取得またはレプリケーションをサポートしていません。

処置: ソースで DDL が適用されましたがレプリケートされなかったため、ソース定義とターゲット定義が同期していません。以降の DML はエラーとなる可能性があります。このメッセージを無視して不一致のままとするか、または、このオブジェクトに対する DML 操作を許可する前にターゲットに DDL を適用することができます。DDL 変更が行われた後、Replicat を停止して起動します。

OGG-00079: メタデータ・オブジェクト処理はこのターゲットには実装されていません

原因: VAM API は、使用中のデータベースに対する表メタデータの交換をサポートしていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00080: 無効な I/O タイプが検出されました {0,number,0}

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。終了トランザクション・レコードが必要でしたが、別のレコード・タイプを受信しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00081: GG_OBJ_METADATA: GG_ATTR_MD_COLUMN_COUNT: 列カウントは 0 より大きい値にする必要があります

原因: 挿入、更新、または削除のレコードが VAM API から送信されましたが、レコードの列が受信されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00082: GG_OBJ_METADATA: GG_ATTR_MD_COLUMN_COUNT: 前の表が完了していません

原因: 順序の次の表のメタデータ処理を開始しようとしたのですが、現在の表のメタデータ処理が完了していません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00083: トランザクション・リストの更新: トランザクション数を変更されました

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。リカバリ処理開始後に他のプロセスによってリカバリ証跡ファイルが更新されたため、リカバリ処理を完了できません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00084: 最大保護モードではトランザクション・リストの処理のみ使用できます

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。リカバリ処理は最大保護モードでのみサポートされていますが、最大パフォーマンス・モードが指定されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00085: {1}: 属性 {0,number,0} が無効です

原因: VAM モジュールで設定された属性タイプが不明です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00086: {1}: 属性 {0,number,0} の値が無効です

原因: VAM モジュールで設定された属性値は、この属性タイプでは無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00087: トランザクション・リストの更新: 索引のトランザクション ID が変更されました

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。VAM モジュールに渡されたリカバリ・トランザクション・リストが無効になったため、リカバリ処理を完了できません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00088: {1}: 属性 {0,number,0}: 属性の長さの戻りパラメータへのポインタは NULL にできません

原因: VAM モジュールが VAM カーネルから値を取得しようとしています、値の長さを保持するための戻りバッファが指定されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00089: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: オブジェクトに対して属性が無効です

原因: VAM モジュールによって割り当てられた属性タイプは、設定されている VAM API オブジェクト・タイプでは無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00090: トランザクション・リストは汎用の VAM には使用できません

原因: リクエスト中の機能は、Teradata VAM 実装でのみ使用できます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00091: {0}

原因: 表示されているエラー・メッセージは、VAM API が呼び出した別のサブ・サブシステムが返したものです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00092: {0}: 属性 {0,number,0}: 戻りの最大長を 0、属性の長さの戻りパラメータへのポインタを NULL とする組合せは無効です

原因: VAM モジュールが VAM カーネルから値の長さを取得しようとしていますが、値の長さを保持するための戻りバッファが指定されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00094: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: 長さは 0 より大きい値にする必要があります

原因: VAM モジュールから VAM API に渡されるオブジェクトの属性には値が必要です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00095: {1}: 列に設定された索引の前に属性 {0,number,0} を追加しようとしています

原因: 列が設定済みであることを示す列索引の前に、VAM モジュールから VAM API に列属性を渡そうとしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00096: {3}: 属性 {0,number,0} の指定された長さ ({2,number,0}) が、許可された最大長 ({1,number,0}) を超えています

原因: VAM モジュールから VAM API に渡される属性の長さが、その属性タイプに許可されている最大長を超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00097: {0}: 整数値の長さが無効です

原因: VAM モジュールから VAM API に整数値が渡されていますが、指定された長さが許可されている長さ 1、2、4 または 8 以外の値となっています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00098: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: 長さ {2,number,0} が無効です

原因: VAM モジュールから VAM API に C/C++ 整数値が渡されていますが、指定された長さが、そのコンパイラによって返される整数の長さと異なっています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00099: {0}: データ形式のタイプが無効です

原因: VAM モジュールによって割り当てられたデータ形式のタイプは、設定されている VAM API の属性タイプでは無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00100: {1}: 属性 {0,number,0}: 列は NULL 値可能ではありません]

原因: NULL 値可能でないことを示すメタデータを持つ列に対して、VAM モジュールから VAM API に NULL 値が渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00101: {1}: 属性 {0,number,0}: 整数のみスケラブルです]

原因: 小数スケールが無効な列データ・タイプに対して、VAM モジュールから VAM API に小数スケールが渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00102: {1}: 属性 {0,number,0}: スケールが表定義と一致していません]

原因: 列用に VAM モジュールから VAM API に渡された小数スケールが、表メタデータ定義と一致していません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00103: {1}: {0}: GG_ATTR_MD_COLUMN_COUNT が設定されていません]

原因: Extract パラメータ・ファイルのメタデータ属性が、その表のメタデータ処理が開始される前に、VAM モジュールにより VAM API を介して取得されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00104: VAM モジュールが、追加する列数を使用して GG_ATTR_MD_COLUMN_COUNT を設定することなく、GGColMetadataAddByIndex を呼び出しています]

原因: 列処理が開始される前に、VAM モジュールから VAM API に列メタデータ属性を渡そうとしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00105: {0}: データベース内の表検索が実行されず、失敗もしていません。GG_ATTR_OBJECT_NAME の GGAttrSet のリターン・コードを確認してください]

原因: VAM API が前のコールのエラー・コードを返した後も、VAM モジュールが表のメタデータの処理を続行しようとしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00106: {0}: 操作タイプを設定する前に列を追加しようとしています]

原因: レコードに対して操作タイプを設定する前に、VAM モジュールから VAM API に列値を渡そうとしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00107: GG_OBJ_RECORD: VAM の操作タイプ {0,number,0} が無効です]

原因: VAM モジュールから VAM API に渡される、VAM API レコード・オブジェクトの操作タイプ属性が不明です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00108: GG_OBJ_RECORD: DCI インタフェース・コールでトランザクション ID が指定されませんでした

原因: VAM モジュールが VAM API を介してレコードを送信しようとしたが、DCI (Direct Call Interface) コールでトランザクション識別子が指定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00109: {0} は最大保護モードで実行する必要があります

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。最大パフォーマンス・モードで、VAM モジュールが VAM API を介して準備トランザクション・レコードを送信しました。これは最大保護モードでのみ許可されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00110: {0}: VAM のセッションで、位置時刻用にローカル ASCII 形式のタイムスタンプを使用しています: 整数形式のユリウス暦 GMT タイムスタンプは無効です。

原因: セッション・プロトコルが ASCII タイムスタンプを使用しようとしているのに、VAM モジュールは整数値としてユリウス形式のタイプスタンプを送信しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00111: {0}: VAM のセッションで、位置時刻用に整数形式のユリウス暦 GMT タイムスタンプを使用しています: ローカル ASCII 形式のタイムスタンプは無効です。

原因: セッション・プロトコルが整数として渡されるユリウス形式を使用しようとしているのに、VAM モジュールは ASCII 形式のタイプスタンプを送信しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00112: GG_OBJ_RECORD: {0} は {1} の前に設定する必要があります

原因: VAM API で必要な属性が、VAM モジュールで適切な順序で設定されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00113: GG_OBJ_RECORD: GG_ATTR_BEFORE_AFTER は GG_OPTYPE_UPDATE とのみ使用できます

原因: 主キーの更新ではないレコードに対して、VAM モジュールが変更前キーを追加しようとした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00115: GG_OBJ_RECORD: 属性 {0,number,0}: 値に対して NULL ポインタが渡されました

原因: VAM モジュールが VAM API を介して属性値を設定しようとしています、VAM カーネルが値を取得するためのバッファが指定されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00116: VAM から VAMMessage エラーが返されました

原因: GGSCI から VAM モジュールでユーザーが実装した VAMMessage 関数へのコールによって、エラーが返されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00117: VAM モジュールが初期化される前に VAMMessage がコールされました]

原因: VAM モジュールが VAMInitialize のコールによって初期化される前に、GGSCI から VAMMessage 関数へのコールが行われました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00118: {1}: 索引 {0,number,0} が順序どおりではありません

原因: 挿入、更新または削除のレコードの列の送信中に、VAM モジュールから誤った順序で列が送信されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00119: {1}: 索引 {0,number,0} がレコードに追加された列の範囲を超えています

原因: 挿入、更新または削除のレコードの列の送信中、表で使用可能な列数より大きい列索引が VAM モジュールによって送信されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00120: LOB 行 ID に許可された最大長を超過しています

原因: 生成された ID の長さが、LOB 列に対して生成される一意の ID を保持するために使用可能なバッファの最大サイズを超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00121: {1}: VAM のアクション {0,number,0} が無効です]

原因: VAM API に送信されて出力される情報メッセージ、警告メッセージまたはエラー・メッセージを生成する際に、VAM モジュールから無効なアクション・タイプが渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00122: サイズの大きい列のサポートはこのリリースでは実装されていません

原因: VAM モジュールから VAM API を介して送信される列値の最大列サイズを超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00123: DCI インタフェース・コールで列が指定されていません

原因: 挿入、更新、または削除のレコードが Direct Call Interface コールで VAM API に送信されましたが、レコードの列が受信されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00124: 入力データ形式は 0 に設定する必要があります

原因: データ・タイプを持たない VAM API に渡される属性に対して、データ形式タイプが設定されました。この場合、データ形式の値は 0 に設定する必要があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00125: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: 列値は直接設定できません

原因: 元は列値を直接設定するために使用されていた、非推奨の列属性の 1 つを使用しようとしていました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00126: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: 文字列に値が含まれていません

原因: 属性値が、VAM モジュールによって、NULL で終わる文字列として送信されましたが、この NULL で終わる文字列は、長さが値（必須）ではなく 0 となっています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00127: オブジェクト {0,number,0}: 属性 {1,number,0}: 許可された最大長を超過しています

原因: VAM API レコード・オブジェクトにおいて、VAM モジュールによって設定されたトランザクション識別子の属性値が、トランザクション識別子に許可されている最大長を超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00128: サイズの大きい列の処理中です: データ形式が無効です

原因: VAM API を介してブロック単位で送信されるサイズの大きい LOB 列の処理中に、VAM モジュールから無効なデータ形式タイプが渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00129: メタデータが取得される前に列を追加しようとしています

原因: 表に対してメタデータ交換が行われる前に、VAM モジュールが表の列値を AM API を介して送信しようとしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00130: 表 {0}: 列 {1} にキー列として無効なタイプが含まれています

原因: この表の主キーのデータ・タイプは、Oracle GoldenGate ではキーとしてサポートされていません。

処置: パラメータ・ファイルで KEYCOLS 句を使用して、別のキーを指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。サポートされているキーのデータ・タイプについては、使用中のデータベースに対応する Oracle GoldenGate のインストールおよびセットアップに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00133: GG_OBJ_METADATA: {0} がエラーを返しました

原因: 指定された VAM 関数を使用してメタデータを取得しようとしたときにエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00134: VAM が GG_ATTR_MD_KEYCOLS を取得しようとしていますが、GG_ATTR_MD_KEYCOLS_COUNT が 0 に設定されており、返すキー列はありません

原因: 表のメタデータ交換中、VAM モジュールが、Extract パラメータ・ファイルで指定された KEYCOLS 配列の値を取得しようとしていますが、取得する KEYCOLS 値はありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00135: GG_OBJ_METADATA: 表 {0} には指定されたキー列がなく、キー列として使用可能な列也没有ありません

原因: 指定された表には、定義済みのキー列がなく、Oracle GoldenGate がキー列として使用できる他の列也没有ありません。Oracle GoldenGate はすべての列をキーとして使用しようとしませんが、ソースの TABLE パラメータおよびターゲットの MAP パラメータで KEYCOLS 句を指定することもできます。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

処置: なし

OGG-00136: {0} は非推奨の VAM API 関数で、現在は使用されていません

原因: 互換性のないバージョンの VAM API モジュールが使用されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡して、現行バージョンを入手してください。

OGG-00137: GG_OBJ_COLUMN: 整数タイプ {0,number,0} が無効です

原因: VAM API を介して挿入、更新または削除のレコードの列を送信中に、VAM モジュールから無効な整数が渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00138: SORTTRANLOG を使用した抽出は、TERADATA または VAMTRD プリプロセッサによる定義が必要です

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。実行ファイルが作成されましたが、リクエストされた機能を有効化するために必要な定義がありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00139: Extract に VAM 機能が含まれていません

原因: この Extract ビルドには VAM モジュールが含まれていません。

処置: 使用中のデータベースに合わせて適切な Extract ビルドを Oracle から入手してください。

OGG-00140: エラー {0,number,0}: ソース {1,number,0} - {2}

原因: プロセス間通信が失敗しました。このエラーは、Oracle GoldenGate のベンダー・アクセス・モジュール (VAM) に関連するものです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00141: {1}VAM のタイプが無効です :{0,number,0}

原因: VAM API の Teradata 実装に対して、Extract パラメータ・ファイルの TRANLOGOPTIONS 句で、Extract のタイプが指定されませんでした。

処置: 適切な Extract のタイプ、COMMITTEDTRANLOG、CREATETRANLOG、または SORTTRANLOG を指定します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00142: {0}: 表の所有者を設定する前に列を追加しようとしています

原因: VAM モジュールが、レコードのオブジェクト所有者を指定する必須のレコード属性を設定する前に、挿入、更新または削除の操作のために VAM API を介して列を送信しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00143: {0}: 表名を設定する前に列を追加しようとしています

原因: VAM モジュールが、レコードのオブジェクト名を指定する必須のレコード属性を設定する前に、挿入、更新または削除の操作のために VAM API を介して列を送信しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00144: VAM リーダー・スレッドによって致命的エラーが報告されました

原因: マルチスレッドの VAM Extract の別のスレッドで致命的エラーが報告され、そのエラーにより、このスレッドが終了しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00145: VAM 関数 {0} が予期しない値、{1,number,0} を返しました

原因: VAM モジュールに実装されている VAM API 関数の 1 つが、VAM カーネルでその関数のコールが終了する際に不明なステータスを返しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00146: VAM 関数 {0} が予期しない結果を返しました : エラー {1,number,0} - {2}

原因: VAM モジュールに実装されている VAM API 関数の 1 つが、VAM カーネルでその関数のコール内で致命的エラーを報告した後そのコールが終了する際に、エラー・ステータスを返しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00147: VAM 関数 {0} が予期しない結果を返しました : エラー {1,number,0} - {2}

原因: VAM API の VAMControl 関数が、前に報告した致命的エラーに起因するシャットダウン処理の一部としてコールされたときに、エラーを返しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00148: 準備は最大パフォーマンス・モードでは無効です

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。最大パフォーマンス・モードで、VAM モジュールが VAM API を介して準備トランザクション・レコードを送信しました。これは最大保護モードでのみ許可されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00149: 最大保護モードではトランザクションのロールバックは許可されていません

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。VAM モジュールが VAM API を介してロールバック・トランザクション・レコードを送信しましたが、Teradata 実装で VAM モジュールが送信できるは、正常にコミットされたトランザクションのみです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00150: 表名に値が設定されていません

原因: VAM カーネル内の表のメタデータに、有効な表名が含まれていません。これは、各出力証跡ファイル・レコードの前に置き、そのファイル内の表を特定するために使用される標準のヘッダー構造に必要です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00151: VAMRead が完了する前にレコードを追加した後、GG_ATTR_OP_COMPLETE 属性がチェックされませんでした

原因: オプションの検証チェックがオンになっており、VAM モジュールで、検証が成功したことを確認するための最終コールが行われませんでした。デバッグ・ビルドでは、この検証チェックは、VAM モジュールが VAM API を介してレコードを送信するための要件をすべて満たしたことを確認するため、デフォルトでオンになっています。これは、動的リンク・ライブラリまたは共有ライブラリとして独自の VAM モジュールを構築している、サードパーティによる開発に使用されます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00152: トランザクションの開始 - トランザクション {0} はすでにファイル・メモリーに存在します

原因: データベース・トランザクションで、重複する開始トランザクション識別子が検出されました。トランザクションの整合性を維持するため、識別子は一意である必要があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00153: 無効な GG_ATTR_OPTYPE: {0}: トランザクション・タイプが VAM 汎用モードでは無効です

原因: VAM モジュールが、VAM API を介して不明または無効な操作タイプを送信しました。無効な操作の例として、2 フェーズ・コミット方式をサポートしていない実装の準備トランザクション・レコードが挙げられます。これは Teradata 実装で、Extract が COMMITTEDTRANLOG モードで、準備トランザクション・レコードをサポートしていない場合に起こる可能性があります (CREATETRANLOG モードおよび SORTTRANLOG モードではサポートしています)。

処置: Teradata 実装を使用する場合には、Extract が CREATETRANLOG モードまたは SORTTRANLOG モードで実行されていることを確認してください。問題が解決しない場合、Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00154: GG_OBJ_METADATA: 新しい表エントリのポインタが NULL です

原因: 表が動的に検出される際、表メタデータを VAM モジュールによって検索しようとしています。表メタデータ交換のための定義済みプロトコルでエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00155: GG_OBJ_METADATA: 表名の長さは {0,number,0} ですが、許可された最大長は {1,number,0} です

原因: 表の名前に、Oracle GoldenGate でサポートできる文字数より多くの文字が含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00156: GG_OBJ_METADATA: 所有者名の長さは {0,number,0} ですが、許可された最大長は {1,number,0} です

原因: 表の所有者名に、Oracle GoldenGate でサポートできる文字数より多くの文字が含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00157: GG_OBJ_METADATA: 処理された表の数 ({1,number,0}) が指定された数 ({0,number,0}) と一致しません

原因: VAMInitialize 関数で、VAM モジュールから VAM カーネルへ、または VAM カーネルから VAM モジュールへと表メタデータが静的に交換されていますが、メタデータ交換を必要とする表の数が、交換された表の数と一致しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00158: GG_OBJ_METADATA: 一致が見つからず REP_get_table_by_name が返されました

原因: Extract パラメータ・ファイル内の TABLE パラメータには表が完全名で明示的にリストされていますが、Oracle GoldenGate は、データベース・カタログから取得されたメタデータ・ディクショナリ内でその表名を見つけられませんでした。

処置: TABLE の指定にエラーがないかどうかパラメータ・ファイルをチェックします。データベース内に表が存在することを確認します。

OGG-00159: GG_OBJ_METADATA: 一致が見つからず WILDCARD_check_table が返されました

原因: Extract パラメータ・ファイル内の TABLE パラメータにはワイルドカード指定された表のリストが含まれていますが、データベース・カタログから取得されたメタデータ・ディクショナリ内で、これを満たす表が見つかりませんでした。

処置: TABLE の指定にエラーがないかどうかパラメータ・ファイルをチェックします。ワイルドカード指定と一致する、取得しようとしている表がデータベースに含まれていることを確認します。

**OGG-00160: GG_OBJ_METADATA: エントリが見つからず WILDCARD_
getNextStaticTable が返されました**

原因: Extract パラメータ・ファイル内の TABLE パラメータにはワイルドカード指定された表のリストが含まれていますが、データベース・カタログから取得されたメタデータ・ディクショナリ内で、これを満たす表が見つかりませんでした。

処置: TABLE の指定にエラーがないかどうかパラメータ・ファイルをチェックします。ワイルドカード指定と一致する、取得しようとしている表がデータベースに含まれていることを確認します。

OGG-00161: CREATETRANLOG VAM に対して複数の出力キュー・ファイルが指定されています

原因: これは、VAM API の Teradata 実装に固有のものです。Extract グループが CREATETRANLOG モードで構成されていますが、Extract パラメータ・ファイルに複数の EXTTRAIL エントリが存在します。このモードでは、Extract は単一のローカル証跡にのみ書き込むことができます。

処置: Extract パラメータ・ファイルを編集して余分な EXTTRAIL 指定を削除してから、Extract プロセスを再起動します。

OGG-00162: CREATETRANLOG VAM に対してリモート・キュー・ファイルが指定されています

原因: これは、VAM API の Teradata 実装に固有のものです。Extract グループが CREATETRANLOG モードで構成されていますが、Extract パラメータ・ファイルに RMTTRAIL パラメータが存在します。

処置: RMTTRAIL パラメータを Extract パラメータに置換します。CREATETRANLOG モードでは、Extract はリモート証跡ではなく、単一のローカル証跡に書き込む必要があります。

OGG-00163: チェックポイント機能は必須です

原因: このメッセージは、Teradata VAM 実装に固有のものです。チェックポイント機能はこの実装に必要ですが、チェックポイント機能が初期化されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00164: 項目識別子の最大長（{0,number,0}）を超過しています

原因: VAM モジュールが VAM API を介して、ある属性に、VAM API の指定でその属性に定義された最大値より長い値を設定しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00165: パラメータ・ファイルでオプション・パラメータが指定されていません

原因: DSOPTIONS パラメータがパラメータ・ファイルから欠落していますが、この Extract グループが実行する処理アクションを指定するために必要です。

処置: この Extract グループに対して適切な処理オプションを DSOPTIONS に追加します。Teradata 用の Extract の構成については、Teradata データベースに対応する Oracle GoldenGate のインストールレーションおよびセットアップに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00166: 表 {0} の参照に失敗しました

原因: 指定された表は TABLE パラメータにリストされていますが、この表のメタデータが見つかりませんでした。

処置: 表名のスペルに誤りがないかどうかパラメータ・ファイルをチェックします。パラメータ・ファイルに誤りがない場合は、データベース内に表が存在する

ことを確認します。表が存在しパラメータ・ファイルが正しい場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00167: トランザクション・リーダー実装の VAM の場合、パラメータ・ファイルではワイルドカード指定された表定義のみ許可されています

原因: Teradata VAM 実装では、表は動的に検出された場合のみ参照可能なため、VAM API の VAMInitialize 関数で表メタデータを静的に交換することはできません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00168: WILDCARDRESOLVE DYNAMIC パラメータはトランザクション・リーダー実装の VAM では必須です

原因: WILDCARDRESOLVE パラメータが、VAM 実装で必要な設定である DYNAMIC に設定されていません。

処置: パラメータ・ファイルを編集して WILDCARDRESOLVE を DYNAMIC に変更するか、WILDCARDRESOLVE DYNAMIC が存在しない場合はこれを追加します。

OGG-00169: パラメータ・ファイルで VAM パラメータが指定されていません

原因: VAM を使用するこの Extract プロセスのパラメータ・ファイルに、VAM パラメータが含まれていません。このソース・データベースの VAM を使用する Extract グループでは、このパラメータが必要です。

処置: VAM パラメータと関連する PARAMS 句を、Extract パラメータ・ファイルに追加します。ソース・データベース・タイプごとの構文については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00170: VAM PARAMS の項目がパラメータ・ファイルで見つかりませんでした

原因: VAM を使用するこの Extract プロセスのパラメータ・ファイルに、VAM パラメータおよび PARAMS オプションが含まれていません。このソース・データベースの VAM を使用する Extract グループでは、PARAMS 入力が必要です。

処置: VAM パラメータと PARAMS 句を、Extract パラメータ・ファイルに追加します。ソース・データベース・タイプごとの構文と PARAMS に必要な入力については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00171: VAM オプションの PARAMS セクションが無効です

原因: Extract パラメータ・ファイルの VAM パラメータの PARAMS 句が正しくありません。

処置: スペルの誤りがないかどうかパラメータの構文をチェックします。構文と有効なオプションについては、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントの VAM パラメータに関する項を参照してください。

OGG-00172: VAM PARAMS セクションがパラメータ・ファイルで見つかりませんでした

原因: VAM を使用するこの Extract プロセスのパラメータ・ファイルに、VAM パラメータおよび PARAMS オプションが含まれていません。このソース・データベースの VAM を使用する Extract グループでは、VAM 入力パラメータを指定するためにこのパラメータが必要です。

処置: VAM パラメータと PARAMS 句を、Extract パラメータ・ファイルに追加します。ソース・データベース・タイプごとの構文と PARAMS に必要な入力に

については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00173: {0} オプションはこのリリースでは実装されていません

原因: 指定されたオプションは、Oracle GoldenGate のこのリリースではサポートされていません。

処置: 有効な構文については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00174: {0} は指定された他のオプションと互換性がありません

原因: 指定されたパラメータ・オプションは、他の互換性のないオプションと使用されています。

処置: 正しい構文と有効なオプションを確認するには、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00175: VAM ロード・モジュールの長さが許可された最大長を超過しています

原因: VAM ロード・モジュールの名前の長さが許可された長さを超過しています。

処置: モジュールの名前を許容できる長さに変更し、パラメータでそのモジュールを指定する箇所はすべて新しい名前を指定して、Extract プロセスを再起動します。

OGG-00176: VAM ロード・モジュールがパラメータ・ファイルで指定されていません

原因: Extract パラメータ・ファイルの VAM パラメータを使用して、VAM ロード・モジュールが指定されていません。

処置: VAM を使用してロード・モジュールを指定し、Extract を再起動します。

OGG-00177: {0} は VAM を使用する抽出ではサポートされていません

原因: 指定されたパラメータは、VAM を使用する Extract ではサポートされていません。

処置: このパラメータをパラメータ・ファイルから削除してから、Extract プロセスを再起動します。

OGG-00178: {0}

原因: 指定された VAM エラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージに従って問題を解決するか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00179: 操作タイプ {0,number,0} は無効です: トランザクション内のセーブポイントへのロールバックは許可されていません

原因: Oracle GoldenGate VAM は、部分的なロールバック操作をサポートしていません。トランザクションをコミットするか、またはトランザクション全体でロールバックする必要があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00180: トランザクション・リーダー VAM は、HAVEPTHREADS がプリプロセッサ・ビルドのディレクティブとして定義されている場合、シングルスレッド・モードでは実行できません

原因: VAM API カーネルはマルチスレッド・モードで構築されていますが、その他の Extract 実行ファイルはシングルスレッド・モードで構築されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00181: トランザクション・リーダー VAM は、HAVEPTHREADS がプリプロセッサ・ビルドのディレクティブとして定義されている場合を除いて、マルチスレッド・モードでは実行できません

原因: VAM API カーネルはシングルスレッド・モードで構築されていますが、その他の Extract 実行ファイルはマルチスレッド・モードで構築されています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00182: VAM API はシングルスレッド・モードで動作しています

原因: Oracle GoldenGate VAM はシングルスレッド・モードで動作しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-00183: VAM API はマルチスレッド・モードで動作しています

原因: Oracle GoldenGate VAM はマルチスレッド・モードで動作しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-00184: {0} は SQL/MX ODBC レプリケートではサポートされていません

原因: 指定されたパラメータは、SQL/MX データベース用の Replicat ではサポートされていません。

処置: パラメータを削除してから、プロセスを再起動します。

OGG-00185: 警告表 {0} は SQL/MX データベース内に存在しません

原因: 指定された表は Oracle GoldenGate パラメータ・ファイルにリストされていますが、データベース内に存在しません。

処置: パラメータ・ファイルを編集して表を削除するか、表をデータベースに追加します。

OGG-00186: SQL/MX による表 {0} からのフェッチが検出されました

原因: 指定された表からのフェッチが失敗しました。

処置: さらにエラー・メッセージを探して原因を確認します。

OGG-00187: TMFVAM_read レコードのバージョンが一致しません。

原因: レコードのバージョンが、Extract で想定されているバージョンと一致しません。これは、vamserv モジュールが、Extract のそのモジュールと同じバージョンではないことを示しています。

処置: Extract のバージョンと一致するバージョンの vamserv をインストールします。

OGG-00188: {0} から TMFVAM エラー {1,number,0} が返されました

原因: 指定されたエラーが vamserv モジュールで発生しました。

処置: エラー・テキストに基づいて原因および解決策を特定することができない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00189: TMFVAM_init() がコールされませんでした

原因: これは内部論理エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00190: '{0}' の Guardian ファイル名を特定できません

原因: Extract が有効な Guardian ファイル名を特定できません。symlink が欠落しているか、または無効なファイル名を指定しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00191: エラー {1,number,0} が、{0} に対する I/O を終了しています

原因: Extract から vamserv モジュールへのプロセス間メッセージが失敗しました。

処置: リカバリできません。Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00192: {0} から不明なレスポンス・コード {1,number,0} が返されました

原因: Extract が、vamserv モジュールから、処理できないメッセージを受け取りました。

処置: リカバリできません。Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00193: エラー {1,number,0} が、{0} に対する WRITEREAD リクエストを送信しています

原因: Extract が、vamserv へのリクエストを初期化中にファイル・システム・エラーを検出しました。

処置: リカバリできません。Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00194: エラー '{0}' プロセスがオープンしていません。

原因: VAMSERV プロセスが、プロセス間通信に対してオープンされていません。

処置: リカバリできません。Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00195: プロセス {0} ({1}) の FILE_OPEN_error {2,number,0}

原因: vamserv プロセスのオープンが失敗しました。

処置: リカバリできません。Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00196: {0} の PROCESS_CREATE_error {1,number,0},{2,number,0}

原因: vamserv プロセスの作成が失敗しました。メッセージ・テキストに OS エラーと表示されます。

処置: メッセージ内の OS エラーを評価して、適切な処理を実行します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00197: 引数が欠落しています

原因: パラメータに入力引数が欠落しているか、または無効な入力引数が含まれています。

処置: パラメータ・ファイルを編集して構文を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-00198: 引数が欠落しているか無効です

原因: パラメータに入力引数が欠落しているか、または無効な入力引数が含まれています。

処置: パラメータ・ファイルを編集して構文を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00199: 表 {0} はターゲット・データベース内に存在しません

原因: 指定された表は Replicat パラメータ・ファイルに名前が示されていますが、ターゲット・データベース内に存在しません。

処置: パラメータ・ファイルおよびデータベース内の表指定を確認します。必要に応じてパラメータ・ファイルを編集します。

OGG-00200: 表名が欠落しています

原因: パラメータには入力として表の名前が必要ですが、その名前が指定されていません。

処置: パラメータ・ファイルを編集して表名を指定します。

OGG-00201: 列 {0} が見つかりません

原因: パラメータ・ファイルで指定された列が、表メタデータ内で見つかりません。

処置: パラメータ・ファイルおよび表定義内の列指定を確認します。必要に応じてパラメータ・ファイルを編集します。

OGG-00202: レコード定義名が欠落しています

原因: DEFGEN パラメータ・ファイル内の TABLE パラメータの DEF オプションに、定義テンプレートを指定する値が欠落しています。

処置: 定義テンプレートの名前を指定してください。

OGG-00203: Table/File {0} に対する不明なパラメータ

原因: TABLE または FILE パラメータに不明な、または無効なオプションが含まれています。

処置: TABLE または FILE 構文が正しいことを確認し、入力ミスを探してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00204: {0} が指定されていません

原因: 指定されたパラメータ構文が必要です。

処置: 指定の構文を追加してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00205: サイズ指定の構文エラー: {0}

原因: このパラメータへの入力として渡されたサイズが無効、または無効な形式です。

処置: このパラメータに有効なサイズ指定を行ってください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00206: 無効な {0} の指定

原因: パラメータに無効な入力指定が含まれています。

処置: このパラメータに有効な入力指定を行ってください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00207: 無効な {0} 指定 ({1})

原因: パラメータに無効な入力指定が含まれています。

処置: このパラメータに有効な入力指定を行ってください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00208: {0} の指定がありません / 無効です

原因: このパラメータの入力指定がない、または無効です。

処置: このパラメータに有効な入力指定を行ってください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00209: {0} の値がありません

原因: 指定されたパラメータには入力値が含まれていません。

処置: このパラメータの値を指定してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00210: {0} の無効なオプションです

原因: このパラメータには無効なオプションが含まれているため、解析できませんでした。

処置: 構文を修正してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00211: 無効なオプション: {0}

原因: 指定されたオプションが無効なため、このパラメータを解析できませんでした。

処置: 構文を修正してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00212: {0} 用オプションが無効です: {1}

原因: 指定されたオプションが無効なため、このパラメータを解析できませんでした。

処置: 構文を修正してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00213: {0} のオプションがない、または無効です

原因: 渡されたオプションが無効、またはないため、このパラメータを解析できませんでした。

処置: 指定されたパラメータの構文を確認してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00214: 値は {0,number,0} から {1,number,0} である必要があります

原因: 値が無効です。

処置: 指定された範囲内の値を提供してください。

OGG-00215: {0} の値は {1,number,0} から {2,number,0} である必要があります

原因: 指定されたパラメータの値が無効です。

処置: 指定された範囲内の値を提供してください。

OGG-00216: {0} の値は数値である必要があります, {1} を検出しました

原因: 指定されたパラメータの値が無効です。

処置: 数値を提供してください。有効な値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00217: {0} の値は数値である必要があります

原因: 指定されたパラメータの値が無効です。

処置: 数値を提供してください。有効な値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00218: {0} の値が無効です

原因: 指定されたパラメータの値が無効です。

処置: 有効な値を提供してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00219: {0} の値が無効です: {1}

原因: 指定されたパラメータに無効な値が含まれています。

処置: エラーを示すメッセージ・テキストに示された問題を修正してください。構文と値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00220: {0}{1} の引数の数が無効です

原因: 指定されたパラメータには、提供した数より多くのオプション引数が必要です。

処置: 必要な引数を追加してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00221: {1} の無効な {0} 設定: {2}

原因: このパラメータに指定されたオプションが、無効な値に設定されています。

処置: 有効な値を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00222: 表 {0} 用の @RANGE フィルタに使用する列には NULL 値だけが含まれています: NULL 以外の値が 1 つ以上必要です

原因: @RANGE フィルタに指定された列には null 値しか含まれていません。

処置: 値のある列を指定するか、列の指定を削除して、@RANGE が、KEYCOLS 句 (存在する場合) または主キーを、範囲を割り当てる列として使用するようにします。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの @RANGE の説明を参照してください。

OGG-00223: USESNAPSHOT オプションは Oracle 8 では提供されていません

原因: USESNAPSHOT は Oracle 9i 以降でのみ提供されています。抽出でフラッシュバック問合せメカニズムを使用して、特定の操作の再構築に必要なデータをフェッチします。

処置: FETCHOPTIONS から USESNAPSHOT を削除します。

OGG-00224: 破損した xml ファイル ({0}): {1} の終了キー値がありません, batch-num {2,number,0}

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、XML タグの終了キーがありません。

処置: 終了キーを追加するか、XML タグを削除してください。

OGG-00225: 破損した xml ファイル ({0}): {1} の終了キー列値がありません, col {2}, batch-num {3,number,0}

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、XML タグの終了キーがありません。

処置: 終了キーを追加するか、XML タグを削除してください。

OGG-00226: 破損した xml ファイル ({0}): 表 {1} のエントリを見つけられませんでした

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定されたエントリを見つけることができませんでした。

処置: 入力ミスがないか確認するか、指定のエントリを追加してください。

OGG-00227: 破損した xml ファイル ({0}): 表 {1} のバッチ・エントリを見つけれませんでした

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定されたバッチ・エントリを見つけないことができませんでした。

処置: 入力ミスがないか確認するか、指定のエントリを追加してください。

OGG-00228: 破損した xml ファイル ({0}): 表 {1} のバッチがありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定された表のバッチ指定がありません。

処置: 入力ミスがないか確認するか、バッチを追加してください。

OGG-00229: 破損した xml ファイル ({0}): 期待したバッチ・ノードがありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定されたバッチ・ノードを見つけないことができませんでした。

処置: 入力ミスがないか確認するか、バッチ・ノードを追加してください。

OGG-00230: 破損した xml ファイル ({0}): 列ノードに名前プロパティがありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルで、列ノードに列名のプロパティ名がありません。

処置: 列名のプロパティ値を追加してください。

OGG-00231: 破損した xml file ({0}): <row loc="{1}"> ノードが必要です

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、行エントリがありません。

処置: 入力ミスがないか確認するか、行エントリを追加してください。

OGG-00232: 破損した xml ファイル ({0}): 列ノードに値 =<value> がありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルの列ノードに値がありません。

処置: 入力ミスがないか確認するか、必要なエントリを追加してください。

OGG-00233: 破損した xml ファイル ({0}): 列ノードの列名 ({1}) が無効です

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルの列ノードに、無効な列名があります。

処置: 列名を修正してください。

OGG-00234: 破損した xml ファイル ({0}): 型プロパティがありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定された型プロパティを見つけないことができませんでした。

処置: 型プロパティ値を追加してください。

OGG-00235: 無効な SOURCEBATCH ファイル: {0} ノードに {1} プロパティがありません

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルの XML フォーマットが無効、または XML フォーマットがありません。

処置: 別な XML ファイルを指定するか、フォーマットを修正してください。

OGG-00236: SOURCEKEYS ファイル {0} がありません

原因: SOURCEKEY パラメータで指定されたファイルがありません。

処置: 正しいファイル名を指定するか、ファイルを作成してください。

OGG-00237: 無効な {0} XML ファイルです: {1}

原因: SOURCEBATCHFILE または SOURCEKEYS が Veridata 用に無効な XML ファイルを指定しています。

処置: 正しい XML ファイルを指定してください。

OGG-00238: SOURCEBATCHFILE には無効なフォーマット:

<compare-batches> ノードが必要です

原因: SOURCEBATCHFILE が Veridata 用に指定している XML ファイルに、指定された compare-batches ノードを見つけることができませんでした。

処置: compare-batches ノードを追加してください。

OGG-00239: BATCHFILTER を指定する場合は SOURCEBATCHFILE が必要です

原因: BATCHFILTER パラメータが指定されていますが、SOURCEBATCHFILE パラメータがありません。

処置: SOURCEBATCHFILE を追加するか、BATCHFILTER を削除してください。

OGG-00240: 指定済の USERID または PASSWORD です

原因: パラメータ・ファイルで重複した USERID または PASSWORD データベース資格証明が指定されています。1 組のクレデンシャルのみ許可されています。

処置: 無効な資格証明文を削除し、プロセスを再開してください。

OGG-00241: キー名 {0} のエラー, {1}

原因: ENCRYPT オプションで指定された暗号化鍵名の解析でエラーが発生しました。

処置: メッセージ内のエラー・テキストに従って問題を修正してください。

OGG-00242: BLOWFISH 暗号化用に KEYNAME が指定されていません

原因: BLOWFISH の暗号化が指定されていますが、鍵名の指定に KEYNAME オプションが含まれていません。

処置: ENCRYPT BLOWFISH, KEYNAME key_name のように、ENCRYPT 句に KEYNAME オプションを追加してください。詳細は、Oracle GoldenGate のセキュリティ・ドキュメントを参照してください。

OGG-00243: KEYNAME が提供されましたが、暗号化が指定されていませんでした

原因: ENCRYPT パラメータなしで KEYNAME パラメータが指定されました。

処置: オプションのアルゴリズムで ENCRYPT パラメータを指定するか、KEYNAME パラメータを削除してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のセキュリティ・ドキュメントを参照してください。

OGG-00244: KEYNAME が GGS 暗号化用にサポートされていません

原因: KEYNAME パラメータの指定が間違っています。

処置: KEYNAME パラメータを削除するか、有効な ENCRYPT 構文を使用してください。詳細は、Oracle GoldenGate のセキュリティ・ドキュメントを参照してください。

OGG-00245: ログオンしていないため、文を実行できません

原因: SOURCEDB または TARGETDB で問合せまたはストアド・プロシージャを実行するためのログオン資格証明が提供されませんでした。

処置: データベースで必要な場合は、パラメータ・ファイルに USERID 部分を含む SOURCEDB または TARGETDB パラメータを追加してください。データベース用の正しい構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00246: 列 {0,number,0} の最大入力列長を超えました

原因: 指定した入力または出力パラメータのサイズが、サポートされている長さを超えています。

処置: 列の長さを 10,000 バイト以内にしてください。

OGG-00247: 無効な問合せ - すべての結果列は明示的に指定する必要があります(col {0,number,0})

原因: 指定されている列名を、SQLEXEC 用の出力パラメータで見つけることができませんでした。

処置: Sybase エラー・ログを確認してこの SQLEXEC の実行に関連するエラーを探し、そのメッセージに基づいて問題を解決します。

OGG-00248: 無効な問合せが指定されました: {0}

原因: 指定された構文は、SQLEXEC に有効な問合せではありません。

処置: 問合せ構文を修正し、プロセスを再開してください。SQLEXEC 使用の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00249: {0} の型の入力パラメータを処理できません

原因: パラメータ・ファイル内で指定された SQLEXEC 文に、サポートされていないパラメータまたは列タイプが含まれています。

処置: 有効なパラメータまたは列タイプを指定し、プロセスを再開してください。SQLEXEC 使用の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00250: ストアド・プロシージャ / 関数 {0} がありません

原因: SQLEXEC パラメータがストアド・プロシージャまたは関数を参照していますが、データベース内にありません。

処置: パラメータ・ファイル内のプロシージャ名または関数名のスペルを確認してください。必要に応じてプロシージャを作成し、プロセスを再開してください。

OGG-00251: ストアド・プロシージャ / 関数 {0} がありません ({1})

原因: SQLEXEC パラメータがストアド・プロシージャまたは関数を参照していますが、データベース内にありません。

処置: メッセージ内のデータベース・エラーを参照し、パラメータ・ファイル内のプロシージャ名または関数名のスペルを確認してください。エラー・メッセージに従って問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00252: ODBC ドライバはストアド・プロシージャを適切にサポートしていません (level={0,number,0})

原因: ODBC ドライバの現行バージョンは、ストアド・プロシージャをサポートしていません。適合レベル 2 が必要です。

処置: 適合レベル 2 の ODBC ドライバ (SQL_OAC_LEVEL2) にアップグレードしてください。

OGG-00253: オプション {0} は非推奨です。移行手順の詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

原因: 指定されたパラメータ・オプションは非推奨で、現行の Oracle GoldenGate リリースでは無効です。

処置: パラメータ・ファイルからオプションを削除してください。現行のリリース・ノートとドキュメントを参照し、この機能に関連する新しいオプションまたは拡張機能、および必要な移行手順を確認するか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00254: {0} は非推奨のパラメータです

原因: 指定されたパラメータは非推奨で、現行の Oracle GoldenGate リリースでは無効です。

処置: パラメータ・ファイルのパラメータを削除してください。現行のリリース・ノートとドキュメントを参照し、このパラメータに関連する新しいパラメータまたは拡張機能、および必要な移行手順を確認するか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00255: {0} の値が小さすぎるので、最小値 ({1,number,0}) にデフォルト設定されます

原因: パラメータ用に指定された値が、許容されている最小値未満です。最小値が使用されます。

処置: なし

OGG-00256: キャッシュ・アイテム数がない、または無効です

原因: SPMAXCACHEITEMS パラメータの値がありません。

処置: 有効な値を入力し、プロセスを再開してください。

OGG-00257: 動的なワイルドカードは SOURCEISTABLE の抽出用にサポートされていません

原因: WILDCARDRESOLVE DYNAMIC(デフォルト)は指定されていませんが、SOURCEISTABLE が使用されます。この組合せはサポートされていません。

処置: WILDCARDRESOLVE を IMMEDIATE に設定します。

OGG-00258: 表名の指定が行われていません

原因: TABLE または MAP パラメータにソース表名がありません。

処置: ソース表名を指定してください。

OGG-00259: スキーマ名にはワイルドカードを使用できません

原因: Oracle GoldenGate は、パラメータ・ファイルまたはコマンドでワイルドカードを使用したスキーマ名をサポートしていません。

処置: パラメータまたはコマンド指定でスキーマ名をスペルアウトし、プロセスを再開してください。

OGG-00260: タンデム \$Volume.Subvol Name にはワイルドカードを使用できません

原因: ワイルドカードがファイル名の一部として指定されました。Oracle GoldenGate は、Guardian のワイルドカードをサポートしていません。

処置: パラメータ・ファイルを変更し、名前ごとに各ファイルを一意にリストしてください。

OGG-00261: c ツリーに対しては、直接的なワイルドカードの解決はサポートされていません (WILDCARDRESOLVE DYNAMIC を使用)

原因: WILDCARDRESOLVE IMMEDIATE は c ツリーに対してサポートされていません。

処置: WILDCARDRESOLVE を DYNAMIC に変更し、プロセスを再開してください。

OGG-00262: TARGET 表名には最大で 1 つのワイルドカードしか指定できません。

原因: 複数のワイルドカードが指定されていたので、ワイルドカードの解決が失敗しました。

処置: 構文を修正してください。ターゲット・ワイルドカードの指定には、アスタリスクを 1 つしか使用できません (rpt.* または rpt.tab* のように)。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの TABLE および MAP に関する項を参照してください。

OGG-00263: TARGET 所有者名には最大で 1 つのワイルドカードしか指定できません。

原因: 複数のワイルドカードが指定されていたので、ワイルドカードの解決が失敗しました。

処置: 構文を修正してください。ターゲット・ワイルドカード所有者の指定には、アスタリスクを 1 つしか指定できません (たとえば *rpt*.table は指定できないが、rpt*.table は指定可能)。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで TABLE または MAP を参照してください。

OGG-00264: ワイルドカード '*' を表名と置き換えることはできません

原因: ワイルドカードの解決に失敗しました。

処置: ワイルドカードの表名を確認し、構文が正しいことを確かめてください。ソース・オブジェクトでは、名前の一部にワイルドカードを使用することができます (hq.t.* のように)。ただし、ターゲット・オブジェクトでは、アスタリスクがソース・オブジェクトに置き換わるので、名前の一部にワイルドカードを使用できません。したがって、ターゲット・ワイルドカードの指定には、アスタリスクだけを指定することしかできません (rpt.* のように)。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで TABLE または MAP を参照してください。

OGG-00265: ワイルドカード '*' を所有者名に置き換えられません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00266: obey ファイル {0} を開けませんでした (err {1,number,0}, {2})

原因: メッセージ・テキストに示されたオペレーティング・システム・エラーにより、指定された OBEY ファイルを開けませんでした。

処置: エラー原因 (通常は読取り権限不足) を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00267: Obey ファイル {0} がありません

原因: OBEY で指定されたファイルがありません。

処置: 指定されたファイル名と、obey ファイルの実際の名前を比較してください。適切な修正を行い、プロセスを再開してください。

OGG-00268: 終了していないパラメータ

原因: ファイル名を入力に指定せずに、OBEY が使用されています。

処置: OBEY file_name の正しい構文を使用してください。

OGG-00269: obey ファイルが指定されていません

原因: OBEY パラメータにファイル名が指定されていません。

処置: obey ファイル名を指定し、プロセスを再開してください。

OGG-00270: ネストされた obey ファイルはサポートされていません

原因: 1 つ以上の OBEY ファイルが現在の OBEY ファイル内にあります。OBEY 文を他の OBEY 文内でネストすることはできません。

処置: ネストされた OBEY 文を削除するか、コンテンツをメインの OBEY 文にマージします。ネストされた OBEY ファイルを使用する代わりに、マクロを使用して頻繁に使用するパラメータを呼び出し、OBEY 文のマクロを呼び出すこともできます。詳細は、Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-00271: 無効なオプションが指定されました

原因: OBEY パラメータに複数の入力ファイル名が含まれています。

処置: 構文を修正して 1 ファイルだけを指定し、プロセスを再開してください。

OGG-00272: 無効な MACRO の起動 ({0})

原因: 指定されたマクロの起動で構文エラーがあります。

処置: マクロ構文を修正してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00273: マクロ {0} にパラメータ名 {1} がありません

原因: パラメータ名が MACRO の本文で使用されていますが、PARAMS リストで指定されていません。

処置: パラメータを PARAMS リストに追加してください。

OGG-00274: 無効な MACRO の起動 (マクロ {0}, {2,number,0} パラメータ指定済, {1,number,0} は必須)

原因: 指定されたマクロの起動では、マクロ定義と同じ数のパラメータ値が提供されません。

処置: 起動構文を編集し、正しい数のパラメータ値を指定します。値は必ずカンマで区切ってください。

OGG-00275: MACRO 起動で引用符付きの文字列の終了引用符がありません

原因: パラメータ・ファイルで引用符付きのパラメータ値を伴うマクロが起動されましたが、終了引用符がありません。

処置: 終了引用符を追加してください。

OGG-00276: MACRO {0} の起動でカッコが足りません

原因: パラメータ・ファイルでマクロが起動されましたが、カッコが足りません。

処置: カッコを追加してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00277: MACRO {0} の定義がありません

原因: 指定されたマクロの定義がありません。

処置: MACRO パラメータ内でマクロを定義してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00278: 無効な MACRO 定義 (本文が長すぎる)

原因: マクロ定義の本文が長すぎます。

処置: 本文を短くして、99999 バイト以下にしてください。

OGG-00279: 無効な MACRO 定義です。BEGIN キーワードが MACRO {0} で指定されていません。

原因: 無効な MACRO 定義です。BEGIN キーワードが MACRO {0} で指定されていません。

処置: BEGIN キーワードを追加してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00280: 重複した MACRO 名 {0}

原因: パラメータ・ファイルに同一のマクロ名が 2 つあります。

処置: 異なる一意の値に名前を変更してください。

OGG-00281: 無効な MACRO 名

原因: MACRO 文の名前が無効です。

処置: 名前が 1 語 (スペースなしのアルファベット文字) で、有効なマクロ文字 (# 記号または MACROCHAR パラメータで定義された文字) から始まることを確認してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00282: 無効な MACRO 定義

原因: マクロ定義が無効です。

処置: マクロ構文を確認してエラーを探してください。詳細は、Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-00283: マクロ {1} に重複するマクロ・パラメータ名 {0} があります。

原因: MACRO パラメータに重複するパラメータ名が含まれています。

処置: 重複する名前を削除するか、一意の名前に変更します。

OGG-00284: マクロで指定されているパラメータ数が多すぎます

原因: MACRO 定義の PARAMS 句が長すぎます。

処置: PARAMS のサイズを 9999 バイト以下、パラメータ数を 99 以下にしてください。

OGG-00285: MACRO {0} に無効なパラメータ名があります。({1} - {2} から開始する必要があります)

原因: パラメータ名の前にマクロ文字がありません。

処置: このエラー・メッセージに表示されたマクロ文字を追加してください。すべてのマクロ・パラメータ名の前にこの文字が必要です。

OGG-00286: MACRO 内に無効な終了文字があります

原因: MACRO 文が無効な文字で終了しています。

処置: MACRO 文は END キーワードとセミコロン (END;) で終了してください。

OGG-00287: 無効な MACRO 定義 (パラメータが長すぎます)

原因: MACRO 定義の PARAMS 句が長すぎます。

処置: PARAMS のサイズを 9999 バイト以下、パラメータ数を 99 以下にしてください。

OGG-00288: DDL 文に認識されないオプションがあります [{0}]

原因: 指定されたオプションは、DDL パラメータには無効です。

処置: 有効なオプションを指定してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00289: DDLOPTIONS に認識されないオプションがあります [{0}]

原因: 指定されたオプションは、DDLOPTIONS には無効です。

処置: 有効なオプションを指定してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00290: DDLOPTIONS DEFAULTUSERPASSWORD [{0}] 内の暗号化されたパスワードの解読中にエラーが発生しました

原因: 暗号化されたパスワードが間違っています。

処置: GGSCI で ENCRYPT PASSWORD コマンドを使用してパスワードを暗号化し、DEFAULTUSERPASSWORD 構文にコピーして貼り付けます。

DEFAULTUSERPASSWORD および ENCRYPT PASSWORD で使用する適切なオプションについては、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00291: DDLOPTIONS DEFAULTUSERPASSWORD にパスワードがありません

原因: DEFAULTUSERPASSWORD 用にクリアテキストまたは暗号化されたパスワードが指定されていません。

処置: パスワードを指定してください。パラメータ暗号化オプションについては、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで DDLOPTIONS を参照してください。

OGG-00292: DDLERROR でエラー・コードが指定されていますが、アクション (IGNORE, DISCARD, ABEND) が指定されていません [{0}]

原因: DDLERROR 文のエラー・コードに対して、エラー処理用のアクションが指定されていません。

処置: いずれかのアクションを指定し、プロセスを再開してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで DDLERROR を参照してください。

OGG-00293: DDLERROR のエラー・アクション (IGNORE, DISCARD, ABEND) は指定済みです [{0}]

原因: DDLERROR パラメータに、重複処理 (アクション) の指定が含まれています。

処置: 重複構文を削除し、プロセスを再開してください。

OGG-00294: エラー・コードまたは DEFAULT が DDLERROR [{0}] で指定されています

原因: DDLERROR パラメータで、同じエラー・コードまたは DEFAULT キーワードが重複して指定されています。

処置: 重複構文を削除し、プロセスを再開してください。

OGG-00295: [MAXRETRIES numberOfSeconds] の有効なオプションではありません [{0}]

原因: DDLERROR の RETRYOP オプションに MAXRETRIES オプションがありますが、無効な値が提供されています。

処置: 1 から 10000 の値を指定し、プロセスを再開してください。

OGG-00296: [RETRYDELAY numberOfSeconds] の有効なオプションではありません [{0}]

原因: RETRYDELAY に無効な値が指定されています。

処置: 該当する遅延を表す秒数の形式で RETRYDELAY を指定してから、操作を再試行してください。

OGG-00297: エラー・コードまたは DEFAULT が DDLERROR で指定されています

原因: DDLERROR パラメータで、同じエラー・コードまたは DEFAULT キーワードが重複して指定されています。

処置: 重複構文を削除し、プロセスを再開してください。

OGG-00298: ノード {0} 内のプロパティ {1} でエラーが発生しています: {2}

原因: XML メッセージに要素または属性がありません。これは Oracle GoldenGate Veridata Server の内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00299: ノード {0} 内で予想していたプロパティ {1} に対して無効な true/false 値 ({2}) です

原因: XML メッセージ内のブール属性には true/false 値がありません。これは Oracle GoldenGate Veridata Server の内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00300: 最大長を超えました ({2,number,0}), ノード {0} の {1} プロパティ {1}

原因: XML メッセージに、定義された制限を超えた要素または属性があります。これは Oracle GoldenGate Veridata Server の内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00301: {0} に対して予期されているプロパティ {1} を見つけれませんでした

原因: XML メッセージに、予期されている属性がありません。これは Oracle GoldenGate Veridata Server の内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00302: 無効な比較ファイル

原因: XML メッセージ内のレポート、トレース、ステータス、またはパラメータ・ファイルを開けません。これは Oracle GoldenGate Veridata Server の内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00303: {0}

原因: 指定されたパラメータの構文が間違っています。

処置: スペル・ミスがないか確認するか、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで正しい構文を参照してください。

OGG-00304: {0}

原因: 次の許可結果を表示した情報メッセージです。

処置: なし

OGG-00305: 無効な diffs ファイル: {0} ノードに {1} プロパティがありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00306: ディレクトリ名がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00307: ユーザー名がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00308: 終了引用符がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00309: 区切り値がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00310: 拡張指定がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00311: 引数を認識しませんでした: {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00312: {0} の終了カッコがありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00313: {0} の開始カッコがありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00314: COLUMNS または EXCLUDECOLUMNS は複数回指定できません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00315: デリミタは 1 文字である必要があります

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00316: デリミタは 10 進数値、または単一引用符で囲む必要があります

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00317: デリミタは 1 から 127 である必要があります

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00318: トリガーに列が指定されていません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00319: 無効な規則の指定

原因: ACCESSRULE パラメータ内の規則が正しくフォーマットされていません。

処置: 構文を修正して、Manager を再起動してください。このパラメータは非推奨である点に注意してください。詳細は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00320: 指定された規則が多すぎます

原因: ACCESSRULE パラメータに規則が多すぎます。

処置: 規則をいくつか削除して、**Manager** を再起動します。このパラメータは非推奨である点に注意してください。詳細は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00321: run コマンドの引数が無効、または引数がありません

原因: **Manager** パラメータ内の引数がない、または無効です。

処置: パラメータ構文を修正してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00322: グループ指定子がありません

原因: 指定されたパラメータに対して実行するプロセスが指定されていません。

処置: このパラメータは **ER**、**EXTRACT**、または **REPLICAT** の値を受け付けます。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00323: {0} のグループ指定がされていません

原因: 指定されたパラメータに対して実行するプロセスが指定されていません。

処置: このパラメータは **ER**、**EXTRACT**、または **REPLICAT** の値を受け付けます。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00324: グループ・タイプには EXTRACT、REPLICAT、または ER を指定する必要があります

原因: 指定されたパラメータに対して実行するプロセスが指定されていません。

処置: このパラメータは **ER**、**EXTRACT**、または **REPLICAT** の値を受け付けます。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00325: {0} には ER、EXTRACT、または REPLICAT を指定する必要があります

原因: 指定されたパラメータに対して実行するプロセスが指定されていません。

処置: このパラメータは **ER**、**EXTRACT**、または **REPLICAT** の値を受け付けます。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00326: ファイル・セット・パラメータ ({0}) がありません

原因: プロセスの実行対象のファイル・セット名が指定されていません。

処置: **Manager** パラメータ・ファイル内のパラメータでファイル名が必要なものに、有効なフォーマットのファイル名が含まれていることを確認してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00327: {0} エントリ数が多すぎます (最大は {1,number,0})

原因: 指定したパラメータのインスタンス数が多すぎます。

処置: このパラメータのインスタンスを許可されている数に減らしてください。可能であれば、複数のインスタンスのオプションを組み合わせ、インスタンス数を減らすか、このパラメータの単一パラメータにしてください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00328: {0} パラメータに許可されている最大数は {1,number,0} です

原因: 指定したパラメータのインスタンス数が多すぎます。

処置: このパラメータのインスタンスを許可されている数に減らしてください。可能であれば、複数のインスタンスのオプションを組み合わせ、インスタンス数を減らすか、このパラメータの単一パラメータにしてください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00329: 無効なプロトコル ({0})

原因: サポートされていない通信プロトコルが指定されました。

処置: TCP または UDP をプロトコルとして指定してください。

OGG-00330: 終了ポートは開始ポート ({0}) 番号と等しい、またはそれ以上である必要があります

原因: DYNAMICPORTLIST のポート範囲の最後に指定されたポート番号が、範囲の開始ポート番号より低い値です。

処置: パラメータを編集し、値が増えるように値の範囲を指定してください。正: 7830-7835 ; 誤: 7835-7830。

OGG-00331: 無効な終了ポート番号 ({0})

原因: DYNAMICPORTLIST のポート範囲の最後に指定されたポート番号が無効です。

処置: Manager パラメータを編集し、有効なポート範囲を指定し、Manager を再起動してください。たとえば 7830-7835 のように指定します。

OGG-00332: 無効なポート範囲 ({0})

原因: Manager パラメータ・ファイルで、無効な範囲のポート番号が DYNAMICPORTLIST パラメータに対して指定されています。

処置: 有効なポート番号範囲を指定してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00333: 無効なポート番号 ({0})

原因: Manager パラメータ・ファイルで指定されている TCP/IP ポート番号は、有効なポート番号ではありません。

処置: Manager パラメータ・ファイルで、PORT パラメータに対して有効な未使用のポート番号を指定し、Manager を再起動してください。

OGG-00334: {0} または {1} を指定する必要があります

原因: パラメータ・ファイルに 2 つの必須パラメータの両方ではなく、いずれか一方だけを含む必要があります。

処置: 必須パラメータを追加し、プロセスを再開してください。

OGG-00335: AFTER オプションの無効な指定子 {0} です, DAYS または HOURS を指定する必要があります

原因: AFTER オプションに PURGEOLDTASKS パラメータが使用されていますが、構文が間違っています。

処置: AFTER n {DAYS | HOURS} を指定してください。

OGG-00336: AFTER オプションには DAYS または HOURS を指定する必要があります

原因: AFTER オプションに PURGEOLDTASKS パラメータが使用されていますが、構文が間違っています。

処置: この構文にはいずれかの時刻指定子を使用してください: AFTER n {DAYS | HOURS}。構文を修正後、プロセスを再開してください。

OGG-00337: 履歴表名がありません

原因: PURGEOLDHISTORY パラメータを使用していますが、DDL 履歴表の名前がデフォルト名ではなく、ユーザーが定義した名前は GLOBALS ファイルの DDLTABLE パラメータでは指定されていません。

処置: DDL 履歴表名を DDLTABLE で指定し、プロセスを再開してください。

OGG-00338: SQL 句が指定されていません

原因: QUERY 句の SQL がありません。

処置: QUERY 句で問合せを指定してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで SQLEXEC を参照してください。

OGG-00339: SQLEXEC の間隔が無効です

原因: EVERY オプションで定義された間隔は、完全な正の整数ではありません。

処置: 1 以上の値に変更し、プロセスを再開してください。

OGG-00340: SQLEXEC の間隔は 1 以上である必要があります

原因: EVERY オプションで定義された間隔は、完全な正の整数ではありません。

処置: 1 以上の値に変更し、プロセスを再開してください。

OGG-00341: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: {1} の引数がない、または無効です

原因: 指定された構文の引数がない、または間違っています。

処置: タイプ・ミスがないことを確認し、SQLEXEC の参照ドキュメントで構文を参照してください。

OGG-00342: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: {1} オプションの値が無効です ({2})

原因: 指定されたオプションに無効な値が含まれています。

処置: Oracle GoldenGate の参照ドキュメント内の SQLEXEC ドキュメントで有効な値を確認してください。

OGG-00343: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: 無効な TRACE オプション

原因: TRACE 構文が間違っています。

処置: TRACE に、ALL(プロシージャまたは問合せを起動するたびに入出力のトレースを行う)(デフォルト) または ERROR(SQL エラー発生後にのみ、起動ごとのパラメータをトレースする) を指定してください。

OGG-00344: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: SQLEXEC に対して認識されないオプションです: {1}

原因: SQLEXEC 文に含まれている指定の構文が間違っています。

処置: タイプ・ミスがないことを確認し、SQLEXEC の参照ドキュメントで構文を参照してください。

OGG-00345: SQLEXEC 句, id {0}: SPNAME または QUERY が必要です

原因: SQLEXEC 文には、プロシージャ (SPNAME) または問合せ (QUERY) の実行を指定する句が含まれていません。

処置: Oracle GoldenGate の参照ドキュメント内の SQLEXEC の構文に基づき、SPNAME または QUERY 句を追加してください。

OGG-00346: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: QUERY の指定時には ID が必要です

原因: SQLEXEC 文に ID 指定がありません。Oracle GoldenGate が名前を使用して、問合せから返された列値を参照するために必要です。

処置: ID 句を追加してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの SQLEXEC を参照してください。

OGG-00347: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: 無効な PARAMS 指定 ({1})

原因: 指定された SQLEXEC 句に、構文が間違っている PARAMS 指定が含まれています。

処置: Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで SQLEXEC 用に記載された構文リストに従って、PARAMS 句を修正してください。

OGG-00348: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: ストアド・プロシージャの PARAMS 指定がない、または無効です {1}

原因: 指定された SQLEXEC 句には、入力パラメータの提供用に PARAMS 指定が必要です。

処置: PARAMS 句を追加するか、既存の句の構文エラーを修正してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで SQLEXEC を参照してください。

OGG-00349: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: パラメータ指定子の等号がありません {1}

原因: 指定されたパラメータはパラメータ = 値の形式である必要があります。

処置: エラーを修正し、プロセスを再開してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00350: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: 無効なパラメータ名: {1}

原因: 指定された SQLEXEC 句のパラメータが無効です。

処置: パラメータ名にタイプ・ミスがないか確認してください。有効なパラメータの詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの SQLEXEC を参照してください。構文を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00351: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: {1} の PARAM 句のエラー

原因: 指定された SQLEXEC 句に構文エラーがあります。

処置: PARAMS 句で指定されたパラメータの構文を修正し、プロセスを再開してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの SQLEXEC を参照してください。

OGG-00352: SQLEXEC 句のエラー, id {0}: 必須パラメータがありません: {1}

原因: 指定された SQLEXEC 句に必須パラメータがありません。

処置: Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで、正しい SQLEXEC 構文と必須オプションを確認してください。

OGG-00353: ストアド・プロシージャ・パラメータを見つけられませんでした ({0})

原因: SQLEXEC 文の PARAMS 句でパラメータが指定されていますが、プロシージャでは見つけれられません。

処置: PARAMS 句とプロシージャを比較し、必須パラメータをプロシージャに追加するか、SQLEXEC 文から削除します。

OGG-00354: 無効な BEFORE 列: {0}

原因: 無効な列名が指定されました。

処置: 入力で正しい列名を指定してください。

OGG-00355: BEFORE イメージ・リソースの登録中にプログラミング・エラーが発生しました

原因: 更新文の処理用に、BEFORE イメージが 2 回登録されました。

処置: これは内部エラーです。Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00356: 宛先ファイルまたは TABLE エントリの前に COMPARE を指定する必要があります

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00357: 等号がありません

原因: DDL 履歴に等号がありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00360: {0} は {1} と一緒に使用できません

原因: 指定されたパラメータは互換性がない、またはいずれか一方しか指定できません。

処置: 必要な Oracle GoldenGate の構成に応じて、いずれかのパラメータを削除してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00361: {0} と {1} の両方を指定する必要があります

原因: パラメータ・ファイルに指定された両方のパラメータを含む必要があります。

処置: 必須パラメータを追加し、プロセスを再開してください。

OGG-00362: {0} は {1} より前に指定する必要があります

原因: パラメータ・ファイル内のパラメータの順序が間違っています。

処置: パラメータの順序を変更し、プロセスを再開してください。

OGG-00363: {0} は SOURCEDEFS/TARGETDEFS エントリより前に指定する必要があります。パラメータは無視されます。

原因: NUMFILES または ALLOCFILES パラメータが、SOURCEDEFS または TARGETDEFS パラメータの後で指定されています。

処置: NUMFILES または ALLOCFILES を、パラメータ・ファイル内の SOURCEDEFS または TARGETDEFS の前に配置してください。

OGG-00364: REPERERROR 句 {0} は、DEFAULT/DEFAULT2 では無効です。パラメータは無視されます。

原因: REPERERROR 構文が間違っています。

処置: 構文を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00365: {0} は複数の TABLE で指定できません

原因: 指定されたオプションは、TABLE 文で 1 回しか使用できません。

処置: このオプションの追加インスタンスを削除してください。

OGG-00366: {0} で無効な列が指定されています: {1}

原因: 指定された列がありません。このメッセージは、列名を入力として取る複数の異なるパラメータに適用されます。

処置: このパラメータ・ファイルに列名を入力として取るパラメータまたはオプションがないか探して、名前が有効であることを確認してください。有効な名前を指定するか、パラメータを削除します。

OGG-00367: {0} リスト内のエラー: {1}

原因: 指定されたパラメータに、二重引用符がないなどの構文エラーがあります。

処置: 構文を確認して修正してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00368: 現行の表で指定済の列です

原因: 指定された同じ表に対して、複数の COLS 句があります。

処置: この表の COLS 句を 1 つだけ残して削除してください。

OGG-00369: {0} のトークン句のエラーです

原因: 指定されたパラメータ内の TOKENS 句に、構文エラーがあります。

処置: 構文エラーを修正してください。正しい構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00370: 無効な関数定義です

原因: 列関数の定義で、カッコがない、または引用符が対になっていないなどの、構文エラーがあります。

処置: 構文を修正してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00371: 関数定義が、最大長 {0,number,0} を超えています

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00372: TOKEN 値 / 関数がありません

原因: TABLE の TOKENS 句に値が含まれていません。

処置: 二重引用符に囲まれた定数値、または Oracle GoldenGate の列変換関数の結果を提供してください。

OGG-00373: 間違った TOKEN 名です

原因: TOKENS 句のトークン名が無効です。

処置: 任意の長さの ASCII 英数字名を提供してください。TOKENS は大文字と小文字を区別しません。

OGG-00374: TOKEN 名を予期していました

原因: TOKENS 句にトークン名がありません。

処置: 任意の長さの ASCII 英数字名を提供してください。TOKENS は大文字と小文字を区別しません。

OGG-00375: FILTER 句のエラーです

原因: TABLE または MAP 内の FILTER 文に構文エラーがあります。

処置: 構文エラーを修正してください。詳細は、TABLE および MAP の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00376: FILTER 条件がありません

原因: TABLE または MAP 内の FILTER 文にフィルタ式が含まれていません。

処置: フィルタ式を追加してください。詳細は、TABLE および MAP の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00377: 問合せ / 表 {0} は識別済です

原因: 表メタデータは解決済ですが、QUERY パラメータによって表が指定されています。このパラメータは非推奨です。

処置: QUERY パラメータを削除してください。

OGG-00378: 問合せ文がありません

原因: QUERY パラメータに問合せ文がありません。このパラメータは非推奨です。

処置: 問合せ文を追加してください。

OGG-00379: 問合せ名がありません

原因: QUERY パラメータに問合せ名がありません。このパラメータは非推奨です。

処置: 問合せ名を追加してください。

OGG-00380: TIMEZONE は LOC、GMT、または SOURCE である必要があります

原因: TIMEZONE に無効なオプションが指定されています。

処置: 'LOC'、'SOURCE'、または 'GMT' のいずれかの値を提供してください。

OGG-00381: 無効なオプションです

原因: パラメータに無効な引数が含まれています。

処置: パラメータ・ファイルを編集し、正しい引数を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00382: {0} の無効なオプションです

原因: 指定されたパラメータに無効なオプションが含まれています。

処置: 正しいオプション構文を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00383: 無効なパラメータ値です

原因: 指定されたパラメータに無効な値が含まれています。

処置: 正しい値を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00384: {0} 名にはスキーマ名を指定できません。

原因: このパラメータの表名を指定する際に、スキーマ値は使用できません。

処置: この表名からスキーマ名を削除してください。

OGG-00385: {0} の後に表名を予期しています

原因: 指定されたパラメータには表名が必要です。

処置: パラメータに、使用する表名を指定してください。

OGG-00386: {0} の後にスキーマ名を予期しています

原因: GLOBALS ファイル内の GGSHEMA パラメータでは、Oracle の DDL 同期化をサポートしているデータベース・オブジェクトが含まれたスキーマは指定されません。

処置: GLOBALS ファイルを編集し、DDL スキーマ名を提供します。

OGG-00387: {0} の後にサービス名を予期しています

原因: GLOBALS ファイル内の MGRSERVNAME パラメータに、Manager 用の Windows サービス名が含まれていません。

処置: GLOBALS ファイルを編集し、MGRSERVNAME パラメータに Manager のサービス名を提供してください。

OGG-00388: 引数がありません (line {0,number,0})

原因: パラメータは BCP 形式のファイルを生成して、テンプレート・ファイルに基づき、データを SQL Server 表にロードしようとしています、テンプレート・ファイル名がありません。

処置: GENLOADFILES パラメータに、テンプレート・ファイル名を指定してください。

OGG-00389: 無効なファイル・セクション・エントリです (line {0,number,0})

原因: テンプレートの指定された行セクションには、無効なエントリが含まれています。

処置: 有効なファイル・エントリを指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの GENLOADFILES を参照してください。

OGG-00390: テンプレートに {1} エントリがありません (line {0,number,0})

原因: 制御ファイルのテンプレートに指定されたセクションがありません。

処置: 有効なエントリを指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの GENLOADFILES を参照してください。

OGG-00391: テンプレート {1} を置換できません。置換が大きすぎます (line {0,number,0})

原因: BCP 形式のファイルを生成して、テンプレート・ファイルに基づき SQL Server 表をロードしようとしたましたが、起動用のテンプレート・パラメータが長すぎます。

処置: メッセージに表示されたテンプレート・パラメータを修正してください。

OGG-00392: 間違った区切り文字が指定されました

原因: FORMATASCII 内の DELIMITER パラメータに、無効な区切り文字値が指定されています。

処置: 有効な区切り文字を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00393: 区切り文字がありません

原因: FORMATASCII 内の区切り文字の指定に、DELIMITER パラメータがありません。

処置: 区切り文字を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00394: コマンドが長すぎます

原因: パラメータ・ファイル内のコマンドが長すぎます。

処置: 区切り文字の欠落や空白など、構文エラーを探してください。

OGG-00395: 引数が長すぎます

原因: パラメータ・ファイル内のコマンド引数が長すぎます。

処置: 区切り文字の欠落や空白など、構文エラーを探してください。

OGG-00396: コマンドがセミコロンので終了していません

原因: コマンドがセミコロンので終了していません。

処置: セミコロンのを追加してください。

OGG-00397: {0} の {1} オプションがありません

原因: 指定されたパラメータには指定のオプションが必要です。

処置: オプションを追加し、プロセスを再開してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00398: DDLSUBST 内の WITH より前の文字列を空にすることはできません

原因: DDLSUBST 文は、ターゲット DDL 内で置換されるソース DDL 内の文字列を含んでいません。

処置: この句に検索文字列を提供してください: `DDL SUBST search_string WITH new_string`。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00399: DDL SUBST 内の WITH の後に文字列がありません

原因: ターゲット DDL 内のソース文字列を置換する文字列がありません。

処置: この句に置換文字列を提供してください: `DDL SUBST search_string WITH new_string`。

OGG-00400: DDL SUBST 解析エラー: {0}

原因: DDL SUBST パラメータの処理中に、指定のエラーが発生しました。

処置: 報告のあったエラーに従って問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00401: {0} を使用するには DDL Replication を有効にする必要があります (先に DDL 文を使用)

原因: DDL レプリケーションが有効になっていません。

処置: DDL レプリケーションをインストールし (該当する場合)、有効化してください。詳細は、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-00402: DDL レプリケーションを有効にすると、WILDCARDRESOLVE パラメータを DYNAMIC に設定する必要があります。

原因: WILDCARDRESOLVE パラメータが DYNAMIC に設定されていません。

処置: WILDCARDRESOLVE を DYNAMIC に設定し、プロセスを再開してください。

OGG-00403: DDL フィルタリング文は複数指定できません。DDL フィルタが長すぎる場合は、アンパサンド (&) 記号を使用して別な行に続けてください。

原因: パラメータに複数の DDL 文が含まれています。

処置: 文内のフィルタリングを 1 つの DDL 文に組み合わせてください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。長い DDL 文は各行の最後にアンパサンドを使用して、別な行に分割できます。

OGG-00405: DDL レプリケーションでは {0} を使用する必要があります。

原因: DDL レプリケーションを使用する場合は、指定されたパラメータが必要です。

処置: パラメータを追加し、プロセスを再開してください。このパラメータの詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00406: DDL レプリケーションは、{0} パラメータとの互換性がありません。

原因: DDL レプリケーションが有効な場合は、指定されたパラメータを使用できません。

処置: パラメータ・ファイルからパラメータを削除し、プロセスを再開してください。

OGG-00407: DDLERROR [{0}] の有効なエラー・コードではありません

原因: 指定されたエラー・コードは無効です。

処置: 有効なエラー・コードを指定するか、DEFAULT オプションを使用してください。正しい DDLERROR 構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00408: RETRYDELAY より前に RETRYOP が指定されていません

原因: DDLERROR 構文内で、RETRYOP MAXRETRIES は RETRYDELAY より前に指定する必要があります。

処置: 構文を修正してください。正しい DDLERROR 構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00409: RETRYOP より前に、エラー・コードまたは DEFAULT が指定されていません

原因: DDLERROR パラメータはエラー・タイプを指定していません。

処置: エラー・タイプを指定して、構文を修正してください。正しい DDLERROR 構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00410: DBMS によって、{0} は最大 {1,number,0} に制限されています

原因: MAXSQLSTATEMENTS で指定された数は、基礎になっているデータベースで認められている最大のアクティブ文数を超過しています。

処置: MAXSQLSTATEMENTS の値を調整し、データベースでサポートされている最大数以内にしてください。

OGG-00411: PURGE または APPEND が必要です

原因: ファイル指定に PURGE または APPEND オプションがありません。

処置: 適切なオプションを指定してください。

OGG-00412: PURGE、APPEND、MAXBYTES、または MEGABYTES が必要です

原因: DISCARDFILE パラメータに無効な引数が含まれています。

処置: 有効なオプションは、APPEND または PURGE、および MAXBYTES または MEGABYTES です。

OGG-00413: {0} には日付と時刻の両方を含む必要があります

原因: パラメータ・ファイルに不完全なタイムスタンプが提供されています。

処置: パラメータ・ファイルを編集し、yyyy-mm-dd hh:mi:ss[.cccccc] の形式でタイムスタンプに日付と時刻の両方を含んでください。

OGG-00414: 無効な {0} フォーマット

原因: BEGIN または END パラメータに無効な日付および時刻が指定されています。

処置: 有効な日付と時刻を指定してください。

OGG-00415: {0}

原因: ユーザー・イグジットに無効な引数が含まれています。

処置: 有効な引数を指定してください。ユーザー・イグジット構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00416: {0} の値は 0 より大きい必要があります

原因: 指定されたパラメータの値は、ゼロより大きい必要があります。

処置: 有効な値を指定してください。

OGG-00417: {0} の値は 0 以上である必要があります

原因: 指定されたパラメータの値は、ゼロ以上である必要があります。

処置: 有効な値を指定してください。

OGG-00418: 遅延可能制約の検証中にエラーが発生しました

原因: ターゲット制約の状態を検証できませんでした。

処置: 失敗理由を示す以降のエラー・メッセージを探してください。

OGG-00419: HANDLETPKUPDATE が指定されていますが、TARGET には遅延可能制約がありません

原因: パラメータ・ファイルに HANDLETPKUPDATE パラメータが含まれており、ターゲット表の整合性制約が DEFERRABLE に設定されていません。ターゲット制約が DEFERRABLE に設定されていない場合、Replicat は HANDLECOLLISIONS および REPEROR パラメータで指定された既存の規則に従ってエラーを処理するか、異常終了します。

処置: ターゲット表の制約を DEFERRABLE INITIALLY IMMEDIATE として作成してください。

OGG-00420: {0} の値が長すぎます

原因: 指定されたパラメータ値は、実行時に割り当てられる内部バッファには長すぎます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-00422: {0} の指定は引用符で囲む必要があります

原因: 指定されたパラメータは引用符で囲む必要があります。

処置: パラメータ・ファイルを編集し、引用符を追加してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00423: {0} の定義を見つけられませんでした

原因: 起動時にオブジェクト・キャッシュを構築する際に、プロセスは指定された表の定義を見つけられませんでした。

処置: TABLE、MAP パラメータのいずれか、または両方から表を削除してください。ワイルドカードを使用している場合は、TABLEEXCLUDE または MAPEXCLUDE を使用して表を除外できます。

OGG-00424: {0}, 表 {1} がターゲット・データベースにありません

原因: ターゲット・データベースで、Replicat は指定された表のメタデータを見つけられませんでした。表は明示的に、またはワイルドカードの結果として、MAP 文のリストに記載されています。

処置: MAP パラメータからその表を削除してください。そのパラメータでワイルドカードを使用している場合は、MAPEXCLUDE を使用して表を除外できます。

OGG-00425: 表 {0} の定義を取得するために DB ログインが確立されていません

原因: データベースと対話するコマンドを発行する前に、DBLOGIN コマンドを発行する必要があります。

処置: DBLOGIN を発行してください。

OGG-00427: IGNORE、DISCARD、ABEND、EXCEPTION、TRANSABORT、TRANSDISCARD、TRANSEXCEPTION、または RETRYOP が必要です

原因: REPEROR 文でレスポンスが正しく設定されていません。

処置: REPEROR の構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00428: REPEROR のエラー番号がありません

原因: エラー指定がない、または無効です。

処置: 有効な SQL エラー番号、RAISEERROR に設定されたユーザーが定義したエラー、または DEFAULT キーワードを指定してください。詳細は、MAP および REPEROR の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00429: エラー番号または DEFAULT が必要です

原因: エラー指定に無効な引数が提供されました。

処置: 有効な SQL エラー番号、RAISEERROR に設定されたユーザーが定義したエラー、または DEFAULT キーワードを指定してください。詳細は、MAP および REPEROR の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00430: MAP 文の REPEROR として RESET は無効です

原因: REPEROR が MAP 文で使用されており、RESET オプションが含まれています。このオプションはパラメータ・ファイルのルート・レベルの REPEROR でのみサポートされています (スタンドアロン REPEROR 文として)。

処置: MAP ファイルの REPEROR から RESET を削除してください。

OGG-00431: {0} を設定できません

原因: RMTHOST に指定されたオプションは無効です。

処置: 構文を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00432: 値 {0} を {1,number,0} に設定できません

原因: 指定されたパラメータは提供された値をサポートしていません。

処置: 有効な値を指定してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00433: RMTHOST はまだ指定されていません

原因: パラメータ・ファイルに RMTHOST パラメータが含まれていません。

処置: RMTHOST パラメータを追加してください。

OGG-00434: ファイル名がありません

原因: EXTFILE または RMTFILE のファイル名が予期されています。

処置: このパラメータのファイル名を指定してください。

OGG-00435: PURGE、APPEND、RESTART、MEGABYTES、または MAXFILES が必要です

原因: EXTTRAIL、EXTFILE、RMTTRAIL、または RMTFILE の無効な引数が指定されました。

処置: エラー・メッセージに表示されたいずれかの引数を指定してください。RESTART は有効なオプションではなくなった点に注意してください。

OGG-00436: 表 {0} が定義されていません

原因: プロセスは指定された表のメタデータを見つけられませんでした。DEFGEN ユーティリティが指定された表で実行されなかった、または実行はされたが、既存のソースまたはターゲット定義ファイルに追加されなかった可能性があります。

処置: TABLE または MAP パラメータで表が正しく指定されていることを確認してください。正しい場合は、表に対して DEFGEN を実行し、SOURCEDEFS または TARGETDEFS で指定されたファイルにこれらの定義を追加してください。

OGG-00437: レコード定義 {0} が定義されていません

原因: プロセスは DDL 操作中の指定された表に対するメタデータを見つけられませんでした。DEFGEN ユーティリティが指定された表で実行されなかった、または実行はされたが、既存のソースまたはターゲット定義ファイルに追加されなかった可能性があります。

処置: TABLE または MAP パラメータで表が正しく指定されていることを確認してください。正しい場合は、表に対して DEFGEN を実行し、SOURCEDEFS または TARGETDEFS で指定されたファイルにこれらの定義を追加してください。

OGG-00438: GGS ログトレイルの次のチェックポイント取得中にエラーが発生しました

原因: プロセスは次のチェックポイント・ファイルを開くことができませんでした。

処置: プロセスにチェックポイント・ファイルへの読み書き権限があることを確認してください。エラーが発生したファイルが破損していないことを確認してください。プロセスが次のチェックポイント・ファイルを開けない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00439: チェックポイント・ファイル {0} の読取りに失敗しました

原因: プロセスはチェックポイント・ファイルを開くことができませんでした。

処置: ファイルに対するオペレーティング・システムの権限を確認し、プロセスが読み書き権限を持っていることを確かめてください。ファイルが破損していないことを確認してください。それでもファイルが読み取れない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00440: チェックポイント・ファイル {0} のロックに失敗にしました, 別なコレクタ・インスタンスがこのファイルを使用している可能性があります

原因: プロセスは指定されたチェックポイント・ファイルをロックできませんでした。

処置: 別な Server/Collector プロセスがこのチェックポイント・ファイルを使用していないか確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00441: チェックポイント・ファイル {0} がありません

原因: プロセスは指定されたチェックポイント・ファイルを探しています。

処置: ファイルを復元してください。移動、名前の変更、または削除が行われていないか確認してください。

OGG-00442: このデータベース用の DB チェックポイントはサポートできません。

原因: チェックポイント表機能 (データベース・チェックポイント) は、現行のデータベースではサポートされていません。ADD CHECKPOINTTABLE コマンドが発行された可能性があります。あるいは、チェックポイント表をサポートしているパラメータが存在している可能性があります。

処置: CHECKPOINTTABLE パラメータを GLOBALS ファイルから削除します (存在する場合)。CHECKPOINTTABLE オプションなしで、ADD REPLICAT を発行してください。

OGG-00443: チェックポイント取得エラーです

原因: チェックポイント・ファイルの読取り中に、レポート・プロセスで I/O エラーが発生しました。

処置: Oracle GoldenGate のインストール先ファイル・システムのヘルス状態を確認してください。このエラーの原因になっている問題を修正し、プロセスを再開してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00444: 次のチェックポイント取得中のエラー

原因: チェックポイント・ファイルの読取り中に、レポート・プロセスで I/O エラーが発生しました。

処置: Oracle GoldenGate のインストール先ファイル・システムのヘルス状態を確認してください。このエラーの原因になっている問題を修正し、プロセスを再開してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00445: 移行グループ {0} を検出しました, DB チェックポイント・ディレクトリを {1} から {2} に更新中です

原因: データベース内の Replicat チェックポイント表は、ディスクに保存されたチェックポイント・ファイル用の無効なディレクトリを指していました。Replicat がチェックポイント表を更新するたびに、チェックポイント・ファイルの場所を確認します。一致していない場合は、Replicat は正しい場所に表を更新します。メッセージの最初の値だったチェックポイント・ファイルのディレクトリが、表示されている 2 番目の値になったことを示す情報メッセージです。

処置: なし

OGG-00446: {0}

原因: チェックポイント・ファイルの処理中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00447: {0} の定義を見つけられません, エラー {1}

原因: メッセージに記載されたエラーのため、DDL メタデータをソース・データベースから取得できませんでした。

処置: エラー・メッセージに従って問題を修正してください。この問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00448: DDL レコードが sourcedefs ファイル内で見つかりましたが、無視して続行しています

原因: DDL は SOURCEDEFS パラメータを使用して DDL 用に指定されたソース定義ファイルがある表で実行されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-00449: ソース [{0}] のターゲットは解決していません。

原因: プロセスは指定されたターゲット表を見つけられませんでした。

処置: ターゲット表を作成するか、DDLERROR パラメータ内の IGNOREMISSINGTABLES を使用します。

OGG-00450: 任意の MAP 文でソース順序 [{0}] が解決できません

原因: プロセスは指定されたターゲット順序を見つけられませんでした。

処置: ターゲット順序を作成するか、DDLERROR パラメータ内の IGNOREMISSINGTABLES を使用します。

OGG-00451: ソース順序 [{0}] を解決できませんでした, エラー [{1}]。

原因: 指定された順序を見つけられませんでした。

処置: 順序の存在を確認してください。

OGG-00452: ターゲット順序 [{0}] を解決できませんでした, エラー [{1}]。

原因: プロセスは指定されたターゲット順序を見つけられませんでした。

処置: ターゲット順序を作成するか、DDLERROR パラメータ内の IGNOREMISSINGTABLES を使用します。

OGG-00453: DDL Replication はこのデータベースではサポートされていません

原因: Oracle GoldenGate は、現行のデータベースの DDL レプリケーションをサポートしていません。

処置: DDL レプリケーションに適用されるすべてのパラメータを削除してください。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00454: DDL/ 順序処理を初期化できません, エラー [{0}]

原因: Oracle GoldenGate は、指定されたエラーが発生したため、DDL 処理を開始できませんでした。

処置: 返されたエラーに基づいてこの問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00455: [{0}] 解決中に問題が発生しました: {1}, この問題を修正し、致命的なエラーを回避してください

原因: プロセスは指定された表のメタデータを解決できませんでした。問題の原因は、メッセージ・テキストに記載されています。

処置: 問題を解決し、致命的なエラーを回避してください。この問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00456: DDLOPTIONS NOCROSSRENAME は有効ですが、レプリケートされていないオブジェクト [{0}] が、レプリケートされたオブジェクト [{1}] に名前を変更されました。これにより、新しい (名前変更後の) オブジェクトが正しく処理されない場合があります。

原因: DDLOPTIONS パラメータに NOCROSSRENAME が含まれており、表は TABLE 文に含まれている名前に変更されました (おそらくワイルドカードによって)。ターゲットの存在や定義方法によっては、オブジェクトのレプリケーションが間違っている場合があります。また、意図しないデータがレプリケーションされてしまうこともあります。

処置: 元の表と名前変更済の両方の表について、ソースとターゲット表が一致していることを確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00457: NORENAME で除外のマーキングが付いていたにもかかわらず、オブジェクト [{0}] の名前が変更されました。名前を変更したオブジェクト (含まれている場合) は選択しても、しなくてもかまいません (NORENAME のマーキングが付いている名前は変更できません)

原因: NORENAME オプションが有効になっている TABLEEXCLUDE パラメータでオブジェクトが指定され、表は TABLE 文に含まれていた名前に変更されました (おそらくワイルドカードによって)。ターゲットの存在や定義方法によっては、オブジェクトのレプリケーションが間違っている場合があります。また、意図しないデータがレプリケーションされてしまうこともあります。

処置: 元の表と名前変更済の両方の表について、ソースとターゲット表が一致していることを確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00458: メタデータ・プロパティ {0} が見つかりません。DDL メタデータ [{1}]

原因: Oracle GoldenGate による解決が必要なメタデータ・プロパティがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00459: オブジェクト {0} のメタデータ・プロパティ {1} が見つかりません。DDL メタデータ [{2}]

原因: Oracle GoldenGate による指定されたオブジェクトの解決に必要なメタデータ・プロパティがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

**OGG-00460: オブジェクト {0} のメタデータ・プロパティ {2} が見つかりません {1}。
DDL メタデータ [{3}]**

原因: Oracle GoldenGate による指定されたオブジェクトの解決に必要なメタデータ・プロパティがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00461: 列 {0} のメタデータ・プロパティ {1} が見つかりません。DDL メタデータ [{2}]

原因: Oracle GoldenGate による指定されたオブジェクトの解決に必要なメタデータ・プロパティがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00462: DDL 文の文字列置換中にエラーが発生しました。DDL メタデータ [{0}]

原因: Oracle GoldenGate は、DDL 文での文字列置換を行えませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00463: DDL 文の文字列を置換できません、古い文 = [{0}]、新しい文は大きすぎます。DDL メタデータ [{1}]

原因: DDLSUBST パラメータで指定された置換文字列のサイズが、データベースがサポートしているサイズを超えています。

処置: サポートされているサイズの文字列を提供してください。

OGG-00464: DDL 文内の DDL コメントを削除できません。DDL メタデータ [{0}]

原因: Oracle GoldenGate は、DDL 文のコメントを解析できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00465: DDL 文内の文字列を {0} 用に再構築できません、文 = [{1}]。DDL メタデータ [{2}]

原因: Oracle GoldenGate は DDL データへの内部変更を処理できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00466: DDL 文内の文字列を {0} 用に再構築できません。DDL メタデータ [{1}]

原因: Oracle GoldenGate は DDL データへの内部変更を処理できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00467: ddl プロパティの取得中に無効なパラメータに遭遇しました。DDL メタデータ [{0}]

原因: DDL データの処理中に予期していないパラメータに遭遇しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00468: 無効な形式の ddl プロパティ文字列です (等号がありません)。DDL メタデータ [{0}]

原因: DDL は Oracle GoldenGate にサポートされていない、または不明な形式です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00469: 無効な形式の ddl プロパティ文字列です (開始区切り文字がありません)。DDL メタデータ [{0}]

原因: DDL は Oracle GoldenGate にサポートされていない、または不明な形式です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00470: 無効な形式の ddl プロパティ文字列です (終了区切り文字がありません)。DDL メタデータ [{0}]

原因: DDL は Oracle GoldenGate にサポートされていない、または不明な形式です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00471: DDL メタデータが大きすぎます。DDL メタデータ [{0}]

原因: DDL データが割り当てられたスペースを超えています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00472: メタデータには数値を予期していましたが、変換できません。DDL メタデータ [{0}]

原因: このメタデータには数値を予期していましたが、数値形式ではありませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00473: DDL シグネチャ文字列を削除する際に、DDL 文の文字列を再構築中にエラーが発生しました、後続レコード = [{0}]

原因: 文字列を処理できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00474: DDL シグネチャ文字列の削除の際に、DDL 文の文字列を再構築できませんでした、文 = [{0}]。DDL メタデータ [{1}]

原因: 文字列を処理できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00475: DDL が大きすぎます - DDL は無視されます、詳細: {0}。

原因: DDL が Oracle GoldenGate がサポートしている 2MB を超えています。

処置: DDL を手動で適用してください。

OGG-00476: オブジェクトは解決しましたが、[{0}] 用のメタデータ収集に失敗しました、{2,number,0} 秒間隔で [{1,number,0}] 回再試行中です

原因: Extract によって指定されたオブジェクトのメタデータを取得できなかったため、再試行中です。

処置: Extract によって、これらのエラー・メッセージの前、または間でその他の警告やエラー・メッセージが表示されることがあります。詳細は Extract レポート・ファイルを参照してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00477: 表 [{0}].[1]] に TRAN DATA を正しく追加しました、操作 [{2}]

原因: Extract によって、表の補足ログ・データが正しく追加されました。

処置: なし

OGG-00479: [{0}] DDL 操作の TRAN DATA を正しく削除しました、表 [{1}].[2]], 操作 [{3}]

原因: Extract によって、表の補足ログ・データが正しく削除されました。

Extract は場合によって一時的な補足ログ・データ・グループを作成することがありますが、最終的には削除されます。

処置: なし

OGG-00480: 派生オブジェクト名 [{0}] が [{1}] にマップされています

原因: 派生したオブジェクト用の MAP 文があるため、指定された派生オブジェクト名がターゲット名にマップされました。

処置: なし

OGG-00482: DDL が検出されました, 操作 [{0}]

原因: データ・ソースに DDL 操作がありました。

処置: なし

OGG-00483: DDL 操作が成功しました

原因: Oracle GoldenGate は DDL 操作を正しく処理しました。

処置: なし

OGG-00484: DDL 操作を実行しています {0,choice,0#|1#RETRYOP パラメータのため、再試行中}

原因: Oracle GoldenGate は DDL を実行しています。

処置: なし

OGG-00485: コメントが削除されました (REMOVECOMMENTS {0}), DDL 操作に変更はありませんでした

原因: DDLOPTIONS に REMOVECOMMENTS オプションが含まれていましたが、DDL にはコメントは含まれていません。

処置: なし

OGG-00486: DDL 操作からコメントが削除されました (REMOVECOMMENTS {0}), 新しい操作 [{1}]

原因: REMOVECOMMENTS の DDLOPTIONS パラメータに従って、DDL 操作からコメントが削除されました。

処置: なし

OGG-00487: DDL 操作に [{0}]、optype [{1}]、objtype [{2}]、objowner [{3}]、objname [{4}] が含まれていました

原因: 指定された DDL 操作は INCLUDE 句の基準と一致しているため、DDL レプリケーションに含まれていました。

処置: なし

OGG-00488: DDL 操作から [{0}]、optype [{1}]、objtype [{2}]、objowner [{3}]、objname [{4}] が除外されていました

原因: 指定された DDL 操作は EXCLUDE 句の基準と一致しているため、または INCLUDE 句に含まれていなかったため、DDL レプリケーションから除外されました。

処置: なし

OGG-00489: DDL は新しい操作 [{0}] のマップ後にマップされた範囲です

原因: DDL 操作は MAPPED 範囲内です。これは TABLE または MAP 文に含まれている DDL 操作です。

処置: なし

OGG-00490: DDL 操作はマップされていない範囲のものです

原因: この DDL 操作は UNMAPPED 範囲のものです。これは TABLE または MAP 文での使用のためにサポートされている DDL 操作ですが、ベース・オブジェクト名はいずれのパラメータにも含まれていません。

処置: なし

OGG-00491: DDL 操作はデフォルト範囲内です

原因: DDL 操作はデフォルトの OTHER 範囲内です。これは、マップできない DDL 操作です。

処置: なし

OGG-00492: DDL エラーは無視されました: エラー・コード [{0}], フィルタ [{1}], エラー・テキスト [{2}]

原因: 指定された DDL エラーは、DDLERROR パラメータのレスポンス規則に従って無視されました。

処置: なし

OGG-00493: DDL のエラーは無視されました, 無視する残りのエラー数は [{0,number,0}] です, 入力データ [{1}]

原因: SKIPTRIGGERERROR 付きの DDLOPTIONS がパラメータ・ファイルで使用されているため、トリガー・エラーは無視されました。

SKIPTRIGGERERROR は無視可能なトリガー・エラー数を指定するので、このメッセージでは残りがいくつあるのかを示します。

処置: なし

OGG-00494: DDL エラーを破棄しました: エラー・コード [{0}], フィルタ [{1}], エラー・テキスト [{2}]

原因: 指定された DDL エラーは、DDLERROR パラメータのレスポンス規則に従って無視されました。

処置: なし

OGG-00495: 次の再試行に対する DDL エラーが無視されました: エラー・コード [{0}], フィルタ [{1}], エラー・テキスト [{2}], 再試行 [{3,number,0}]

原因: 指定された DDL エラーは、DDLERROR パラメータのレスポンス規則に従って無視されました。RETRYOP オプションに従って、指定された回数、DDL の再試行が行われます。

処置: なし

OGG-00496: DDL エラーが無視されました [RESTARTCOLLISIONS]: エラー [{0}]

原因: RESTARTCOLLISIONS が使用されているため、指定されたエラーは無視されました。RESTARTCOLLISIONS は、起動後の最初のトランザクションに対して HANDLECOLLISIONS ロジックを適用します。

処置: なし

OGG-00497: 抽出トレール・ファイルに DDL 操作を書き込んでいます

原因: Extract がトレールに DDL 操作を書き込んでいます。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-00499: DDL RENAME が見つかりました, 古い所有者 [{0}] のオブジェクト [{1}], 新しい所有者 [{2}] のオブジェクト [{3}]

原因: RENAME 操作が処理されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-00500: DDL RENAME が見つかりました, 古い所有者 [{0}] のオブジェクト [{1}], 新しい所有者 [{2}] のオブジェクト [{3}], RENAME を ALTER TABLE に変換, 新しい操作 [{4}]

原因: RENAME は同等の ALTER TABLE RENAME に変換されました。これは RENAME はスキーマ名をサポートしていませんが、ターゲット上の DDL 文が別なスキーマにマップしている場合に、スキーマ名が必要になるためです。

処置: なし

OGG-00501: RESTARTSKIP のため DDL 操作をスキップしています, 残りのスキップ数は [{0,number,0}] です, DDL 操作 [{1}]

原因: Extract パラメータ・ファイルに、RESTARTSKIP オプション付きの DDLERROR が含まれています。Extract が指定された数の DDL 操作をスキップしています。

処置: なし

OGG-00502: DDL による [{0}] から [{1}] への置換を除外 [{2}]

原因: DDLSUBST パラメータ内の EXCLUDE オプションに DDL が含まれているため、DDL 内のテキスト置換は行われませんでした。

処置: なし

OGG-00503: DDL による [{0}] から [{1}] への置換は除外されました [一致が含まれていません]

原因: DDLSUBST パラメータの INCLUDE に DDL が含まれていないため、DDL のテキスト置換は行われませんでした。

処置: なし

OGG-00504: DDL による [{0}] から [{1}] への置換が含まれています [{2}], 新しい操作 [{3}]

原因: DDLSUBST パラメータ内の規則に従って、テキスト置換が実行されました。

処置: なし

OGG-00505: DDL による [{0}] から [{1}] への置換が含まれています [{2}], DDL 操作は置換後も同じでした

原因: DDLSUBST の規則に従ってテキスト置換が行われましたが、置換後も DDL テキストは同じでした。

処置: なし

OGG-00506: GETTRUNCATES と DDL の両方のレプリケーションが有効です

原因: パラメータ・ファイルに GETTRUNCATES パラメータが含まれています。GETTRUNCATES が有効化されています。

処置: GETTRUNCATES(TABLE/MAP 固有) を、切捨てはレプリケートする必要があるが、DDL 構成には含まれない表にのみ使用する用に指定してください。切捨てが DDL 機能によってサポートされているので、GETTRUNCATES は DDL レプリケーションを有効にした表には使用しないでください。

OGG-00507: ターゲット [{0}] はありませんが、{1} によって無視されました

原因: 、パラメータ・ファイルに IGNOREMISSINGOBJECTS 付きの DDLOPTIONS が含まれているため、存在していない表に対する DML 操作は無視されました。

処置: なし

OGG-00508: DDL オブジェクト・バージョン表でフラグメント番号のギャップを検出しました (間違ったデータ), SCN {0} 用フラグメント #{1,number,0}, 問合せ [{2}]

原因: DDL 履歴表のデータが破損しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00509: IDENTIFIED 句のある CREATE/ALTER USER を検出しましたが、DDLOPTIONS DEFAULTUSERPASSWORD が指定されていません

原因: IDENTIFIED BY 句のある CREATE または ALTER USER を処理しました。Extract パラメータ・ファイルには NOREPLICATEPASSWORD オプション付きの DDLOPTIONS が含まれており、ソース・パスワードの伝播を防止していますが、Replicat パラメータ・ファイルには、ターゲットの IDENTIFIED BY 句の代替パスワードを使用する DEFAULTUSERPASSWORD 付きの DDLOPTIONS がありません。

処置: DEFAULTUSERPASSWORD 付きの DDLOPTIONS を追加してください。

OGG-00510: DDL メタデータの選択中に予期しない問合せセレクトに遭遇しました

原因: DDL 履歴表の問合せ中に内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00511: DDL 履歴表にアクセスできません。DDL スキーマの所有者は [{0}] です。DDL のインストールで使したスキーマと、GLOBALS ファイル内の GGSHEMA パラメータと一致する必要があります。現在ログインしているユーザー [{1}] に、DDL 履歴表へのアクセス権限を付与する必要があります

原因: プロセス実行中のデータベース・ユーザーが、GGS_DDL_HIST 表 (履歴表) を読み取れません。

処置: エラー・テキストに示されたスキーマが、GLOBALS ファイルの GGSHEMA パラメータ用に指定されたものと同じであることを (そして、そこにこのパラメータが存在していることを) 確認してください。このパラメータが正しい場合は、指定されたユーザーがその表に対する SELECT および DML 権限をすべて持っていることを確認してください。権限の付与は、role_setup.sql スクリプトを実行してデフォルトの GGS_GGSUSER_ROLE ロールを作成し、そのロールを Extract ユーザーに付与することで行えます。詳細は、Oracle GoldenGate の DDL インストールとセットアップに関する説明を参照してください。

OGG-00512: RECYCLEBIN はオフになっている必要があります。10gr2 以降では、パラメータ・ファイル内の RECYCLEBIN を OFF にします。10gr1 ではパラメータ・ファイル内の _RECYCLEBIN を FALSE にしてデータベースと抽出を再起動します

原因: Oracle データベースのごみ箱が有効になっています。

処置: メッセージ内の指示に従って Oracle 初期化パラメータを設定し、Oracle のごみ箱を無効にしてください。

OGG-00513: SOURCEDEF 付きの表には DDL 操作を行えません (表 [{0}])。SOURCEDEF を削除するか、DDL 操作から表を除外してください

原因: 表が DDL レプリケーション用に構成されていますが、異なるターゲットへのレプリケート構成も行われています。Oracle は類似のデータベース環境での DDL 同期化だけをサポートしており、ソースとターゲット表が同一の定義で、同じデータベース・タイプである必要があります。

処置: この表を同一のターゲットにマップするか、DDL INCLUDE または EXCLUDE オプションから削除してください。

OGG-00514: DDL 操作 [{0}] で文字列の置換に失敗しました , エラー [{1}]

原因: DDLSUBST パラメータを使用していますが、置換に失敗しました。

処置: DDL INCLUDE の指定が DDLSUBST INCLUDE の指定と互換性がある (たとえば、ターゲット・オブジェクトが両方に含まれている) ことを確認してください。REMOVECOMMENTS BEFORE が指定されていないことも確認してください。詳細は、DDLSUBST の参照ドキュメントのガイドラインを参照してください。

OGG-00515: DDLERROR 構造内に不明な操作コードがあります

原因: DDLERROR パラメータの INCLUDE または EXCLUDE 文内の構文、またはエラー処理構文に、正しく解析できないものがあります。

処置: DDLERROR 構文を確認してエラーを修正してください。構文の詳細は、DDLERROR のドキュメントを参照してください。

OGG-00516: DDL レプリケーション中に致命的なエラーが発生しました : エラー [{1}], 原因は明示的な ABEND エラー処理とフィルタです [{0}]

原因: 指定された DDL エラーでプロセスを異常終了させるように、DDLERROR 文が構成されています。

処置: データ要件に基づいて問題を修正してください。ABEND がエラー処理規則の場合は、問題を手動で修正するための計画を作成しておくか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00517: DDL レプリケーション中に致命的なエラーが発生しました : エラー [{0}], 原因はエラー処理に含まれていないことです

原因: DDL 操作中にエラーが発生しましたが、DDLERROR 文のフィルタ基準でその操作がエラー処理から除外されていたため、エラー処理が行われませんでした。

処置: エラー・テキストに基づいて問題を修正し、該当する場合はエラー処理にその操作タイプまたはオブジェクトを含んでください。

OGG-00518: DDL レプリケーション中に致命的なエラーが発生しました : エラー [{1}], 原因はフィルタによるエラー処理からの除外です [{0}]

原因: DDL 操作中にエラーが発生しましたが、DDLERROR 文のフィルタ基準でその操作がエラー処理から除外されていたため、エラー処理が行われませんでした。

処置: エラー・テキストに基づいて問題を修正し、該当する場合はエラー処理にその操作タイプまたはオブジェクトを含んでください。

OGG-00519: DDL レプリケーション中に致命的なエラーが発生しました : エラー [{0}], エラー・ハンドラがありません

原因: DDL 操作中にエラーが発生しましたが、DDLERROR パラメータでエラー処理が指定されていないため、プロセスは異常終了しました。

処置: メッセージ内のエラー・テキストに基づいて問題を修正し、以降のエラーに対応して処理を続行できるように、1 つ以上の DDLERROR パラメータを追加します。

OGG-00520: スタンバイ・データベースでは、DDL レプリケーションはサポートされていません

原因: Oracle GoldenGate は、スタンバイ・データベースとの間の DDL レプリケーションをサポートしていません。

処置: DDL 構成パラメータとオブジェクトをスタンバイ・データベースから削除してください。

OGG-00521: オブジェクトは解決しましたが、同じ解決用のコールで DDL 履歴とデータベース・メタデータの解決が失敗し、リカバリできません {0} [{1}], オブジェクト id [{2}]

原因: DDL オブジェクトがデータベース、または DDL 履歴レコード内にありませんでした。オブジェクトによって、このメッセージが無視される場合と無視されない場合があります。

処置: オブジェクトがデータベースから漏れていないか確認してください。DDL 履歴表の一部または全部が切り捨てられていないことも確認してください。切り捨てられている場合は、なくなったレコードを復元してください。PURGEDDLHISTORY パラメータが、まだ必要な DDL 履歴レコードを削除していないことを確認してください。

OGG-00523: マーカー・データのオブジェクト ID が番号ではありません

原因: オブジェクト・メタデータに、番号形式ではないオブジェクト ID が含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00524: DDL トリガーのエラーを検出しました: {0}。トレース・ログ・ファイルを調べるか、Oracle サポートにご連絡ください

原因: DDL トリガー付きの DDL の処理中にエラーが発生しました。

処置: DDL トリガー・トレース・ファイルを確認してエラーがシステムの問題(データベースのシャットダウン、または DDL オブジェクト用のスペース不足など)かどうか、または Oracle サポートによる確認が必要かどうかを判断してください。

OGG-00525: Oracle GoldenGate DDL トリガーが正しくインストールされていません, 詳細: {0}。

原因: DDL トリガーが正しくインストールされていません。

処置: DDL トリガーを再インストールしてください。手順は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のインストール用ドキュメントを参照してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00526: マーカー・データに DDL 文がありません

原因: Extract は DDL レコード内に DDL 操作を見つけることができませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00528: このデータ・ソースでは DDL パラメータはサポートされていません。このパラメータを削除すると、すべての DDL 操作がパススルー (PASSTHRU) モードで伝播します。

原因: データ・ポンプのパラメータ・ファイルで DDL パラメータが指定されています。DDL マッピングまたはフィルタリングはデータ・ポンプではサポートされていないため、そのままパススルーする必要があります。

処置: データ・ポンプ・パラメータ・ファイルから DDL パラメータを削除し、DDL サポートを使用している表を含むすべての TABLE 文の前に PASSTHRU パラメータを配置します。データ・フィルタリング、マッピング、または変換を行う場合は、DDL サポートを使用していない表を含む、任意の TABLE 文の前に NOPASSTHRU パラメータを配置できます。DDL サポートの構成の詳細は、Oracle GoldenGate の管理用ドキュメントを参照してください。

OGG-00529: DDL Replication が有効になっていますが、表 {0} が見つかりません。 データベース内に DDL がインストールされていることを確認してください

原因: 指定された表は Oracle GoldenGate DDL 構成をサポートしており、処理中には見つけれられません。

処置: Oracle GoldenGate の該当するデータベースのインストール用ドキュメントを参照して、DDL レプリケーションをサポートするためにはどのオブジェクトをデータベースにインストールする必要があるのかを確認してください。そのドキュメントの指示に従って該当するオブジェクトをインストールしてください。

OGG-00530: 表の DDL メタデータの変更は現時点でのみサポートされている変更です, 検出したタイプ [{0}]

原因: Extract でサポートされていない DDL 操作に遭遇しました。Oracle GoldenGate は現在、表または順序の DDL 操作だけをサポートしています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00531: 順序を解決できません: {0} 原因は、順序の UPDATE に対する無効な ROWID です

原因: 順序に対する DDL の変更によって間違った ROWID 日付が生成されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00532: 順序の上限値を変換できません, 値 [{0}]

原因: Oracle GoldenGate はターゲット順序がソースより先に来るように、ターゲット順序を更新して上限値を増やすことができません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00533: 順序名 [{0},{1}] はハッシュ名 [{2},{3}] とおよびオブジェクト id [{4,number,0}] と一致していません (DDL は使用しているが、有効になっていない可能性があります)

原因: 順序オブジェクトに DDL 操作を行いましたが、Oracle GoldenGate DDL のサポートがインストールされていません。

処置: 順序オブジェクトに対して DDL 操作を実行する前に、Oracle GoldenGate DDL サポートをインストールしてください。手順は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のインストールおよびセットアップ・ガイドを参照してください。

OGG-00534: 順序の更新が大きすぎます [{0}]

原因: 順序値の更新が 1 億以上です。Oracle GoldenGate は 1 億以上の値の更新をサポートしていません。

処置: 1 億未満の更新値を使用してください。

OGG-00535: 順序キャッシュ値が大きすぎます [{0}]

原因: 順序キャッシュのサイズが大きすぎます。Oracle GoldenGate は 1 億以上の順序 CACHE 値をサポートしていません。

処置: 1 億未満の CACHE 値を使用してください。

OGG-00536: 順序の増分単位が大きすぎます [{0}]

原因: 順序の増分間隔が大きすぎます。Oracle GoldenGate は 1 億以上の INCREMENTBY 値をサポートしていません。

処置: 1 億未満の INCREMENTBY 値を使用してください。

OGG-00537: 不明な DDL オブジェクト属性の解決中に、オブジェクト・タイプ {0,number,0} を検出しました

原因: オブジェクト・タイプは表または順序ではありませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00538: {0} が原因で、[{1},{2}] に対するメタデータの無効化が行えません

原因: 通常このメッセージは、TRUNCATE TABLE または ANALYZE TABLE など、メタデータには影響を及ぼさない DDL 操作です。このメッセージは、Extract がメタデータのクリアが行われない理由を示します (DDL キャッシュから削除)。できればメタデータはクリアしないほうが有益です: 残しておくプロセスは次の DML 操作にメタデータを再度読み取る必要がないので、パフォーマンスが向上します。

処置: なし

OGG-00539: {0} [{3}] が原因で、[{1},{2}] に対するメタデータの無効化が行えません

原因: 通常このメッセージは、TRUNCATE TABLE または ANALYZE TABLE など、メタデータには影響を及ぼさない DDL 操作です。このメッセージは、Extract がメタデータのクリアが行われない理由を示します (DDL キャッシュから削除)。できればメタデータはクリアしないほうが有益です: 残しておくプロセスは次の DML 操作にメタデータを再度読み取る必要がないので、パフォーマンスが向上します。

処置: なし

OGG-00540: {0} が原因で、[{1},{2}] のメタデータがクリアできません

原因: 通常このメッセージは、TRUNCATE TABLE または ANALYZE TABLE など、メタデータには影響を及ぼさない DDL 操作です。このメッセージは、Extract がメタデータのクリアが行われない理由を示します (DDL キャッシュから削除)。できればメタデータはクリアしないほうが有益です: 残しておくプロセスは次の DML 操作にメタデータを再度読み取る必要がないので、パフォーマンスが向上します。

処置: なし

OGG-00541: {0} [{3}] が原因で、[{1},{2}] のメタデータがクリアできません

原因: 通常このメッセージは、TRUNCATE TABLE または ANALYZE TABLE など、メタデータには影響を及ぼさない DDL 操作です。このメッセージは、Extract がメタデータのクリアが行われない理由を示します (DDL キャッシュから削除)。できればメタデータはクリアしないほうが有益です: 残しておくプロセスは次の DML 操作にメタデータを再度読み取る必要がないので、パフォーマンスが向上します。

処置: なし

OGG-00542: 予期していないスレッド・ライブラリの障害です。エラー・コード {0,number,0} ({1})

原因: プロセスがマルチスレッド・アプリケーションを実行中に、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00543: 予期していないスレッド・ライブラリの障害です。エラー・コード {0,number,0} ({1})

原因: マルチスレッド・アプリケーションを実行中に、内部エラーが発生しました。Oracle GoldenGate はエラーから回復しました。

処置: 引続き警告が出る場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00544: スレッド関数に無効な引数が渡されました。

原因: 予期しないプログラミング・ロジック・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00545: サポートされていないスレッド・アクセスです

原因: Call Attachment Facility (CAF) は、プロセスのスレッド化を許可していません。1つの Oracle GoldenGate プロセスに対して、1つのスレッドのみサポートされています。

処置: RRSF (Recoverable Resource Manager Services Attachment Facility) 添付タイプを使用するか、プロセスをマルチスレッド構成にしないでください。詳細は、Oracle GoldenGate の DB2 z/OS のインストールとセットアップに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00546: デフォルト・スレッド・スタック・サイズ: {0,number,0}

原因: Oracle GoldenGate はシステム上の Posix スレッドのデフォルト数を決定します。

処置: なし

OGG-00547: {0,number,0} から {1,number,0} にスレッド・スタック・サイズを拡大しています

原因: Oracle GoldenGate は Posix スレッド数を増加して、処理要件をサポートしようとしています。

処置: なし

OGG-00549: データベース操作が失敗しました: {0}。RRSAF を使用して初期化できません - RRS が提供されており、正しく機能していることを確認してください。{1}

原因: MVSATTACHTYPE が RRSF に設定されていますが、RRSAF を初期化できませんでした。

処置: RRSF をインストールし、正しく構成されていることを確認してください。

OGG-00550: データベース操作が失敗しました: {0}。RRSAF を使用して初期化できません - RRS が提供されており、正しく機能していることを確認してください。{1}

原因: MVSATTACHTYPE が RRSF に設定されていますが、RRSAF を初期化できませんでした。

処置: RRSF をインストールし、正しく構成されていることを確認してください。

OGG-00551: データベース操作が失敗しました: {0}。ODBC エラー: SQLSTATE {2} ネイティブ・データベース・エラー {3,number,0}。{1}

原因: 指定のエラーにより、Oracle GoldenGate プロセスは SQL 操作を完了できませんでした。

処置: ドライバまたはデータベースの問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00552: データベース操作が失敗しました: {0}。ODBC エラー: SQLSTATE {2} ネイティブ・データベース・エラー {3,number,0}。{1}

原因: 指定のエラーにより、Oracle GoldenGate プロセスは SQL 操作を完了できませんでした。

処置: ドライバまたはデータベースの問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00554: SQL 文 '{0}' の実行に失敗しました

原因: 指定された SQL 文を実行するとエラーが戻されました。

処置: SQL 文に関連する問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00555: フェッチ実行中です。ODBC エラー ({0,number,0})。{1}

原因: フェッチに失敗しました。

処置: ODBC エラー・メッセージに従って問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00556: {0} の ODBC Driver は ODBC レベル 1 に準拠していません

原因: 少なくともレベル 1 の ODBC ドライバ準拠レベルが必要です。

処置: データベース・ベンダーに連絡し、準拠レベルが 1 以上の最新の ODBC ドライバをダウンロードしてください。

OGG-00557: {0} の ODBC Driver は、用意された文を適切にサポートしていません

原因: このデータベースの ODBC ドライバは、用意された文をサポートしていません。

処置: このデータベース用の最新の ODBC ドライバに更新して問題を解決し、プロセスを再開してください。

OGG-00558: 暗黙のトランザクションをオフに設定できませんでした

原因: 暗黙のトランザクションを無効化中にエラーが発生しました。

処置: 基になっているデータベースが、自動コミット・モードに戻るための SET IMPLICIT_TRANSACTIONS OFF コマンドをサポートしているかどうかを判断してください。問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00559: 名前付きトランザクション '{0}' を開始できませんでした

原因: 名前付きのトランザクション・コマンド (BEGIN TRANSACTION tran_name など) を開始しようとしてエラーが発生しました。

処置: 基になっているデータベースが名前付きのトランザクションをサポートしているかどうかを判断してください。問題を修正し、プロセスを再開してください。

OGG-00560: 表 {0} の IDENTITY_INSERT 状態を変更できませんでした

原因: SET IDENTITY_INSERT の実行に失敗し、エラーが戻されました。

処置: データベースへの接続に使用したユーザーが、SET IDENTITY_INSERT の使用に必要な権限を持っていることを確認してください。ユーザーは該当するオブジェクトを所有しているか、sysadmin に固定されたサーバー・ロール、または db_owner および db_ddladmin に固定されたデータベース・ロールのメンバーである必要があります。

OGG-00561: セーブポイント '{0}' へのロールバックに失敗しました

原因: トランザクションをセーブポイントにロールバックしようとして、エラーが発生しました。

処置: セーブポイント名を記録し、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00562: トランザクション '{0}' の保存に失敗しました

原因: プロセスはアクティブなトランザクション上にセーブポイントを設定できませんでした。

処置: セーブポイント名を記録し、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00563: 表 {0} の IDENTITY 情報を取得できませんでした

原因: Replicat には IDENTITY 列を正しく処理するために必要な情報がありません。

処置: 指定された表に IDENTITY 列がない場合は、このメッセージは無視できます。指定された表に IDENTITY 列がある場合は、この列タイプを処理するように Oracle GoldenGate を正しく構成したことを確認してください。詳細は、Oracle GoldenGate の SQL Server のドキュメントを参照してください。この問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00564: {0} の ODBC Driver が十分な数の同時 SQL 文をサポートしていません。少なくとも {1,number,0} が必要ですが、{2,number,0} しか提供されていません。

原因: ODBC ドライバは、Oracle GoldenGate がサポートしている同時 SQL 文の数をサポートしていません。

処置: MAXSQLSTATEMENTS パラメータを、ドライバがサポートしている値に設定してください。

OGG-00565: ODBC 操作を初期化できません

原因: 環境ハンドルおよび関連するリソースの割当て中に、システムでエラーが発生しました。

処置: このエラーはおそらく回復不可能なシステム・エラーに起因しているため、基になっているデータベースの DBA に連絡してください。

OGG-00566: 表 {0},{1} がターゲット・データベース内にありません

原因: この表は Oracle GoldenGate 内でレプリケーション用に構成されており、Replicat は起動時に表の列情報を取得しましたが、メタデータが見つかりませんでした。

処置: この表はおそらくターゲット・データベースにはありません。表を追加するか、表を Replicat 構成から削除してください。

OGG-00567: 索引化されていない値 '{2}' は表の列 {0},{1} ではありません

原因: プロセスが列名をその索引に解決しようとしたとき、現行の表のメタデータと相互参照すると、column-not-found のエラーが発生しました。

処置: プロセスが維持しているメタデータ・レコードを更新するには、プロセスを停止し、再開してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00568: 現行の ODBC セッションは複数のアクティブ・トランザクションをサポートしていません。Oracle サポートでは、複数のトランザクションを使用してトランザクションの整合性を確保し、できるだけ早くカタログ・ロックを解除することをお薦めしています。ODBC の初期化ファイルには、'MVSATTACHTYPE=RRSAF' および 'MULTICONTEXT=1' の両方が必要です。

原因: ODBC セッションは複数のアクティブ・トランザクションをサポートしていません。

処置: Oracle GoldenGate プロセスを停止し、指定のパラメータを ODBC 初期化ファイルに追加して、プロセスを再開してください。

OGG-00570: インストールされている Teradata ODBC ドライバは、バッチ SQL 文の再利用をサポートしていません。ドライバをバージョン {0,number,0}. {1,number,0}. {2,number,0}. {3,number,0} 以上にアップグレードしてください。

原因: 現行の ODBC ドライバは BATCHSQL パラメータをサポートしていません。

処置: 推奨されているドライバにアップグレードしてください。

OGG-00571: サポートされている残りの SQL 文 ({0,number,0}) が最大数 ({1,number,0}) を下回っています

原因: データベースは現行の Oracle GoldenGate の構成で認められている、用意された SQL 文数をサポートしていません。

処置: MAXSQLSTATEMENTS パラメータを、データベースがサポートしている値に設定してください。MAXSQLSTATEMENTS の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00572: Teradata ODBC ドライバによって、残りの SQL 文は {0,number,0} に制限されています。

原因: ドライバは現行の Oracle GoldenGate の構成で認められている、用意された SQL 文数をサポートしていません。

処置: MAXSQLSTATEMENTS パラメータを、データベース・ドライバがサポートしている値に設定してください。MAXSQLSTATEMENTS の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00573: SQLExecute は有効なパラメータ状態 [{0,number,0}] を戻しませんでした

原因: ターゲット表に対する配列操作の実行中に、この行のパラメータ状態配列が正しく取り込まれません。

処置: この問題は ODBC ドライバ・ベンダーに報告してください。障害になっている行に関するエラー・メッセージがあるはずです。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00575: {0} のドライバはトランザクションをサポートしていません

原因: 指定された ODBC ドライバはトランザクションをサポートしていません。

処置: トランザクションをサポートしている ODBC ドライバにアップグレードしてください。

OGG-00576: フェッチ状態配列で予期しないエラーが発生しました ({0,number,0})

原因: ODBC による配列フェッチによって、配列内の 1 つ以上の行でエラーが発生しました。

処置: 可能であれば、エラー・コードに基づき、問題を解決してください。この問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00577: データ長 ({2,number,0}) が、ファイル {0} に対して許可されている最大値 ({1,number,0}) を超えています

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00578: 鍵の長さ ({2,number,0}) が、ファイル {0} に対して許可されている最大値 ({1,number,0}) を超えています

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00579: 鍵の長さが ({0,number,0}) でレコード長が ({1,number,0}) の予期しない before イメージです

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00580: ファイル {0} は存在していません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00581: C ツリー・エラーです ({2,number,0}, {1}): {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00582: C ツリー・エラーです ({2,number,0}, {1}): {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00583: 不正な結果タイプ {1,number,0} によって表 {0} が記述されています

原因: 指定された表または列定義に対する記述リクエストによって、データベースから予期しない結果が戻されました。

処置: メッセージに従って問題を修正してください。問題を診断するには、この Oracle GoldenGate プロセスのレポート・ファイル内に他の Sybase 関連メッセージがないか調べ、Sybase エラー・ログも確認してください。

OGG-00584: 問合せ定義の記述中に不正な結果タイプ {0,number,0} を検出しました

原因: データベースから SQLEXEC 問合せ定義を記述している間に、予期しない結果が発生しました。おそらく SQLEXEC 構文にエラーが含まれています。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 文を参照して、構文エラーを探し、修正してください。SQLEXEC 構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00585: 表定義の記述中に不正な結果タイプ {0,number,0} を検出しました

原因: データベースから SQLEXEC 問合せ定義を記述している間に、予期しない結果タイプを受信しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 文を参照して、構文エラーを探し、修正してください。SQLEXEC 構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00586: コンテキストのデータ・ソースを開こうとして内部エラーが発生しました

原因: これは内部エラーで、本番環境で受信するはずがないものです。

処置: このエラーを受信した場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00587: sp を実行して、結果を取得中に、エラーが発生しました

原因: SQLEXEC のストアド・プロシージャまたは問合せの実行中に、予期しない結果を受信しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 文を参照して、構文エラーを探し、修正してください。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントで SQLEXEC を参照してください。問題が解決されない場合は、Oracle GoldenGate プロセス・レポートおよびデータベース・エラー・ログを参照して

エラーを探してから、Oracle サポート・サービスに連絡してください。原因になっている構文エラーやその他の問題を特定できる場合があります。

OGG-00588: ストアド・プロシージャの記述中に予期しないエラーが発生しました

原因: syscolumn 情報を取得できなかったため、SQLEXEC 問合せの実行に失敗しました。

処置: SQLEXEC を実行している Oracle GoldenGate ユーザーが、syscolumn 表へのアクセス権を持っていることを確認してください。

OGG-00593: SYBUTIL_convert_to_sybase_timestamp: 日付 / 時刻データ型ではありません: {0,number,0}

原因: このデータベース・バージョンでは Oracle GoldenGate は、指定されたデータ型をサポートしていません。

処置: サポートされているデータ型は、そのデータベースに関する Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-00594: TIMECNV_convert_to_db_timestamp が失敗しました {0,number,0}

原因: Oracle GoldenGate の汎用形式から Sybase タイムスタンプ・データ・タイプへのタイムスタンプの変換に失敗しました。ターゲットとは異なるタイプのソース・データベースからのタイムスタンプです。

処置: ソースのタイムスタンプ・タイプを、ターゲットで使用可能な形式に変換できることを確認してください。サポートされているデータ型は、そのデータベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-00651: SQL 文の処理に失敗しました - エラー {0,number,0}

原因: 指定されたサーバー・エラーのため、SQLEXEC 文内の問合せが失敗しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 構文にエラーがないか確認し、SQLEXEC を発行している Oracle GoldenGate ユーザーがそこに含まれている SQL の実行権限を持っていることも確認してください。これらが問題の原因でない場合は、メッセージ・テキスト内のエラー番号を記録し、Sybase データベース内で考えられる原因や回避策を探してください。

OGG-00652: サーバーから結果を取得できませんでした - エラー {0,number,0}

原因: SQLEXEC 問合せまたはストアド・プロシージャ用のデータをフェッチ中に、問合せに失敗しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 構文にエラーがないか確認し、SQLEXEC を発行している Oracle GoldenGate ユーザーがそこに含まれている SQL の実行権限を持っていることも確認してください。これらが問題の原因でない場合は、メッセージ・テキスト内のエラー番号を記録し、Sybase データベース内で考えられる原因や回避策を探してください。

OGG-00653: SQLEXEC 用のコマンド送信に失敗しました - エラー {0,number,0}

原因: Sybase データベースへのデータ送信中に、SQLEXEC 問合せに失敗しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 構文にエラーがないか確認し、SQLEXEC を発行している Oracle GoldenGate ユーザーがそこに含まれている SQL の実行権限を持っていることも確認してください。これらが問題の原因でない場合は、メッセージ・テキスト内のエラー番号を記録し、Sybase データベース内で考えられる原因や回避策を探してください。

OGG-00654: SQLEXEC 用の文の作成に失敗しました - エラー {0,number,0}

原因: Sybase が SQLEXEC 文の作成に失敗しました。

処置: メッセージ・テキスト内のエラーに従って問題を修正してください。考えられる原因として、パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 構文にエラーが含まれている、または SQLEXEC を実行している Oracle GoldenGate ユーザーが特定の問合せまたはストアド・プロシージャに対する権限を持っていないといった場合が挙げられます。

OGG-00655: SQLEXEC 用の文の割当てに失敗しました - エラー {0,number,0}

原因: Sybase が問合せまたはストアド・プロシージャ用のコマンド構造にスペースを割り当てていなかったため、SQLEXEC 問合せが失敗しました。

処置: パラメータ・ファイル内の SQLEXEC 構文にエラーがないか確認し、SQLEXEC を発行している Oracle GoldenGate ユーザーがそこに含まれている SQL の実行権限を持っていることも確認してください。これらが問題の原因でない場合は、メッセージ・テキスト内のエラー番号を記録し、Sybase データベース内で考えられる原因や回避策を探してください。

OGG-00656: サーバー・メッセージ ({0} コンテキスト): 番号 ({1,number,0}) 重大度 ({2,number,0}) 状態 ({3,number,0}) 行 ({4,number,0})。プロシージャ ({5}) 詳細 ({6})

原因: Sybase サーバーで、指定されたエラーが発生しました。

処置: Sybase エラーに従ってサーバーの問題を解決してください。

OGG-00657: sequence# {1,number,0} の現行のオンライン・ログ {0} は STALE で、かわりのものがありません。前回の読取りは RBA {2,number,0}、タイムスタンプ {3}、SCN {4,number,0}.{5,number,0}

原因: Extract が RAC 上のアーカイブ・ログの最後に到達しましたが、次のログがありません。これは他の Extract スレッドがログを読み取っている場合にも発生します。これはトランザクションの整合性を維持するための設計です。ただし、RAC インスタンスのいずれかが失敗し、アーカイブ・ログを生成していない場合にも発生します。この場合は Extract が停止します。

処置: すべての RAC インスタンスが正しく稼働している場合は、アクションは不要です。Extract は追加のデータが提供されると続行します。インスタンスが失敗し、それを復元できる場合は、復元後、Extract を再起動してください (停止している場合)。インスタンスが失敗しても、Extract が処理を継続できるパラメータがあります (ただしそのインスタンスのデータは失われます)。詳細は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00658: アーカイブ・ログ {0} を開けません, {1}

原因: Oracle GoldenGate は、指定されたアーカイブ・ログを開けませんでした。

処置: ディスクが一杯になっていないか確認してください。一杯になっていない場合は、Extract ユーザーがファイルの読取りのためのオペレーティング・システム権限を持っていることを確認してください。権限を付与する必要がある場合は、Manager を停止して、GGSCI を終了してください。次にターミナル・セッションを閉じます。新しいセッションからプロセスを再開します。

OGG-00659: アーカイブ・ログ形式に不明な指定子があります

原因: Oracle GoldenGate はアーカイブ・ログの形式を特定できません。

処置: ALTARCHIVEDLOGFORMAT オプションを指定して TRANLOGOPTIONS パラメータを使用し、アーカイブ・ログ形式をオーバーライドする文字列を指定します。文字列には、Oracle パラメータ LOG_ARCHIVE_FORMAT に設定されている指定子を提供してください。RAC では、これを各

ノードに設定します。その他の重要な詳細情報は、TRANLOGOPTIONS の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-00660: 表定義内に一意のキー列を見つけられませんでした, SQL <{0}>

原因: 表には LONG、LOB、または UDT の列だけが含まれています。Oracle GoldenGate は、これらの列タイプからキーを構築できません。

処置: 表に主キーまたは一意のキーを作成するか、Oracle GoldenGate の構成から削除してください。名前がワイルドカード定義と一致している表を削除するには、Extract には TABLEEXCLUDE パラメータを、Replicat には MAPEXCLUDE パラメータを使用します。

OGG-00661: {0} 用の一意のキーを選択中にエラーが発生しました: {1}, SQL <{2}>

原因: プロセスは指定された表の一意のキーを選択できませんでした。

処置: メッセージ内のエラーに従って問題を解決してください。

OGG-00662: OCI エラー {1} (状態 = {0,number,0})

原因: OCI でエラーが発生しました。

処置: このメッセージ内のエラーに従って問題を解決してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00663: OCI エラー {1} (状態 = {0,number,0})、SQL <{2}>

原因: OCI でエラーが発生しました。

処置: このメッセージ内のエラーに従って問題を解決してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00664: OCI エラー {2} (状態 = {0,number,0}-{1})

原因: OCI でエラーが発生しました。

処置: このメッセージ内のエラーに従って問題を解決してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00665: OCI エラー {2} (状態 = {0,number,0}-{1})、SQL<{3}>

原因: OCI でエラーが発生しました。

処置: このメッセージ内のエラーに従って問題を解決してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00666: SQL 操作が失敗しました: {2} SQL エラー {0,number,0}: {1}

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00667: ROWID/UROWID 列 (table: '{2}', column: '{3}') の長さの情報取得中に、OCI エラー ({0,number,0}-{1}) が発生しました。

原因: 指定された表に指定の列名がありません。

処置: パラメータ・ファイルで指定しているパラメータで、列のスペル・ミスがないことを確認してください。表に列が存在していることを確認してください。

OGG-00668: ROWID/UROWID の長さ (table: '{2}', column: '{3}') を取得するための問合せ初期化中に、OCI エラー ({0,number,0}-{1}) が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00669: NUMBER 列 (table: '{2}', column: '{3}') の精度取得中に、OCI エラー ({0,number,0}-{1}) が発生しました

原因: 指定された表に指定の列がありません。

処置: パラメータ・ファイルで指定しているパラメータで、列のスペル・ミスがないことを確認してください。表に列が存在していることを確認してください。

OGG-00670: NUMBER 精度 (table: '{2}', column: '{3}') を取得するための問合せ初期化中に、OCI エラー ({0,number,0}-{1}) が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00671: table_name from all_tables の選択中にエラーが発生しました - SQL <{0}>

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00672: アクセス可能なスキーマのフェッチ中に、OCI エラー ({0,number,0},{1}) が発生しました

原因: このユーザーがアクセス可能なすべての表を取得中に、エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00673: select を実行してアクセス可能なスキーマの取得中に、OCI エラー ({0,number,0},{1}) が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00674: 問合せ (sql {2}) 準備中に、OCI エラー ({0,number,0},{1}) が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00675: 表 {0}.{1} の一意のキーをフェッチ中に、OCI エラー ({2,number,0},{3}) が発生しました

原因: 指定された表に主キー、一意の制約、または一意の索引がない可能性があります。

処置: 表に主キー、一意の制約、または一意の索引があることを確認し、いずれも存在していない場合はいずれかのオブジェクトを作成してください。このエラーが引き続き発生する場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00676: select を実行して表 {0}.{1} の一意のキーを取得中に、OCI エラー ({2,number,0},{3}) が発生しました

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00678: インスタンスの開始時刻を特定できませんでした ({0})。SQL <{1}>

原因: インスタンス数が無効である可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00679: インスタンスの状態を特定できませんでした ({0})。SQL <{1}>

原因: インスタンス数が無効である可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00680: {0},{1} の all_objects エントリがありません。SQL <{2}>

原因: オブジェクト名がデータベースにありません。

処置: データベースにオブジェクトを追加してよい場合は追加してください。または、パラメータ・ファイルにスペル・ミスがないか確認します。オブジェクトが存在し、パラメータ・ファイルで正しく指定されている場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00681: all_objects({0}) への問合せを取得することができませんでした。SQL <{1}>

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00685: 開始時刻 {0,date} {0,time} が、ログ記録の最も古いログより以前です。最終 SQL 実行時刻 <{1}>

原因: ADD EXTRACT コマンドまたは ALTER EXTRACT コマンドで指定される開始時刻が、Extract で検出できる最も古いログより以前の時刻です。

処置: メッセージに、Extract で検出できる最後の SQL が表示されます。可能なら、示されている時間枠からのデータを含むログをバックアップから復元してください。それ以外の場合、REDO 履歴が存在する開始時刻を指定します。

OGG-00686: 表 {0} から行を取得することができませんでした。

原因: 表メタデータをフェッチするためのデータベースへのコールに失敗しました。

処置: Oracle GoldenGate サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00687: 表 {0} で不整合な行を検出しました

原因: 表メタデータをフェッチするためのデータベースへのコールに失敗しました。

処置: Oracle GoldenGate サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00688: {0},{1} {2}:ROWID/UROWID 列長の問合せで NULL が戻されました。

原因: Oracle システム表を問い合わせる SQL 文が失敗しました。

処置: Oracle GoldenGate サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00689: {0},{1} {2}: 列データ型が ROWID でも UROWID でもありません。

原因: Oracle システム表を問い合わせる SQL 文が失敗しました。

処置: Oracle GoldenGate サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00690: このプラットフォームでは {0} はサポートされていません。

原因: 示されている関数はサポートされていません。

処置: なし

OGG-00691: スレッド {0,number,0} 上での I/O チェックポイント更新エラー。位置: (Seq#: {1,number,0}, RBA: {2,number,0}) エラー: [{3}][{3}]

原因: Extract がチェックポイントを更新しています。

処置: なし

OGG-00692: ヘッダー情報のないトランザクション (XID {0}、セカンダリ XID {1}) を検出しました。

原因: Oracle GoldenGate メモリー・プールにある、示されているトランザクションに、トランザクション・ヘッダー部がありません。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00693: 予期していないメッセージ・タイプ {0,number,0}

原因: プロセスは、不明なメッセージ・タイプに遭遇しました。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00694: 遭遇したコミット SCN {0} が、既処理の最も高い SCN より大きくありません。{1} {2} ({3,number,0}) xid

{4,number,0}.{5,number,0}.{6,number,0} (0x{7}.{8}.{9})、開始 seq.rba {10,number,0}.{11,number,0}、scn {12}、コミット seq.rba {13,number,0}.{14,number,0} コミット・タイムスタンプ {15}

原因: Extract が、1 つ前に処理された SCN より大きくないコミット SCN を持つトランザクションを処理しました。複数のノード・スレッドから取得したトランザクションを誤って順序付けした可能性があります。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00695: 遭遇したコミット SCN {0} が、既処理の最も高い SCN より大きくありません。{1} {2} ({3,number,0}) xid

{4,number,0}.{5,number,0}.{6,number,0} (0x{7}.{8}.{9})、開始 seq.rba {10,number,0}.{11,number,0}、コミット seq.rba {13,number,0}.{14,number,0} コミット・タイムスタンプ {15}

原因: Extract が、1 つ前に処理された SCN より大きくないコミット SCN を持つトランザクションを処理しました。複数のノード・スレッドから取得したトランザクションを誤って順序付けした可能性があります。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00696: tran_hdr == NULL. errtext = '{0}'

原因: トランザクション・ヘッダーを持たない Extract メモリー内のトランザクションです。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00697: 不正なトランザクション・ヘッダー。mt: {0} th: {1} idx: {2,number,0}

原因: Extract プロデューサ・スレッドによって生成されたトランザクションのスレッド索引が、いかなるノードのスレッド数とも一致しません。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00698: 予期していないメッセージ・タイプ {0,number,0} size {1,number,0}

原因: Extract プロデューサ・スレッドが受け取ったコマンドまたはメッセージが無効です。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00699: OCI 初期化エラー [{0,number,0}]

原因: ターゲット表のメタデータを取得する Oracle の SQL 文が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00700: 表内の列数がゼロに設定されています。

原因: ターゲット表のメタデータを取得する Oracle の SQL 文が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00701: 表名が指定されていません。

原因: ターゲット表のメタデータを取得する Oracle の SQL 文が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00702: OCI コールが失敗しました。

原因: Oracle データベースへの OCI コールが失敗しました。これは、あらゆるタイプの OCI 障害を捕捉する一般的なメッセージです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00703: {1} での OCIHandleFree エラー [type={0,number,0}]

原因: 以前に割り当てられていた Oracle OCI ハンドルを解放できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00704: {1} での OCIHandleFree エラー [type={0,number,0}]

原因: 以前に割り当てられていた Oracle OCI ハンドルを解放できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00705: {1} での OCIDescriptorFree エラー [type={0,number,0}]

原因: 以前に割り当てられていた Oracle OCI ディスクリプタを解放できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00706: 表 {0} にサブリメンタル・ログ・グループを追加できませんでした。理由: {1}

原因: 示されている表に対して ADD TRANDATA が発行されましたが、Oracle GoldenGate では、サブリメンタル・ログ・グループを表に追加できませんでした。

処置: メッセージで戻されるデータベース・エラーに基づいて問題を修正してください。

OGG-00707: 表 {0} は有効なキー列を持っていません。サブリメンタル・ログ・グループは追加されませんでした。log group was added.

原因: 主キー列や一意キー列が表に定義されていないため、サブリメンタル・ログ・グループを作成できません。

処置: 常に一意になる列が表に含まれる場合、KEYCOLS 句を用いてキーとして指定できます。そうしない場合、Oracle GoldenGate はすべての列をキーとして使用します。KEYCOLS の詳細については、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-00708: キー列が列 {0} より後に存在していて、チェーン行を処理できない可能性があります。

原因: キー列が LONG、LOB または UDT 列の後にあります。このメッセージはトリガー・ベースの抽出をサポートしていますが、これは Oracle GoldenGate ではもうサポートされていません。

処置: なし

OGG-00709: codepoint 情報をフェッチする問合せを作成中の OCI エラー ({0,number,0}-{1})

原因: NLS_LANG の値が無効である可能性があります。

処置: NLS_LANG の有効な値または書式を指定します。NLS_LANG が正しく設定されている場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00710: codepoint 情報をフェッチする問合せを作成中の OCI エラー ({0,number,0}-{1})。デフォルトの codepoint 値、1 を使用します。

原因: これは、プロセスが codepoint 情報をフェッチできなかったことを示す内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00711: キャラクタ・セット変換 ({0}) を導出できません。デフォルトの codepoint 値、1 を使用します。

原因: プロセスは、ソース・データをターゲット・データに変換するためのキャラクタ変換式を導出できませんでした。これは警告メッセージです。

処置: データベースのキャラクタ・セットと互換性を持つように NLS_LANG 変数を設定します。

OGG-00712: スレッド {0,number,0} 上の孤立したトランザクションをページした後 に I/O チェックポイントを更新しています。現在位置: (Seq#: {1,number,0}, RBA: {2,number,0})。

原因: ノードが失敗し、Extract はロールバックを取得できませんでした。これは、トランザクションが孤立する原因になります。TRANLOGOPTIONS パラメータに PURGEORPHANEDTRANSACTIONS オプションが含まれるため、トランザクションが孤立したことを Extract が検証し、それをページしました。このメッセージは、Extract が、ページを考慮してチェックポイントを更新していることを示します。

処置: なし

OGG-00713: [スレッド #{0,number,0}] 孤立したトランザクションをページしています (トランザクション ID: {1}、開始時刻: {2}、開始 seqno: {3,number,0}、開始 RBA: {4,number,0})。原因: 即時ページで孤立したトランザクション。

原因: ノードが失敗し、Extract はロールバックを取得できませんでした。これは、トランザクションが孤立する原因になります。TRANLOGOPTIONS パラメータに PURGEORPHANEDTRANSACTIONS オプションが含まれるため、トランザクションが孤立したことを Extract が検証し、それをページしました。

処置: なし

OGG-00714: [スレッド #{0,number,0}] 孤立したトランザクションをページしています (トランザクション ID: {1}、開始時刻: {2}、開始 seqno: {3,number,0}、開始 RBA: {4,number,0})。原因: 孤立したトランザクションの監視。

原因: ノードが失敗し、Extract はロールバックを取得できませんでした。これは、トランザクションが孤立する原因になります。TRANLOGOPTIONS パラメータに PURGEORPHANEDTRANSACTIONS オプションが含まれるため、トランザクションが孤立したことを Extract が検証し、それをページしました。

処置: なし

OGG-00715: [スレッド #{0,number,0}] トランザクションのページ中 (トランザクション ID: {1}、開始時刻: {2}、開始 seqno: {3,number,0}、開始 RBA: {4,number,0})。

原因: ノードが失敗し、Extract はロールバックを取得できませんでした。これは、トランザクションが孤立する原因になります。TRANLOGOPTIONS パラメータに PURGEORPHANEDTRANSACTIONS オプションが含まれるため、トランザクションが孤立したことを Extract が検証し、それをページしました。

処置: なし

OGG-00716: シーケンス {0,number,0}、RBA {1,number,0}、SCN {2} のサポートされていないメモリー内 UNDO レコードをスキップしています ... データ損失を防止するには、最小サブプリメンタル・ロギングを有効にする必要があります。

原因: 最小サブプリメンタル・ロギングが使用できないため、Oracle はメモリー内 UNDO を使用する場合があります。これが原因で、複数の UNDO/REDO ペアが同じ REDO レコードの範囲内に書き込まれることがあります。Extract はこのタイプのレコードをサポートしていません。

処置: 最小サブプリメンタル・ロギングを有効にしてください。Oracle GoldenGate でロギングを設定する方法については、『Oracle GoldenGate for Oracle インストール・ガイド』を参照してください。

OGG-00717: サポートされていないメモリー内 UNDO レコードを検出しました。シーケンス {0,number,0}、RBA {1,number,0}、SCN {2}... データ損失を防止するには、最小サブプリメンタル・ロギングを有効にする必要があります。

原因: 最小サブプリメンタル・ロギングが使用できないため、Oracle はメモリー内 UNDO を使用する場合があります。これが原因で、複数の UNDO/REDO ペアが同じ REDO レコードの範囲内に書き込まれることがあります。Extract はこのタイプのレコードをサポートしていません。

処置: 最小サブプリメンタル・ロギングを有効にしてください。Oracle GoldenGate でロギングを設定する方法については、『Oracle GoldenGate for Oracle インストール・ガイド』を参照してください。

OGG-00719: サイズ {1,number,0} のレコードの読取り中にログを切り替えました。{2,number,0} バイト読取り済。

原因: Extract が、複数のログ・ファイルにわたるログを検出しました。ログが破損している可能性があります。

処置: Extract を再起動します。問題が解決しない場合、手動で ALTER EXTRACT を発行して、このレコードまたはログをスキップする必要がある場合がありますが、その場合、データ損失が発生することがあります。詳細は Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00720: seqno {1,number,0} のアーカイブ・ログ {0} を待機しています。{2,number,0} バイト読取り済。フラッシュ予定です。

原因: Extract が追加のログ・データを待機しています。

処置: なし

OGG-00721: 次のシーケンス {1,number,0} のログ・ファイル {0} を開けません。待機制限時間の {2,number,0} 秒に到達しました。最終読取り位置の seqno {3,number,0}、rba {4,number,0}。

原因: Extract は、ログ・ファイルを開く試行回数の上限に到達しました。

処置: Extract データベースのユーザーが、示されているログ・ファイルを読み取る権限を持っており、ファイルが破損していないことを確認します。

OGG-00722: レコード上の {12} のため、表 {0} 上の REDO レコードの処理に失敗しました。seqno {1,number,0} rba {2,number,0}、トランザクション {3,number,0}、{4,number,0}、{5,number,0} (0x{6}、{7}、{8})、先頭列 ID {9} 行ピース行 ID {10}、タイムスタンプ {11}。

原因: Extract は、連鎖レコードの処理中にエラーを検出しました。データベースが Oracle 9i の場合、並列度が 1 より大きいと、ログ並列機能に問題が生じる可能性があります。

処置: Oracle 9i を使用する場合は、ログ並列機能を無効にしてください。ログ並列度が 1 より大きい Oracle9i を使用しない場合は、Extract を再起動します。

OGG-00723: class# {0,number,0}、slt# {1,number,0} のレコード (seqno {2,number,0}、rba {3,number,0} SCN {4}) が持つセカンダリ・トランザクション ID が、既存の、オープンされている未コミットのトランザクションと重複しています。

原因: 同じスレッドに、適合するセカンダリ・トランザクション ID を持つ複数のトランザクションが存在します。

処置: Extract を再起動します。問題が解決されない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00724: 孤立したトランザクションをパージした後で、セカンダリ・トランザクション ID に競合があります。Class# {0,number,0}、slt# {1,number,0}、seqno {2,number,0}、rba {3,number,0}、SCN {4}。

原因: 適合するトランザクション ID を持つ最も早期のトランザクションを削除した後でも、適合するセカンダリ・トランザクション ID を持つトランザクションが Extract により検出されました。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00725: 主トランザクション ID が、オープンされている既存のトランザクションと重複しています。トランザクション ID: {0,number,0}、{1,number,0}、{2,number,0}

原因: Extract が、オープンされている既存のトランザクションと一致する主トランザクション ID を持つトランザクションを、メモリー・プール内で検出しました。

処置: Extract を再起動します。

OGG-00726: Oracle REDO スレッドの数 ({0,number,0}) が、チェックポイント・スレッドの数 ({1,number,0}) と同じになっていません。RAC システム上に、THREADS パラメータを持つ EXTRACT グループを作成してください (例: ADD EXT <グループ名>, TRANLOG, THREADS {0,number,0}, BEGIN...).

原因: RAC システムは示されている数の REDO スレッド (インスタンス) を持っていますが、Extract グループは、同じ数のスレッドを読み取るように構成されていません。データは失われます。

処置: 次の操作を実行して、すべての RAC インスタンスから Extract をリダイレクトして取得する必要があります: GGSCI で STOP EXTRACT を発行し、次に DELETE EXTRACT を発行します。次に、データベースが Oracle Enterprise Edition 10.2 以上の場合、DBLOGIN のドキュメントに記載されている権限を持つユーザーとして DBLOGIN を発行します。最後に、ADD EXTRACT を発行して、同じ名前を持つグループを追加し直します。名前を変更しないでください。コマンドには、次のオプションを付けます: TRANLOG および BEGIN と開始時刻。BEGIN は、古い Extract が取得した最も早期のレコードのタイムスタンプに設定します。

OGG-00727: Extract を、物理スタンバイ・データベース上で、アーカイブ・ログ限定モードに切り換えてください。

原因: Extract は Oracle スタンバイ・データベースから取得するように構成されていますが、TRANLOGOPTIONS パラメータに ARCHIVEDLOGONLY オプションが含まれていません。

処置: Extract が必ずソースから送信されたアーカイブを読み取るようにするには、ARCHIVEDLOGONLY オプションを追加します。_NOARCHIVEDLOGONLY オプションが使用されている場合は削除します。ALO モードの詳細は、TRANLOGOPTIONS パラメータを参照してください。

OGG-00728: Extract の接続先データベースが物理スタンバイ・データベースの場合、Extract は強制的に非アーカイブ・ログ・モードにされます。

原因: データベースはスタンバイ・モードで、TRANLOGOPTIONS パラメータに `_NOARCHIVEDLOGONLY` オプションが含まれ、デフォルトの動作をオーバーライドします (アーカイブ・ログ限定モードに切り替え、アーカイブからのみ取得します)。

処置: `_NOARCHIVEDLOGONLY` は内部パラメータです。この設定は、一部のサポート・ケースと同様に、意図的なものである可能性があります。意図的なものである場合、処置は不要です。それ以外の場合は、Extract パラメータ・ファイルから `ARCHIVEDLOGONLY` オプションを削除します。ALO モードの詳細は、TRANLOGOPTIONS パラメータを参照してください。

OGG-00729: {0,number,0} 本のスレッドを持つ RAC 構成内の単一のスレッド (thread# {1,number,0}) に対して抽出を実行しています。他の REDO スレッドが所有するトランザクションはすべて無視されます。

原因: 複数のインスタンスを持つ Oracle RAC インストールで Oracle GoldenGate を起動中ですが、Extract のプロセスが、単一の RAC インスタンスに対してのみ実行されています。

処置: 次の操作を実行して、すべての RAC インスタンスから Extract をリダイレクトして取得する必要があります: GGSCI で `STOP EXTRACT` を発行し、次に `DELETE EXTRACT` を発行します。次に、データベースが Oracle Enterprise Edition 10.2 以上の場合、DBLOGIN のドキュメントに記載されている権限を持つユーザーとして DBLOGIN を発行します。最後に、`ADD EXTRACT` を発行して、同じ名前を持つグループを追加し直します。名前を変更しないでください。コマンドには、次のオプションを付けます: `TRANLOG` および `BEGIN` と開始時刻。BEGIN は、古い Extract が取得した最も早期のレコードのタイムスタンプに設定します。

OGG-00730: 有効な最小サブプリメンタル・ロギングがありません。キー列が最初の行ピースでない場合、抽出プロセスによる不正確なキー更新処理の原因になることがあります。

原因: 最小サブプリメンタル・ロギングが有効になっていません。Extract が REDO ログからのレコードを正常に処理できるためには、サブプリメンタル・ロギングが有効にされる必要があります。

処置: 最小サブプリメンタル・ロギングを有効にしてください。

OGG-00731: 有効な最小サブプリメンタル・ロギングがありません。キー列が最初の行ピースでない場合、抽出プロセスによる不正確なキー更新処理の原因になることがあります。

原因: 最小サブプリメンタル・ロギングが有効になっていません。Extract が REDO ログからのレコードを正常に処理できるためには、サブプリメンタル・ロギングが有効にされる必要があります。

処置: 最小サブプリメンタル・ロギングを有効にしてください。

OGG-00732: スレッド # {0,number,0}、シーケンス {1,number,0}、RBA {2,number,0} で、クラッシュ・リカバリ・マーカを検出しました。未コミットのトランザクションを中止します。

原因: Extract が REDO ログにクラッシュ・リカバリ・マーカを検出しました。これは、単なる情報提供メッセージです。

処置: なし

OGG-00733: マーカー表 {0} がありません

原因: DDL マーカー表が見つかりません。

処置: ddl_setup スクリプトを実行して、DDL オブジェクトを正しくインストールします。詳細は、『Oracle GoldenGate for Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-00734: 表 {0} に、LONG データと一致する LONG 列索引が見つかりませんでした

原因: 表は LONG 列とマークされていますが、Extract は表メタデータの解決時に LONG 列を検出できませんでした。

処置: メモリー内のメタデータをリフレッシュするために、Extract を再起動します。

OGG-00735: 列 {0} における Oracle 数値の ASCII 変換エラー

原因: 数値列のデータを、ネイティブの Oracle フォーマットから Oracle GoldenGate 内部フォーマットに変換できませんでした。

処置: Extract を再起動します。問題が解決しない場合、処理を続行できるようにこの表を Extract の構成から除外し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00736: FORCE によりトランザクションが強制的に追跡されていますが、有効な SCN が存在しません。トランザクション ID: {0}

原因: 示されているトランザクションを追跡するために、SEND EXTRACT が FORCETRANS オプションとともに発行されました。しかし、Oracle GoldenGate がコミット・レコードのシステム変更番号 (SCN) を検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00737: {0,number,0} バイトの整数境界をサポートできません

原因: 指定された語のネイティブ・データ構造体のアラインメントが 4 バイトを超えることを検出しました。

処置: Oracle GoldenGate のインストールを、データ構造体のアラインメントが低いプラットフォームへ移動してください。詳細は Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00738: オブジェクト ID [{0,number,0}], SCN [{1}], コミット SCN [{2}] を解決できませんでした。これは、DDL 履歴が削除された場合に発生する可能性が最も高くなります。マネージャ・パラメータ・ファイルのページ・パラメータを確認してください (短すぎる場合)。問題がなかった場合は、フィルタされなかったオブジェクトである可能性が高いので、無視できます。

原因: Extract での取得が想定されていないものか、取得されたと想定されるが、おそらくこのレコードが生成された後に表が削除されたことが原因で、Oracle GoldenGate がメタデータを解釈できなかったもののオブジェクト ID を表しています。

処置: このレコードが取得の必要があるオブジェクトである場合、バックアップから GGS_DDL_HIST (DDL 履歴) の表を復元して、示されているオブジェクト ID および SCN のメタデータを復元します。今後の損失を防止するには、保持された履歴が Extract の遅延を上回るように PURGEDDLHISTORY を設定してください。

OGG-00739: obj attr({0}) の datetime({1}) が無効

原因: 示されている日付またはタイムスタンプ値が無効です。日付書式は YYYY-MM-DD HH24:MI:SS、タイムスタンプ書式は YYYY-MM-DD HH24:MI:SS.FF である必要があります。

処置: 必要な書式に準拠する値を使用します。

OGG-00740: obj attr({0}) の数値 ({1}) が無効。OCI エラー {2}

原因: 示されている数値が有効な Oracle 番号ではありません。

処置: 有効な Oracle 番号を使用してください。詳細は Oracle のドキュメントを参照してください。

OGG-00741: obj attr({0}) の文字列 ({1}) が無効

原因: タイプ文字列の XML 値属性を、Oracle のユーザー定義のデータ型の属性にマップする試行が失敗しました。

処置: 関連するユーザー定義のデータ型のスキーマを検討してください。詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00742: obj attr({0}) の未処理文字列 ({1}) が無効

原因: フィールドに無効な文字が含まれています。RAW フィールドに含むことができる文字は 0123456789ABCDEF だけです。

処置: 0123456789ABCDEF 以外の文字をすべて削除します。

OGG-00743: エラー ({0,number,0}, {1}) {2} で選択開始

原因: 内部問合せの 1 つに関する解析とバインディングが失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00744: エラー ({0,number,0}, {1}) 選択開始 {2}

原因: 内部問合せの 1 つに関する解析とバインディングが失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00745: エラー ({0,number,0}, {1}) カーソル開始 {2}

原因: 内部問合せの 1 つに関する解析とバインディングが失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00746: エラー ({0,number,0}, {1}) {2} のデータを選択中

原因: 内部カーソルからデータをフェッチする際にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00747: エラー ({0,number,0}, {1}) {2} のデータを選択中

原因: 内部カーソルからデータをフェッチする際にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00748: {4}() における表 {0}.{1} のデータの取得エラー ({2,number,0}, {3})

原因: プロセスが、示されている表を検出できません。

処置: 表がデータベースに存在し、プロセスのパラメータ・ファイル中で正しく指定されていることを確認します。それらが正しい場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00749: オブジェクト ID {0,number,0} の所有者 / オブジェクト名の取得エラー ({1,number,0}, {2})

原因: 示されているオブジェクト ID を使用してオブジェクト名を検出できません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00750: 列 {2}、表 {0}.{1} の LOB object_id の取得エラー ({3,number,0}, {4})

原因: 示されている LOB オブジェクト ID を使用してオブジェクト名を検出できません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00751: 表 {0} を検証できませんでした。おそらく未使用の列が存在することが原因です。ダウストリーム Replicat で sourcedefs を使用していないか、ASSUMETARGETDEFS または DDL レプリケーションのためにターゲット表に同じ未使用の列がない場合、データ整合性の問題が発生します。これをオーバーライドするには、'DBOPTIONS ALLOWUNUSEDCOLUMN' パラメータを使用します。

原因: 示されている表に、未使用の列が含まれています。Oracle では未使用の列がある表がサポートされますが、デフォルトではサポートは無効です。

DBOPTIONS パラメータを ALLOWUNUSEDCOLUMN オプションとともに使用することで、Extract が警告を生成して処理を続行するように強制しないかぎり、Extract はこれらの列で異常終了します。

処置: DBOPTIONS を ALLOWUNUSEDCOLUMN とともに指定します。このパラメータを使用する場合、同一の未使用列がターゲット表の中に存在するか、DEFGN ユーティリティで Replicat 用にソース定義ファイルが作成されている必要があります。ソース定義ファイルの詳細については、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-00752: 表 {0} を検証できませんでした。おそらく未使用の列が存在することが原因です。ダウストリーム Replicat で sourcedefs を使用しているか、ASSUMETARGETDEFS または DDL レプリケーションを使用する場合、ターゲット表に正確に同じ未使用列があることを確認してください。

原因: 示されている表に、未使用の列が含まれています。Oracle では未使用の列がある表がサポートされますが、デフォルトではサポートは無効です。

DBOPTIONS パラメータを ALLOWUNUSEDCOLUMN オプションとともに使用することで、Extract が警告を生成して処理を続行するように強制しないかぎり、Extract はこれらの列で異常終了します。

処置: DBOPTIONS を ALLOWUNUSEDCOLUMN とともに指定します。このパラメータを使用する場合、同一の未使用列がターゲット表の中に存在するか、DEFGN ユーティリティで Replicat 用にソース定義ファイルが作成されている必要があります。ソース定義ファイルの詳細については、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-00753: 表 {0}.{1} のパーティション数取得エラー ({2,number,0}, {3})

原因: プロセスが、示されている表のパーティション数を検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00754: 表 {0}.{1} のサブパーティション数取得エラー ({2,number,0}, {3})

原因: プロセスが、示されている表のサブパーティション数を検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00755: 表 {0} のユーザー ID を参照できませんでした。

原因: プロセスが、示されている表の所有者を検出できませんでした。

処置: パラメータ・ファイルにおいて表が正しい所有者で修飾されており、プロセスの接続先スキーマの中に表が存在することを確認してください。

OGG-00756: シーケンス {0} のユーザー ID を参照できませんでした。

原因: プロセスが、示されているシーケンスの所有者を検出できませんでした。

処置: パラメータ・ファイルにおいてシーケンスが正しい所有者で修飾されており、プロセスの接続先スキーマの中にシーケンスが存在することを確認してください。

OGG-00757: 表 {0}.{1} の代替オブジェクト ID フェッチ・エラー ({2,number,0}, {3}). {1}

原因: プロセスが、示されている表のサブパーティション ID を取得できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00758: {2}() におけるユーザー名取得エラー ({0,number,0}, {1})

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00759: ユーザー名 {0} の user_id を取得エラー ({1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているユーザー名を検出できませんでした。

処置: データベースにユーザーが存在することを確認してください。

OGG-00760: エラー ({3,number,0}, {4}) {0}.{1} column# {2,number,0} に対するデータ segcol# を {5}() で選択

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00761: 表 {0}.{1}、列 {2} の col# と seqcol# の取得エラー ({3,number,0}, {4})

原因: プロセスが、示されている列名を表の中で検出できませんでした。

処置: 列を表に追加するか、フィルタリングまたは他の処理のベースとして列を使用するすべてのパラメータから列を削除します。

OGG-00762: 表名 {0}.{1} のフェッチ・エラー ({2,number,0}, {3})

原因: プロセスが、示されている表名をデータベース内で検出できませんでした。

処置: データベースに表を追加するか、Oracle GoldenGate の構成から表を削除します。

OGG-00763: データベース・ブロック・サイズの取得エラー ({0,number,0}, {1})

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00764: 表 {0}.{1} のログ {2} 上でのログ・グループ確認エラー ({3,number,0}, {4})

原因: 示されている表に対してサブプリメンタル・ロギングが有効になっていません。

処置: 表のサブプリメンタル・ロギングを有効にします。

OGG-00765: 表 {0}.{1} のログ {2} 上でのログ・グループ確認エラー ({3,number,0}, {4})

原因: 示されている表に対してサブプリメンタル・ロギングが有効になっていません。

処置: 表のサブプリメンタル・ロギングを有効にします。

OGG-00766: ユーザー {0}、表 {1} の全体列の取得エラー ({2,number,0}, {3})

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00767: トリガー {2} 表 {0}.{1} に対する、{5}() でのステータス取得エラー ({3,number,0}, {4})

原因: このエラーは非推奨です。

処置: なし

OGG-00768: {0}。SQL エラー ({1,number,0})。{2}

原因: これは一般的なエラー・メッセージで、複数の理由があることがあります。理由の 1 つは、セッション・タイムアウトを設定する問合せが失敗したことである可能性があります。このメッセージを無視すると、接続がアイドルになってからデフォルトの時間が経過した後にセッションが切断されます。このエラー・メッセージは、問合せなど、データベースに対する操作が失敗した場合にも使用されます。

処置: このエラーを解決するには、問合せやその他の操作が失敗する理由をデータベースで確認してください。たとえば、操作を実行したユーザーが正しい権限を持っていることを確認します。

OGG-00769: {0}。SQL エラー ({1,number,0})。{2}

原因: これは一般的なエラー・メッセージで、複数の理由があることがあります。理由の 1 つは、セッション・タイムアウトを設定する問合せが失敗したことである可能性があります。このメッセージを無視すると、接続がアイドルになってからデフォルトの時間が経過した後にセッションが切断されます。このエラー・メッセージは、問合せなど、データベースに対する操作が失敗した場合にも使用されます。

処置: このエラーを解決するには、問合せやその他の操作が失敗する理由をデータベースで確認してください。たとえば、操作を実行したユーザーが正しい権限を持っていることを確認します。

OGG-00770: MySQL データベース・エンジンに接続できませんでした。HOST {0}、DATABASE {1}、USER {2}、PORT {3,number,0}

原因: 接続情報を指定する Oracle GoldenGate パラメータの 1 つが不正確です。

処置: パラメータ・ファイルで指定されている、Oracle GoldenGate プロセスのログイン資格証明 (データベース・ユーザーとして)、接続ポート、データベース名およびホスト名を確認します。ホスト名の場合、名前が不正確に指定されていたり、MySQL サーバーが名前を解決できていなかったりすることがあります。また、MySQL ユーザーの作成時にホスト名が指定されず、MySQL システム表にユーザーのエントリが含まれていない可能性もあります。

OGG-00771: MySQL 接続ハンドラを初期化できません

原因: セッションを通じて使用される新しい接続先オブジェクトを、MySQL API が割り当て、初期化し、戻すことができませんでした。このエラーは、十分なメモリーがない場合にのみ発生します。

処置: メモリーを追加してください。

OGG-00772: セッション分離レベルを REPEATABLE READ に設定しています

原因: MySQL データベースでのセッションのデフォルト分離レベルを REPEATABLE READ に設定する問合せが失敗しました。

処置: ユーザーがデフォルト分離レベルを設定する適切な権限を持っていることを確認してください。

OGG-00773: autocommit モードを無効にしています

原因: 自動コミット変数を設定する問合せ (autocommit=0) が失敗しました。

処置: ユーザーがこの操作を実行する適切な権限を持っており、MySQL サーバーが実行されていることを確認してください。

OGG-00774: 認識できないフィールド型 ({1,number,0}). 列 {0}

原因: 示されている列に、Oracle GoldenGate でサポートされていないデータ型が含まれています。

処置: サポートされていないデータ型を含む表または列を、Oracle GoldenGate の構成から削除します。サポートされているデータ型の詳細は、『Oracle GoldenGate for MySQL インストールおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-00775: データベースで大文字 / 小文字が区別されているかを判定できません。区別なしに設定します。

原因: Oracle では大文字と小文字の区別をサポートしていますが、そのデータベースで区別されているかどうかを判定できません。

処置: Oracle GoldenGate では、データベース・オブジェクト名が大文字と小文字を区別して比較されるか区別しないで比較されるかをデータベース照合が判定するかどうかをチェックしています。正しく設定されていることを確認するには、データベース照合を表示します。たとえば特定の照合依存オブジェクトと重複名が原因となって、COLLATE 定義が失敗することがあります。詳細は、Microsoft SQL Server のドキュメントを参照してください。

OGG-00776: データベースで 'SELECT INTO/BULKCOPY' オプションが有効です: {0}。永続表での SELECT INTO 操作はログへ書き込まれません。したがって、この操作はレプリケートされません。

原因: 一括コピーはサポートされていません。

処置: このエラーを回避するには、次の SQL Server コマンドを発行して示されているスキーマを選択しないようにします: `exec sp_dboption 'owner/schema', 'select into/bulkcopy', false`。

OGG-00777: データベース '{0}' でサブリメンタル・ロギングが無効にされています。ロギングを有効にするには、次の操作を行います: 1) 'trunc. log on chkpt.' を false に設定します。2) データベースの完全なバックアップを作成します。詳細は『Oracle GoldenGate Windows and UNIX 管理者ガイド』を参照してください。

原因: 未定義

処置: 未定義

OGG-00778: 表 {0} でサブリメンタル・ログ・データのロギングが無効です

原因: 示されている表に対してサブリメンタル (拡張) ロギングが有効になっていません。

処置: GGSCI で DBLOGIN コマンドを発行し、次に ADD TRANDATA コマンドを発行して、サブリメンタル・ロギングを有効にします。詳細は、『Oracle GoldenGate for SQL Server インストールおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-00779: 表のロギング・ステータス取得エラー: '{0}'

原因: プロセスは、示されている表でサブリメンタル・ロギングが有効かどうか判定できませんでした。

処置: データベースの接続設定と、SQL Server が『Oracle GoldenGate for SQL Server インストールおよびセットアップ・ガイド』の説明に従って構成されているかどうかを確認します。

OGG-00780: 表のロギング・ステータス取得エラー: '{0}' ({1})

原因: プロセスは、示されている表でサブリメンタル・ロギングが有効かどうか判定できませんでした。

処置: データベースの接続設定と、SQL Server が『Oracle GoldenGate for SQL Server インストレーションおよびセットアップ・ガイド』の説明に従って構成されているかどうかを確認します。

OGG-00781: 表のトランザクション・ロギング変更エラー: '{0}' ({1})

原因: Oracle GoldenGate が、示されている表に対するサプリメンタル・ロギングを有効または無効にできませんでした。

処置: このエラーには、Oracle GoldenGate ユーザーの権限不十分や接続の障害など、考えられる原因が多数あるため、他の警告メッセージやエラー・メッセージを参照してください。

OGG-00782: 表のトランザクション・ロギング変更エラー: '{0}'

原因: Oracle GoldenGate が、示されている表に対するサプリメンタル・ロギングを有効または無効にできませんでした。

処置: このエラーには、Oracle GoldenGate ユーザーの権限不十分や接続の障害など、考えられる原因が多数あるため、他の警告メッセージやエラー・メッセージを参照してください。

OGG-00783: '{0}' ({1}) 上でレプリケーションを有効にできません

原因: Oracle GoldenGate が、示されている表に対するサプリメンタル・ロギングを有効または無効にできませんでした。

処置: このエラーには、Oracle GoldenGate ユーザーの権限不十分や接続の障害など、考えられる原因が多数あるため、他の警告メッセージやエラー・メッセージを参照してください。

OGG-00784: {0},{1} が計算結果列かどうかを判定できません: {2}

原因: Oracle GoldenGate で、示されている列が計算結果列かどうかを判定できませんでした。

処置: このエラーには、Oracle GoldenGate ユーザーの権限不十分や接続の障害など、考えられる原因が多数あるため、他の警告メッセージやエラー・メッセージを参照してください。

OGG-00785: 行イメージが {0} の表定義と一致しません。位置: {1},{2,number,0}。

取得を再開するには、初期データ・ロードに続いて REORG が必要です。

原因: 表が変更されたため、現在の定義がログ・レコードと一致しません。

処置: 表を再編成し、初期ロードを実行して、ソースとターゲットのデータを再同期します。続いて、Extract を再起動します。

OGG-00786: データ共有環境で NOMERGEMEMBERS オプションを使用するとデータが破損する可能性があります。

原因: データ共有環境で、ドキュメントに記載されていないオプション NOMERGEMEMBERS が、Extract に対して、TRANLOGOPTIONS 文で指定されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00787: 予期しないステータス {0}。位置: {1},{2,number,0}

原因: これは、プロセスがログの末尾に達したのに、まだデータを待機しているという警告です。

処置: なし

OGG-00788: DB2 メンテナンスで、PQ78544 が存在することと、PQ96356 が存在しないことを確認してください - PQ96356 が適用されている場合は Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

原因: ログ・レコードのタイプ 10、11、12 および 13 は、存続時間が短い APAR PQ78544 の結果であるか (元に戻すには PQ96356)、PQ96356 に続く変更の結果です。

処置: これらのタイプのいずれかが、PQ78544 を伴わないで出現する場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00789: 表領域 {0}.{1} は LOG NO です - 表 {2} 列 # {3,number,0} はフェッチで取得されます

原因: 示されている LOB 表領域は LOG NO として作成されました。したがって、示されている LOB 列はログから取得できず、フェッチによって取得する必要があります。

処置: なし

**OGG-00790: ログ読取り試行時にリソースが利用できませんでした : {0}。
{1,number,0} 秒後に再試行します。**

原因: プロセスは、ログ読取りを再試行します。

処置: なし

OGG-00791: 無効なログ・レコード

原因: 処理チェックが失敗しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00794: ログ読取り試行時にリソースが利用できませんでした : {0}。詳細は SYSLOG を確認してください。

原因: プロセスが、もう利用できないログ・ファイルを読み取ろうとしています。

処置: BSDS 名が正しく指定されており、ADD EXTRACT または ALTER EXTRACT コマンドが正しく発行されたことを確認してください。開始時刻を使用した場合、NOW オプションでなく、開始点を指定することもできますが、この場合はログを利用できなくなっています。Extract が正しく設定されている場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00795: DB2 Monitor Trace Class 1 はアクティブである必要があります

原因: Extract がアクティブ・ログを読み取るためには DB2 Monitor Trace Class 1 が必要ですが、Monitor Trace Class 1 がアクティブになっていません。

処置: Monitor Trace Class 1 をアクティブにする手順の説明は、Oracle GoldenGate のインストールおよびセットアップ・ガイドを参照してください。

OGG-00796: 予期していない IFI エラー {0}

原因: 処理チェックが失敗しました。

処置: このメッセージと、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00797: DB2 IFI ABEND - logrec {0} を確認してください。

原因: 処理チェックが失敗しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00798: BUFSIZE がログ・レコードに対して小さすぎます

原因: トランザクション・ログの各回の読取り結果を保持する内部バッファが小さすぎて、戻されるデータを保持できません。

処置: TRANLOGOPTIONS パラメータを BUFSIZE オプションとともに使用して、バッファ・サイズを増やしてください。

OGG-00799: 表 {0} のログ・レコード取得エラー {4} 診断 {5} (dbid x'{1}' psid x'{2}' obid x'{3}')

原因: プロセスが、示されている表の、次のログ・レコードを取得できませんでした。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00800: 表 {0} のログ・レコードを解凍できません。エラー {4} 診断 {5} (dbid x'{1}' psid x'{2}' obid x'{3}')。ログ・レコードが書き込まれた時点以降に、圧縮辞書が変更されています。

原因: DB2 z/OS がログ・レコードを解凍できませんでした。レコードに一致する圧縮辞書が利用できない可能性があります。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00801: 表 {0} のログ・レコードを取得できません。エラー {4} 診断 {5} (dbid x'{1}' psid x'{2}' obid x'{3}')。バッファが小さすぎてログ・レコードを保持できません。

原因: トランザクション・ログの各回の読取り結果を保持する内部バッファが小さすぎて、戻されるデータを保持できません。

処置: TRANLOGOPTIONS パラメータを BUFSIZE オプションとともに使用して、バッファ・サイズを増やしてください。

OGG-00803: {0} を検出できません。

原因: IFI インタフェースの初期化が失敗しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00804: IFI を初期化できません。

原因: IFI インタフェースの初期化が失敗しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00805: LOBCol {0} は {1,number,0} バイト予期しました。コピーしたのは {2,number,0} バイトです。

原因: LOB 記憶域からベース行に移動されたバイト数が、プロセスが予期したものと一致しませんでした。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00806: LOBcol {0} に対して {1,number,0} バイトをベース行へ移動

原因: プロセスが LOB 記憶域からベース行にデータを移動できませんでした。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00808: 行 {1,number,0} に無効な順序 - 型 {0,number,0} は先頭にできません

原因: 順序どおりでないログ・レコードに遭遇しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00809: 行 {0,number,0} にバリエーション不一致

原因: 未知のタイプのログ・レコードに遭遇しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00810: 行 {0,number,0} に検証エラー

原因: 順序どおりでないログ・レコードに遭遇しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00811: 行 {0,number,0} に無効な順序

原因: 順序どおりでないログ・レコードに遭遇しました。

処置: このメッセージと、この前にある、コンテキストを示す他のメッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00813: 予期しない (非 URCTL の) レコード・タイプ

原因: 予期しないログ・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00814: 列 {1} 表 {0} に対する SQLGetData で SQL_NO_DATA_FOUND。

PTF UK34243 が必要です

原因: Extract が LOB データのフェッチを試行する場合、DB2 z/OS のバグが原因で、検出するデータがないというエラーが発生することがあります。Extract は示されている IBM の修正が適用されているかどうかをチェックし、適用されていない場合にこのメッセージを生成します。

処置: メッセージに表示される、必要な IBM の修正を適用してください。

OGG-00815: db2ReadLog エラー [RC={0,number,0}: SQLCA 構造体が破損している可能性があります]

原因: DB2ReadLog API で、トランザクション・ログの読取りエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00816: db2ReadLog エラー [{0}][{1}]

原因: DB2ReadLog API に無効なパラメータが提供されました。これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00817: db2ReadLog エラー [{0}]

原因: DB2ReadLog API がトランザクション・ログで現在の LSN の取得を試みたときに、エラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00818: 不明な Log Manager ログ・レコード・コンポーネント ID に遭遇しました: {0,number,0}

原因: ログ・レコードの処理時に、認識できないコンポーネント ID に遭遇しました。これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00820: キー {0,number,0} への位置再指定が失敗しました

原因: Extract が、示されているタイムスタンプに位置を再指定できませんでした。これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00821: 要求された LSN({0,number,0}) は、もう無効です。ログ・ファイルの次の LSN に位置指定します

原因: Extract は示されている LSN から開始するように位置指定されましたが、ログ・ファイル中に存在しません。Extract は、ログ・ファイル中に存在する、次に近い LSN に位置指定されます。

処置: なし

OGG-00822: 要求された LSN({0,number,0}) が DB2 ログ・ファイルにありません。利用できる次の LSN {1,number,0} を使用します。

原因: Extract は示されている LSN から開始するように位置指定されましたが、ログ・ファイル中に存在しません。Extract は、ログ・ファイル中に存在する、次に近い LSN に位置指定されます。

処置: なし

OGG-00823: 更新後イメージ上のキー列が更新前イメージに存在しませんでした: 表 {0} 列索引 {1,number,0}。これは、列が最初に作成された後で表に追加されたためです。これは DB2 LUW の既知の問題で、IBM のみ対処可能です。

原因: 列が示されている表に追加されましたが、Oracle GoldenGate が比較に使用するための、更新前イメージに存在しなかった列が更新後イメージに含まれています。

処置: この表を Oracle GoldenGate の構成から除外し、その上のユーザー・アクティビティを停止してから、ターゲット表に再同期してください。Oracle GoldenGate の構成に追加し直し、プロセスを再起動します。

OGG-00824: 表 {0} の列索引 {1,number,0} はキー・フィールドとして使用できません

原因: 表の一意的索引に、Oracle GoldenGate ではキーとしてサポートされていない列タイプが含まれています。

処置: KEYCOLS 句を使用して、キーとして使用できる一意的列を指定してください。残りの列で一意的性が保証される場合、KEYCOLS 句で既存の索引列からサポートされていない列を除外して使用できます。

OGG-00825: 表 {0} 列 {1,number,0}: 無効な LOB 列値

原因: LOB 列を含むログ・レコードの処理中に、Extract プロセスで内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00826: 表 {0} 列 {1,number,0}: 無効なパック 10 進列値

原因: PACKED DECIMAL 列を含むログ・レコードの処理中に、Extract プロセスで内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00827: tablespace:table:transID {0,number,0}:{1,number,0} で新しいハッシュ・アイテムの挿入に失敗しました

原因: Extract プロセスで内部記憶域割当てエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00828: tablespace:table:transID {0,number,0}:{1,number,0} でハッシュ・アイテムの取得に失敗しました

原因: Extract プロセスで内部記憶域アクセス・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00829: tablespace:table:transID {0,number,0}:{1,number,0} で、ハッシュ・アイテムの取得が予期に反して成功しました

原因: Extract プロセスで内部記憶域アクセス・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00830: ハッシュ・アイテムの削除が失敗しました

原因: Extract プロセスで内部記憶域アクセス・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00831: 有効なチェックポイント開始 LSN とタイムスタンプのいずれも、REDO_position に渡されませんでした

原因: 起動時にプロセスが位置指定モードを判定できなかったため、Extract で内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00832: ASCII フォーマットが実装されていません

原因: このデータベース実装では、FORMATASCII パラメータがサポートされません。

処置: Extract パラメータ・ファイルから FORMATASCII を削除してください。

OGG-00833: 無効なコンポーネント ID に遭遇しました {0,number,0}

原因: Extract プロセスが、示されているレコードのコンポーネント識別子を認識できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00834: LOB レコード・タイプ用の LOB 行の作成中に、無効な行タイプ {0,number,0} を受け取りました : {1,number,0}

原因: Extract プロセスが、示されている LOB レコードの行タイプを認識できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00835: LFM レコード・タイプ用の LFM 行の作成中に、無効な行タイプ {0,number,0} を受け取りました : {1,number,0}

原因: Extract プロセスが、示されている LFM レコードの行タイプを認識できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00836: tablespace:table:trans ID {0,number,0}:{1,number,0}:{2} に対して、トランザクション内にアイテムが見つかりませんでした

原因: トランザクションの出力を試行中に、Extract プロセスで、空のトランザクションが予期に反して発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00837: db2CfgGet エラー [{0}]

原因: 表の切捨て処理中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00838: db2CfgGet エラー [RC={0,number,0}: SQLCA 構造体が破損している可能性があります]

原因: 表の切捨て処理中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00839: 表 {0} で、DATA CAPTURE CHANGES がオンになっていません: 表は無視されます

原因: 示されている表で、DATA CAPTURE CHANGES がオンになっていません。TRANLOGOPTIONS に IGNOREDATACAPTURECHANGES が含まれるため、Extract は表を無視します。

処置: なし

OGG-00840: 表 {0} で DATA CAPTURE CHANGES がオンになっていません: TRANLOGOPTIONS IGNOREDATACAPTURECHANGES パラメータを使用してオーバーライドしてください

原因: 示されている表で DATA CAPTURE CHANGES がオンになっていません。Extract では、これが必須です。

処置: TRANLOGOPTIONS パラメータを IGNOREDATACAPTURECHANGES オプションとともに使用して、DATA CAPTURE CHANGES が設定されていない表を Extract が無視するようにしてください。このオプションを使用すると、変更取得を有効にした表で、ワイルドカードを使用した表仕様を使用して、変更取得を有効にしていないが名前が一致する表をスキップすることができます。

OGG-00841: 挿入に変換された更新の更新後イメージに、対応する行 ID の更新が後続しませんでした。次のレコードで {0,number,0} の内部 dms 型に遭遇しました。

原因: 挿入に変換された更新の更新後イメージに、対応する行 ID の更新が後続しませんでした。これは内部論理エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00842: トランザクションに残ったレコードがありません: LSN {0,number,0} で挿入に変換された更新の更新後イメージに、対応する更新が後続しませんでした

原因: 示されている LSN での更新レコードの処理中に、Extract で内部論理エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00843: EXTRACT param ファイルに、抽出のために定義されている表がありませんでした

原因: Extract は開始されましたが、パラメータ・ファイルに表仕様が含まれていません。

処置: TABLE パラメータを使用して、取得用の表を指定します。

OGG-00844: ソース表エントリがファイル配列にありません

原因: Extract のパラメータ・ファイル内で取得用に指定されている表が、指定されたデータベースに存在しません。

処置: データベースに表を追加するか、TABLE パラメータ・ファイルから表を削除します。

OGG-00845: ロールバック ID {1,number,0} が、FM トランザクション・マネージャの {0,number,0} の最後のレコード ID と一致しません

原因: トランザクション・ロールバックの処理中に、Extract プロセスに内部不整合が検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00846: 行 row: 移行した行シーケンス内で、挿入に変換した更新を受け取った後は、更新 / 削除 / UNDO レコードが予期されます: 受け取ったレコード・タイプ {0,number,0}

原因: トランザクション・ログのレコードの順序が、予期しないものでした。これは内部論理エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00847: フォーマット済ユーザー・データ・レコードを値圧縮とともに使用している多次元のクラスタ表は、このリリースではサポートされません

原因: TABLE パラメータに、サポートされていないデータベース機能を使用して定義された表が含まれています。

処置: 表仕様から、サポートされない表を削除してください。表名が、ワイルドカードに適合する多くの候補の 1 つである場合、TABLEEXCLUDE を使用してそれを除外できます。

OGG-00848: 以前の LSN: {0,number,0} を持つログ・レコードが、DB2 ログ・ファイルにありません: 参照に失敗しました。

原因: Extract は、LSN チェーンで後ろ向きに処理して、トランザクションの最初のレコードを検出することができませんでした。これは内部論理エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00849: データベース名は 8 文字以下である必要があります

原因: パラメータ・ファイルで指定されているデータベース名が長すぎます。データベース名は 8 文字以下です。

処置: 表記エラーについては、パラメータ・ファイルを確認してください。

OGG-00850: データベース・インスタンス {0} で、USEREXIT と LOGRETAIN の両方がオフに設定されています。

原因: データベースが、トランザクション・ログを保持できるように構成されていません。

処置: USEREXIT パラメータをオンにすることによって、LOGRETAIN を自動的に RECOVERY に設定し、ユーザー・イグジット・プログラムに強制的にログ・ファイルをアーカイブおよび取得させてください。別の方法としては、LOGRETAIN パラメータを RECOVERY に設定することで、ログを保持し、フォワード・リカバリのために使用できるようにすることもできます。

OGG-00851: 無効な {1} レコード: 行タイプ {0,number,0} を、関連付けられている {1} レコード・タイプとともに受信しました: {2,number,0}

原因: Extract が、ログ・レコードの内部健全性チェックに失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00852: 無効な DMS レコード・タイプを受信しました: {0,number,0}

原因: Extract が、ログ・レコードの内部健全性チェックに失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00853: 表 {0} 列 {1,number,0}: パック 10 進フィールドに無効な 10 進数があります。

原因: 示されている表のパック 10 進列に、無効なデータが含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00854: 表 {0} 列 {1,number,0} : 十進値の精度上限を超過しました。

原因: 示されている表に、許容される最大値より大きい 10 進値が含まれています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00855: 表 {0} 列 {1,number,0} : エラー {2,number,0} が発生しました。

原因: 示されている列のデータ変換中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00856: 表 {0} で、LONG 列に対して DATA CAPTURE CHANGES が有効になっていません。オーバーライドするには TRANLOGOPTIONS NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES パラメータを使用してください。

原因: DB2 LUW Data Capture Changes が、この表の LONG 列に対して有効になっていません。TRANLOGOPTIONS パラメータは、デフォルトの REQUIRELONGDATACAPTURECHANGES に設定されています。このため、LONG が取得されない場合、Extract は強制的に異常終了させられます。NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES が使用される場合、Extract は、警告を発行してレコードの処理を続行します。

処置: 異常終了を避けるには、TRANLOGOPTIONS を NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES に変更するか、LONG 列の取得を有効にします。

OGG-00857: 表 {0} で、LONG 列に対して DATA CAPTURE CHANGES が有効になっていません。オーバーライドするには TRANLOGOPTIONS NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES パラメータを使用してください。

原因: DB2 LUW Data Capture Changes が、この表の LONG 列に対して有効になっていません。TRANLOGOPTIONS パラメータは、デフォルトの REQUIRELONGDATACAPTURECHANGES に設定されています。このため、LONG が取得されない場合、Extract は強制的に異常終了させられます。NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES が使用される場合、Extract は、警告を発行してレコードの処理を続行します。

処置: 異常終了を避けるには、TRANLOGOPTIONS を NOREQUIRELONGDATACAPTURECHANGES に変更するか、LONG 列の取得を有効にします。

OGG-00858: LONG 列は、DB2 LUW の NOCOMPRESSDELETES オプションに対してサポートされていません。表 {0} の LONG 列は、削除操作に含まれません。

原因: NOCOMPRESSDELETES は、表の列をすべて証跡に書き込みますが、この機能では LOB はサポートされていません。これは DELETE なので、レプリケーションはこの制限による影響を受けません。

処置: なし

OGG-00862: 読み取られたログ・レコードの数 : {0,number,0}。ファイルにダンプされたログ・レコードの数 : {1,number,0}。

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00863: DB2 Extract ログ・ダンプが停止しました

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00864: DB2 Extract ログ・ダンプは、1 回の実行で処理できる最大のログ・レコード数に到達しました: {0,number,0}

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00865: 要求された RECORDCOUNT 値 {0,number,0} に到達しました。

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00866: 要求された STOPATLSN 値 {0,number,0} に到達しました。

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00867: 伝播されたログ・レコードだけをダンプしています。

原因: Extract が Oracle サポート・サービスの指示の下で診断モードで動作している場合に、このメッセージが報告されます。

処置: なし

OGG-00868: {0}

原因: 示されているデータベースにエラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージの指示に従って問題を解決するか、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00869: {0}

原因: 示されているデータベース・エラーが発生しましたが、無視してかまいません。

処置: 問題が継続する場合のみ、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00870: データベース・エラー {0,number,0}({1})

原因: 示されているデータベースにエラーが発生しました。

処置: エラーを解決します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00871: 表 {0} に列 {1} がありませんでした

原因: Veridata Agent (VERIAGT) への XML 入力が、示されている表に存在しない列を参照しています。これは通常、XML メッセージへの入力前に列参照を検証する役割を持つ Veridata Server の内部エラーが原因です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00873: 表 {0} に主キー列 {1} がありません

原因: データベースから主キー情報を取得中に、プロセスに内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00874: 予期されている出力パラメータ (sqlexec ID {0}) の数が、実際の ({1,number,0}) より少なくなっています。

原因: SQLEXEC 問合せまたはストアド・プロシージャに、データベースからのフェッチの結果より少ない列パラメータしか含まれていません。

処置: SQLEXEC のパラメータ仕様を修正してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00875: lobmem における列 {0,number,0} の参照で、予期しないエラーが発生しました。

原因: LOB 列がデータベースにありません。一部の例では、Oracle GoldenGate は LOB 値をフェッチします。表が更新されたために、トランザクション・レコードが生成された時点と、Extract がそれ进行处理した時点との間に、LOB 列が削除された可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00876: LOB データが列 {2,number,0} ({1}) の最大サイズ ({0,number,0}) を超過しています

原因: LOB が、Oracle GoldenGate によってサポートされているサイズを超過しています。

処置: Replicat を再起動して START オプションでこのレコードをスキップしてもよいし、このタイプのレコード进行处理するための REPERERROR ルールを使用してもかまいません。空白値を受け入れるようにターゲット表の定義を変更するという選択肢もあります。MySQL と Sybase では、TRANLOGOPTIONS を ALLOWLOBDATATRUNCATE とともに使用して、ターゲット列に対して大きすぎる LOB を切り捨てることもできます。

OGG-00877: NULL にできないターゲット列 {1} に、ソース列 {0} の、長さゼロの BLOB をマップできませんでした。

原因: ターゲット列が NULL 列値をサポートしていません。

処置: Replicat を再起動して START オプションでこのレコードをスキップしてもよいし、このタイプのレコード进行处理するための REPERERROR ルールを使用してもかまいません。空白値を受け入れるようにターゲット表の定義を変更するという選択肢もあります。TRANLOGOPTIONS を EMPTYLOBSTRING とともに使用して、ターゲットにレプリケートされた空の (長さゼロの) LOB 列に文字列値を置換することができます。デフォルトでは、Oracle GoldenGate はターゲット上の空の列を NULL に設定します。ターゲット・データベースで LOB 列が NULL であることが許容されない場合は異常終了します。EMPTYLOBSTRING を使用すると、Replicat の異常終了を防ぐことができます。

OGG-00878: SQL を実行できませんでした。データベースに記録されていません。

原因: データベース上に記録されなかったため、プロセスは SQL 操作を実行できませんでした。

処置: USERID パラメータ、および該当する場合 SOURCEDB または TARGETDB パラメータのパラメータ・ファイルを確認してください。これらのパラメータが、必要なログイン情報を提供しています。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-00879: 表 '{0}' で所有者が指定されていません。

原因: この表では、TABLE や MAP の仕様に所有者が含まれていません。

処置: 所有者を使用してすべての表名を修飾してください。

OGG-00880: 表 '{0}' で所有者が指定されていません。

原因: パラメータ・ファイルにおいて、示されている表が所有者名で修飾されていません。

処置: hq.sales と同様に、表の仕様に所有者を追加します。

OGG-00881: 4K を超える列では NODYNSQL を使用できません。

原因: Replicat に対して NODYNSQL パラメータが指定されていますが、レプリケーション時に、サイズが 4K より大きい LOB 列に遭遇しました。

処置: NODYNSQL を削除するか、4K より大きい LOB 値がないことを確認してください。

OGG-00882: ワイド・キャラクタ・タイプ (SQL_WCHAR、SQL_WLONGVARCHAR および SQL_WVARCHAR) に対しては、NODYNSQL オプションはサポートされていません。

原因: Replicat パラメータ・ファイルでは NODYNSQL が使用されていますが、ワイド・キャラクタ・タイプに遭遇しました。NODYNSQL モードでは、プロセスは静的な SQL 文にデータを展開できません。

処置: NODYNSQL を削除して、プロセスを再起動してください。

OGG-00883: トレース表 '{0}'、(グループ {1}) のエントリを更新できませんでした。更新された行数は {2,number,0} です。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00884: フェッチされたフィールド ({1,number,0}) が列の総数 ({0,number,0}) と相違しています。

原因: メタデータで示されているように、示されている表において、フェッチされた列の数がこの表の列の数と一致しません。

処置: このトランザクション・レコードが生成された時点以降にこの表が変更されたかどうか確認してください。プロセスを再起動して、問題が解決するかどうか試します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00885: フェッチされた列 ({0}) を ascii 値 {1} ({2}) から変換中にエラーが発生しました。

原因: プロセスがフェッチされた列値を内部形式に変換する際にエラーが発生しました。メッセージ内で提供されるエラー・メッセージから、詳細な情報を取得できます。

処置: エラー・メッセージに基づいて問題を修正できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00886: 実行失敗。間隔: {0}

原因: プロセスが所定の間隔で SQL 文を実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: エラー・テキストに基づいて問題を解決し、プロセスを再起動してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00887: SQL 実行失敗。間隔: {0}

原因: プロセスが所定の間隔で SQL 文を実行しようとしたときに、致命的でないエラーが発生しました。

処置: エラー・テキストに基づいて問題を解決し、プロセスを再起動してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00888: SQL 文が間隔において正常に実行されました。

原因: プロセスが SQL 文を正常に実行しました。

処置: なし

OGG-00889: トランザクション終了時の SQL 文実行エラー

原因: トランザクション終了後、プロセスが SQL 文を実行しようとして、致命的なエラーが発生しました。

処置: SQL エラーに基づいて問題を解決してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00890: トランザクション終了時の SQL 文実行エラー

原因: トランザクション終了後、プロセスが SQL 文を実行しようとして、致命的でないエラーが発生しました。

処置: SQL エラーに基づいて問題を解決してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00891: 実行失敗: {0}

原因: プロセスが SQL 文を実行しようとしたときに、致命的なエラーが発生しました。

処置: SQL エラーに基づいて問題を解決してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00892: SQL 実行失敗: {0}

原因: エラー・テキストに示されたデータベース・エラーのため、プロセスは SQL 文を実行できませんでした。

処置: エラーの原因を修正し、プロセスを再起動してください。

OGG-00893: SQL 文が正常に実行されました。

原因: プロセスが SQL 文を正常に実行しました。

処置: なし

OGG-00894: 表 {0} での重複行の更新時に、SQL エラー {1,number,0} が発生しました

原因: プロセスが重複行の更新を発行したときに、示されているエラーが発生しました。制約エラーがある可能性があります。

処置: 重複行を削除するか、制約を変更して、プロセスを再起動してください。

OGG-00895: 予期しないエラー: 表 {0} で HASH を追加できませんでした。

原因: 示されている表でプロセスがハッシュを追加しようとした際に、内部エラーが発生しました。

処置: このメッセージとすべての関連メッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00896: 予期しないエラー: ハッシュ表の中に存在することが確認されているアイテムの削除が失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: このメッセージとすべての関連メッセージを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00897: 予期しないエラー: 新しく追加された表 ({0}) を名前で検索できませんでした。

原因: 示されている表は Extract プロデューサ・スレッドによって解決されましたが、Extract コンシューマ・スレッドでは解決できません。

処置: この表がまだ存在するかどうか確認してください。存在しない場合は、Extract を再起動します。

OGG-00898: 予期しないエラー: 新しく追加された表 ({0}) をオブジェクト ID ({1}) で検索できませんでした。

原因: オブジェクト ID で示されている表を、Extract が検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00899: 表 {0} は存在しません

原因: 示されている表はデータベースの中に存在しませんが、Oracle GoldenGate 構成では指定されています。

処置: TABLE 文と MAP 文から表を削除します。

OGG-00900: 表 {0} オブジェクト ID {1} がありません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00901: 表 {0} のオブジェクト ID を参照できませんでした。

原因: 示されている表を問い合わせる DB2 カタログ問合せが失敗しました。

処置: 表が削除された可能性があります。表がまだ存在する場合は、もう一度プロセスを開始します。エラーが解決しない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00902: 表 {0} の総バイト長が長すぎます (列 {1}、offset = {2,number,0})

原因: 示されている列の長さが、Sybase データベースに対して Oracle GoldenGate でサポートされる最大長を超えています。

処置: 列の長さを縮めてください。

OGG-00903: 最後に実行された文の行数取得エラー

原因: SQLRowCount() コールがエラーを戻しました。

処置: SQLRowCount() API ページを確認して、このコールに関して考えられる問題点を参照し、問題を修正してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00904: {0} をコールしましたが、アクティブなトランザクションがありません (seqno: {1,number,0}、rba: {2,number,0})。要求は無視されました。

原因: オープンされているトランザクションがないのに ROLLBACK または COMMIT をコールしたため、内部エラーが発生しました。

処置: 証跡ファイルを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00905: アクティブなトランザクション (seqno: {0,number,0}、rba: {1,number,0}) がまだ存在するのに、BEGIN をコールしました。要求は無視されます。

原因: オープンされているトランザクションに対して BEGIN TRANSACTION が発行されたため、内部エラーが発生しました。

処置: 証跡ファイルを保存し、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00906: 認識されないデータ型: {0,number,0}

原因: 予期しないデータ型に遭遇しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00908: 表 {0} 列 {1,number,0}: 値が {2,number,0} に切り捨てられました。

原因: ターゲット・データベースで全体の長さがサポートされていないため、示されている列の値は切り捨てられました。ターゲット・データがソースを正確に反映していない可能性があります。

処置: ターゲット列の長さを拡張するか、データの全体長を保持したい場合は、これらの事例を例外とみなし、手動で DML を適用することができます。詳細な情報は、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントの、エラー処理に関する説明を参照してください。

OGG-00909: 表 {0}、列 {1}、認識されないデータ型: {2,number,0}

原因: 示されている列に、サポートされていないデータ型が含まれています。

処置: サポートされているデータ型については、このデータベースに関する Oracle GoldenGate ドキュメントを参照してください。

OGG-00910: 表 {0}、列 {1}、認識されないデータ型: {2}

原因: 示されている列に、認識されない、またはサポートされていないデータ型が含まれています。

処置: サポートされているデータ型については、このデータベースに関する Oracle GoldenGate ドキュメントを参照してください。

OGG-00911: 表 {0}、列 {1}、認識されない、またはサポートされないデータ型: {2}

原因: 示されている列に、認識されない、またはサポートされていないデータ型が含まれています。

処置: サポートされているデータ型については、このデータベースに関する Oracle GoldenGate ドキュメントを参照してください。

OGG-00912: 表 {0} の定義の範囲内に、キー列 {1} がありませんでした

原因: キー定義が変更されたで可能性があります。GoldenGate は、新しい定義を知っている必要があります。

処置: 新しいオブジェクト・キャッシュを作成できるように、プロセスを停止して、すぐに開始します。

OGG-00913: 列 {0}({1,number,0}) の処理中に無効なデータ型 ({2,number,0})

原因: 示されている列に、認識されない、またはサポートされていないデータ型が含まれています。

処置: サポートされているデータ型については、このデータベースに関する Oracle GoldenGate ドキュメントを参照してください。

OGG-00914: 表 {0} に含まれている列が多すぎます。最大の列数は {1,number,0} です。

原因: 表の列数が、Oracle GoldenGate でサポートされる数を上回っています。

処置: 可能なら、TABLE および MAP の COLSEXCEPT 句を使用して、列を除外してください。または Oracle GoldenGate 構成から表を削除してもかまいません。

OGG-00915: 表 '{0}' の列 '{1}' がキー列として使用できません。

原因: 示されている列のタイプが、Oracle GoldenGate によってキーとしてサポートされていません。

処置: キーを変更して列を削除できない場合、一意の索引を指定するか、TABLE および MAP の KEYCOLS 句でキーを定義できます。ソース表とターゲット表の索引または KEYCOLS は一致する必要があります。

OGG-00916: 列 '{1}' はキー列として使用できません。表 '{0}' の一意の索引をこの列なしで定義するか、KEYCOLS パラメータを使用して問題点を修正してください。

原因: 表キー内の、示されている列のタイプが、Oracle GoldenGate によってキーとしてサポートされていません。

処置: キーを変更して列を削除できない場合、一意の索引を指定するか、TABLE および MAP の KEYCOLS 句でキーを定義できます。ソース表とターゲット表の索引または KEYCOLS は一致する必要があります。

OGG-00917: KEYCOLS パラメータが、キー列として使用できない列 '{1}' を参照しています。表 '{0}' の KEYCOLS パラメータからこの列を削除して、この問題を修正してください。

原因: 示されている列のタイプが、Oracle GoldenGate によってキーとしてサポートされていません。

処置: KEYCOLS 句から列を削除します。

OGG-00918: キー列 {0} がマップに存在しません。

原因: COLMAP 句で、一部のキー列がマップされています。キー列をマップする場合、すべてのキー列をマップする必要があります。

処置: COLMAP 句にすべてのキー列を追加します。

OGG-00919: {0} 句のエラー

原因: パラメータ・ファイルで示されている句に構文エラーがあります。

処置: エラーを修正します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-00920: コマンド {0} の実行エラー ({1,number,0})

原因: immediate SQL 文の実行が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00921: データベース名を特定できません。

原因: プロセスが、データベースの名前を特定して接続を確立できませんでした。

処置: Oracle GoldenGate ユーザーがデータベース名を問い合わせる権限を持っていることを確認してください。また、このデータベース・タイプに対して SOURCEDB または TARGETDB パラメータを指定する必要がある場合、正しく指定されていることを確認してください。

OGG-00924: ワイルドカードの仕様の長さが {1,number,0} です。戻りバッファでは {0,number,0} が上限です。

原因: ワイルドカードの仕様に含まれている文字が多すぎます。

処置: ワイルドカードの仕様の長さを、メッセージで指定されているサイズに縮めてください。

OGG-00925: 表が非同期: ソース {0}、ターゲット {1}、行 {2,number,0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00926: 表が同期されています。: ソース {0}、ターゲット {1}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00927: ステータス・ファイルのエラー: {0} 属性は存在しません。

原因: Oracle GoldenGate サーバーまたはエージェント・プロセスの XML メッセージには、示されている属性が存在しません。これは内部エラーの存在を示しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00928: max_tables({0,number,0}) を超過

原因: Oracle GoldenGate Veridata Agent が、リモート・データベースまたはスキーマ内のすべての表またはビューをリストするよう求められましたが、表の数が、メッセージに入れられる量を超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに、サポートされる表の数の最大値を増やすよう、拡張要求を提出してください。

OGG-00929: max_schemas({0,number,0}) を超過

原因: Oracle GoldenGate Veridata Agent が、リモート・データベースまたはスキーマ内のすべての表またはビューをリストするよう求められましたが、表の数が、メッセージに入れられるスキーマ数を超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに、サポートされるスキーマの数の最大値を増やすよう、拡張要求を提出してください。

OGG-00930: パラメータ・ファイル {0} に無効な XML があります。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00931: 構成ファイルが無効です: {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-00932: {1} で FILENAME_RESOLVE_ エラー {0,number,0} が発生しました。

原因: このエラーは、エージェントが Oracle GoldenGate サブディレクトリの Guardian ファイル名を決定できない場合に、NonStop システム上で発生します。メッセージに、Guardian エラー・コードが表示されます。

処置: Guardian エラー・コードに基づいて適切に対処してください。

OGG-00933: 表エントリ {0,number,0} に対する名前が見つかりませんでした

原因: 表名に対応する属性が XML ファイルに存在しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00934: {0} の表情報ノードが見つかりませんでした。

原因: 表情報要素が XML ファイルに存在しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00935: 基本キーを持っていない表 {0} に対して keycols が指定されていません

原因: 示されている比較表に対して、定義済の主キーまたはユーザー定義のキー列が定義されていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00936: アクセスが拒否されました。({0} からの要求、(ルール #1,number,0)))

原因: ACCESSRULE パラメータで設定されているルールに基づいて、示されているアドレスに対して、Manager へのアクセスが拒否されました。

処置: 接続を試みた理由を特定します。正当なら、ACCESSRULE のルールを調整してかまいません。

OGG-00937: パスワード復号エラー ({0,number,0}): {1}

原因: ターゲット上の Manager が、ソース上で ENCRYPT PASSWORD コマンドによって示されているパスワードを解読できません。

処置: 独自のキーを定義した場合、ソースおよびターゲット上に ENCKEYS ファイルが存在し、同じキーを含んでいることを確認してください。Oracle GoldenGate が生成したデフォルトのキーを使用する場合、USERID パラメータまたは TRANLOGOPTIONS ASMUSER パラメータに正しくコピーされたことを確認してください。デフォルトの暗号化を再試行する必要があることがあります。

OGG-00938: ユーザー・リクエストにより Manager が停止されました。

原因: Manager プロセスがユーザーによって停止されました。

処置: 意図的な場合は、なし。Manager が停止されると、Oracle GoldenGate プロセスが引き続きデータを複製することができない点に注意します。

OGG-00939: Service Control Manager が PAUSE を要求しました

原因: Windows Service Control Manager が、Manager サービスに対して PAUSE コマンドを発行しました。

処置: 意図的な場合は、なし。Manager が一時停止されると、Oracle GoldenGate プロセスが引き続きデータを複製することができない点に注意します。

OGG-00940: Service Control Manager が STOP を要求しました

原因: Windows Service Control Manager が、Manager サービスに対して STOP コマンドを発行しました。

処置: 意図的な場合は、なし。Manager が停止されると、Oracle GoldenGate プロセスが引き続きデータを複製することができない点に注意します。

OGG-00941: Service Control Manager が CONTINUE を要求しました

原因: Windows Service Control Manager が、Manager サービスに対して CONTINUE (Resume) コマンドを発行しました。

処置: なし

OGG-00942: Service Control Manager が SHUTDOWN を要求しました

原因: Windows Service Control Manager が、Manager サービスに対して SHUTDOWN コマンドを発行しました。

処置: 意図的な場合は、なし。Manager が停止されると、Oracle GoldenGate プロセスが引き続きデータを複製することができない点に注意します。

OGG-00943: サービス処理エラー: バッチ・タスクのスレッド作成中

原因: プロセスが、バッチ・タスクのスレッドを検出できませんでした。

処置: システムに、より多くのスレッドを作成する容量があることを確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00944: サービス処理エラー: {0} をコール (エラー {1,number,0})

原因: Windows SetServiceStatus または RegisterServiceCtrlHandler へのコールが失敗しました。

処置: Windows のシステム・エラー・ログを確認して、問題を修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00945: {0} {1} の起動が失敗しました ({2})

原因: 示されているプロセスを開始できません。

処置: プロセスを開始できない理由を示す追加のエラー・メッセージを参照して、問題を修正してください。

OGG-00946: {0} {1} が異常終了しました。

原因: 示されているプロセスが異常終了しました。

処置: プロセスが異常終了した理由を示す追加のエラー・メッセージを参照して、問題を修正してください。

OGG-00947: {0} {1} のラグは {2} です (チェックポイント更新は {3} 前)

原因: LAGINFO パラメータの設定により、Manager がエラー・ログ内でラグ情報を報告しました。ラグが LAGCRITICAL パラメータで指定された値より大きい場合、このメッセージは警告メッセージとみなされます。

処置: ラグを引き起こしている問題を修正してください。ラグを減少させるための Oracle GoldenGate 構成の詳細は、Oracle GoldenGate のトラブルシューティングとパフォーマンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-00948: {0} {1} のラグは {2} です (チェックポイント更新は {3} 前)

原因: LAGINFO パラメータの設定により、Manager がエラー・ログ内でラグ情報を報告しました。ラグが LAGCRITICAL パラメータで指定された値より大きくないため、このメッセージは情報メッセージとみなされます。

処置: なし

OGG-00949: 無効なチェックポイント・タイプ ({2,number,0}) のため、{0} {1} のラグしきい値を特定できません。

原因: チェックポイントが無効です。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-00950: 前回の seqno が存在するため、古い抽出ファイル {0} のページが失敗しました。ページ・ルールは {1} でした。

原因: PURGEOLDEXTRACTS パラメータに、最低限の数のファイルが保持されることを要求する MINKEEP ルールが存在します。

処置: なし

OGG-00951: ページ・タスク {0} {1}: ファイル {2} を削除できませんでした ({3,number,0} {4})

原因: オペレーティング・システム・エラーにより指定のファイルを削除できなかったため、Manager は名前付きリモート・タスクをページできませんでした。

処置: オペレーティング・システム・エラーを修正してください。

OGG-00952: {1} より古いログ履歴を {0} からページしています: {2}

原因: Manager により、表示された日付より古いログ表内の行が正常にページされました。情報提供のみ。このメッセージは、トリガー・ベースの取得をサポートする以前のバージョンの Oracle GoldenGate で表示されます。

処置: なし

OGG-00953: {1} より古いログ履歴を {0} からパージしています: {2}

原因: Manager がログ表から履歴をパージしています。情報提供のみ。このメッセージは、トリガー・ベースの取得をサポートする以前のバージョンの Oracle GoldenGate で表示されます。

処置: なし

OGG-00954: {1} より古い行を {0} からパージしています: {2}

原因: 表示された日付より古いログ表内の行を Manager がパージできませんでした。情報提供のみ。このメッセージは、トリガー・ベースの取得をサポートする以前のバージョンの Oracle GoldenGate で表示されます。

処置: 手動で行を削除してください。

OGG-00955: {1} より古い行を {0} からパージしています: {2}

原因: Manager により、表示された日付より古いログ表内の行が正常にパージされました。情報提供のみ。このメッセージは、トリガー・ベースの取得をサポートする以前のバージョンの Oracle GoldenGate で表示されます。

処置: なし

OGG-00956: hours_since_modified は {1,number,0} として計算されました。{0} に対する modtime は {2,number,0} です

原因: Manager は、示されているファイルが、このメッセージで示されている時間の間変更されなかったと判定しました。最後の変更は、表示された時刻に実行されました。

処置: なし

OGG-00957: 古い Extract ファイル {0} をパージしました。{1}

原因: 示されているファイルは、メッセージ・テキストに示されたルールに基づいてパージされました。

処置: なし

OGG-00958: {0}(MINKEEPFILES オプションが使用されていません。最後に入力された MINKEEP オプションが使用されます)

原因: PURGEOLDEXTRACTS パラメータに、オプション MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS が、オプション MINKEEPFILES を伴って含まれています。これらは排他的です。MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS を MINKEEPFILES とともに使用する場合、MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS が認識され、MINKEEPFILES は無視されます。

処置: 必要に応じて、MINKEEPFILES、または MINKEEP{HOURS|DAYS} を削除してください。

OGG-00959: {0} (MINKEEPFILES オプションが使用されていません。)

原因: PURGEOLDEXTRACTS パラメータに、オプション MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS が、オプション MINKEEPFILES を伴って含まれています。これらは排他的です。MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS を MINKEEPFILES とともに使用する場合、MINKEEPPHOURS または MINKEEPDAYS が認識され、MINKEEPFILES は無視されます。

処置: 必要に応じて、MINKEEPFILES、または MINKEEP{HOURS|DAYS} を削除してください。

OGG-00960: アクセスが承認されました。(ルール # {0,number,0})

原因: 示されているルールに基づいて、Oracle GoldenGate へのアクセスが承認されました。

処置: なし

OGG-00961: DEBUG {0} : {1}

原因: これは、デバッグ目的の情報提供メッセージです。

処置: なし

OGG-00962: {1} がコマンド {0} を認識しませんでした。

原因: Manager が、認識されないコマンドを受け取りました。

処置: コマンドの構文に、誤記や無効なオプションがないか確認してください。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-00963: ホスト {1} 上で、{0} からコマンドを受け取りました。({2})

原因: Manager が、示されているホストから示されているコマンドを受信しました。

処置: なし

OGG-00964: {0} {1} が自動的に開始されました。

原因: 示されているプロセスが、AUTOSTART パラメータに基づいて、自動的に再起動されました。

処置: なし

OGG-00965: {0} {1} が自動的に再起動されました。

原因: 示されているプロセスが、AUTORESTART パラメータのルールに基づいて、自動的に再起動されました。

処置: なし

OGG-00966: {0} {1} はすでに実行中です

原因: 既に実行中のプロセスに対して START コマンドが発行されました。

処置: なし

OGG-00967: Manager が ER プロセスの AUTOSTART を実行中です。

原因: Manager が、Manager パラメータ・ファイルの AUTOSTART パラメータに従って、Extract や Replicat プロセスを自動的に開始しています。

処置: なし

OGG-00968: エラー: コマンドを Manager に送信できません

原因: 最後のコマンドを Manager に送信できませんでした。

処置: Manager が実行中で、ネットワーク接続が正しく機能していることを確認してください。

OGG-00969: エラー: Manager が {0} を使用して応答しました

原因: Manager がパッシブ Extract を開始できませんでした。

処置: プロセス・レポートとエラー・ログで、この問題のコンテキストを示す追加のメッセージを確認してください。他のメッセージに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00970: エラー: Manager からの応答メッセージが不正です。

原因: Manager の応答が有効ではありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。サポートに役立てるために、プロセス・レポートとエラー・ログを保存します。

OGG-00971: エラー: {0}

原因: Oracle GoldenGate コンポーネントを起動できませんでした。

処置: プロセスが発行するレポート・ファイルと、問題解決の助けになる可能性がある、この前後に表示されているエラー・ログ内のメッセージを確認してください。Manager が実行中で、他のプロセスを開始できることを確認してください。データベースも実行中である必要があります。証跡ファイルが正しく作成される必要があります。パラメータ・ファイルが、予期される場所に存在する必要があります。詳細は、Oracle GoldenGate のトラブルシューティング・ドキュメントを参照してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00972: {0} {1} -> {2}@{3} がポート {4} で開始されました

原因: 示されているプログラムが、示されているポート番号で開始されました。

処置: なし

OGG-00973: Manager が、replicat タスク・プロセス (ポート {0,number,0}) を開始しました。

原因: Manager が、示されているポート番号で、Replicat タスクを開始しました。

処置: なし

OGG-00974: Manager が、コレクタ・プロセス (ポート {0,number,0}) を開始しました。

原因: Manager が、示されているポート番号で、Collector プロセスを開始しました。

処置: なし

OGG-00975: {0}

原因: これは一般的な情報メッセージで、いかなる問題も示していません。

処置: なし

OGG-00976: Manager が、ポート {1,number,0} 上で '{0}' プロセスを開始しました

原因: Manager が、示されているポート番号で、示されているプロセスを開始しました。

処置: なし

OGG-00978: {0} {1} は実行中です。

原因: 示されているプロセスが実行中です。

処置: なし

OGG-00979: {0} {1} は停止中です (正常)

原因: 示されているプロセスは、正常に停止されました。

処置: なし

OGG-00980: タスク {0} {1} がページされました。

原因: 示されているタスクが、PURGEOLDTASKS パラメータのルールに従ってページされました。

処置: なし

OGG-00981: タスク {0} {1} が実行中です。ページできません。

原因: 示されているタスクがまだ実行中です。

処置: パージできるようにするには、タスクを停止してください。

OGG-00982: ルール {0,number,0}: {1}、seqno: {2,number,0}(hours_since_modified): {3,number,0}、modtime: {4,number,0}、最も古い chkpt: {5,number,0}

原因: Manager が、PURGEOLDEXTRACTS で指定されたルールに基づいて、古い証跡ファイルをパージしています。

処置: なし

OGG-00983: Manager が開始されました (ポート {0,number,0})

原因: Manager プロセスが、示されているポート番号で開始されました。

処置: なし

OGG-00984: 次の処理の前に {0,number,0} 分 {1,number,0} 秒遅延中

原因: Manager に対して BOOTDELAYMINUTES パラメータが使用されているため、Manager は、起動アクティビティを実行する前に、示されている時間の経過を待機しています。

処置: なし

OGG-00985: 古い veriagt レポート {0} をパージしました。

原因: Veridata Agent レポートが正常にパージされました。

処置: なし

OGG-00986: エラー {1,number,0} 古い veriagt レポート {0} をパージしています。

原因: 示されているエラーのため、Veridata Agent レポートをオペレーティング・システムからパージできませんでした。

処置: オペレーティング・システム・エラーを修正してください。

OGG-00987: GGSCI コマンド ({0}): {1}

原因: GGSCI から示されているコマンドを受け取りました。

処置: なし

OGG-00988: 警告: サポートされない操作。トランザクションの不整合を引き起こす可能性があります。入力チェックポイント # {3,number,0} を変更中。Oracle スレッド # {4,number,0}/{2}: ioseq = {0,number,0} iorba = {1,number,0}

原因: RAC 構成内のログの 1 つを読み取る Extract スレッドの読取り位置を変更するために、ALTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: なし。これは警告ですが、意図的な操作と想定されています。詳細は Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00989: 警告: サポートされない操作。トランザクションの不整合を引き起こす可能性があります。iocheckpoint を変更中。: ioseq = {0,number,0} iorba = {1,number,0}

原因: サポートされていない ALTER 操作を受け取りました。

処置: なし。これは警告ですが、意図的な操作と想定されています。詳細は Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-00990: ユーザーが {0} を強制的に停止しています。

原因: 示されている Extract または Replicat プロセスが、ユーザーによって強制的に停止されました。

処置: なし

OGG-00991: {0} が正常に停止されました。

原因: 示されている Extract プロセスが、正常に停止されました。

処置: なし

OGG-00992: {0} が開始中。

原因: 示されている Extract プロセスが、起動を実行しています。

処置: なし

OGG-00993: {0} が開始されました。

原因: 示されている Extract プロセスが、正常に開始されました。

処置: なし

OGG-00994: {0} が正常に停止されました。

原因: 示されている Replicat プロセスは、正常に停止されました。

処置: なし

OGG-00995: {0} が開始中。

原因: 示されている Replicat プロセスが、起動を実行しています。

処置: なし

OGG-00996: {0} が開始されました。

原因: 示されている Replicat プロセスが、正常に開始されました。

処置: なし

OGG-00997: 古い抽出ファイル {0} のページが失敗しました。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、PURGEOLDEXTRACTS パラメータのルールに基づいて古い証跡ファイルをページしようとしたましたが、示されているオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

処置: エラーの原因を修正するか、システム管理者にお問い合わせください。

OGG-00998: 古い Extract ファイル {0} をページ中。

原因: プロセスが、PURGEOLDEXTRACTS パラメータのルールに基づいて古い証跡ファイルをページしています。

処置: なし

OGG-00999: transaction begin がないため、{0,number,0} レコードがバイパスされました。

原因: プロセスは、begin-transaction レコードがないため、示されている数のレコードをスキップしました。

処置: なし

OGG-01000: Reperror {0} ルール、エラー {1,number,0} が検出されました。対処 {2}、Maxretries {3,number,0} を超過しました。

原因: Replicat は示されているエラー番号とアクションで REPERROR ルール文を解析して、MAXRETRIES オプションで指定された最大回数まで、操作を再試行しました。

処置: エラーを引き起こした問題を修正し、Replicat を再起動してください。

OGG-01000: Reperror {0} ルール、エラー {1,number,0} が検出されました。対処 {2}

原因: Replicat は REPERERROR ルール文を解析し、示されているエラー番号を戻した操作に対する、示されている対処を実行します。

処置: なし

OGG-01002: Reperror {0} ルール、エラー {1,number,0} が検出されました。対処 {2}、再試行 {3,number,0}

原因: Replicat が RETRYOP オプションを含む REPERERROR ルール文を解析し、示されているエラー番号を戻した操作を再試行します。

処置: なし

OGG-01003: rba {1,number,0} {0,choice,-1#|0# in seqno {0,number,0} への位置再指定 }

原因: プロセスが、証跡内の示されている場所に、読取り位置を位置再指定しています。

処置: なし

OGG-01004: '{0}' 上のグループ化トランザクションが中止されました。データベース・エラー {1,number,0} ({2})

原因: Replicat は、メッセージ・テキストで報告される SQL エラーのため、示されている表において、GROUPTRANSOPS が制御するグループ化トランザクションを適用できません。

処置: エラー・メッセージで報告されている問題を修正してください。

GROUPTRANSOPS の詳細については、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01005: GROUPTRANSOPS では値 0 は無効です。かわりに値 1 を使用します。

原因: GROUPTRANSOPS パラメータに値 0 が指定されています。ソース・トランザクションと同じトランザクション境界の内部では、値 1 によって操作が実行されます。1 を超える値の場合、Replicat トランザクションの範囲内の最小操作数が設定されます。

処置: GROUPTRANSOPS の値を増やしてください。適切な値の決定については、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01006: 廃棄ファイル内の最大レコード数を超過しました。{0,number,0}

原因: DISCARDFILE パラメータで指定される、ファイル内で可能なレコードの最大数に到達しました。

処置: DISCARDFILE の MAXBYTES または MEGABYTES オプションによって許容されている最大値まで、ファイル・サイズを増やします。

OGG-01007: 廃棄ファイル内の最大レコード数を超過しました。{0,number,0}

原因: DISCARDFILE パラメータで指定される、ファイル内で可能なレコードの最大数に到達しました。

処置: DISCARDFILE の MAXBYTES または MEGABYTES オプションによって許容されている最大値まで、ファイル・サイズを増やします。

OGG-01008: 不正なレコードを廃棄しています (廃棄レコード = {0,number,0})

原因: プロセスが、処理できないレコードを廃棄し、DISCARDFILE ファイル内にある廃棄レコードの現在の数を報告しています。

処置: なし

OGG-01009: ストアド・プロシージャ {0} の実行エラー: {1}

原因: プロセスが、示されているストアド・プロシージャの実行を試みましたが、示されているデータベース・エラーが戻されました。

処置: メッセージ・テキストに示されているエラーの原因を修正してください。

OGG-01010: ストアド・プロシージャ {0} の実行エラー: {1}

原因: プロセスが、示されているストアド・プロシージャの実行を試みましたが、示されているデータベース・エラーが戻されました。

処置: メッセージ・テキストに示されているエラーの原因を修正してください。

OGG-01011: {0} をスキップしました。

原因: 示されているトランザクションの実行に長時間かかっています。SEND EXTRACT コマンドが SKIPTRANS とともに発行され、Extract がスキップしました。

処置: なし

OGG-01012: エラー ({1}) のため、{0} をスキップできませんでした。

原因: 示されているトランザクションの実行に長時間かかっています。SEND EXTRACT コマンドが SKIPTRANS とともに発行されましたが、Extract はスキップできませんでした。考えられる原因: 示されているトランザクションが、SHOWTRANS で表示されるトランザクションのリストで最古のものでないか、データベースが Oracle RAC の場合、THREAD オプションが使用されませんでした。

処置: メッセージ・テキストに示されているエラーの原因を修正してください。

OGG-01013: 表 '{0}' の存在しない非 NULL 列 '{1}' を置換できません。

原因: プロセスが、データが存在しない非 NULL 列に遭遇しました。データベースからの値フェッチ試行は失敗しました。

処置: なし

OGG-01014: 次の開始時刻で位置指定: {0,date} {0,time}、記録開始時刻: {1,date} {1,time} {2,choice,-1#|0#extseqno {2,number,0}, }extrba {3,number,0}

原因: プロセスは、示されている時刻に処理を開始するように構成されており、示されているレコードを最初の処理対象として開始しています。

処置: なし

OGG-01015: 次の開始時刻で位置指定: {0,date} {0,time}、データを待機中: 位置 extseqno {1,number,0}、extrba {2,number,0}

原因: プロセスは、示されている時刻に処理を開始するように構成されています。現在、データ・ソース内の示されている位置でデータを待機しています。

処置: なし

OGG-01016: 次の開始時刻で位置指定: {0,date} {0,time}、不完全なレコードをスキップ中 - 記録開始時刻: {1,date} {1,time} extseqno {2,number,0}、extrba {3,number,0}

原因: プロセスは、示されている時刻に処理を開始するように構成されています。そのタイムスタンプを持つ最初のレコードは、不完全なのでスキップされています。

処置: なし

OGG-01017: SOURCEISTABLE が使用されているため、ワイルドカードの解決が IMMEDIATE に設定されました

原因: WILDCARDRESOLVE パラメータがデフォルトの DYNAMIC に設定されていますが、SOURCEISTABLE はパラメータ・ファイルでも使用されているため、プロセスが設定をオーバーライドしました。IMMEDIATE が、SOURCEISTABLE の強制デフォルトです。ワイルドカード定義を満たすソース・オブジェクトが、起動時に処理されます。

処置: なし

OGG-01018: seqno {0,number,0} の rba {1,number,0} でエラーからリカバリしました。replicat を続行します。

原因: 失敗した操作からのリカバリが成功しました。

処置: なし

OGG-01019: {0} によりマーカーが処理されました。グループ {1}、ラグ {2}

原因: Oracle GoldenGate のマーカー・レコードが正常に処理されました。

処置: なし

OGG-01020: extract プロセスが {0} レコードを処理しました。seq {2,number,0}、rba {3,number,0} ({1,number,0} レコード中止)

原因: Extract が、示されているレコードを処理しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01021: {0} から受け取ったコマンド: {1}

原因: 示されているプロセスからコマンドを受け取りました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01022: 不明な {1,number,0} バイトのメッセージ {2} から受け取りました: {3,number,0}- {0}

原因: 示されているプロセスから不完全なコマンドを受け取りましたが、実行できません。

処置: このメッセージが引き続き表示される場合、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01023: 表 {0} で再試行可能なエラーからリカバリしました

原因: Replicat が、前回の試行でエラーを引き起こした SQL 操作を正常に適用しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01024: seqno {1,number,0} の rba {2,number,0} で SQL エラー {3,number,0} を再試行しています。{4,number,0} 秒後に {0} を更新します。

原因: Replicat が、RETRYOP オプションを伴う REPERROR に基づいて、エラーを引き起こした SQL 操作を再試行しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01025: REPLICAT タスクがマネージャ (ポート {0,number,0}) によって開始されました

原因: ターゲット上の Manager が、リモート・タスク Replicat を開始しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01026: リモート・ファイル {0} をロールオーバーしています。

原因: Extract が、現在のリモート・ファイルをクローズし、新しいファイルを開始しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01027: {0}

原因: Extract または Replicat で、リカバリ不能な障害が発生しました。

処置: このメッセージの詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01028: {0}

原因: Extract または Replicat で、リカバリ不能な障害が発生しました。

処置: このメッセージの詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01029: Extract 位置再指定エラー - {0}

原因: 証跡ファイル内の示されているポイントに位置指定を試みているときに、プロセスにエラーが発生しました。

処置: 示されているシーケンス番号と RBA が存在していることを確認し、必要に応じて有効なシーケンス番号と RBA を指定します。プロセスを再起動します。問題が継続する場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01030: 出力ファイル {0} のチェックポイントが見つかりませんでした

原因: リカバリ時に、Extract が、もう割り当て先でない証跡ファイルに遭遇しました。

処置: このプロセスの正しい証跡を指定し、DELETE EXTTRAIL または DELETE RMTTRAIL コマンドを使用して、不正確な証跡ファイルを削除します。

OGG-01031: ネットワーク通信に問題があるか、リモート・ファイルに問題があるか、ターゲットとソースの暗号キーが一致しないか (ENCRYPT を使用している場合)、または不明なエラーがあります。(受け取った応答は {0})

原因: Extract が、データをターゲットに送信できませんでした。

処置: ソースとターゲット・システム間のネットワークが停止していないか確認してください。RMTHOST 上の MGRPORT が、リモート Manager のパラメータ・ファイル内のものと一致することを確認してください。ターゲット・システム上で、Manager または Collector プロセスが実行されていないことを示すエラーや、リモート証跡に書き込む権限が Collector にないというエラーが発生していないか確認してください。ENCRYPT オプションが RMTHOST または RMTHOSTOPTIONS パラメータとともに指定されている場合、暗号化エラーを確認します: これは、ソースから送信された暗号化キーがターゲット上の ENCKEYS ファイル内のキーと一致しないか、ターゲット上のキーまたは ENCKEYS ファイルが存在しないことを示している可能性があります。

OGG-01032: ネットワーク通信に問題があるか、リモート・ファイルに問題があるか、ターゲットとソースの暗号キーが一致しないか (ENCRYPT を使用している場合)、または不明なエラーがあります。長さは {1,number,0} - {0}

原因: Extract が、データをターゲットに送信できませんでした。

処置: ソースとターゲット・システム間のネットワークが停止していないか確認してください。RMTHOST 上の MGRPORT が、リモート Manager のパラメータ・ファイル内のものと一致することを確認してください。ターゲット・システム上で、Manager または Collector プロセスが実行されていないことを示すエラーや、リモート証跡に書き込む権限が Collector にないというエラーが発生

していないか確認してください。ENCRYPT オプションが RMTHOST または RMTHOSTOPTIONS パラメータとともに指定されている場合、暗号化エラーを確認します: これは、ソースから送信された暗号化キーがターゲット上の ENCKEYS ファイル内のキーと一致しないか、ターゲット上のキーまたは ENCKEYS ファイルが存在しないことを示している可能性があります。

OGG-01033: ネットワーク通信に問題があるか、リモート・ファイルに問題があるか、ターゲットとソースの暗号キーが一致しないか (ENCRYPT を使用している場合)、または不明なエラーがあります。(使用されているリモート・ファイルは {0}、受け取った応答は {1})

原因: Extract が、データをターゲットに送信できませんでした。

処置: ソースとターゲット・システム間のネットワークが停止していないか確認してください。RMTHOST 上の MGRPORT が、リモート Manager のパラメータ・ファイル内のものと一致することを確認してください。ターゲット・システム上で、Manager または Collector プロセスが実行されていないことを示すエラーや、リモート証跡に書き込む権限が Collector がないというエラーが発生していないか確認してください。ENCRYPT オプションが RMTHOST または RMTHOSTOPTIONS パラメータとともに指定されている場合、暗号化エラーを確認します: これは、ソースから送信された暗号化キーがターゲット上の ENCKEYS ファイル内のキーと一致しないか、ターゲット上のキーまたは ENCKEYS ファイルが存在しないことを示している可能性があります。

OGG-01034: ネットワーク通信に問題があるか、リモート・ファイルに問題があるか、ターゲットとソースの暗号キーが一致しないか (ENCRYPT を使用している場合)、または不明なエラーがあります。(使用されたリモート・ファイルは {0})

原因: Extract が、データをターゲットに送信できませんでした。

処置: ソースとターゲット・システム間のネットワークが停止していないか確認してください。RMTHOST 上の MGRPORT が、リモート Manager のパラメータ・ファイル内のものと一致することを確認してください。ターゲット・システム上で、Manager または Collector プロセスが実行されていないことを示すエラーや、リモート証跡に書き込む権限が Collector がないというエラーが発生していないか確認してください。ENCRYPT オプションが RMTHOST または RMTHOSTOPTIONS パラメータとともに指定されている場合、暗号化エラーを確認します: これは、ソースから送信された暗号化キーがターゲット上の ENCKEYS ファイル内のキーと一致しないか、ターゲット上のキーまたは ENCKEYS ファイルが存在しないことを示している可能性があります。

OGG-01035: ファイル {0} は既に存在し、ページは指定されていません。

原因: PURGE オプションが RMTFILE パラメータとともに使用されていない限り、プロセスは既存ファイルに書き込みません。

処置: PURGE オプションを追加して、プロセスを再起動してください。

OGG-01037: 予期しない表からのフェッチ・エラー - {0,number,0}

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01038: キー列がないため、表 {0} から必要なデータをフェッチできません。

原因: 表でキーが定義されていないため、行データを表からフェッチすることができませんでした。

処置: TABLE 文の KEYCOLS 句で、キーを定義するか一意の列を指定します。

OGG-01039: mergeFetchedCols() が、表からフェッチした結果をマージできませんでした

原因: Extract は、トランザクション・ログから取得した行データに、フェッチしたデータをマージできませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01040: 表 {0} 上でフェッチを準備できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01041: 定義済キー列がないため、表 {0} 上でフェッチを準備できませんでした。KEYCOLS を使用します。

原因: 表でキーが定義されていないため、行データを表からフェッチすることができませんでした。

処置: TABLE 文の KEYCOLS 句で、キーを定義するか一意の列を指定します。

OGG-01042: 無効なトークン長。予期: {0,number,0}、取得: {1,number,0}

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01043: フェッチ時に終了。結果 = {1}({2,number,0}) (表: '{0}')

原因: プロセスは列データのフェッチに失敗しました。

REFETCHEDCOLOPTIONS パラメータによって ABEND アクションが指定されています。

処置: なし。これは、ABEND の予期される結果です。

OGG-01044: '{1}' を抽出する証跡 '{0}' が割り当てられていません。コマンド「ADD EXTTRAIL/RMTTRAIL {0}, EXTRACT {2}」を使用して、証跡を Extract に割り当てます。

原因: Extract パラメータ・ファイル内の EXTTRAIL または RMTTRAIL パラメータで証跡が指定されていますが、証跡を Extract プロセスにリンクするのに必要なコマンドが発行されませんでした。

処置: GGSCI で、ADD EXTTRAIL または ADD RMTTRAIL コマンドを発行してください。

OGG-01045: ターゲット・ファイル {0} をリカバリしているサーバーからの、認識できない応答。RBA {1,number,0}

原因: Server(Collector) プロセスから送信された応答から値を読み取るときに、Extract で解析エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01046: ターゲットが追加回復モードをサポートしていません。ファイル {0} 内のリカバリ・モードに上書きして復帰中。RBA {1,number,0}

原因: Extract のバージョンより古いバージョンの Server(Collector) で、証跡またはファイルに対する APPEND モードをサポートしていません。これはただの警告です。Extract が、この状況を自動的に処理します。

処置: なし

OGG-01048: ターゲット・ファイル {0} のリカバリ中にサーバー・エラーが発生しました。RBA {1,number,0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01049: ターゲット・ファイル {1} で無効なサーバー・リターン・コード ({0,number,0})、RBA {2,number,0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01051: ユーザーの要求により上書きリカバリ・モードに復帰中 ...

原因: リカバリ・メソッド (RECOVERYOPTIONS パラメータで制御) が、デフォルトの追加モードから上書きモードに変更されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01052: ターゲット・ファイル {0} にリカバリは不要です。RBA {1,number,0} (ファイルが開かれていない)

原因: リカバリする証跡が存在しません。

処置: なし

OGG-01053: ターゲット・ファイル {0} のリカバリが完了しました。RBA {1,number,0}

原因: Extract がリカバリを完了しました。

処置: なし

OGG-01054: ターゲット・ファイル {0} のリカバリが完了しました。RBA {1,number,0}、CSN {2}

原因: Extract がリカバリを完了しました。

処置: なし

OGG-01055: ターゲット・ファイル {0} のリカバリ初期化が完了しました。RBA {1,number,0}

原因: リカバリの初期化フェーズが完了しました。証跡のスキャンされた部分にトランザクションがありませんでした。おそらく Extract がアクティブになっていません。

処置: なし

OGG-01056: ターゲット・ファイル {0} のリカバリ初期化が完了しました。RBA {1,number,0}、CSN {2}

原因: リカバリの初期化フェーズが完了し、証跡のスキャンされた部分にトランザクションが検出されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01057: すべてのターゲットに対してリカバリが完了しました。

原因: Extract が、ターゲットすべてを正常にリカバリしました。

処置: なし

OGG-01058: ターゲット・ファイル {0} で、空のコミット・シーケンス番号 (CSN) が検出されました。RBA {1,number,0}

原因: Extract と Server(Collector) の間の通信で、不整合が発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01059: ターゲット・ファイル {0} で、無効なコミット・シーケンス番号 (CSN) が検出されました。RBA {1,number,0}

原因: Extract と Server(Collector) の間の通信で、不整合が発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01060: リカバリ時にデータ・ソースから CSN を取得できませんでした。

原因: Extract リカバリの際、現在の CSN 読取りポイントをトランザクション・ログから検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01061: リカバリにおけるデータ・ソースからの無効な CSN 値長 {0,number,0}

原因: トランザクション・レコードの中の現在の CSN 長が無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01062: リカバリにおける、証跡 {0} に対する無効な最終 CSN 値長 {1,number,0}

原因: 最後に完了したトランザクションの CSN 長が無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01063: 現在の CSN 値長 {1,number,0} が最終 CSN 値長 {2,number,0} と異なります。リカバリ時の証跡 {0}

原因: 現在の CSN 長が、最後に完了したトランザクションの CSN 長と一致しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01064: {5}: バッファ・オーバーフロー、必要な値: {1,number,0}、割り当てられた値: {0,number,0}、証跡 {2}、Seqno {3,number,0}、RBA {4,number,0}

原因: メモリー内の CSN、トランザクション ID またはトランザクション ID リストを更新中に、プロセスが、この情報に対する十分な領域がバッファにないと判断しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01065: レコードに CSN トークンがありません。証跡 {0}、Seqno {1,number,0}、RBA {2,number,0}

原因: 証跡レコードに CSN がありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01066: 証跡ファイル {0} からの入力レコード、Seqno {1,number,0}、RBA {2,number,0} に、CSN {3} はありますが、トランザクション ID はありません。

原因: 証跡レコードにトランザクション ID がありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01067: ターゲット・ファイル {0} で、空のトランザクション ID が検出されました。RBA {1,number,0}

原因: 証跡レコードのトランザクション ID が空です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01068: ターゲット・ファイル {0} で、無効のトランザクション ID が検出されました。RBA {1,number,0}

原因: 証跡レコードのトランザクション ID が無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01069: ターゲット・ファイル {0} のリカバリ時に tran ID リスト・サイズを上回りました。RBA {1,number,0}

原因: 現在の CSN に対して保守されているトランザクション ID リストへのトランザクション ID の追加中に、これ以上トランザクション ID を追加するための容量が残っていないことをプロセスが検出しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01070: ターゲット・ファイル {0} のしきい値ステータス・ワードを変換できません。RBA {1,number,0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01071: {0} は、格納されているデータでは使用できません

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01072: {2} : バッファ・オーバーフロー、必要な値 : {1,number,0}、割り当てられた値 : {0,number,0}

原因: 変数値が、実行時に割り当てられた内部バッファに適合しませんでした。これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01073: {1} : 配列オーバーフロー、{0,number,0} 最大エントリ数

原因: XML メッセージの配列要素が、定義されている上限を上回りました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01074: 無効な case 文、{1} の値 {0,number,0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01075: 表が SOURCEDEFS ファイル経由で追加された場合、表オブジェクト ID を使用して表エントリを参照することはできません。

原因: 定義ファイルにより、正しい表名の解決ができません。DB2 LUW のログ・レコードでは、表領域 ID と表オブジェクト ID のみ提供されます。TABLE パラメータで提供されたとおりに実際の所有者と表名を解決することを可能にするため、Extract は表領域 ID とオブジェクト ID をデータベース・カタログで参照します。ID は、ODBC 問合せで、システムのカatalog表に対して表名を取得するために使用されます。入力として SOURCEDEFS または TARGETDEFS ファイルが使用される場合、この処理は不可能です。

処置: SOURCEDEFS または TARGETDEFS パラメータを削除してください。

OGG-01076: 表がターゲット表定義の場合、表オブジェクト ID を使用して表エントリを参照することはできません。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01077: ファイルのクローズ・エラー。ハンドル: 0x {0}、エラー: {1,number,0} - {2}

原因: ファイルのクローズを試みて、オペレーティング・システム・エラーが戻されました。

処置: ローカルファイル・システムでエラーを確認してください。

OGG-01078: fork() {0,number,0} の後のファイル・クローズ時の fcntl 障害 - {1,number,0}: {2}

原因: Manager が新しい Extract または Replicat プロセスを開始しましたが、オープンされている未使用のファイル・ハンドルをクローズして、オープンされているファイル・ハンドルの数を減少させることができませんでした。

処置: ホスト・システムにファイル・ハンドル不足が発生していないか確認してください。この警告が解消されない場合、Manager と、すべての Extract プロセスおよび Replicat プロセスを再起動してください。

OGG-01079: 列 {0,number,0} のデータが {2,number,0} バイトあり、最大値 {1,number,0} バイトを上回っています。ユーザー・イグジットのために列データが切り捨てられました。

原因: 示されている列のデータが、ユーザー・イグジットにより許容されているサイズを上回っています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01080: SP {0} 列 {1} が、最大バッファ・サイズの {2,number,0} バイトに近づいています。

原因: プロセスが、SQLEXEC パラメータの PARAMBUFSIZE で設定されている最大バッファ・サイズに近づいています。このバッファに、入出力パラメータが格納されます。

処置: プロセスを停止し、バッファ・サイズを増やして、プロセスを再起動してください。

OGG-01081: SP {0} 列 {1} が、最大バッファ・サイズの {2,number,0} バイトを超過しました。

原因: SQLEXEC 入出力パラメータが、SQLEXEC パラメータの PARAMBUFSIZE で設定されている最大バッファ・サイズを上回りました。

処置: プロセスを停止し、バッファ・サイズを増やして、プロセスを再起動してください。

OGG-01082: {2} からの {0} 関数コールが失敗しました。リターン・コード {1,number,0}

原因: API エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01083: {1} からの {0} 関数コールが失敗しました。リターン・コード {2,number,0} ({3})

原因: オペレーティング・システムで提供されている API へのコールが失敗しました。

処置: オペレーティング・システムに原因となる問題がないか確認して、問題を解決するか、システム管理者にお問い合せください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01084: WIN32 API CALL {0} がに失敗しました。{1,number,0} ({2})

原因: オペレーティング・システムで提供されている API へのコールが失敗しました。

処置: オペレーティング・システムに原因となる問題がないか確認して、問題を解決するか、システム管理者にお問い合せください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01085: {0} がウィンドウ・クローズ・イベントを受け取りました。

原因: GGSCI から STOP コマンドを発行する代わりに、コンソール・ウィンドウをクローズすることによって、ユーザーがインタラクティブ・プロセスを終了しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01086: {0} がシステム・シャットダウン・イベントを受け取りました

原因: インタラクティブ・プロセスが、GGSCI からの STOP コマンドでなく、システム・シャットダウンによって終了しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01087: {0} がユーザー・ログオフ・イベントを受け取りました

原因: ログオンしているユーザーが、Windows デスクトップ・セッションを終了しました。このメッセージは、Oracle GoldenGate が、Windows サービスを実行するように構成されている場合にのみ発生する、情報提供目的のメッセージです。

処置: なし

OGG-01088: メモリー不足状態になりました。{2} が {0} を使用して {1,number} バイト割り当てようとしています。{3,choice,0#|1# プロセスは {3,number} KB の物理メモリーを使用しています。} {4,choice,0#|1# プロセスは {4,number} KB の仮想メモリーを使用しています。}

原因: ホスト・システムからメモリーを割り当てられませんでした。

処置: システムにメモリー不足が発生していないか確認してください。一部のオペレーティング・システムでは、このメッセージに続いて、トラブルシューティングの助けになる詳細なメモリー使用情報レポートが提供されます。

OGG-01089: ディレクトリ {0} は存在しません。

原因: TRANSMEMORY で指定されたディレクトリが存在しません。

処置: 異なるディレクトリを指定するか、ファイル・システムに破損がないか確認してください。

OGG-01090: ディレクトリ "{0}" を作成できません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: 示されているディレクトリを作成できませんでした。パスが存在しないか、ディスクが一杯です。

処置: ディスクが一杯でない場合は、有効なディレクトリ名を指定します。

OGG-01091: ファイル "{0}" を開けません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているファイルを開けませんでした。

処置: Oracle GoldenGate ユーザーがファイルを開いて書き込む権限を持っていることを確認してください。

OGG-01092: ファイル "{0}" をロックできません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているファイルをロックできませんでした。

処置: このファイルがもう一つのプロセスによってロックされているかどうかを判断し、ロックされている場合、他のプロセスがこのファイルにアクセスすると想定されているかどうか判断します。Oracle GoldenGate の構成を確認して、ファイルの仕様にエラーがあればすべて修正します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01093: ファイル "{0}" を削除できません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているファイルを削除できませんでした。

処置: プロセスがファイルを削除する権限を持っていることを確認してください。

OGG-01094: ファイル "{0}" を削除できません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているファイルを削除できませんでした。

処置: プロセスがファイルを削除する権限を持っていることを確認してください。

OGG-01095: ファイル "{0}" をリダイレクトできません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、出力ファイルにリダイレクトできませんでした。

処置: プロセスがリダイレクトする権限を持っていたことを確認してください。

OGG-01096: ファイル "{0}" に書き込めません。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、オープンされているファイルに書き込む際に、エラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのエラー・ログで、関係のあるエラーを確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01097: "{0}" を同期できませんでした。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスが、示されているファイルをディスクと同期できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラー・ログで、関係のあるエラーを確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01098: "{0}" をフラッシュできませんでした。(エラー {1,number,0}, {2})

原因: プロセスがファイルのフラッシュを試みた際に、示されているオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01099: 関数 {1}、引数 {0} は NULL にできません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01100: リカバリできない XML 構成エラー

原因: XML ドキュメントを解析中に、ライブラリ・エラーが発生しました。

処置: ライブラリによって発行されたメッセージを確認してください。他のメッセージに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01101: XML ノードからの IPC メッセージを作成できません。

原因: XML メッセージを作成中に、ライブラリ・エラーが発生しました。

処置: XML プロセッサによって発行されたメッセージを確認してください。他のメッセージに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01102: エラー {0,number,0} - ({1})

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01103: xml msg の err プロパティがありません。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01104: 不明なリモート・プログラム {0} 起動エラー

原因: Oracle GoldenGate Veridata Server がエージェント・プロセスを開始しようとして、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01105: リモート・プログラム {0} の開始エラー。({1} {2})

原因: Oracle GoldenGate Veridata Server がリモート・エージェントを開始できません。

処置: メッセージ・テキストで提供される指示に従ってください。Oracle GoldenGate のリモート・インストールのエラー・ログも参照して、その他のトラブルシューティング情報がないか確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01106: IPC_client_writeread がプログラム {0} の開始に失敗しました。({1,number,0}, {2})

原因: Oracle GoldenGate Veridata Server がリモート・エージェントを開始できません。

処置: メッセージ・テキストで提供される指示に従ってください。Oracle GoldenGate のリモート・インストールのエラー・ログも参照して、その他のトラブルシューティング情報がないか確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01107: IPC_client_open が Manager へのポートを開けませんでした ({0,number,0}, {1})

原因: Veridata サーバーが、リモート Manager 経由で接続できていません。

処置: リモート Manager が実行中であり、Oracle GoldenGate Veridata 構成の中で、リモート Manager のポートとホストが正しく指定されていることを確認してください。メッセージ・テキストで提供される指示に従って問題を解決してください。Oracle GoldenGate のリモート・インストールのエラー・ログも参照して、その他のトラブルシューティング情報がないか確認してください。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01108: IPC メッセージの解凍エラー ({1}、complen={0,number,0})

原因: IPC メッセージを解凍できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01109: IPC メッセージの圧縮エラー ({1}、inlen={0,number,0})

原因: IPC メッセージを圧縮できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01110: 定義の不一致: 列 {1,number,0} {0}、定義されている長さ {2,number,0}、実際の長さ {3,number,0}

原因: 示されている列のデータの実際の長さが、表定義で指定されている長さと異なります。

処置: なし

OGG-01111: 列レベルの ASCII/EBCDIC 変換は、現在サポートされていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01112: 予期していない条件: {0}、行 {1,number,0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01113: 予期していない条件: {0}、行 {1,number,0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01114: 無効な応答 ({0})

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01115: 関数 {0} は実装されていません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01116: マーカー・フラグメントと現在のフラグメントが同期していません。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01117: 受信したシグナル: {1}({0,number,0})

原因: Oracle GoldenGate が、処理を続行できないことを示すシグナルをオペレーティング・システムから受け取りました。シグナルは、アプリケーション・エラーにより内部的に受信されるか、または他の手段により外部的に受信されます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01118: 未処理の例外 0x {0}。位置: {1}

原因: Oracle GoldenGate で、リカバリできない処理例外が発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01119: XML エラー: {0}

原因: Oracle GoldenGate Veridata XML プロセッサでエラーが発生しました。原因はメッセージで報告されます。

処置: メッセージに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01120: XML 解析エラー: 行 ({0,number,0}) ({1})、理由 {2}

原因: Oracle GoldenGate Veridata XML プロセッサでエラーが戻されました。

処置: メッセージから原因と解決を特定できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01121: XML 解析エラー

原因: Oracle GoldenGate Veridata XML プロセッサでエラーが戻されました。

処置: メッセージから原因と解決を特定できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01122: モジュール {0} のオープン・エラー - {1}

原因: Extract が、ダイナミック・リンクされているライブラリ・モジュールをオープンしようとして、エラーが発生しました。

処置: ライブラリが存在し、その場所が正しく指定されていることを確認してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01123: {0} からの関数 {1} のロード・エラー - {2}

原因: Extract が、ダイナミック・リンクされているライブラリ・モジュールで、エクスポートされている関数にリンクしようとして、エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01124: {0} への許可されていないアクセス (CMDSEC)

原因: プログラムが、CMDSEC(コマンド・セキュリティ) ファイルの読取りを許可されていません。

処置: 読取りアクセスは必要に応じて付与してかまいませんが、書込みアクセスと削除アクセスは、Oracle GoldenGate Administrators にのみ許可することをお勧めします。

OGG-01125: CMDSEC での *ERROR*: {0}

原因: 示されているエラーが、CMDSEC(コマンド・セキュリティ) ファイルに記載されています。

処置: エラーを修正し、プロセスを再起動してください。

OGG-01126: ユーザー・イグジット要求により異常終了しています。

原因: ユーザー・イグジットの指示により、プロセスが異常終了しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01127: cuserexit param PASSTHRU は {0} とともに使用できません。

原因: CUSEREXIT パラメータに含まれている PASSTHRU オプションは、示されているパラメータとともに使用できません。

処置: PASSTHRU オプションを削除するか、示されているパラメータを使用しないようにします(レプリケーション要件による)。

OGG-01128: cuserexit param PASSTHRU は、Extract ポンプとともにのみ使用できます。

原因: プライマリ Extract プロセスまたは Replicat プロセスのパラメータ・ファイルに、PASSTHRU オプションを伴う CUSEREXIT パラメータが含まれています。PASSTHRU は、データ・ポンプ Extract でのみ有効です。

処置: PASSTHRU オプションを削除して、プロセスを再起動してください。

OGG-01129: NSort エラー {0,number,0} - {1}

原因: Nsort ソーティング関数が、示されているエラーにより失敗しました。

処置: Nsort エラー・メッセージに従って問題を修正してください。

OGG-01130: NSort 関数 {0} が {1,number,0} によって失敗しました - {2}

原因: Nsort ソーティング関数が、示されているエラーにより失敗しました。

処置: Nsort エラー・メッセージに従って問題を修正してください。

OGG-01131: キュー・ファイル {0} の読取りエラー {2,number,0}。rba {1,number,0} ({3})

原因: プロセスが、示されているファイルを読み取ろうとした際に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーを解決し、プロセスを再起動してください。

OGG-01132: キュー・ファイル {0} の、rba {1,number,0} への位置指定エラー {2,number,0} ({3})

原因: プロセスが、証跡ファイル内で位置指定できません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01134: 実行可能ファイル '{0}' がありません。

原因: Oracle GoldenGate 実行可能ファイルがインストール・ディレクトリに存在しません。

処置: Oracle GoldenGate インストール・ディレクトリから削除されたファイルがないか確認してください。Oracle GoldenGate ソフトウェアを修復するか、再インストールしてください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01135: fork() が、新しいプロセスの作成に失敗しました。

原因: Oracle GoldenGate プロセスを開始できませんでした。

処置: リソース不足が発生していないか、オペレーティング・システム・ログを確認してください。

OGG-01136: 子プロセスがもう稼働していません。

原因: Oracle GoldenGate プロセスが、正常に開始された直後に終了しました。

処置: リソース不足が発生していないか、オペレーティング・システム・ログを確認してください。

OGG-01137: BATCHSQL が一時停止しました。通常モードで続行します。

原因: Replicat は、バッチ・モードを一時停止し、GROUPTRANSOPS トランザクション境界の範囲内で、通常モードで例外を適用しようとしています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01139: BATCHSQL が再開されました。エラーから回復します。

原因: Replicat パラメータ・ファイルに、BATCHERRORMODE オプションを伴う BATCHSQL パラメータが含まれています。Replicat は、バッチ・モードのまま、エラーから回復しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01142: 無効なフォーマット・タイプ 0x{0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01143: 表 {0} のキー更新に更新前イメージがありません。

原因: 主キーが更新されましたが、OracleREDO ログ・レコードに更新前イメージがありません。この表のサブリメンタル・ロギングが、データの取得開始前には有効になっていませんでした。

処置: まず、データベース・レベルのサブリメンタル・ロギングが有効になっていることを確認してください。次に、Extract ラグが最小限に保たれるように、次の手順を間を空けずに実行します: Extract を停止し、次に TABLE パラメータから表を削除し、続いて Extract を再起動します。次に表に対して ADD TRANDATA を発行します。表のアクティビティを停止し、ターゲットと再同期します。Extract を停止し、表を TABLE パラメータに再追加します。Extract を開始し、表のユーザー・アクティビティを有効にします。

OGG-01144: ソース 16 進文字列データの、ネイティブの浮動小数点フォーマットへのマッピング・エラー。列: [{0}], 入力: [{1}]

原因: 示されている列を、16 進文字列からネイティブの浮動小数点数に変換しているときに、エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01145: {0}

原因: 列のマッピング時に内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、より下位レベルの関数とその変数によって生成されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01146: {0}

原因: 列のマッピング時に内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、より下位レベルの関数とその変数によって生成されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01147: {0}

原因: 列のマッピング時に内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、より下位レベルの関数とその変数によって生成されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01148: {0}

原因: 列のマッピング時に内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、より下位レベルの関数とその変数によって生成されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01149: 無効な時間書式 {0}

原因: マッピングの仕様に、無効な時間書式が含まれています。

処置: 正しい書式を決定するには、Oracle GoldenGate リファレンス・ドキュメントの、正しくない書式を含むパラメータまたは関数に関する情報を参照してください。

OGG-01150: 無効なタイムスタンプ/日時書式 {0}

原因: マッピングの仕様に、無効なタイムスタンプまたは日時の書式が含まれています。

処置: 正しい書式を決定するには、Oracle GoldenGate リファレンス・ドキュメントの、正しくない書式を含むパラメータまたは関数に関する情報を参照してください。

OGG-01151: {0} から {1} へのマッピング・エラー

原因: 指定されたソース表とターゲット表のマッピングが失敗しました。

処置: 障害の詳細を説明し、独自に問題を解決する助けになる、その他の関連メッセージを参照してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01152: {0} ({1}) がマップされていません。

原因: 指定されたソース表とターゲット表のマッピングが失敗しました。

処置: 障害の詳細を説明し、独自に問題を解決する助けになる、その他の関連メッセージを参照してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01154: {0} から {1} へのマッピング時の SQL エラー {2,number,0}。 {3}

原因: 示されているソース表を示されているターゲット表にマッピングする際に、示されている SQL エラーが発生しました。

処置: Replicat パラメータ・ファイルで指定されている他のパラメータ・オプションによっては、Replicat がエラーの処理を試みて成功し、処理を続行する場合があります。エラーを処理できない場合、プロセスが失敗してエラー・メッセージを表示することが、予期される動作です。

OGG-01155: フィルタが渡されませんでした : {0} から {1} へのマッピング時のユーザー・エラー {2,number,0}

原因: FILTER 句の構文上で、示されているソースとターゲットのマッピングに関して、示されているエラーが発生しました。

処置: エラー・コードに基づいて構文を修正し、プロセスを再起動してください。FILTER ルールの詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントで、TABLE および MAP パラメータに関する説明を参照してください。

OGG-01157: {0} に関する WHERE 句エラー

原因: TABLE 文または MAP 文の WHERE 句に構文エラーがありました。

処置: 構文エラーを修正してください。TABLE と MAP の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01158: タイムスタンプが範囲外です : {0,number,0}

原因: タイムスタンプ値の変換で、内部エラーがありました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01159: 値 ({0}) は列の最小値を上回っています。

原因: 結果の負値を、指定された領域で表現できないため、数値の変換が失敗しました。

処置: 指定されている値を修正してください。

OGG-01160: 値 ({0}) は列の最大値を上回っています。

原因: 結果の正値を、指定された領域で表現できないため、数値の変換が失敗しました。

処置: 指定されている値を修正してください。

OGG-01161: 表 {0} に対して不正な列索引 ({2,number,0}) が指定されました。最大列数 = {1,number,0}

原因: Oracle GoldenGate で、予期範囲外にある列の序数への参照が発生しました。

処置: 示されている表の定義が正しく、示されている表に対する MAP 文が正確であることを確認してください。

OGG-01162: 表 {0} に対して指定されている総データ長 ({2,number,0}) がレコード長 ({1,number,0}) を上回っています。

原因: 証跡ファイル・データの変換で、内部エラーがありました。バッファ・オーバーフローが検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01163: 表 {0} の列 {1} に対して不正な列長 ({3,number,0}) が指定されました。可能な最大長は {2,number,0} です。

原因: 証跡ファイル・データの変換で、内部エラーがありました。バッファ・オーバーフローが検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01164: 表 {0} の列索引 ({1,number,0}) が順序どおりになっていません。最後の列索引 = {2,number,0}

原因: 証跡ファイル・データの変換で、内部エラーがありました。列が順番どおりになっていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01165: レコード長が許される最大レコード長を上回っています。

原因: 証跡レコードの構成中に、内部エラーが発生しました。構成されたレコードが、最大許容レコード長を上回っています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01166: ETOLDFORMAT を使用する場合、32KB より大きなレコードはサポートされません。現在のレコードは {0,number,0} バイトです。

原因: Extract パラメータ・ファイルに、ETOLDFORMAT パラメータが含まれています。このパラメータが使用される場合、証跡ファイルでは 32KB より大きいレコードがサポートされません。

処置: ETOLDFORMAT パラメータは、ターゲット Replicat が Oracle GoldenGate リリース 6.0 より古い場合のみ使用してください。これを引き続き使用するには、大きなサイズのレコードを生成する表を削除します。それ以外の場合、Replicat をアップグレードすることで、ETOLDFORMAT が不要になります。

OGG-01167: 古いフォーマットのレコード・ヘッダーは、PASSTHRU モードでサポートされません。

原因: プライマリ Extract パラメータ・ファイルに ETOLDFORMAT パラメータが含まれていますが、PASSTHRU モードで構成された pump Extract が、古い証跡ヘッダー・フォーマットを読み取れません。

処置: 可能なら、データ・ポンプから PASSTHRU を削除します。他の方法として、プライマリ Extract パラメータ・ファイルでなく、データ・ポンプ・パラメータ・ファイルで ETOLDFORMAT を使用することができます。この場合、この変換が必要である Replicat バージョンをサポートするため、証跡は古いフォーマットに書き込まれます。

OGG-01168: 一意のキーが定義されていないターゲット表 {0} の更新に遭遇しました。KEYCOLS を使用してキーを定義できます。ALLOWNOOPUPDATES を使用して、更新を、ターゲット・データベースに適用せずに処理してください。APPLYNOOPUPDATES を使用して、SET 句と WHERE 句の両方で、すべての列を使用して更新を強制的に適用します。

原因: Replicat は行選択用の一意キーを使用してレコードを適用しようとしたが、一致しているキーがターゲット表に存在しません。

処置: ソース表とターゲット表に同一のキー列がある場合、ソースの TABLE パラメータとターゲットの MAP パラメータで、同一の KEYCOLS 句を使用してください。KEYCOLS の詳細については、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。ALLOWNOOPUPDATES と APPLYNOOPUPDATES の詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01169: ターゲット表 {0} に対してすべてのキー列が存在しているわけではないのに、更新に遭遇しました

原因: Replicat は、ソース表の特定のキーを使用することによりレコードを適用しようとしたが、一致しているキー列の一部もしくは全部が、ターゲット表に存在しません。

処置: ソース表とターゲット表に同一のキー列がある場合、ソースの TABLE パラメータとターゲットの MAP パラメータで、同一の KEYCOLS 句を使用してください。KEYCOLS の詳細については、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。Replicat がそのような操作をスキップしたり、証跡レコードで使用できるあらゆるデータを使用してそれを挿入に変換したりする方法の詳細は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01170: 廃棄レコードの最大数を超過しました。異常終了します。

原因: MAXDISCARDRECS パラメータで指定されている廃棄レコードの最大数を超過しました。

処置: 新しい内容が書き込まれる場合、DISCARDFILE パラメータの PURGE オプションを使用して内容をページできます。別の方法としては、DISCARDFILE パラメータを使用して異なる廃棄ファイルを指定し、プロセスを再起動してください。これにより、古い廃棄ファイルがそのまま維持されます。

OGG-01171: MBU レコードの処理に失敗しました。

原因: Extract が、複数ブロック UNDO レコードをリンクできませんでした。

処置: サプリメンタル・ロギングが有効になっていることを確認してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle GoldenGate の構成から表を削除します。

OGG-01172: ファイル ({0}) を廃棄します。最大バイト数を超過しました。 ({1,number,0})

原因: DISCARDFILE パラメータで指定されている廃棄ファイルのサイズが、MAXBYTES オプションで許容されているサイズを上回りました。

処置: DISCARDFILE のデフォルト、最低限、最大サイズ値、およびページ・オプションについては、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01173: 列 {0} に対する数値マッピング・エラー (入力値 [{1}])

原因: 示されている値を、数値列に合わせて変換できませんでした。

処置: MAP 文で、マッピングにおいて、それらの列で変換がサポートされていることを確認してください。詳細は、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01174: 列 {0} で、予期していない非数値に遭遇しました。

原因: 示されている数値列に、非数値データが含まれています。

処置: 比較対象として指定されているソース表とターゲット表が同じスキーマを持っていることを確認してください。

OGG-01175: Enscribe auditcomp レコードから Column マップできません。

原因: Windows と UNIX では、Oracle GoldenGate は Enscribe auditcomp レコードをサポートしていません。

処置: NonStop システム上で、Extract の構成からこれらのレコード・タイプを削除します。

OGG-01176: データを ascii 書式に変換する際のエラー

原因: データを ASCII 書式に変換できませんでした。

処置: 表または列を Oracle GoldenGate 構成から除外してください。

OGG-01177: {0} で古いレコード・バージョンに遭遇しました。{1}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01178: {0} で新しいレコード・バージョンに遭遇しました。データがない可能性があります。{1}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01179: 一致しないレコード・バージョン/不正データ。{0} {1}

原因: 証跡に、不完全なレコードが含まれています。前回アクティブだった Extract グループが削除、再作成され、前と同じ証跡名にリンクされた可能性があります。新しい Extract が、証跡の最初のファイルの先頭への書き込みを開始しました。そのため、古いグループによって書き込まれたデータが、新しいデータにより上書きされました。レコード長が異なるため、新しいデータはレコード・ヘッダーを上書きし、1 つ以上の不完全なレコードが発生しました。Replicat は、レコードがヘッダーから始まると予期し、そうでなかった場合は異常終了します。

処置: 1 つの Extract グループのパラメータ・ファイルが 2 番目のグループのベースとしてコピーされたのに、2 番目のグループの証跡名が未変更でないか確認してください。その場合、失われたか破損したデータがあるため、もう一度やり直すのが最良の解決法です。そのためには、古い証跡ファイルをバックアップし、Extract グループと証跡を削除して再作成し、新しい Replicat グループを作成します。その後で、データを再同期します。サポート・ケースを開く必要がある場合に備え、生成される debug509.txt ファイルはすべて保存しておいてください。Oracle GoldenGate リリース 10.0 以上には RECOVERYOPTIONS パラメータがあり、これも、証跡への Extract の書き込みのリカバリ方法に影響を及ぼす可能性があります。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照。

OGG-01180: LOB チャンクが短すぎます。({0,number,0} バイト)、最小長: {1,number,0} バイト

原因: 証跡ファイルの LOB チャンクのサイズが小さすぎます。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01181: LOB チャンク・ヘッダーのサイズは {0,number,0} バイトでなければなりません。

原因: 証跡ファイルの LOB チャンクのサイズが無効です。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01182: 抽出ファイル {0}、rba {1,number,0} のレコード・ヘッダーから io_type プロパティを取得できません

原因: 証跡レコード・ヘッダーに I/O タイプが含まれていません。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01183: レコードの合計長は {1,number,0} で、許可された最大長は {0,number,0} です

原因: 証跡レコードの長さが長すぎます。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01184: RBA {2,number,0} のレコード・トレーラ・トークンの読取り中、証跡 {0}、順序番号 {1,number,0} で、{3,number,0} バイト必要でしたが {4,number,0} バイト受け取りました

原因: 証跡レコードの実際の長さが長さフィールドと異なっています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。証跡ファイルが破損している可能性があります。

OGG-01185: RBA {2,number,0} の証跡 {0}、順序番号 {1,number,0} に、不正なトレーラ・トークンがありました

原因: 不正なトレーラ・トークンが見つかりました。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01186: RBA {2,number,0} の証跡 {0}、順序番号 {1,number,0} でレコード・トレーラ・トークンの読取り後、ファイルの開始の前に、示されているレコードの開始が発生します

原因: 証跡ファイルに無効なレコード位置が含まれています。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-00187: {0} に対して重複するエントリが検出され、定義をリロード中...

原因: 定義ファイル内で重複するエントリが検出されました。

処置: 定義ファイルを編集して、重複するエントリを削除します。

OGG-01188: {0} で短い再定義が検出されました、続行中...

原因: 定義ファイル内で短い Enscribe 再定義が検出されました。

処置: 定義ファイルを編集して、短い再定義エントリを削除します。

OGG-01189: 順序番号 ({0,number,0}) を受け取りました : {1,number,0} が必要です

原因: 初期ロード Replicat が、予期しない順序番号を検出しました。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01190: 数値以外のデータ順序番号 [{0}]

原因: 初期ロード Replicat が、数値以外の順序番号フィールドを検出しました。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01191: タイムスタンプを変換するブロック形式が正しくないか、または認識できません

原因: 初期ロード Replicat が、コミット・タイムスタンプ・データを変換できません。証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01192: LOB チャンク (表: '{0}') として書き込まれる可能性のあるデータ型に対して RMTTASK を使用しようとしています

原因: (リモート・タスクとして実行される) Oracle GoldenGate のダイレクト・ロード方法は、LOB、LONG、ユーザー定義型 (UDT)、またはサイズが 4K を超える他の大きなデータ型を含む列を持つ表をサポートしていません。

処置: これらの表をロードから除外します。

OGG-01193: 他のターゲット・ファイルまたは証跡が指定されている場合、リモート・タスクは使用できません

原因: Extract パラメータ・ファイルでは、Oracle GoldenGate ダイレクト・ロード用にリモート・タスクを構成する RMTTASK を指定していますが、証跡またはファイルをリモート・タスク Extract とリンクするために、証跡または

ファイルを追加する ADD コマンドが発行されたか、リモート・タスク Extract パラメータ・ファイルでローカルまたはリモートの証跡またはファイルが指定された可能性があります。ディスク記憶域がリモート・タスクに使用されないため、そのタスク用のターゲット Replicat は 1 つしかありません。証跡への書込みも行う同一の Extract から、リモート・タスクを実行することはできません。

処置: リモート・タスク Extract のパラメータ・ファイルから証跡またはファイルの指定を削除して、Extract とリンクしている証跡を削除します（または、これらのいずれか一方を行います）。また、リモート・タスク Extract が SPECIALRUN として追加されたこと、そのパラメータ・ファイルに証跡またはファイルの指定が含まれていないことを確認します。Oracle GoldenGate ダイレクト・ロードを構成するには、Oracle GoldenGate の管理者に関するドキュメントを参照してください。

OGG-01194: EXTRACT タスク {0} の異常終了: {1}

原因: 初期ロード Extract タスクが、指定されたエラーにより異常終了しました。

処置: 原因および実行すべき処理については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

OGG-01195: 無効なレスポンス・コードを受け取りました <0x{0} {1}>

原因: 初期ロード Extract が、無効な TCP/IP レスポンス・コードを受け取りました。

処置: ネットワーク接続がオープン状態で動作していることを確認します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01196: コマンドを認識できませんでした 0x{0}

原因: 初期ロード Extract が、認識できない TCP/IP コマンドを受け取りました。

処置: ネットワーク接続がオープン状態で動作していることを確認します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01197: コマンドを認識できませんでした <0x{0} {1}>

原因: 初期ロード Extract が、認識できない TCP/IP コマンドを受け取りました。

処置: ネットワーク接続がオープン状態で動作していることを確認します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01198: 不明なデータ型を受け取りました <0x{0} {1}>

原因: 初期ロード Extract が、認識できないデータ型を受け取りました。

処置: ネットワーク接続がオープン状態で動作していることを確認します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01199: REPLICAT（初期データ・ロード・タスク）が EXTRACT によって停止されました

原因: ロードが正常に完了した後、Extract が初期ロード Replicat を停止しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01200: ダイレクト・ロード・タスクの実行中に再配置先となる証跡がありません。

原因: ALTER REPLICAT が、配置オプション付きで発行された可能性があります。ダイレクト・ロード・タスクでは証跡を使用しません。

処置: ALTER REPLICAT がタスク Replicat ではなく変更同期 Replicat を対象としていたかどうか確認します。

OGG-01201: MGR によってエラーが報告されました: {0}

原因: 指定されたエラーが、Manager によって返されました。

処置: 報告されたエラー・メッセージに基づいて、問題を解決します。

OGG-01202: Manager との TCP/IP リンクが予期せず終了しました

原因: Extract とリモート Manager との接続が終了しました。

処置: リモート・ホストと Manager が現在も稼働していることを確認します。
ネットワークに関連するエラーの場合、ネットワーク診断ツールを使用して解決するか、ネットワーク管理者に連絡します。

OGG-01203: EXTRACT が異常終了しようとしています

原因: 初期ロード Replicat が失敗しました。

処置: 関連するエラーをプロセス・レポート・ファイルでチェックし、そのエラーに基づいて処理を実行します。

OGG-01204: 送信されたコマンドが受信プロセスによって認識されませんでした

原因: 初期ロード Replicat が、送信されたコマンドを認識しませんでした。
TCP/IP ネットワークに問題がある可能性があります。

処置: 関連するエラー・メッセージを Replicat レポート・ファイルでチェックし、それらに基づいて処理を実行します。

OGG-01205: 削除されるトランザクションは、リストにある現在のトランザクションではありません。現在: 0x{0}、指定: 0x{1}

原因: 削除されるトランザクションは、現在のトランザクションではありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01206: エラー (FMLARGEROW によって前回致命的エラーが返されました。

詳細はエラー・ログおよびレポート・ファイルをチェックしてください)

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01207: LOBROW に必要な一意の行識別子に指定される長さが 0 です

原因: 処理中の LOB の長さが 0 です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01208: 関数 {0} が失敗し、リターン・コード {1,number,0} が返されました: {2}

原因: これは、ファイル・メモリーに関する一般的なメッセージです。

処置: 関連する低レベルのエラー・メッセージをチェックし、それらのメッセージに基づいて問題を解決します。たとえば、それらはディスクの問題を報告する場合があります。問題を特定または解決することができない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01209: エラー (長さ 0 のブロックが列索引 ({0,number,0}) に追加されましたが、これが LOB 内に追加される最後のブロックであることは指示されていません)

原因: 列データに追加されるブロックが長さ 0 ですが、これは追加される最後のブロックではありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01210: エラー (列索引 ({0,number,0}) に、LOB マップ・エントリの列マッピング内のエントリが含まれていません

原因: 列データにブロックを追加しようとしているときに、指定された列がマッピングされていないとプロセスが判定しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01211: チャンクを挿入する LOB 行が無効です

原因: LOB 行の処理中に内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01212: プログラミング・エラー - LOB チャンクのサイズ ({0,number,0}) が許可されている最大値 ({1,number,0}) を超過しています

原因: LOB チャンクのサイズが許可されている最大値を超過しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01213: LOB 列のメモリー構造割当て中に予期しないエラーが発生しました

原因: LOB チャンクのメモリーへの格納中に、トランザクション情報の欠落をプロセスが検出しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01214: 最も古い未コミット・トランザクションに tran_hdr データがありません

原因: トランザクションにヘッダーが含まれていません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01216: メモリー設定 (INITTRANSRAM = {0,number,0} バイト) を変更することなく、新しいトランザクションにさらにメモリーを割り当てることができません

原因: Cache Object Manager の初期化中に、内部メモリー割当てエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01217: TCP/IP プロセス名が許可された最大長を超過しています ({0})

原因: このメッセージは、Oracle GoldenGate for Windows and UNIX では使用されません。

処置: Windows、Linux、または UNIX でこのメッセージを受け取った場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01218: {2} のエラー: {0,number,0} ({1})

原因: TCP/IP システム・コールが失敗しました。

処置: 別の Manager など、実行中の重複するプロセスがないかどうか確認します。リモート・プロセスが現在も実行中であることを確認します。特定のポートやプロセスの遮断など、接続を妨げるファイアウォールがないかどうか確認します。

OGG-01219: TCP/IP メッセージ・ヘッダーが数値ではありません ({0})

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01220: ホストの TCP/IP アドレスを設定できませんでした

原因: RMTHOST パラメータはホスト名を指定していますが、Oracle GoldenGate はそのホスト名を IP アドレスに解決できませんでした。

処置: ネットワーク管理者に連絡し、ドメイン名サーバーにリモート・ホストが正しくリストされていることを確認します。

OGG-01221: {0}:{1,number,0} への接続が失敗しました、エラー {2,number,0}:{3}

原因: プロセスが指定された IP アドレスおよびポート番号への接続を試みましたが、失敗して、表示されている TCP エラーが返されました。一般的な接続の問題としては、ターゲットの Manager または Collector プロセスが動作していないか、または、Extract が指定している IP アドレスまたは Manager ポート番号が間違っていることが考えられます。

処置: ターゲットの Manager パラメータ・ファイルの Manager ポートが、ソースの Extract パラメータ・ファイル内の RMTHOST パラメータの Manager ポートと同じであることを確認し、RMTHOST の IP アドレスを確認します。また、接続エラーは、Collector のセキュリティ違反、満杯のファイル・システム、システムまたは Oracle GoldenGate の構成に関するエラーを表す場合があります。(エラーのタイプによって異なる) 相応の時間内にエラー状態が解消しない場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。

OGG-01222: {0}:{1,number,0} への接続が失敗しました、エラー {2,number,0}:{3} - 再試行回数を超過しています

原因: プロセスが TCP/IP リンクの確立に失敗し、リンクの再試行をシステムまたは tcperrrs ファイルによって許可された最大回数行いました。

処置: リモート・プロセスが現在も実行中であることを確認します。特定のポートやプロセスの遮断など、接続を妨げるファイアウォールがないかどうか確認します。

OGG-01223: {0}

原因: TCP/IP エラーが発生しました。プロセスは、tcperrrs ファイルの再試行の設定に基づいて再試行します。

処置: リモート・プロセスが現在も実行中であることを確認します。特定のポートやプロセスの遮断など、接続を妨げるファイアウォールがないかどうか確認します。RMTHOST パラメータが正しく構成されていることを確認します。問題を解決できない場合は、他のネットワークの問題ではないことを確認するため、Oracle サポート・サービスに連絡する前にネットワーク管理者に連絡してください。

OGG-01224: {0}

原因: TCP/IP エラーが発生しました。プロセスは、tcperrrs ファイルの再試行の設定に基づいて再試行します。

処置: リモート・プロセスが現在も実行中であることを確認します。特定のポートやプロセスの遮断など、接続を妨げるファイアウォールがないかどうか確認します。RMTHOST パラメータが正しく構成されていることを確認します。問題を解決できない場合は、他のネットワークの問題ではないことを確認するため、Oracle サポート・サービスに連絡する前にネットワーク管理者に連絡してください。

OGG-01226: ソケット・バッファのサイズが {0,number,0} に設定されています (フラッシュ・サイズ {1,number,0})

原因: TCP ソケット・バッファ・サイズが指定されたサイズ (デフォルト・サイズ、または、RMTHOST または RMTHOSTOPTIONS パラメータの TCPBUFSIZE 設定で指定されたサイズのいずれか) に設定されています。ネットワークを介して送信されるデータを収集するバッファが、指定されたサイズ (デフォルト・サイズ、または、TCPFLUSHBYTES オプションで指定されたサイズのいずれか) に設定されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01227: ポート {0,number,0} の接続を待機中 ...

原因: プロセスが、指定された監視ポートへの接続を待機しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01228: {0,number,0} 秒間のタイムアウト

原因: プロセスの接続が、指定された時間タイムアウトします。

処置: なし

OGG-01229: {0}:{1,number,0} に接続

原因: プロセスが接続しているホスト名とポート番号を示す情報メッセージ。

処置: なし

OGG-01230: TCP エラーからリカバリ、ホスト {0}、ポート {1,number,0}

原因: Oracle GoldenGate が TCP エラーからリカバリしました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01231: リモート・ホスト TCP パラメータ・エラー: {0}

原因: TCP/IP エラーが発生しました。プロセスは、tcperrs ファイルの再試行の設定に基づいて再試行します。

処置: リモート・プロセスが現在も実行中であることを確認します。特定のポートやプロセスの遮断など、接続を妨げるファイアウォールがないかどうか確認します。RMTHOST パラメータが正しく構成されていることを確認します。問題を解決できない場合は、他のネットワークの問題ではないことを確認するため、Oracle サポート・サービスに連絡する前にネットワーク管理者に連絡してください。

OGG-01232: 受信 TCP パラメータ・エラー: {0}

原因: ネットワークのエラーが原因と考えられる TCP/IP レイヤーのエラーによって、プロセスが完全なメッセージを受信できませんでした。このメッセージは、tcperrs ファイルによって許可されている再試行がすべて失敗したときに生成されます。

処置: 送信プロセスが現在も実行中であり、ネットワークが現在も使用可能であることを確認します。ユーザーまたはネットワーク管理者が問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01233: 送信 TCP パラメータ・エラー: {0}

原因: ネットワークのエラーが原因と考えられる TCP/IP レイヤーのエラーによって、プロセスが完全なメッセージを送信できませんでした。このメッセージは、tcperrs ファイルによって許可されている再試行がすべて失敗したときに生成されます。

処置: 受信プロセスが現在も実行中であり、ネットワークが現在も使用可能であることを確認します。ユーザーまたはネットワーク管理者が問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01234: 送信されたコマンドが受信プロセスによって認識されませんでした

原因: TCP/IP パケットから受信したコマンドが認識できません。TCP/IP パケット自体は正しいけれども、含まれているメッセージが認識不能です。

処置: ソースとターゲットの Oracle GoldenGate のバージョンが同じであることを確認します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01235: コマンドが受信側 Manager プロセスによって許可されませんでした

原因: TCP コマンドが受信側 Manager プロセスによって許可されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01236: トレース・ファイル {0} は開いています

原因: 指定されたトレース・ファイルは、プロセスによって開かれています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01237: トレース・ファイル {0} は閉じています

原因: 指定されたトレース・ファイルは、プロセスによって閉じられています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01239: {0}

原因: バイナリ・アクティビティ・ロギング・ファイルの解析中に内部エラーが発生しました。

処置: ターゲット・ファイルがアクティビティ・ロギング・サブシステムによって生成されたことを確認したうえで、製品開発部門に支援を要請してください。

OGG-01242: キー・フィールドが無効です: {0}

原因: KEYCOLS で指定されている列が、COBOLDEFSFILE で指定されていません。

処置: 有効な列になるように KEYCOLS の指定を修正します。

OGG-01243: キー・フィールドが指定されていません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01244: {0}

原因: これは、COBOLDEFSFILE の解析中に発生したエラーの一般的なメッセージです。

処置: 返されたエラーに基づいて、問題を修正します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01245: ターゲット {0} に対するソース・ファイルの DEFINITION が欠落しています

原因: DEF パラメータにレコード名の詳細情報が欠落しています。

処置: DEF ファイル出力で使用するレコード名を追加します。

OGG-01246: DEFINITION{0} が定義されていません

原因: COBOLDEFSFILE 内に FILE 入力レコードが見つかりませんでした。

処置: ソースの DDL レコード名と一致するように、FILE エントリを修正します。

OGG-01247: {0} パラメータの処理中にエラーが発生しました: {1}

原因: パラメータ・ファイルで、無効な EXPANDDDL オプションが使用されました。

処置: 有効な EXPANDDDL オプションについては、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01248: 表 {0} の定義を取得できませんでした

原因: データベース内に表が見つかりませんでした。

処置: データベースに表を追加するか、DDLGEN 構成からそれを削除します。

OGG-01249: 無効なテンプレート・ファイル、必要なセクションが 1 つまたは複数欠落しています

原因: テンプレート・ファイルに必要なセクションが欠落しています。

処置: テンプレート (TMPL) ファイルの有効なコピーを入手または作成します。

OGG-01250: 行が無効です (セクションがまだ指定されていません) : {0}

原因: テンプレート・ファイルに必要なセクションが欠落しています。

処置: テンプレート (TMPL) ファイルの有効なコピーを入手または作成します。

OGG-01251: テンプレートのパラメータが無効です : {0}

原因: テンプレート・ファイルに無効なパラメータがあります。

処置: テンプレート (TMPL) ファイルの有効なコピーを入手または作成します。

OGG-01252: 列名のマッピング行が無効です : {0}

原因: テンプレート・ファイルに、データ型の精度またはスケールが欠落しています。

処置: テンプレート (TMPL) ファイルに精度とスケールを追加します。

OGG-01253: 列タイプのマッピング行が無効です : {0}

原因: テンプレート・ファイルに、データ型の精度またはスケールが欠落しています。

処置: テンプレート (TMPL) ファイルに精度とスケールを追加します。

OGG-01254: "{0}" の '*' を '.' に置換できません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01255: データ型 {0} のエントリが欠落しています

原因: テンプレート・ファイルに、ターゲット列タイプにマッピングするソース列タイプが含まれていません。

処置: 欠落しているタイプを、テンプレート (TMPL) ファイルに追加します。

OGG-01256: {1}: FM_cache_pool_init: {0}

原因: プロセスが、取得したトランザクション・データを格納するためのメモリー・プールの作成に失敗しました。

処置: メモリー・プールの作成に十分なリソースがシステムによって割り当てられていることを確認します。

OGG-01257: ファイル・キャッシュ・ディレクトリ : {0}、存在しないか、書込み保護されています。

原因: CACHEMGR パラメータの CACHEDIRECTORY オプションで指定されるページング・ディレクトリ、または、Oracle GoldenGate インストール・ディレクトリのデフォルトの dirtmp ディレクトリが、書込み保護されているかまたは見つけれられません。

処置: ディレクトリが存在する場合は、そのディレクトリの完全制御を Oracle GoldenGate に割り当てます。ディレクトリが存在しない場合は、それを作成するか、CACHEDIRECTORY の既存のディレクトリを指定します。

OGG-01258: エラー: キャッシュ・メモリーの値が無効です

原因: CACHEMGR パラメータの CACHESIZE、CACHEBUFFERSIZE、または CACHEPAGEOUTSIZE の指定に、無効な値の指定が含まれています。正しい値の範囲および構文については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

処置: なし

OGG-01259: 重複するディレクトリ: {1}、VM パラメータに対して: {0}

原因: CACHEMGR パラメータの CACHEDIRECTORY オプションに重複するディレクトリ・エントリが含まれているか、または、同じディレクトリを指定する、重複する CACHEDIRECTORY エントリが存在します。

処置: 構文を修正してから、プロセスを再起動します。各 CACHEDIRECTORY エントリに対して、ディレクトリを 1 つだけ指定できます。CACHEMGR の構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01262: {3}() の {2,number,0} 行から {0}() 関数へのコールが、理由 '{1}' のため失敗しました

原因: 内部エラーが発生しました。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージとともに記録されます。場合によっては、メッセージ文に原因および考えられる処理が示されます。

処置: 関連するメッセージに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01263: {2}() の {1,number,0} 行から {0}() 関数へのコールが、予期しない値を返しました

原因: コールされた関数に問題があります。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージの後に続きます。

処置: 関連するメッセージによって問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01264: {2}() の {1,number,0} 行から {0}() 関数へのコールが、予期しない値を返しました

原因: コールされた関数に問題があります。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージの後に続きます。

処置: 関連するメッセージによって問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01266: {0}

原因: Cache Object Manager (COM) が内部エラーを返しました。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージの後に続きます。

処置: 関連するメッセージによって問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01268: {2}: 割当て試行回数の最大値 ({0,number,0}) を超過しています: {1}

原因: Oracle GoldenGate キャッシュ・マネージャが、可能な最大回数の再試行の後、トランザクション・データに対する仮想メモリーの割当てに失敗しました。CACHEMGR パラメータの暗黙的または明示的な CACHESIZE 設定に基づくと、新しいメモリー・リクエストを満たすための十分な空き仮想メモリーがありません。ページング候補である場合、データはディスクにページングされます。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントの CACHEMGR パラメータに関する項を参照してください。

処置: なし

OGG-01269: {4}() の {3,number,0} 行から、アドレス 0x{1}、サイズ 0x{2} の {0}() 関数へのコールが、予期しない値を返しました

原因: 仮想メモリーをアンマップしようとして失敗しました。

処置: 先行するエラー・メッセージを調べて、考えられる原因および解決策を探します。または、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01270: {1}: 無効なパラメータ : {0}

原因: CACHEMGR パラメータに無効な構文が含まれているか、または、このパラメータがデータベース・タイプでサポートされていません。

処置: CACHEMGR のリファレンスに関するドキュメントをチェックして、データベースがサポートされていることを確認してください。true の場合、構文を修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-01271: {1}: 無効なパラメータ引数 : {0}

原因: CACHEMGR パラメータに無効な構文が含まれています。

処置: 構文を修正してから、プロセスを再起動します。CACHEMGR の構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01273: {1}: 無効な引数構文 : {0}

原因: CACHEMGR パラメータに無効な構文が含まれています。

処置: 構文を修正してから、プロセスを再起動します。CACHEMGR の構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01274: {1}: 重複する引数 : {0}

原因: CACHEMGR パラメータに重複する構文が含まれています。

処置: 構文を修正してから、プロセスを再起動します。CACHEMGR の構文と使用方法については、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01275: {0} の引数の数を超過しています 許可されている最大値 : {1,number,0}

原因: CACHEMGR パラメータの引数が多すぎます（サイズを 1 つだけ指定すべき場合に CACHESIZE 16G 64G など）。

処置: パラメータを修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-01276: {1}: 無効なディレクトリ・パラメータ : {0}

原因: CACHEMGR パラメータに、無効な構文を持つ CACHEDIRECTORY オプションが含まれています。

処置: 各 CACHEDIRECTORY エントリに対して、ディレクトリ・パスとディレクトリの最大サイズを指定し、各 CACHEDIRECTORY エントリをコンマで区切って、「CACHEDIRECTORY /ogg1/temp 2GB, CACHEDIRECTORY /ogg2/temp 2GB」のようにします。

OGG-01277: {2}: 無効なディレクトリ・サイズ指定 : {1} ({0})

原因: CACHEMGR パラメータの CACHEDIRECTORY オプションのディレクトリ・サイズが正しくありません。

処置: ファイル・システムによって決まっている最大サイズと、最小サイズである 2GB の間の値を指定します。

OGG-01278: {2}: cm_memdir_add: {0} サイズ: {1}

原因: CACHEMGR ページング・ディレクトリに割り当てられ、CACHEDIRECTORY オプションで指定されているディスク領域が超過しています。

処置: 必要に応じてディスク領域を追加し、CACHEDIRECTORY オプションを変更して、より多くの領域をキャッシュ・ディレクトリに割り当てるようにします。

OGG-01279: {1}: 最大数のディレクトリが割り当てられています: {0,number,0}

原因: CACHEMGR パラメータの CACHEDIRECTORY オプションに対して指定されているページング・ディレクトリの最大数が超過しています。

処置: ディレクトリの数を減らします。

OGG-01280: {1}: 重複する CACHEDIRECTORY: {0}

原因: CACHEMGR パラメータの CACHEDIRECTORY オプションに、重複するエントリが1つまたは複数含まれています。

処置: 重複するエントリを削除します。

OGG-01281: {0}

原因: これは、一般的なイベント・マーカー・インフラストラクチャの情報メッセージです。これは、操作、パフォーマンス、または診断のために役立つ場合があります。

処置: なし

OGG-01282: {0}

原因: これは、一般的なイベント・マーカー・インフラストラクチャの警告メッセージで、潜在的な問題を示す場合があります。提供されるデータは、操作、パフォーマンス、または診断のために役立つ場合があります。

処置: 返されたメッセージに基づいて、処理を実行します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01283: {0} イベント {1}{2} {3} によりプロセスを停止中

原因: STOP オプション付きの EVENTACTIONS パラメータが、パラメータ・ファイルに含まれています。プロセスは、オープン・トランザクションおよびグループ・トランザクションの完了後、正常に停止しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01284: {0} イベント {1}{2} によりプロセスを停止中。すぐに STOP リクエストが実行されます (現在のトランザクションは強制終了)

原因: STOP オプション付きの EVENTACTIONS パラメータが、パラメータ・ファイルに含まれています。プロセスが即座に停止し、現在のトランザクションは、イベント・レコードが処理されたときにオープン状態だったため強制終了されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01285: {0} イベント {1}{2} が処理されました

原因: 指定されたオプション付きの EVENTACTIONS パラメータがパラメータ・ファイルに含まれており、処理が正常に実行されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01286: SHELL イベント {1}{2} によりシェル・コマンド '{0}' を実行中

原因: SHELL オプション付きの EVENTACTIONS がパラメータ・ファイルに含まれており、そのイベントが起動されたためシェル・コマンドが実行されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01287: シェル・コマンド '{0}' が正常に実行されました

原因: SHELL オプション付きの EVENTACTIONS がパラメータ・ファイルに含まれており、そのイベントが起動された際シェル・コマンドが成功しました。UNIX シェル言語では、終了ステータス 0（ゼロ）が成功を示します。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01288: シェル・コマンド '{0}' の実行に失敗しました、終了ステータス={1,number,0}

原因: SHELL オプション付きの EVENTACTIONS がパラメータ・ファイルに含まれていますが、そのイベントが起動された際シェル・コマンドが失敗しました。UNIX シェル言語では、0（ゼロ）以外が失敗を示します。

処置: EVENTACTIONS パラメータで指定されているコマンドの構文を確認し、間違っている場合それを修正します。構文が正しい場合は、ファイル・システムやオペレーティング・システムにコマンドの成功を妨げる問題がないかどうか確認します。

OGG-01289: {0} イベント {1}{2} によりプロセスを強制終了中

原因: ABORT オプション付きの EVENTACTIONS がパラメータ・ファイルで指定されており、イベント・レコードによって ABORT が起動されました。DISCARD が同時に指定されている場合、イベント・レコードは廃棄ファイル内にあります。これは、イベントが発生したことを警告する情報メッセージです。

処置: なし。ただし、イベントの結果、Oracle GoldenGate の外部で手作業が必要な場合があります。プロセスは、起動時にリカバリされます。

OGG-01290: イベント・アクション ABORT を、STOP、FORCESTOP、IGNORE、LOG、ROLLOVER、TRACE、CHECKPOINT AFTER、CHECKPOINT BOTH または SYNC と組み合わせることはできません

原因: ABORT オプションと他の指定されたオプションのうち少なくとも 1 つが、EVENTACTIONS パラメータに含まれています。これらのオプションは相互に排他的です。

処置: 相互に排他的なオプションを削除します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの TABLE および MAP に関する項を参照してください。

OGG-01291: イベント・アクション FORCESTOP を、STOP、CHECKPOINT AFTER、CHECKPOINT BOTH、または SYNC と組み合わせることはできません

原因: FORCESTOP オプションと他の指定されたオプションのうち少なくとも 1 つが、EVENTACTIONS パラメータに含まれています。これらのオプションは相互に排他的です。

処置: 相互に排他的なオプションを削除します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの TABLE および MAP に関する項を参照してください。

OGG-01292: イベント・アクション IGNORE を DISCARD と組み合わせることはできません

原因: EVENTACTIONS パラメータに、IGNORE オプションと DISCARD オプションが含まれています。これらのオプションは相互に排他的です。

処置: これらのオプションのどちらか一方を削除します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの TABLE および MAP に関する項を参照してください。

OGG-01293: TARGET を含まない TABLE の指定には、イベント・アクション IGNORE または DISCARD のいずれかが必要です

原因: TABLE の指定で TARGET を宣言していません。TARGET 句がない場合、EVENTACTIONS の指定には IGNORE または DISCARD となるアクションが必要です。

処置: TABLE 文に TARGET 句を追加するか、または、EVENTACTIONS 句に IGNORE または DISCARD を使用します。

OGG-01294: イベント・レコードがトランザクション内の最初のレコードではないため、{0} イベント {1}{2} を処理できません

原因: EVENTACTIONS がパラメータ・ファイルで使用されています。一部の EVENTACTIONS オプションでは、イベント・レコードがトランザクション内の最初のレコードであることが必要になります。イベント・レコードは、一般にフィルタリング基準を使用して指定される TABLE 文または MAP 文内のレコードで、指定した EVENTACTIONS アクションを起動します。

処置: トランザクションの最初にあるイベント・レコードを指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントの TABLE および MAP に関する項を参照してください。

OGG-01296: {0} から {1} へのマッピング中にエラーが発生しました

原因: 指定されたソース表とターゲット表のマッピングが失敗しました。

処置: マッピングの失敗に関する詳細情報を示す付随するメッセージを調べて、それらのメッセージに基づいて問題を解決します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01297: 列関数の診断メッセージ: リソース {0} が見つかりませんでした

原因: GETVAL 列変換関数に無効な指定が含まれています。

処置: 構文を修正します。プロシージャまたはクエリー名が正しいこと、パラメータ部分に有効なパラメータ名または戻り値が含まれていることを確認します。Oracle GoldenGate のリファレンスに関するドキュメントを参照してください。

OGG-01298: 列関数の診断メッセージ: 列 {0} が見つかりませんでした

原因: 列変換関数が実行されたときに、指定された列が見つかりませんでした。

処置: 正しい列名を指定します。

OGG-01299: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は世紀 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの世紀のデータが破損している可能性があるか、または、世紀ではないデータに世紀の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な世紀のデータが含まれていることを確認してください。世紀のデータが含まれていない場合、列変換関数から世紀の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01300: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は年 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの年のデータが破損している可能性があるか、または、年ではないデータに年の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な年のデータが含まれていることを確認してください。年のデータが含まれていない場合、列変換関数から年の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01301: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は月 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの月のデータが破損している可能性があるか、または、月ではないデータに月の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な月のデータが含まれていることを確認してください。月のデータが含まれていない場合、列変換関数から月の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01302: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は日 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの日のデータが破損している可能性があるか、または、日ではないデータに日の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な日のデータが含まれていることを確認してください。日のデータが含まれていない場合、列変換関数から日の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01303: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は年間通算日 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの年間通算日のデータが破損している可能性があるか、または、年間通算日ではないデータに年間通算日の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な年間通算日のデータが含まれていることを確認してください。年間通算日のデータが含まれていない場合、列変換関数から年間通算日の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01304: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は曜日 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの曜日のデータが破損している可能性があるか、または、曜日ではないデータに曜日の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な曜日のデータが含まれていることを確認してください。曜日のデータが含まれていない場合、列変換関数から曜日の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01305: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は paramType の日、週に対して不正な値です

原因: day-of- データ型 (年間通算日など) の不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、day-of- データではないデータに day-of- の値が指定されました。

処置: ソース列にこの種類のデータが含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数から day-of- の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01306: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は時間 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの時間のデータが破損している可能性があるか、または、時間ではないデータに時間の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な時間のデータが含まれていることを確認してください。時間のデータが含まれていない場合、列変換関数から時間の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01307: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は分 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの分のデータが破損している可能性があるか、または、分ではないデータに分の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な分のデータが含まれていることを確認してください。分のデータが含まれていない場合、列変換関数から分の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01308: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は秒 {1,number,0} に対して不正な値です

原因: 列変換に失敗しました。ソース・データベースまたは証跡ファイルの秒のデータが破損している可能性があるか、または、秒ではないデータに秒の値が指定されました。

処置: ソース列に有効な秒のデータが含まれていることを確認してください。秒のデータが含まれていない場合、列変換関数から秒の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01309: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} はユリウス日に対して不正な値です

原因: ユリウス日のデータ型に対する不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、ユリウス日ではないデータにユリウス日の値が指定されました。

処置: ソース列にユリウス日のデータが含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数からユリウス日の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01310: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} はユリウス時間に対して不正な値です

原因: ユリウス時間のデータ型に対する不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、ユリウス時間のデータではないデータにユリウス時間の値が指定されました。

処置: ソース列にユリウス時間のデータが含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数からユリウス時間の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01311: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は C の日付に対して不正な値です

原因: C の日付に対する不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、C の日付ではないデータに C の日付の値が指定されました。

処置: ソース列に C の日付のデータが含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数から C の日付の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01312: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は TTS の日付に対して不正な値です

原因: TTS の日付に対する不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、TTS の日付ではないデータに TTS の日付の値が指定されました。

処置: ソース列に TTS の日付のデータが含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数から TTS の日付の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01313: 列関数の診断メッセージ: DAT_{0} は Stratus の日付に対して不正な値です

原因: Stratus の日付に対する不正な値で、列変換に失敗しました。ソース列または証跡ファイルのデータが破損している可能性があるか、または、Stratus の日付ではないデータに Stratus の日付の値が指定されました。

処置: ソース列に Stratus の日付が含まれることが想定されていることを確認してください。そうではない場合、列変換関数から Stratus の日付の指定を削除し、適切なデータ型を指定します。

OGG-01314: 列関数の診断メッセージ: 出力には完全な年が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには完全な年が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、完全な年 (CC および YY) が指定されています。

処置: 列に含まれているものに応じて、CC および YY の指定の一方または両方を削除します。

OGG-01315: 列関数の診断メッセージ: 出力には年が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには年が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、年 (YY) が指定されています。

処置: YY の指定を削除します。

OGG-01316: 列関数の診断メッセージ: 出力には月が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには月が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、月 (MMM または MM) が指定されています。

処置: 月の指定を削除します。

OGG-01317: 列関数の診断メッセージ: 出力には日が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには日が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、日 (DD) が指定されています。

処置: 日の指定を削除します。

OGG-01318: 列関数の診断メッセージ: 出力には日または年間通算日が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには年間通算日が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、年間通算日 (DOY) が指定されています。

処置: 年間通算日の指定を削除します。

OGG-01319: 列関数の診断メッセージ: 出力には日または曜日が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには曜日が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、曜日 (DOW) が指定されています。

処置: 曜日の指定を削除します。

OGG-01320: 列関数の診断メッセージ: 出力には時間が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには時間が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、時間 (HH) が指定されています。

処置: 時間の指定を削除します。

OGG-01321: 列関数の診断メッセージ: 出力には分が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには分が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、分 (MI) が指定されています。

処置: 分の指定を削除します。

OGG-01322: 列関数の診断メッセージ: 出力には秒が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには秒が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、秒 (SS) が指定されています。

処置: 秒の指定を削除します。

OGG-01323: 列関数の診断メッセージ: 出力にはタイムスタンプが必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには、年、月または日が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、これらのタイムスタンプ・コンポーネントが指定されています。

処置: 誤った指定を削除します。次のいずれかを指定できます: JTSGMT、JTSLCT、JTS、PHAMIS、STRATUS、CDATE、TTS。

OGG-01324: 列関数の診断メッセージ: 出力にはタイムスタンプ小数が必要です

原因: 列のタイムスタンプ・データには小数が含まれていませんが、@DATE 列変換関数の出力日時ディスクリプタによって、小数 (FFFFFF) が指定されています。

処置: 小数の指定を削除します。

OGG-01325: 列関数の診断メッセージ: 不明な出力要件

原因: @DATE 列変換関数によって、無効な日時書式ディスクリプタが指定されています。

処置: 有効な日時書式ディスクリプタを指定してください。構文とサポートされている値の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01326: 列関数の診断メッセージ: 開始オフセットが終了オフセットより大きくなっています

原因: @STREXT 関数の構文での開始位置が、指定された終了位置よりも文字列内で後になっています。

処置: 構文内の開始位置と終了位置を修正します。

OGG-01327: 列関数の診断メッセージ: 無効な範囲引数。@RANGE(<this range>, <tot ranges> [, <column>...]) する必要があります

原因: @RANGE の構文が間違っています。

処置: 構文はエラー・メッセージに示した書式にする必要があります。入力値は、レンジ・パーティションの数、範囲の合計数、および範囲の基準にする列の名前です。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01328: 列関数の診断メッセージ: 予期されるキー列 ({0}) が見つかりませんでした

原因: 範囲の基準にする列が定義されていないため、@RANGE 関数は範囲を作成できません。

処置: 表定義に主キーを追加するか、構文の 3 番目の位置に、範囲割当ての基準にする列を次のように指定します: @RANGE (range_number , total_number_of_ranges , base_column)。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01329: 列関数の診断メッセージ: @RANGE 句に対するキー列がありません

原因: 範囲の基準にする列が定義されていないため、@RANGE 関数は範囲を作成できません。

処置: 表定義に主キーを追加するか、構文の 3 番目の位置に、範囲割当ての基準にする列を次のように指定します: @RANGE (range_number , total_number_of_ranges , base_column)。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01331: ファイル {0} には有効な Oracle GoldenGate シグネチャがありません。

原因: 指定した証跡は、有効な Oracle GoldenGate 証跡ではありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01332: 互換性レベル {1,number,0} のファイル {0} は、現在のソフトウェア・バージョンの互換性レベル {2,number,0} と互換性がありません。FORMAT LEVEL {2,number,0} オプションを使用して、適切な形式を生成するように、ファイル・ライターのパラメータ・ファイルを変更します。

原因: 証跡ファイルのバージョンと、それ (Extract または Replicat) を読み取るプロセスのバージョンが同一ではありません。証跡バージョンは、リーダー・プロセスのバージョン以前である必要があります。LEVEL は、Oracle GoldenGate ソフトウェア・バージョンから独立した互換性レベルを指定する内部オプションで、証跡の形式に影響を及ぼすバージョンに新しい機能が追加された場合のみ変更されます。1 以上の値は、Oracle GoldenGate リリース 10.0 以降によってサポートされている形式を指定します。0 の値は、Oracle GoldenGate 10.0 より前のリリースによってサポートされている形式を指定します。

処置: リーダー・プロセスと下位互換性のある証跡を書き込むために、パラメータ・ファイルを編集して、EXTFILE、EXTTRAIL、RMTRFILE または RMTTRAIL パラメータを 0 に設定します。次に、GGSCI で、ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER オプションとともに発行します。ロールオーバーでは、指定した形式で、新規証跡ファイルを作成します。Extract を起動して、新規証跡ファイルへの書き込みを開始します。詳細は、証跡またはファイル・パラメータに関する Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01334: 関数 {3} で、{0} から {1},{2} へのデータのマッピング中にエラーが発生しました

原因: 指定したソース表を、指定した列変換関数で指定したターゲット表にマップできませんでした。

処置: マッピング構文が正しいこと、および名前のスペルが正しいことを確認します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01335: 関数 {3} で、{0} から {1},{2} へのデータのマッピング中にエラーが発生しました

原因: 指定したソース表を、指定した列変換関数で指定したターゲット表にマップできませんでした。

処置: マッピング構文が正しいこと、および名前のスペルが正しいことを確認します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01336: 現在の RBA {2,number,0} の {1}{3} で、次の証跡ファイル {0} に切り替えています

原因: プロセスは、順序の次のファイルに証跡をロールオーバーしています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01337: 証跡ファイル {0}、IO エラー {1,number,0} ({2})

原因: オペレーティング・システム・エラーがあったため、プロセスは証跡ファイルを開くことができません。

処置: オペレーティング・システム・エラーを解決します。問題の原因を特定できない場合、システム・ドキュメントを参照するか、システム管理者に連絡してください。

OGG-01338: {1}: {0} サービスは正常に開始しました。

原因: 指定したサービスは正常に開始しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01339: {1}: {0} サービスを開始できませんでした。エラー・コード {2,number,0} ({3})。

原因: Manager は、指定したサービスを開始できませんでした。

処置: Oracle GoldenGate が正しくインストールされていること、および Manager にプロセスを起動するためのシステム上の権限があることを確認してください。パラメータ・ファイルが正しい場所にあること、およびデータベースが実行中であることを確認してください。その他のトラブルシューティング詳細は、このテキストで指定されている関連メッセージをチェックしてください。

OGG-01342: DDL が検出されました。操作 [{0}]、開始 {1} [{2}]、DDL 順序番号 [{3}]

原因: 指定した識別子で DDL 操作が処理されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01343: 再起動タイマーが失敗しました。ステータス = {0} waitState: {1,number,0}

原因: 再起動に失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01344: 再起動通知の失敗。ステータス = {0}。

原因: 再起動通知に失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01348: 無効な CHARSET および A2E キャラクタ・セット構成

原因: CHARSET グローバル・オプションに指定した値は、A2E パラメータで指定した CHARSET の値に一致しません。

処置: キャラクタ・セットが一致するように、A2E パラメータまたは GLOBALS ファイルを修正します。

OGG-01349: ASCII データを EBCDIC に変換できませんでした

原因: ASCII から EBCDIC への文字データの変換に失敗しました。

処置: 列の定義が正しいか確認します。

OGG-01350: EBCDIC データを ASCII に変換できませんでした

原因: EBCDIC から ASCII への文字データの変換に失敗しました。

処置: 列の定義が正しいか確認します。

OGG-01351: CHAR/VARCHAR を NCHAR/NVARCHAR に変換できませんでした

原因: CHAR/VARCHAR 列からターゲット NCHAR/NVARCHAR 列へのマッピング中に無効な文字データが検出されました。

処置: ソース列データを修正するか、Extract および Replicat パラメータ・ファイル内の REPLACEBADCHAR パラメータを使用します。

OGG-01352: NCHAR/NVARCHAR を CHAR/VARCHAR に変換できませんでした

原因: NCHAR/NVARCHAR 列からターゲット CHAR/VARCHAR 列へのマッピング中に無効な文字データが検出されました。

処置: ソース列データを修正するか、Extract および Replicat パラメータ・ファイル内の REPLACEBADCHAR パラメータを使用します。

OGG-01353: CLOB/TEXT を NCLOB/NTEXT に変換できませんでした

原因: シングルバイト文字データからマルチバイト文字データへの変換中にエラーが発生しました。

処置: 間違った指定の列マッピング、特にテキスト LOB データが含まれているかどうかを確認し、関係するキャラクタ・セットに互換性があるかどうかを判断します。

OGG-01354: NCLOB/NTEXT を CLOB/TEXT に変換できませんでした

原因: マルチバイト文字データからシングルバイト文字データへの変換中にエラーが発生しました。

処置: 間違った指定の列マッピング、特にテキスト LOB データが含まれているかどうかを確認し、関係するキャラクタ・セットに互換性があるかどうかを判断します。

OGG-01355: 次の CHAR/NCHAR 変換は使用されています

原因: Oracle GoldenGate は文字データを変換しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01356: CHAR/VARCHAR: {0}

原因: 文字データは、指定したキャラクタ・セットの形式です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01357: CHAR/VARCHAR: デフォルト

原因: 文字データは、デフォルトのキャラクタ・セットの形式です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01358: NCHAR/NVARCHAR: UTF-16/UTF-8

原因: マルチバイト・データは、UTF-16/UTF-8 の形式です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01364: {0} {1} パラメータの開始カッコが見つかりませんでした。

原因: 指定したパラメータ・オプションの最初に開始カッコがありません。

処置: カッコを追加してください。正しい構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。パラメータ・ファイルの構文が正しいことをテストするには、パラメータ・ファイルの最初の行に CHECKPARAMS パラメータを追加し、ファイルを保存してから、プロセスを起動します。テストが終了すると、プロセスは自動的に停止します。構文エラーがあるかどうかを判断するには、プロセス・レポート・ファイルを確認します。パラメータ・ファイル内の構文エラーを修正します。再度テストするには、これらのステップを繰り返します。構文のテストが終了したら、CHECKPARAMS を削除します。

OGG-01365: {0} {1} パラメータの終了カッコが見つかりませんでした。

原因: 指定したパラメータ・オプションの最後に終了カッコがありません。

処置: カッコを追加してください。正しい構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。パラメータ・ファイルの構文が正しいことをテストするには、パラメータ・ファイルの最初の行に CHECKPARAMS パラメータを追加し、ファイルを保存してから、プロセスを起動します。テストが終了すると、プロセスは自動的に停止します。構文エラーがあるかどうかを判断するには、プロセス・レポート・ファイルを確認します。パラメータ・ファイル内の構文エラーを修正します。再度テストするには、これらのステップを繰り返します。構文のテストが終了したら、CHECKPARAMS を削除します。

OGG-01366: {0} {1} パラメータの開始カッコの前にテキストが見つかりました。

原因: 指定したパラメータ・オプションの構文エラーがあります。

処置: 文字の間の空白なしで開始カッコの前にある文字を探し、開始カッコの前にある文字も有効な構文であることを確認します。正しい構文は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。パラメータ・ファイルの構文が正しいことをテストするには、パラメータ・ファイルの最初の行に CHECKPARAMS パラメータを追加し、ファイルを保存してから、プロセスを起動します。テストが終了すると、プロセスは自動的に停止します。構文エラーがあるかどうかを判断するには、プロセス・レポート・ファイルを確認します。パラメータ・ファイル内の構文エラーを修正します。再度テストするには、これらのステップを繰り返します。構文のテストが終了したら、CHECKPARAMS を削除します。

OGG-01367: 入力データ・ソースの CSN {0}, {1,number,0} の長さは、前の CSN, {2,number,0} の長さと同しくありません

原因: メモリーが破損している可能性があるか、証拠に無効なデータがあります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01368: RBA {1,number,0} (error {2,number,0}, {3}) でファイル "{0}" を切り捨てることはできませんでした

原因: プロセスは、リカバリ中に証拠を切り捨てることはできませんでした。

処置: ディスクが一杯、ディスク障害、ネットワーク障害、またはその他のシステム関連の問題があるかどうかを確認します。

OGG-01369: DDL 操作はターゲット・データベース [{0}]、新規 DDL 操作 [{1}] にマップされています

原因: Replicat が、指定したターゲットに DDL 操作を正常に適用しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01370: ユーザーは START SKIPTRANSACTION を要求しました。現在のトランザクションはスキップされます。トランザクション ID {0}、位置の順序番号 {1,number,0}、RBA {2,number,0}。

原因: START REPLICAT コマンドが SKIPTRANSACTION オプションとともに発行されました。Replicat は証拠内の指定したトランザクション (予期される開始点の後の最初のトランザクション) をスキップします。最初のトランザクションからのすべての操作は除外されます。この Replicat に MAXTRANSOPS パラメータも使用されている場合、プロセスは、トランザクションの途中の任意の場所から証拠ファイルの読取りを開始できます。その場合、部分的なトランザクションの残りがスキップされ、Replicat は、ファイル内の次の開始トランザクション・レコードから通常の処理を再開します。

処置: なし

OGG-01371: 廃棄ファイルが指定されていません。SKIPTRANSACTION により廃棄されたレコードは記録されません。

原因: START REPLICAT コマンドが SKIPTRANSACTION オプションとともに発行されましたが、廃棄ファイルがパラメータ・ファイル内に指定されていないため、スキップされた操作をファイルに永続化できません。

処置: 以降の SKIPTRANSACTION トランザクションを記録しない場合は、なし。その場合、Replicat を停止し、DISCARDFILE で廃棄ファイルを指定してから、プロセスを再起動します。

OGG-01372: ユーザーは CSN {0} での起動を要求しました

原因: 指定した CSN (コミット・シーケンス番号) があるトランザクションで始まる処理を開始するため、START REPLICAT コマンドが ATCSN オプションとともに発行されました。このトランザクションの前のすべてのトランザクションはスキップされます。

処置: なし

OGG-01373: ユーザーは CSN {0} の後の起動を要求しました

原因: 指定した SCN (システム変更番号) があるトランザクションの直後のトランザクションで処理を開始するため、START REPLICAT コマンドが AFTERCSN オプションとともに発行されました。指定した SCN があるトランザクションを含む、それ以前の証跡内のすべてのトランザクションはスキップされます。

処置: なし

OGG-01374: 位置の順序番号 {0,number,0}、RBA {1,number,0}、トランザクション ID {2}、CSN {3}、スキップされたトランザクション数 {4,number,0} で開始するトランザクションの配信。

原因: START REPLICAT コマンドが ATCSN または AFTERCSN オプションとともに発行されました。Replicat は証跡内の指定したトランザクションで処理を開始しています。スキップされたトランザクション数がメッセージ内に示されます。

処置: なし

OGG-01375: 証跡の形式は、特定の CSN での開始をサポートしていません。ファイル・ヘッダーが見つかりません。

原因: START REPLICAT コマンドが ATCSN または AFTERCSN オプションとともに発行されましたが、証跡の形式がこれらのオプションをサポートしていません。証跡ファイルは、それを読み取るプロセス (この場合は Replicat) のバージョン以下のバージョンを持つ必要があります。これは、Replicat の Oracle GoldenGate バージョンは Extract のバージョンより古いことを示しています。

処置: これらのオプションを使用するには、Replicat のバージョンをアップグレードします。

OGG-01376: 証跡の形式は、特定の CSN での開始をサポートしていません。位置の順序番号 {0,number,0}、RBA {1,number,0} で、CSN トークンが見つかりません。

原因: START REPLICAT コマンドが ATCSN または AFTERCSN オプションとともに発行されましたが、証跡の形式がこれらのオプションをサポートしていません。証跡ファイルは、それを読み取るプロセス (この場合は Replicat) のバージョン以下のバージョンを持つ必要があります。これは、Replicat の Oracle GoldenGate バージョンは Extract のバージョンより古いことを示しています。

処置: これらのオプションを使用するには、Replicat のバージョンをアップグレードします。

OGG-01377: 指定した CSN 形式は、証跡内の CSN 形式と一致しません。指定した CSN は {0} です。{1} 形式の CSN が必要です。

原因: START EXTRACT コマンドが ATCSN または AFTERCSN オプションとともに発行されましたが、CSN の値に無効な形式が指定されました。指定する CSN 形式は、ソース・データベースの CSN 形式に基づいた、証跡レコードの CSN 形式に一致する必要があります。

処置: データベースごとの CSN 形式のリストは、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照し、正しい CSN 形式を使用してコマンドを再発行してください。

OGG-01378: リカバリ不能な DDL 実行エラーが発生しました [{0}]

原因: プロセスは DDL 文を実行できませんでした。

処置: このメッセージで返されるエラーに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01379: CSN インスタンスの作成中にエラー {0,number,0} が発生しました。CSN {1}、DBID {2,number,0}。

原因: 証跡レコードから CSN を解決できませんでした。ディスク障害またはネットワーク障害のため、証跡ファイルが破損している可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01380: 開始パラメータ SKIPTRANSACTION、ATCSN、AFTERCSN および FORCECURRENTPOSITION は、相互に排他的です。1 つのみ指定できます。

原因: 指定したパラメータのうち 1 つのみを、START REPLICAT コマンド内で使用できます。FORCECURRENTPOSITION は、現在は有効なパラメータではないため、使用しないでください。

処置: オプションのうち 1 つのみを使用して、コマンドを再発行します。

OGG-01381: VAM 互換性レベルは、TRANLOGOPTIONS

VAMCOMPATIBILITY <level> パラメータ (<level> は 1 で始まる数字) によって設定する必要があります

原因: 新しい Oracle GoldenGate Extract は古い TAM モジュールと組み合わせられていますが、下位互換性をサポートするために TRANLOGOPTIONS VAMCOMPATIBILITY が Extract パラメータ・ファイルに設定されていません。

処置: TRANLOGOPTIONS パラメータを、VAMCOMPATIBILITY オプションを 1 に設定して追加します。かわりの方法として、VAMInitialize を使用して VAM 互換性を 1 に設定すると、VAMCOMPATIBILITY を使用した TRANLOGOPTIONS を省略できます。VAM 互換性を設定する必要をなくすには、Extract のバージョンに TAM モジュールをアップグレードします。

OGG-01382: 取得されている代替オンライン・ログの数が、GG_ATTR_SESS_NUM_ALT_ONLINE_LOGS セッション・オブジェクト属性 {0,number,0} によって返された数を超えています。

原因: 指定された代替オンライン・ログが多すぎます。

処置: Extract パラメータ・ファイルを編集し、値が指定した範囲内になるようにログの指定の一部を削除してから、Extract を再起動します。

OGG-01383: 代替ログ・ファイルの数は、個別のログ・ファイルの取得を試みる前に、GG_ATTR_SESS_NUM_ALT_ONLINE_LOGS セッション・オブジェクト属性によって取得する必要があります。

原因: VAM モジュールは、必要な VAM API プロトコルを開始せずに、代替オンライン・ログ・ファイル名を直接取得しようとしていました。これは内部プログラミング・エラーです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01384: TRANLOGOPTIONS ALTONLINELOGS パラメータで許可されている代替オンライン・ログ・ファイル値の最大数は {0,number,0} です。

原因: 指定された代替オンライン・ログが多すぎます。

処置: Extract パラメータ・ファイルを編集し、値が指定した範囲内になるようにログの指定の一部を削除してから、Extract を再起動します。

OGG-01385: このコマンドは VAM DDL 実装でサポートされていません

原因: DDLDUMP コマンドは、現在のデータベース・タイプでサポートされていません。

処置: なし

OGG-01386: {0} の値は {1} から {2} の間である必要があります。

原因: 指定した値は、指定したパラメータの有効な値の範囲内ではありません。

処置: 有効な値を指定するようパラメータ・ファイルを編集してから、プロセスを再起動します。必要に応じて、使用方法のガイドラインについては、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01387: 表 {0} は有効なキー列を持っていません。表のすべての列に無条件のサブリメンタル・ログ・グループが追加されました。

原因: 情報提供のみ。表に主キーまたは一意キーがないため、表に KEYCOLS 句が定義されていません。Oracle GoldenGate は、キーの一部として使用できない列を除いて、すべての列をキーとして使用して、一意性を保証しています。除外される列タイプについては、ご使用のデータベース・タイプの Oracle GoldenGate のインストール用ドキュメントを参照してください。

処置: なし

OGG-01388: ファイル・ヘッダーはトークンの構成に失敗しました。ファイル {0}、最終オフセット {1,number,0}、データ : {2}

原因: 証跡ファイル・ヘッダーが破損しています。

処置: まず、プロセスを再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01389: ファイル・ヘッダーはトークンの解析に失敗しました。ファイル {0}、最終オフセット {1,number,0}、データ : {2}

原因: 証跡ヘッダーの解析中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01391: 証跡ファイル {0} は以前に上書きモードでリカバリされ、現在のチェックポイントは静止していません。追加モードのリカバリに変更するには、静止チェックポイントを実行し、再起動します

原因: Extract は上書きモードで証跡に書き込むよう構成され、最終コミット位置が見つかりませんでした。プロセスはリカバリの試行を続行します。

処置: 上書きモードを保持する場合は、なし。ただし、さらにエラーが発生する可能性があります。可能な場合は、より信頼性のあるリカバリ履歴が提供される追加モードに切り替えます。追加モードに変更するには、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの RECOVERYOPTIONS パラメータを参照してください。

OGG-01392: 証跡 {0}、RBA {1,number,0} に位置トークンが見つかりませんでした

原因: プロセスが、最終コミット位置を証跡内で検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01394: _ALLOWPKMISSINGROWCOLLISIONS を使用すると、特定の条件でデータの破損が発生する可能性があります。

原因: このパラメータは、対応するターゲット行が存在しない場合に主要な UPDATE をスキップするために、HANDLECOLLISIONS とともに使用されています。これは、ターゲット・データの整合性を損なうことがあるため、実行するときは必ず Oracle サポート・アナリストの指示を受けてください。

_ALLOWPKMISSINGROWCOLLISIONS は、非公開のパラメータで、通常、Oracle テクニカル・サポート担当者の指示を受ける場合のみ使用します。

処置: なし

OGG-01395: _ALLOWPKMISSINGROWCOLLISIONS を使用すると、{0} から {1} へのマッピング中に、特定の条件でデータの破損が発生する可能性があります。

原因: このパラメータは、対応するターゲット行が存在しない場合に主要な UPDATE をスキップするために、HANDLECOLLISIONS とともに使用されています。これは、ターゲット・データの整合性を損なうことがあるため、実行するときは必ず Oracle サポート・アナリストの指示を受けてください。

_ALLOWPKMISSINGROWCOLLISIONS は、非公開のパラメータで、通常、Oracle テクニカル・サポート担当者の指示を受ける場合のみ使用します。

処置: なし

OGG-01396: キー更新操作のターゲット行が存在しないため、{3} への行の挿入中に、ファイル {2} の RBA {1,number,0} にある {0} で、完全なアフター・イメージは使用できません。キー更新操作の完全なイメージを含めるため、EXTRACT パラメータ・ファイル内に NOCOMPRESSUPDATES または FETCHOPTIONS FETCHPKUPDATECOLS を指定できます。

原因: HANDLECOLLISIONS は Replicat に対して有効です。(詳細は、HANDLECOLLISIONS の参照ドキュメントを参照してください。) このエラーは、主キーが更新されたが、レコードがターゲット上に見つからないことを示しています。Replicat は、更新を実行するかわりに存在しない行に移入しようとしたが、すべての列値が証跡で使用できるわけではないため、移入に失敗しました。

処置: 手動で行値をターゲットに適用してから、ATCSN、AFTERCSN または SKIPTRANSACTION オプションを設定して Replicat を再起動することによって、エラーが発生したレコードをスキップします。主キーが更新を続行する場合、Extract を停止してから、FETCHPKUPDATECOLS オプションを設定した NOCOMPRESSUPDATES パラメータまたは FETCHOPTIONS パラメータのいずれかを追加できます。

OGG-01397: {1}: トークン・バッファが最大サイズの {0,number,0} バイトを超えています。

原因: TOKENS 句が大きすぎます。TOKENS は、最大文字列 2000 バイトまでをサポートします。データには、二重引用符に囲まれた定数値、または Oracle GoldenGate の列変換関数の結果のいずれかを指定できます。

処置: 可能な場合、文字列を削減するよう TOKENS 句を編集します。列変換関数の結果を使用している場合、長すぎる出力を生成しない代替入力基準の選択が必要になる可能性があります。

OGG-01398: RBA {1,number,0} でターゲット証跡ファイル {0} のオープンに失敗しました。ALTER EXTRACT が想定されます。証跡ファイルが作成されます
原因: プロセスが、リモート証跡を検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01399: サイズ {0,number,0} の DDL は、この証跡の形式で使用できません。新しい証跡の形式を使用してください

原因: 証跡のバージョンが Extract のバージョンより古く、現在の証跡のバージョンは、Extract がサポートする最大 DDL サイズをサポートしていません。

処置: 証跡を正しい形式にアップグレードするには、ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER オプションとともに発行して、正しい形式の新しい証跡ファイルを起動してから、Extract を再起動します。この証跡を読み取るプロセスのバージョンは、少なくとも証跡と同じバージョンである必要があるため、そのプロセスおよびダウンストリーム・プロセスのアップグレードが必要になる可能性があります。

OGG-01400: データベース操作が失敗しました : {0}。ODBC エラー : SQLCODE {2,number,0}。ODBC エラー詳細が使用できません。ODBC プランとパッケージの DB2 BIND など、ODBC 構成が完全であることを確認してください。{1}

原因: これは、DB2 ODBC 構成が無効または不完全である可能性があることを示しています。この状況は、エラー -805 として解釈され、利用可能な追加詳細はありません。

処置: DB2 ODBC 構成、プランおよびパッケージをチェックし、これらが有効および完全であることを確認します。これらの問題を修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-01401: データベース操作が失敗しました : {0}。ODBC エラー : SQLCODE {2,number,0}。ODBC エラー詳細が使用できません。ODBC プランとパッケージの DB2 BIND など、ODBC 構成が完全であることを確認してください。{1}

原因: これは、DB2 ODBC 構成が無効または不完全である可能性があることを示しています。この状況は、エラー -805 として解釈され、利用可能な追加詳細はありません。

処置: DB2 ODBC 構成、プランおよびパッケージをチェックし、これらが有効および完全であることを確認します。これらの問題を修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-01402: CACHEMGR: アイテム割当てが大きすぎます : {0,number,0} > {1,number,0} (最大単一割当て)

原因: 行データまたは LOB のサイズが、許可されている最大値を超えています。

処置: CACHEMGR パラメータの CACHESIZE オプションを使用して、指定された値を倍にします。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01403: IPC メッセージ {0} の構成中に、エラーが発生しました。最終オフセットは {1,number,0} です

原因: 現在アクティブなリモート証跡から最終 CSN を取得中に、エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01404: IPC メッセージ {0} の解析中に、エラーが発生しました。メッセージ長は {1,number,0}、最終オフセットは {2,number,0} です

原因: 現在アクティブなリモート証跡から最終トランザクションに関する CSN およびその他の情報を取得中に、エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01405: ターゲット・ファイル {0}、RBA {1,number,0} で、空のコミット・シーケンス番号 (CSN) タイムスタンプが検出されました

原因: プロセスが、最終トランザクションの CSN のタイムスタンプを検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01406: ターゲット・ファイル {0}、RBA {1,number,0} で、無効なコミット・シーケンス番号 (CSN) タイムスタンプが検出されました

原因: プロセスが、最終トランザクションの CSN のタイムスタンプ (文字列書式) を数値に変換できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01407: DDL 操作の現在のスキーマを [{0}] に設定しています

原因: プロセスは、DDL 操作のスキーマを設定しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01408: DDL 操作の現在のスキーマを [{0}] にリストアしています

原因: Replicat は、DDL 操作のスキーマを指定されたスキーマに設定しています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01409: ファイル {2} の RBA {1,number,0} で、変更可能な列がないため、表 {0} の更新に対する存在しないターゲット行を検出できません。更新操作の完全なイメージを含めるため、EXTRACT パラメータ・ファイル内に NOCOMPRESSUPDATES を指定できます。

原因: Replicat は更新を実行できませんでした。ソース表およびターゲット表に主キーまたは一意キー (または KEYCOLS 句) がないため、Replicat がターゲット行を検出できなかったことが原因と考えられます。デフォルトでは、Extract は、主キー、一意キーまたは KEYCOLS 列の証跡 (および変更された列) への書込みのみを行い、これにより、更新のための Replicat SQL 操作に関する十分な情報が提供されます。しかし、キーがないと、Replicat には変更データがあるのみで、これでは不十分です。

処置: 次のいずれかを行うことができます: Extract NOCOMPRESSUPDATES パラメータを使用して、すべての列を証跡に送信し、表定義に主キーまたは一意索引が含まれていない場合に、Replicat がすべての列をキーとして使用できるようにします。または、TABLE パラメータで KEYCOLS 句を使用して、表の代替キーを定義できます。

OGG-01410: ファイル {2} の RBA {1,number,0} で、変更可能な列がないため、表 {0} の NOOP 更新を適用できません。更新操作の完全なイメージを含めるため、EXTRACT パラメータ・ファイル内に NOCOMPRESSUPDATES を指定できます。

原因: Replicat は更新を実行できませんでした。ソース表およびターゲット表に主キーまたは一意キー (または KEYCOLS 句) がないため、Replicat がターゲット行を検出できなかったことが原因と考えられます。デフォルトでは、Extract は、主キー、一意キーまたは KEYCOLS 列の証跡 (および変更された列) への書込みのみを行い、これにより、更新のための Replicat SQL 操作に関する十分な

情報が提供されます。しかし、キーがないと、Replicat には変更データがあるのみで、これでは不十分です。

処置: 次のいずれかを行うことができます: Extract NOCOMPRESSUPDATES パラメータを使用して、すべての列を証跡に送信し、表定義に主キーまたは一意索引が含まれていない場合に、Replicat がすべての列をキーとして使用できるようにします。または、TABLE パラメータで KEYCOLS 句を使用して、表の代替キーを定義できます。

OGG-01411: 形式 {1} の入力ファイル {0} を、形式 {3} の出力ファイル {2} に変換できません

原因: データ・ポンプの出力証跡は、データ・ポンプの入力証跡と形式 (バージョン) が異なります。データ・ポンプの入力証跡と出力証跡の形式は、同一である必要があります。

処置: EXTFILE または EXTTRAIL と RMTFILE または RMTTRAIL の FORMAT RELEASE オプションは、データ・ポンプに関連付けられる場合、同じである必要があります。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01412: 無効な問合せが指定されました: SQLEXEC 文の getval 関数でラージ・オブジェクトをトークン化できません。

原因: ラージ・オブジェクト型 (LOB) は、このデータベース・システムの GETVAL または SQLEXEC によってサポートされていません。

処置: SQLEXEC 問合せにサポートされているデータ型を使用します。サポートされているデータ型については、SQLEXEC の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01413: シェル・コマンドの引数がありません。

原因: EVENTACTIONS の SHELL アクションには、実行する有効な引数が含まれていません。

処置: SHELL コマンドに対して、有効なコマンドまたはスクリプトを指定します。

OGG-01414: CACHEMGR: tran id: 0 memtran 長さ: 0x{0}

原因: 取得されたデータに、主キーまたは一意識別子が存在しません。

処置: Oracle GoldenGate でサポート・ケースを開きます。

OGG-01415: CACHEMGR: セカンダリ tran id: 0 tran id 長さ: {0}

原因: 取得されたデータに、2 次キーまたは一意識別子が存在しません。

処置: Oracle GoldenGate でサポート・ケースを開きます。

OGG-01416: 形式 {1} のファイル {0} は、現在のフォーマット指定 {2} に一致していません。パラメータ・ファイルを変更して形式 {1} を指定するか、ETROLLOVER を発行してから再起動してください。

原因: Extract のバージョンと出力ファイルまたは証跡のバージョンが一致していません。Extract が新しいバージョンにアップグレードされている可能性があります。デフォルトでは、Extract はそれ自体のバージョンと同じ証跡のバージョンが必要とされます。それ以外の場合、古い Replicat の下位互換性を保持するときは、異なるバージョンをパラメータ・ファイルに指定する必要があります。

処置: Replicat プロセスが Extract プロセスのバージョンと同じか、より古いかに応じて、2 つの選択肢があります。古い Replicat プロセスの使用を続行するには、RMTTRAIL、EXTTRAIL、RMTFILE または EXTFILE パラメータ (使用しているものに応じて異なる) で、FORMAT オプションを指定する必要があります。Replicat を Extract と同じバージョンにアップグレードしている場合、

GGSCI で ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER オプションとともに発行してから、Extract を起動します。ロールオーバーでは、証跡の形式を、新しい Extract と同じ形式に設定します。詳細は、これらのパラメータに関する Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01417: CACHMGR: 重複したトランザクション 2 次キー: {1} 主キー: {0}

原因: Oracle GoldenGate のメモリー内のオブジェクト・プールには、同じ 2 次識別子のオブジェクトがすでに含まれています。

処置: 古い (すでに処理された) トランザクション・データが Extract によって処理されたかどうかを特定します。トランザクション・ログが破損していないことを確認したら、Oracle でサポート・ケースを開きます。

OGG-01418: サポートされていないデータ型 {0} ({1,number,0}) が UDT 属性 {2} で検出されました。

原因: NCLOB、NCHAR または NVARCHAR2 データ型がオブジェクト表に定義されています。これらのデータ型はサポートされていません。

処置: UDT を Oracle GoldenGate 構成から除外します。

OGG-01419: ソース表 {0} が複数のターゲットにマップされています。EBCDIC ターゲットと EBCDIC 以外のターゲットの組合せはサポートされていません。

原因: ソース表が複数のターゲットにマップされていますが、エンコーディングは各ターゲットに対して別々に指定されています。1 つは EBCDIC として指定されていますが、もう 1 つはそうのように指定されていません。

処置: エンコーディングを、すべてのターゲット (EBCDIC または ASCII のいずれか) で同じになるように変更します。既存の構成を保持するには、各エンコーディング・スキームに別の Extract グループを使用します。

OGG-01420: CACHMGR: 重複したトランザクション 主キー: {0}

原因: Oracle GoldenGate のメモリー内のオブジェクト・プールには、同じ一意識別子、通常はトランザクション識別子のオブジェクトがすでに含まれています。

処置: 古い (すでに処理された) トランザクション・データが Extract によって処理されたかどうかを特定します。トランザクション・ログが破損していないことを確認したら、Oracle でサポート・ケースを開きます。

OGG-01421: CACHMGR: 主キーがありません

原因: Oracle GoldenGate メモリー・マネージャは、Extract が処理したトランザクションまたはオブジェクトの一意識別子を確認できません。

処置: Oracle でサポート・ケースを開きます。

OGG-01422: CACHMGR: 2 次キーがありません 主キー: {0}

原因: 2 次キーの長さがトランザクション・レコードに指定されましたが、メモリー・マネージャによって 2 次キーを検出できませんでした。

処置: Oracle でサポート・ケースを開きます。

OGG-01423: スレッド {0} に、有効なデフォルト・アーカイブ・ログの宛先ディレクトリがありません

原因: 予期されているデフォルトの場所が存在しないため、Extract は、データを取得する必要があるアーカイブ・ファイルを検出できませんでした。

処置: アーカイブがデフォルトの場所にあると考えられる場合、アーカイブが削除または名前変更されていないことを確認します。これらの条件のいずれかが存在する場合、デフォルトの名前に戻します。それ以外の場合、アーカイブがデフォルト以外の名前を持つディレクトリに格納されているときは、

TRANLOGOPTIONS パラメータのオプションを使用して、その場所を指定できます。

OGG-01424: イベント処理は、Teradata 最大パフォーマンス・モードでサポートされていません。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01425: '{2}' の行 {3,number,0} から発行されたメッセージのコンテキスト・アイテム番号 {0,number,0}, '{1}' がありません

原因: 内部エラー: 予期されるメッセージ・トークンがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01426: ユーザー・イグジット [{0}]、optype [{1}]、objtype [{2}]、objowner [{3}]、objname [{4}] によって、DDL 操作が除外されました

原因: 指定したユーザー・イグジットが、指定した DDL を除外しました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01427: {0} を使用する際に {1} が無視されました

原因: 指定したパラメータは、プロセス構成内の別のパラメータと互換性がないため、無視されました。

処置: パラメータを削除します。

OGG-01428: Oracle エラー {1,number,0} で、再試行の最大数 ({0,number,0}) に到達しました

原因: REPERERROR パラメータの MAXRETRIES オプションで指定されている再試行数に到達しました。

処置: エラーを引き起こしているデータで問題の修正を試行します。問題を解決できない場合、操作を確認して可能な場合は手動で適用できるよう、操作を廃棄するための REPERERROR オプションを変更できます。START REPLICAT を SKIPTRANSACTION、ATCSN または AFTERCSN オプションとともに実行して、トランザクションをスキップすることもできます。

OGG-01431: '{0}' 上のグループ化トランザクションが中止されました。マッピング・エラー

原因: グループ化トランザクションの適用中に、ターゲット表へのソース表のマッピングでエラーが発生しました。

処置: マッピング・エラーを解決し、プロセスを再起動します。

OGG-01432: '{0}' 上のグループ化トランザクションが中止されました。フィルタが渡されませんでした

原因: フィルタ・ロジックでエラーが発生しました。

処置: パラメータ・ファイルのフィルタ指定を修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-01433: 表 {0} を検証できませんでした。表は圧縮され、Extract は Oracle ログからデータを抽出できません

原因: Oracle GoldenGate は、表圧縮または OLTP 表圧縮で作成された表をサポートしていません。

処置: Extract および Replicat の構成から表を削除してから、プロセスを再起動します。

OGG-01434: {0}

原因: プロセスがメモリーをマップしようとしたときに、指定されたエラーが発生しました。

処置: システム・メモリー・リソースの追加など、メッセージの内容に基づくエラーを解決できない場合、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01435: mmap: len: 0x{0} prot: 0x{1} flags: 0x{2} fd: {3,number,0} off: 0x{4} errno: {5,number,0} ({6})

原因: 内部の警告。メモリー・マッピング操作が失敗しました。

処置: インストール・ディレクトリが、メモリー・マップ・ファイルをサポートしているファイル・システムにあることを確認します。

OGG-01436: 順序番号 {0,number,0} の Oracle ログの終わりにある不完全なログ書込み、および RBA{1,number,0} を開始するログ書込みを検出およびスキップしました

原因: ログ・ライター・バッファが完了する前に、ファイルの終わりに到達しました。

処置: プロセスがアーカイブ・ログをすぐに使用するよう、Extract パラメータ・ファイルに、TRANLOGOPTIONS パラメータを OPENARCHIVEIMMEDIATE オプションとともに追加します。

OGG-01437: 証跡ファイル {0} に書き込む前に、証跡レコード・イメージを変更できませんでした

原因: メモリー内証跡レコードが破損している可能性があり、これによりそのフィールドまたは他のプロパティに対する更新が失敗しました。

処置: チェックポイント・ファイルおよび証跡ファイルを保存してから、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01438: チェックポイントは正常なシャットダウンからとしてマークされましたが、証跡 {0} でチェックポイントの後にレコードが検出されました。予期される EOF 順序番号 {1,number,0}、RBA {2,number,0}。検出された順序番号 {3,number,0}、RBA {4,number,0}

原因: プロセスが、証跡内のチェックポイント後に生成されたレコードを検出しました。これは単なる警告です。修正が試行されます。

処置: なし

OGG-01443: 仮想列、Null 値可能な列、または他の使用不可能な列の除外により、表 {0} で使用可能なキー列は一意性を保証しない可能性があります。

原因: キー列には、1 つ以上の指定した列タイプが含まれています。Oracle GoldenGate は、他のキーが存在しない場合、Null 値可能な列をキー定義に受け入れますが、その他の指定した列タイプをキー定義に受け入れません。これらのタイプの 1 つ以上の列がキーに一意性を提供するのに役立っている場合、これらを除外すると、ターゲット上のデータが不正である可能性があります。これらの定義に基づく Null 値可能な列は、一意とみなすことはできません。

処置: これらの列を除外しても一意性を損なわないことがわかっている場合は、なし。Oracle GoldenGate のキー選択のルールを表示するには、ご使用のデータベース・タイプのインストレーションおよびセットアップ・ガイドを参照してください。

OGG-01444: 順序値 [{0}] のレプリート中にエラーが発生しました

原因: プロセスが順序値をレプリケートした際に、指定されたデータベース・エラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージに示されているデータベース・エラーを解決してから、プロセスを再起動します。

**OGG-01445: バッファ・オーバーフロー (最大バッファ・サイズ {0,number,0}).
xmltype データが抽出されません**

原因: 埋込み XML データの長さが、DBOPTIONS の XMLBUFSIZE オプションで指定したメモリー・バッファのサイズを超えています。

処置: このパラメータの値を増やしてから、Extract を再起動します。

OGG-01446: オブジェクト表 {0} は、このデータベース・バージョンではサポートされていません。

原因: Oracle GoldenGate パラメータ・ファイルまたはコマンドでオブジェクト表が指定され、その Oracle バージョンがリリース 10.2.0.2 より前です。オブジェクト表は、そのデータベース・バージョンではサポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate 構成からオブジェクト表を削除します。

OGG-01447: サポートされていない不透明型 ({0}) が検出されました

原因: XMLTYPE は、処理中の UDT の一部です。XMLTYPE はサポートされていません。

処置: UDT から XMLTYPE を削除するか、UDT をレプリケートしないでください。

**OGG-01448: col:{1} attr:{2} type:{3} の XML データ ({0}) のアップロード中に
XmlLoadDom エラーが発生しました**

原因: Extract は、指定した XML データを処理できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

**OGG-01449: 証跡ファイル {0} でスキャンが失敗しました。スキャン開始順序番号
{1,number,0}、RBA {2,number,0}**

原因: リモート証跡で最終コミット位置を検出しようとする際に、プロセスで内部スキャン・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01450: 証跡ファイル {1} のスキャンからの戻り値 '{0,number,0}' を認識できません。スキャン開始順序番号 {2,number,0}、RBA {3,number,0}

原因: リモート証跡で最終コミット位置を検出しようとする際に、プロセスで認識できない戻り値が発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01451: {0}

原因: これは、様々な状態を報告するのに使用される一般的な情報メッセージです。

処置: メッセージ・テキストに基づいて、修正処理を実行します。このメッセージとともに記録された関連メッセージを探します。メッセージで指定されたコンテキストに基づいて問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01453: データベース・ログイン情報がパラメータ・ファイルで指定されていません。

原因: USERID パラメータがパラメータ・ファイルから欠落しています。

処置: Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの指示に従って、USERID パラメータを追加します。

OGG-01454: ファイル "{0}" をロックできません (エラー {2,number,0}, {3}).

{1,choice,0#|1# ロックは現在プロセス ID (PID) {1,number,0} によって保持されています。}

原因: ファイルをロックするためにプロセスがオペレーティング・システムを使用しようとしたが、ファイルが別のプロセスによって使用中であるため、失敗しました。可能な場合、問題のあるプロセスの識別子が表示されます。

処置: ファイルが Oracle GoldenGate 構成に存在する必要があることを確認し、入力ミスによって別のファイルを使用していたのではないことを確認します。使用中のファイル・システムが Oracle GoldenGate でサポートされていることを確認します。

OGG-01455: オブジェクト表 {0} は、このデータベース・バージョンではサポートされていません。

原因: Oracle GoldenGate パラメータ・ファイルまたはコマンドでオブジェクト表が指定され、その Oracle バージョンがリリース 10.2.0.2 より前です。オブジェクト表は、そのデータベース・リリースではサポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate 構成からオブジェクト表を削除します。

OGG-01456: 最大 LOB 列数 ({0,number,0}) の制限を超えています。

原因: LOB を使用した列数が、システムが処理できる制限を超えています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01457: {0,number,0} に設定された VAM 互換性レベルで、{1} をコールできません

原因: Extract 内の VAM モジュールと VAM API カーネルは別の互換性レベルを持つため、同時に使用できません。

処置: Extract パラメータ・ファイルに、TRANLOGOPTIONS パラメータを VAMCOMPATIBILITY オプションとともに追加して、VAM モジュールの互換性レベルを設定します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01458: TRANLOGOPTIONS VAMCOMPATIBILITY パラメータによって設定された VAM 互換性レベル {0,number,0} は、VAMInitialize で VAM クライアント・モジュールによってオーバーライドされ、{1,number,0} に設定されました

原因: VAMInitialize は、TRANLOGOPTIONS VAMCOMPATIBILITY 設定をオーバーライドします。

処置: VAMInitialize バージョンが正しい場合は、なし。それ以外の場合、適切なバージョンを反映するよう、必要な変更を行います。古い TAM モジュールとの下位互換性をサポートするには、TRANLOGOPTIONS を VAMCOMPATIBILITY の値を 1 にして設定するか、VAMInitialize でその値を設定します。

OGG-01459: VAM 互換性レベルは、TRANLOGOPTIONS

VAMCOMPATIBILITY <level> パラメータ (<level> は 1 で始まる数字) によって設定する必要があります

原因: 新しい Oracle GoldenGate for Teradata の Extract が古い TAM モジュールと組み合わせられています。

処置: 古いモジュールとの下位互換性をサポートするには、TRANLOGOPTIONS を VAMCOMPATIBILITY の値を 1 にして設定します。VAM 互換性を VAMInitialize で設定している場合は、TRANLOGOPTIONS で設定する必要はありません。Extract と TAM モジュールのバージョンが同じ場合、このパラメータは必要ありません。

OGG-01462: 要求された TDS パケット・サイズ {0,number,0} バイトは、SQL Server によって {1,number,0} に変更されました

原因: TDS パケット・サイズの要求は正常に戻されましたが、データベース・サーバーによって、値は警告で指定された値に変更されました。

処置: これは警告メッセージであるため、即時のアクションは必要ありません。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01464: mmap: len: 0x{0} prot: 0x{1} flags: 0x{2} fd: {3,number,0} off: 0x{4} errno: {5,number,0} ({6})

原因: オペレーティング・システムは、指定されたサイズの共有メモリー・リージョンおよび操作フラグを作成または割当てできませんでした。エラー値は、特定のエラー・モードを示しています。使い果たされたディスク領域、共有 (NFS) 仮想デバイス上の Oracle GoldenGate インストール、または別のプロセスによって使用中の関連付けられたバッキング・ファイルにより、この操作は失敗することがあります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01465: ファイル {0} の RBA {1,number,0} で XID {3} および CSN {4} のソース・トランザクションを待機中に、トランザクション・タイムアウトしきい値 ({2,number,0} 秒) を超過しました。

原因: Replicat は、TRANSACTIONTIMEOUT パラメータで指定された値以上の期間、同じ位置にあります。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスの開始を示すための情報です。

処置: なし

OGG-01466: ファイル {0} の RBA {1,number,0} でソース・トランザクションを待機中に、トランザクション・タイムアウトしきい値 ({2,number,0} 秒) を超過しました。

原因: Replicat は、TRANSACTIONTIMEOUT パラメータで指定された値以上の期間、同じ位置にあります。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスの開始を示すための情報です。

処置: なし

OGG-01467: ファイル {0} の RBA {1,number,0} で XID {2} および CSN {3} の一部のソース・トランザクションの開始にリカバリされました。さらに多くのデータ待ち。

原因: Replicat パラメータ・ファイルの TRANSACTIONTIMEOUT パラメータで指定された値に到達し、Replicat はトランザクション終了レコードを受信していませんでした。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスは正常にオープン・トランザクションを元に戻し、論理的な終了にリカバリし、現在さらにデータを待っています。

処置: なし

OGG-01468: ファイル {0} の RBA {1,number,0} で一部のソース・トランザクションの開始にリカバリされました。さらに多くのデータ待ち。

原因: Replicat パラメータ・ファイルの TRANSACTIONTIMEOUT パラメータで指定された値に到達し、Replicat はトランザクション終了レコードを受信していませんでした。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスは正常にオープン・トランザクションを元に戻し、論理的な終了にリカバリし、現在さらにデータを待っています。

処置: なし

OGG-01469: ファイル {0} の RBA {1,number,0} の後に新しいデータが検出されました。XID {2} および CSN {3} のトランザクションの配信を再開しています。

原因: TRANSACTIONTIMEOUT 処理に適用します。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスの間に受信された追加データは、論理的な終了で待機していました。このメッセージは、トランザクション・タイムアウト・リカバリから通常の処理に戻る遷移をマーク付けします。

処置: なし

OGG-01470: ファイル {0} の RBA {1,number,0} の後に新しいデータが検出されました。配信を再開しています。

原因: TRANSACTIONTIMEOUT 処理に適用します。トランザクション・タイムアウト・リカバリ・プロセスの間に受信された追加データは、論理的な終了で待機していました。このメッセージは、トランザクション・タイムアウト・リカバリから通常の処理に戻る遷移をマーク付けします。

処置: なし

OGG-01471: TRANSACTIONTIMEOUT には EOFDELAY より小さい値は指定できません。

原因: TRANSACTIONTIMEOUT に指定されている値が、EOFDELAY パラメータの値より小さくなっています。EOFDELAY パラメータより大きくする必要があります。

処置: Replicat パラメータ・ファイルを編集して、TRANSACTIONTIMEOUT の値を EOFDELAY より大きい値に設定してから、Replicat を再起動します。

OGG-01472: TRANSACTIONTIMEOUT には 1 週間を超える値は指定できません。

原因: TRANSACTIONTIMEOUT パラメータが Replicat パラメータ・ファイルで使用されていますが、指定した値が、許可されている最大値である 1 週間 (7 日) より大きくなっています。

処置: TRANSACTIONTIMEOUT の値を、1 秒から 1 週間の間の値に変更してから、Replicat を再起動します。

OGG-01473: DDL が大きすぎます - DDL は無視されます。詳細: {0}。

原因: Oracle GoldenGate によってサポートされているサイズを超えた DDL 文は、無視されます。

処置: DDL の廃棄が後続の DML に影響を与えるかどうかに応じて異なります。DDL の廃棄によってメタデータの一貫性がなくなる場合、以降の DML はエラーとなる可能性があります。どのような場合でも、ターゲット上の DDL を手動で適用できます。状態がエラー引き起こした場合、プロセスの再起動が必要になる可能性があります。

OGG-01474: {0} {1} を自動的に起動できず、順不同のトランザクションにより異常終了しました。ETROLLOVER を発行して、現在の証跡順序を過ぎた出力証跡順序を進めてから、再起動します。次に、ALTER EXTSEQNO を後続のポンプ EXTRACT、または REPLICAT、プロセス・グループで使用して、ALTER ETROLLOVER によって作成された新しい証跡ファイルからの読取りを開始します。ダウンストリーム・プロセスは新しい証跡ファイルに自動的に切り替えません。

原因: Manager は、指定したプロセスを開始できません。現在の証跡ファイル内のトランザクションは、順不同です。考えられる原因の 1 つは、Extract はこの証跡に書き込むよう構成されてから、別の証跡に書き込むよう再構成されましたが、その後、元の証跡に再び書き込むよう再構成されたことです。Extract がトランザクション・ログ内で後ろ向きに再配置され、新しい位置からのデータが現在の証

跡ファイルの終わりに追加されたことも考えられます。このレコードをスキップしてから、次のレコードで開始するよう Replicat を再配置する必要があります。

処置: この証跡に書き込む必要がある Extract を停止し、ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER とともに発行します。次に、Extract を再起動します。次に、ALTER REPLICAT または ALTER EXTRACT コマンド (Replicat かデータ・ポンプ Extract のどちらが証跡を読み取るかに応じて異なる) を EXTSEQNO オプションとともに発行し、新しい証跡ファイルの順序番号を指定します。最後に、Replicat またはデータ・ポンプを起動します。

OGG-01475: {0} {1} を自動的に再起動できず、順不同のトランザクションにより異常終了しました。ETROLLOVER を発行して、現在の証跡順序を過ぎた出力証跡順序を進めてから、再起動します。次に、ALTER EXTSEQNO を後続のポンプ EXTRACT、または REPLICAT、プロセス・グループで使用して、ALTER ETROLLOVER によって作成された新しい証跡ファイルからの読取りを開始します。ダウンストリーム・プロセスは新しい証跡ファイルに自動的に切り替えません。

原因: Manager は、指定したプロセスを開始できません。現在の証跡ファイル内のトランザクションは、順不同です。考えられる原因の 1 つは、Extract はこの証跡に書き込むよう構成されてから、別の証跡に書き込むよう再構成されましたが、その後、元の証跡に再び書き込むよう再構成されたことです。Extract がトランザクション・ログ内で後ろ向きに再配置され、新しい位置からのデータが現在の証跡ファイルの終わりに追加されたことも考えられます。このレコードをスキップしてから、次のレコードで開始するよう Replicat を再配置する必要があります。

処置: この証跡に書き込む必要がある Extract を停止し、ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER とともに発行します。次に、Extract を再起動します。次に、ALTER REPLICAT または ALTER EXTRACT コマンド (Replicat かデータ・ポンプ Extract のどちらが証跡を読み取るかに応じて異なる) を EXTSEQNO オプションとともに発行し、新しい証跡ファイルの順序番号を指定します。最後に、Replicat またはデータ・ポンプを起動します。

OGG-01476: 前回の実行は順不同のトランザクションにより異常終了しました。ALTER ETROLLOVER を発行して、現在の証跡順序番号を過ぎた出力証跡順序を進めてから、再起動します。次に、ALTER EXTSEQNO を後続のポンプ EXTRACT、または REPLICAT、プロセス・グループで使用して、ALTER ETROLLOVER によって作成された新しい証跡ファイルからの読取りを開始します。ダウンストリーム・プロセスは新しい証跡ファイルに自動的に切り替えません。

原因: なんらかの理由で、現在の証跡ファイル内のトランザクションは、順不同です。別の Extract がこの証跡に書き込むよう構成された可能性があり、古いデータは新しいデータで上書きされました。このレコードをスキップしてから、次のレコードで開始するよう Replicat を再配置する必要があります。

処置: この証跡に書き込む必要がある Extract を停止し、ALTER EXTRACT コマンドを ETROLLOVER とともに発行します。次に、Extract を再起動します。次に、ALTER REPLICAT または ALTER EXTRACT コマンド (Replicat かデータ・ポンプ Extract のどちらが証跡を読み取るかに応じて異なる) を EXTSEQNO オプションとともに発行し、新しい証跡ファイルの順序番号を指定します。最後に、Replicat またはデータ・ポンプを起動します。

OGG-01477: ターゲットは、ファイル {0} の形式 {1} をサポートしていません。形式 {2} に戻しています

原因: このファイルを読み取るプロセスのバージョンは、そのファイルを書き込むプロセスのバージョンより古いです。証跡または Extract ファイルは、それを読み取るプロセスのバージョン以下のバージョンを持つ必要があります。さらに、

データ・ポンプの入力ファイルおよび出力ファイルは同じバージョンである必要があります。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01478: 出力ファイル {0} は形式 {1} を使用しています。

原因: このプロセスが書き込んでいる証跡またはファイルは、指定した証跡の形式を使用しています。証跡の形式は、Oracle GoldenGate のバージョンごとに変えることができます。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01479: {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01482: DDL オブジェクト・タイプはサポートされていません。タイプ {0}

原因: 指定したデータベース・オブジェクトは、Oracle GoldenGate の DDL レプリケーション機能によってサポートされていません。

処置: パラメータ・ファイルの DDL パラメータからオブジェクトを削除してから、プロセスを再起動します。

OGG-01483: 表 [{0},{1},{2}] のキーには、1 つ以上の可変長の列が含まれています。

これらの列には、更新中にトランザクション・ログに書き込まれたプリイメージがない可能性があります。KEYCOLS を使用して、Oracle GoldenGate がこの表で使用するためのキーを指定してください。

原因: 指定した表には、クラスタ化索引がなく、可変長の列があります。Oracle GoldenGate は行全体をキーとして使用するため、データがページから離れて格納される場合、ビフォア・イメージが失われる可能性があります。

処置: TABLE 文および MAP 文で KEYCOLS 句を使用して、一意の値をキー列として含む列を指定するか、かわりに、表にクラスタ化索引を定義します。クラスタ化索引を定義する場合、それは DDL 操作であることに注意してください。DDL 操作は、このデータベースの Oracle GoldenGate によってサポートされていないため、アクティブなレプリケーション構成にあるオブジェクトで DDL を実行するには、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントの指示に従ってください。

OGG-01484: 表={1}、op={2,number,0}、レコード ID={3}、長さ={4,number,0} のトランザクション {0} にアイテムを追加中に、エラーが発生しました。

原因: プロセスがアイテムをトランザクションに追加した際に、Cache Object Manager (COM) で内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01485: トランザクション {0,number,0}:{1,number,0}:{2,number,0}、op={3,number,0}、レコード LSN={4,number,0}、長さ={5,number,0} にアイテムを追加中に、エラーが発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: メッセージの完全な内容を Oracle サポート・サービスに報告してください。

OGG-01487: DDL が検出されました。操作 [{0}]、開始 {1} [{2}]、コミット {1} [{3}] インスタンス [{4} ({5})]、DDL 順序番号 [{6}]、マーカー順序番号 [{7}]

原因: DDL 操作が処理されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01488: TARGET 内のワイルドカード・スキーマでは、アスタリスク (*) 以外の文字を使用できません。

原因: 単一のアスタリスク文字のみが、ワイルドカードを使用した Oracle スキーマ名を指定するために使用できます。

処置: Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントでワイルドカードに関するルールを参照してから、MAP 文で適切な修正を行います。

OGG-01489: 表の TRAN DATA を追加できませんでした。エラー [{1}]、エラー・コード [{0,number,0}]、操作 [{2}]

原因: Extract パラメータ・ファイルに、DDLOPTIONS パラメータが ADDTRANDATA オプションとともに指定され、サブリメンタル・ロギングを追加する ALTER TABLE コマンドが、エラーにより失敗しました。

処置: 返されたデータベース・エラーに基づいて、問題を修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01495: ADDTRANDATA のエラー・アクション (ABEND, RETRYOP) [{0}] はすでに指定されています

原因: ABEND および RETRY の両方が ADDTRANDATA に指定されています。

処置: これらのオプションのどちらか一方を削除します。これらは相互に排他的です。

OGG-01496: RBA {1,number,0} でターゲット証跡ファイル {0} のオープンに失敗しました

原因: プロセスが、リカバリの初期フェーズ中に、有効な証跡を検出できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01498: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。データベース・エラー {1,number,0} ({2})。

原因: BATCHERRORMODE 処理は、指定されたデータベース・エラーにより、トランザクションを正常に適用できなかったため、トランザクションをロールバックしています。Replicat はトランザクションを通常モードで処理します。

処置: なし

OGG-01500: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。一貫性のない結果が検出されました: {1,number,0} 個の操作がバッチで実行され、結果として {2,number,0} 行が影響を受けます。

原因: バッチ処理された操作により、バッチでの処理数と、データベース・レスポンスが返した影響を受ける行数に基づいて、データの整合性の問題が発生する可能性があります。トランザクションはロールバックされ、Replicat はトランザクションを通常モードで再処理します。

処置: なし

OGG-01501: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。データベース・エラー {1,number,0} ({2})。一時キーの更新により、バッチ・モードを一時的に無効化しています。

原因: BATCHERRORMODE 変換処理により、一時主キー更新が行われたため、バッチ処理されたトランザクションをロールバックしています。(TPKU の詳細は、HANDLETPKUPDATE パラメータのドキュメントを参照してください。) Replicat は、通常の処理に戻して、このトランザクションを適用します。

処置: なし

OGG-01502: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。データベース・エラー {1,number,0} ({2})。重複のオーバーライドに失敗しました。

原因: BATCHSQL は BATCHERRORMODE で動作していますが、挿入から更新への変換中に衝突が発生しました。

処置: BATCHERRORMODE を使用するには、Replicat パラメータ・ファイルで HANDLECOLLISIONS パラメータを使用して、変換によって生じる衝突を処理する必要があります。

OGG-01503: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。マッピング・エラー。

原因: バッチ処理されたトランザクションを中止し、Replicat は通常の処理に戻しています。

処置: なし

OGG-01504: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| バッチ・エラー・モードで 1#} を中止しています。フィルタが渡されませんでした。

原因: フィルタ・エラーにより、バッチ処理されたトランザクションを中止しています。Replicat は通常の処理に戻しています。

処置: なし

OGG-01505: OCI エラー ({0,number,0}, {1}) 最大カーソル数を超過しました。表 {2}、問合せ = {3} の新しい文を準備できません

原因: MAXSQLSTATEMENTS パラメータによって許可されている最大カーソル数に到達しました。

処置: データベース・カーソルの制限で許可されていて、他のアプリケーションのカーソルが十分にある場合、MAXSQLSTATEMENTS の値を増やすことができます。ただし、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してから、このパラメータを変更してください。

OGG-01506: 値 ({0}) は列の最小値を上回っています。表 {1}、列 {2}。

原因: 指定した列のカatalog定義に基づいて、指定された領域で結果の負値を表現できないため、数値の変換が失敗しました。

処置: 最近の表への変更を調べます。指定した表のカatalog定義が、アーカイブ・ログ内のデータに一致しない可能性があります。

OGG-01507: 値 ({0}) は列の最大値を上回っています。表 {1}、列 {2}。

原因: 指定した列のカatalog定義に基づいて、指定された領域で結果の正値を表現できないため、数値の変換が失敗しました。

処置: 最近の表への変更を調べます。指定した表のカatalog定義が、アーカイブ・ログ内のデータに一致しない可能性があります。

OGG-01508: プロセス・グループ {0} の監視ポイント・サービスの初期化に失敗しました (エラー {1,number,0})。監視ポイント公開は無効化されます。

原因: Oracle GoldenGate プロセスが、監視ポイントのレジストリおよびサービスの共有メモリの初期化に失敗しました。この障害は、通常、次の場合に発生します: バックアップ・ファイルをホストするためのディスク領域が不十分である (Linux)。共有リージョンをホストするためのメモリーが不十分である。NFS がマウントされたディレクトリにバックアップ・ファイルが格納されている (Linux)。システムが使用可能なハンドルの割当てを使い果たした。

処置: ディスク領域やハンドルなど、システム・リソースに関連する問題の場合、ディスク記憶域をさらに割り当てるか、ハンドルをさらに割り当てるか、他のプロセスによるこれらのリソースの使用量を減らす (場合によっては) ことによっ

て、使用可能なリソースを増やします。NFS の問題の場合、ローカルの物理デバイス上に Oracle GoldenGate をインストールするか、ローカルの物理デバイス上のディレクトリに内部 GLOBALS パラメータ `_TMPSTOREDIR` を設定します。

OGG-01509: "{0}" の監視ポイント値の公開に失敗しました (エラー {1,number,0})。監視ポイント公開は無効化されます。

原因: Oracle GoldenGate プロセスは、監視ポイント統計を保持するために共有メモリー・リージョンを確立できませんでした。これは、リージョンが破損していることを示します。

処置: 関連メッセージ (エラー OGG-01508 など) を確認して、問題の解決方法を特定します。関連メッセージがない場合、プロセスを再起動します。エラーが解決しない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01510: 監視ポイント・レジストリ ID を "{0}" に設定できませんでした (エラー {1,number,0})

原因: Oracle GoldenGate プロセスは、監視ポイント統計を保持するために共有メモリー・リージョンを確立できませんでした。これは、リージョンが破損していることを示します。

処置: 関連メッセージ (エラー OGG-01508 など) を確認して、問題の解決方法を特定します。関連メッセージがない場合、プロセスを再起動します。エラーが解決しない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01511: プロセス・ステータスを {0} に設定できませんでした (エラー {1,number,0})

原因: Oracle GoldenGate プロセスは、監視ポイント統計を保持するために共有メモリー・リージョンを確立できませんでした。これは、リージョンが破損していることを示します。

処置: 関連メッセージ (エラー OGG-01508 など) を確認して、問題の解決方法を特定します。関連メッセージがない場合、プロセスを再起動します。エラーが解決しない場合は、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。

OGG-01512: WILDCARDRESOLVE DYNAMIC パラメータは、VAM の一般的なデータベース実装では必須です

原因: VAM 実装では、表は、動的に検出される場合に、参照のみ可能です。VAMInitialize 関数で、表メタデータを静的に交換することはできません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01513: {0} に位置指定しています

原因: Extract は指定した順序番号に位置指定しています。

処置: なし

OGG-01514: 開始するように位置指定しています

原因: Extract は、特定の順序や時間にではなく、起動時のデータ・ソースの開始に位置指定しています。

処置: なし

OGG-01515: 開始時刻 {0,date} {0,time} に位置指定しています

原因: プロセスを、指定したタイムスタンプに開始するように位置指定しています。

処置: なし

OGG-01516: {0}, {1,date} {1,time} に位置指定されました

原因: プロセスは、現在、指定したタイムスタンプに開始するように位置指定されています。

処置: なし

OGG-01517: 最初のレコードが処理された位置 {0}, {1,date} {1,time}

原因: 処理は、指定したタイムスタンプを持つ最初のレコードで開始しました。

処置: なし

OGG-01518: Extract は、GGSCI 内で実行する場合、SOURCEISTABLE または SOURCEISFILE を指定して追加する必要があります。または、GGSCI 外部でスタンドアロン・モードで Extract を実行する必要があります。

原因: SOURCEISTABLE (Windows および UNIX) または SOURCEISFILE (NonStop プラットフォーム上) パラメータを含むパラメータ・ファイルで、初期ロードを開始するように、START EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: これらのパラメータの適切な使用は、目的のロード方法に応じて異なります。Oracle GoldenGate の管理ドキュメントに記載されているロード方法を確認してから、必要に応じて構成を修正します。

OGG-01519: 完了とマークされていない入力証跡ファイル {0} 上の EOF で待機していますが、後続の証跡ファイル {1} が存在します。ソース Extract で ALTER ETROLLOVER が実行された場合、それぞれ対応するダウンストリーム・リーダーで ALTER EXTSEQNO を実行する必要があります。

原因: Extract はアップグレードされ、新しいバージョンに対して正しい形式の新しいファイルに既存の証跡をロールオーバーするために、ALTER EXTRACT コマンドが ETROLLOVER とともに発行されました。証跡 (データ・ポンプまたは Replicat) を読み取るプロセスを、新しい証跡の先頭で読取りを開始するように変更する必要があります。

処置: ALTER EXTRACT または ALTER REPLICAT コマンド (プロセスに応じて異なる) を EXTSEQNO オプションとともに発行し、新しい証跡の順序番号を指定します。

OGG-01520: ロールオーバーが実行されました。バージョン 10 以上の形式の影響のある各出力証跡に対して、ソース Extract の起動後に、その証跡のリーダー (ポンプ EXTRACT または REPLICAT のいずれか) に対して ALTER EXTSEQNO を発行して、新しい証跡ファイルにリーダーのスキャンを移動します。これは自動的には発生しません。

原因: Extract はアップグレードされ、新しいバージョンに対して正しい形式の新しいファイルに既存の証跡をロールオーバーするために、ALTER EXTRACT コマンドが ETROLLOVER とともに発行されました。証跡 (データ・ポンプまたは Replicat) を読み取るプロセスを、新しい証跡の先頭で読取りを開始するように変更する必要があります。

処置: ALTER EXTRACT または ALTER REPLICAT コマンド (プロセスに応じて異なる) を EXTSEQNO オプションとともに発行し、新しい証跡の順序番号を指定します。

OGG-01521: スキャンが再開されました。

原因: 証跡がロールオーバーされ、読取りプロセスは、新しい証跡の先頭で読取りを開始するように変更されました。

処置: なし

OGG-01522: {0} をコールする際、遅延のためのゼロ以外の値が必要です

原因: これは内部エラーで、本番では発生しないはずですが、ポーリング・エラーが発生しました。アクティビティ・ロギング・クラスを介した Oracle GoldenGate のエラー・ロギング・サブシステムの構成は、特定のファイルが N ミリ秒ごとにポーリングされるように設定できます。N がゼロの場合、これはプログラミング・エラーとみなされ、このメッセージが発行されます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01523: アクティビティ・ロギングのための DTD の初期化に失敗しました

原因: gglog.dtd XML 定義ファイルは、インストール・フォルダで無効です。

処置: このファイルを修正するか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01525: 証跡出力ファイルのオープンに失敗しました。'{0}'、エラー {1,number,0} ({2})

原因: 指定した出力ファイルを開けませんでした。

処置: ファイル権限が適切であることを確認します。

OGG-01526: 構成ファイル '{2}' で、ロガー '{0}' の不明なアペンダ '{1}' が無視されました

原因: 'appender-ref' 要素によって名前が付けられたアペンダが XML ファイルに定義されていません。

処置: gglog.dtd で定義された有効なアペンダ・クラス名のうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01527: 構成ファイル '{1}' の検証中に問題が発生しました。{0}。問題は無視されました。

原因: 未定義

処置: 未定義

OGG-01528: 構成ファイル '{0}' にアクセスできません。エラー {1,number,0} ({2})

原因: 指定した XML 構成ファイルにアクセスできません。

処置: ファイル権限が適切であることを確認します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01529: 構成ファイル '{1}' の検証中に障害が発生しました。{0}。構成は変更されませんでした。

原因: 未定義

処置: 未定義

OGG-01530: 構成ファイル '{1}' の MaxFileSize '{0}' はゼロと 4GB の間である必要があります

原因: アクティビティ・ロギング XML ファイルに、ゼロと 4GB の間 (排他的) ではない RollingFileAppender の MaxFileSize パラメータが含まれています。

処置: 指定したサイズ範囲内になるように、パラメータ値を変更します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

**OGG-01531: 構成ファイル '{1}' の MaxFileSize '{0}' に無効な乗数があります。
'KB'、'MB' または 'GB' が予期されています。**

原因: アクティビティ・ロギング XML ファイルに、'KB'、'MB' または 'GB' (大文字または小文字のいずれか) 以外の値の接尾辞を持つ RollingFileAppender の MaxFileSize パラメータが含まれています。

処置: 接尾辞の値を有効なサイズ単位に変更します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01532: XML 構成ファイル '{0}' が見つかりません

原因: 指定したアクティビティ・ロギング XML ファイルが、ファイル・システム内で見つかりませんでした。現在のディレクトリとアプリケーション・ディレクトリの両方を検索しました。

処置: 構成ファイルを検索するか、新しい構成ファイルを作成します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01533: XML 構成ファイル '{0}' を使用できません。検証に失敗しました

原因: 未定義

処置: 未定義

OGG-01534: 行 {0,number,0} で XML 構成ファイル '{2}' を解析中にエラーが発生しました: {1}

原因: アクティビティ・ロギングによって使用される XML ファイルが正しい形式ではありません。サードパーティの XML ライブラリによって、特定の理由が指定されます。

処置: XML チェッカによって報告される XML エラーを修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01535: XML 構成ファイル '{0}' を使用できません。ドキュメント・ルートにアクセスできません

原因: XML ファイルは、正しい形式で、有効であり、正常にロードされましたが、ドキュメントのルートを特定できませんでした。

処置: XML ファイルを修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01536: 構成ファイル '{2}' のアペンダ '{0}' に不明なアペンダ・クラス名 '{1}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのアペンダ要素に、無効なクラス名が指定されました。

処置: gglog.dtd で定義された有効なアペンダ・クラス名のうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01537: 構成ファイル '{3}' のアペンダ '{0}' の '{1}' アペンダ・クラスに不明なパラメータ '{2}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのアペンダ要素に、無効またはスペルミスがあるパラメータ名が検出されました。

処置: gglog.dtd で定義された有効なアペンダ・クラス・パラメータのうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01538: 構成ファイル '{2}' のアペンダ '{0}' に不明なレイアウト・クラス名 '{1}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのレイアウト要素に、無効なクラス名が指定されました。

処置: gglog.dtd で定義された有効なレイアウト・クラス名のうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01539: 構成ファイル '{3}' のアペンダ '{0}' の '{1}' レイアウト・クラスに不明なパラメータ '{2}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのレイアウト要素に、無効またはスペルミスがあるパラメータ名が検出されました。

処置: gglog.dtd で定義された有効なレイアウト・クラス・パラメータのうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01540: 構成ファイル '{2}' のアペンダ '{0}' に不明なフィルタ・クラス名 '{1}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのフィルタ要素に、無効なクラス名が指定されました。

処置: gglog.dtd で定義された有効なフィルタ・クラス名のうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01541: 構成ファイル '{3}' のアペンダ '{0}' の '{1}' フィルタ・クラスに不明なパラメータ '{2}' があります

原因: アクティビティ・ロギング XML 構成ファイルのフィルタ要素に、無効またはスペルミスがあるパラメータ名が検出されました。

処置: gglog.dtd で定義されたフィルタ・クラスの有効なパラメータのうち 1 つを指定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01545: 表 {0} 列 {1,number,0} : チェック制約および OLE DB で "NOT FOR REPLICATION" を使用すると、データが破損する可能性があります。

原因: 指定した表でのチェック制約が NOT FOR REPLICATION に設定されていることを警告します。このモードでは、操作が Replicat によって適用されていると、ターゲット・データベースは制約をチェックしません。制約チェックがソース・データベースによって実行されたことを前提としています。

処置: なし

OGG-01546: 表 {0} 列 {1,number,0} : OLE DB を使用中にトリガーで "NOT FOR REPLICATION" を使用すると、データが破損する可能性があります。

原因: 指定した表でのトリガーが NOT FOR REPLICATION に設定されています。このモードでは、レプリケーション・エージェントとして動作している Replicat によって操作が適用されていると、ターゲット・データベースはトリガーを起動しません。ソースからトリガーされた操作は取得およびレプリケートされていることを前提としています。

処置: トリガーの影響を受ける表がレプリケーション構成に含まれていることを確認します。それ以外の場合、整合性違反を警告するエラーはありません。

OGG-01547: 表 {0} 列 {1,number,0} : OLE DB を使用中に外部キーで "NOT FOR REPLICATION" を使用すると、データが破損する可能性があります。

原因: 指定した表での外部キーが NOT FOR REPLICATION に設定されています。レプリケーション・エージェントとして動作している Replicat によって操作が適用されていると、ターゲット・データベースは制約を施行しません。これには、CASCADE 操作が含まれます。ソース・データベースで制約がチェックされ、カスケードされた操作は取得およびレプリケートされていることを前提としています。

処置: 参照先の表が参照元の表とともにレプリケーション構成に含まれていることを確認します。それ以外の場合、たとえば、レプリケートされていない表への外部キーが含まれている表に行が挿入される場合などは、整合性違反を警告するエラーはありません。

OGG-01548: 表 {0} : パフォーマンスを向上するために、OLE DB への切替えを検討してください。

原因: ODBC API が Replicat によって使用されていますが、IDENTITY 列は NOT FOR REPLICATION を有効にしています。

処置: NOT FOR REPLICATION を利用して、Replicat がより高いパフォーマンスの OLE DB API を使用するようには、DBOPTIONS パラメータを USEREPLICATIONUSER オプションとともに使用して、SQL Server レプリケーション・ユーザーとして接続するよう Replicat を構成します。詳細は、SQL Server 用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01552: 接続文字列: {0}

原因: これは、Replicat がターゲット・データベースに接続するために使用した、パスワードがマスクされた OLE DB 接続文字列を示す情報メッセージです。

処置: なし

OGG-01554: DBOPTION USEODBC および USEREPLICATIONUSER は、相互に排他的です。

原因: USEODBC と USEREPLICATIONUSER の両方が、DBOPTIONS パラメータで指定されています。

処置: Replicat が ODBC を介して DML を実行するようには、USEREPLICATIONUSER を削除します。Replicat が SQL Server レプリケーション・ユーザーとして DML を実行するようには、USEODBC を削除します。

OGG-01555: OLE DB エラー: 互換性がないドライバ・エラー DSN '{0}' SQL Server {1} には {2} が必要です

原因: Replicat パラメータ・ファイルの TARGETDB で指定された DSN は、その指定で選択した SQL Server と互換性がある接続ドライバを指定していません。

処置: TARGETDB に正しい DSN が指定されていることを確認し、その場合、DSN 定義で指定されたドライバとデータベース・サーバーに互換性があることを確認します。

OGG-01557: OLE DB エラー: データ・ソースを開けません。エラー・コード 0x{0} 詳細: {1}

原因: Replicat は、OLE DB 接続を使用したターゲット・データベースへの接続に失敗しました。

処置: TARGETDB パラメータをチェックして、正しい DSN が指定されていることを確認します。その値が正しい場合、DSN 定義自体を調べて、必要なすべての接続情報が存在し、有効であることを確認します。

OGG-01558: データベース操作が失敗しました : OLE DB エラー 0x{0}

原因: Replicat の OLE DB 操作が失敗しましたが、ドライバからエラー情報を取得できません。

処置: このエラー・メッセージの前に発生した警告またはエラー・メッセージがあるかどうかについてプロセス・レポート・ファイルを確認してから、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01560: {0} に位置指定しました

原因: Extract は指定した順序番号に位置指定しました。

処置: なし

OGG-01562: DDL 実行の現在のスキーマを設定するために、ソース・スキーマ {0} はターゲット・スキーマ {1} にマップされます。

原因: 指定したソース・セッション・スキーマは、DDLOPTIONS MAPSESSIONSCHEMA の TARGET 句で指定したターゲット・セッション・スキーマに現在マップされています。このソース・セッション・スキーマから実行された DDL は、ターゲット・セッション・スキーマの下にレプリケートされます。

処置: なし

OGG-01563: トランザクション {0} には、{1,number,0} 個の孤立した LOB バッファが含まれています。これらを削除してから、トランザクションを完了する必要があります。

原因: Cache Object Manager (COM) に LOB 列を格納中に、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01564: LOB ハンドル {0,number,0} が無効です。

原因: Cache Object Manager に LOB 列を格納中に、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01565: LOB ハンドル {0,number,0} は、すでに別のベース行列に関連付けられています。

原因: Cache Object Manager に LOB 列を格納中に、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01566: LOB ハンドル {0,number,0} は、すでにベース行列に関連付けられており、明示的に削除できません。

原因: Cache Object Manager に LOB 列を格納中に、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡するか、Oracle GoldenGate 開発者のサポートを受けている場合はその開発者に連絡してください。

OGG-01567: {1}: 最初の POF を検出できません : {0}

原因: 最も古い永続オブジェクト・ファイルが見つかりません。これらのファイルには、Extract が制限リカバリのチェックポイントからリカバリするために必要な永続トランザクション・データおよびその他の情報が含まれています。

処置: ログ・ファイルを使用できる場合は、なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。最も古いオープン・トランザクションを含むログ・ファイルがオンラインではないために Extract が停止する場合、そのログと後続のログを復元してから、Extract を再起動します。

OGG-01568: {3}: サポートされていない BR バージョン: {0}: 予期されるバージョン: {1,number,0} 検出されたバージョン: {2,number,0}

原因: 永続オブジェクト・ファイルが、現在実行中のバージョンとは異なる Bounded Recovery のバージョンで作成されました。Extract のアップグレードが実行された可能性があり、新しいバージョンには、より新しい Bounded Recovery のバージョンが含まれています。

処置: コマンド・ラインから BRRESET オプションを使用して、Extract を再起動します。BRRESET は、これが最初の実行であるようにプロセスを起動し、プロセスは通常のリカバリを使用します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの、BR コマンドの BRRESET オプションを参照してください。この方法で問題を解決できない場合は、BRDIR ディレクトリ内のグループ名を持つすべてのファイルを手動で削除します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01569: {1}: POF crc64 が一致しません: POF: {0}

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。

OGG-01570: {3}: マジック番号が一致しません: {0} 予期: 0x{1} 検出: 0x{2}

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。

OGG-01571: {3}: フッター・マジック番号が一致しません: ファイル名: {0}: 予期: 0x{1} 検出: 0x{2}

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。

OGG-01572: {2}: ファイル名が一致しません: POF: {0} mt_filename: {1}

原因: 永続オブジェクト・ファイルの名前が、Extract の Bounded Recovery のチェックポイント・ファイルに基づいて指定されたものではありません。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。

OGG-01573: {1}: コールで失敗しました: {0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01574: {1}: コールで失敗しました: {0}: エラー・コード: {2,number,0} ({3})

原因: 指定した関数の起動で、Bounded Recovery が失敗しました。

処置: エラーが Bounded Recovery 記憶域ディレクトリに関連する場合、問題を解決します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01575: {2}: コールで失敗したファイル操作: {0}: ファイル名 {1}

原因: Extract は、指定したファイルを開けませんでした。Extract は通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01576: {0}: エラー・コード: {1,number,0} ({2})

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01577: {0}: NULL が永続化されたオブジェクト・ポインタ

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01578: {1}: PO (CO) での予期しないフラグ: 0x{0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01579: BOUNDED RECOVERY: 有効な BCP: {0}

原因: Bounded Recovery は、指定したチェックポイントを検証しました。

処置: なし

OGG-01580: {2}: 無効な crc64: CPF: {0} crc: 0x{1}

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、再び Bounded Recovery を有効にします。

OGG-01582: {2}: Extract グループが一致しません: 予期されるグループ: {0} 検出されたグループ: {1}

原因: Bounded Recovery のチェックポイント・ファイル内の Extract グループが、現在実行中の Extract グループではありません。

処置: コマンド・ラインから BRRESET オプションを使用して、Extract を再起動します。BRRESET は、これが最初の実行であるようにプロセスを起動し、プロセスは通常のリカバリを使用します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの、BR コマンドの BRRESET オプションを参照してください。この方法で問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01584: {0}: Extract グループが指定されていません

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01585: {1}: 一意の Bounded Recovery インスタンスがすでに存在します: 要求された Extract グループ: {0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01586: {2}: {0} {1}: エラー・コード: {3,number,0} ({4})

原因: Extract が Bounded Recovery モードの際に、ファイル・システムへの要求が、指定されたエラーで失敗しました。

処置: 可能な場合、エラーに基づいて問題を修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01587: {3}: {0}: {1} エラー・コード: {4,number,0} ({5}) {2,number,0}

原因: Extract が Bounded Recovery モードの際に、Cache Object Manager (COM) によるファイル・システムの操作が失敗しました。

処置: 返されるエラー・メッセージに基づいて、問題を解決します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01588: {0}: 失敗しました

原因: Cache Object Manager で発生した内部メッセージです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01589: {1}: コールで失敗しました: {0}

原因: Cache Object Manager で発生した内部メッセージです。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01590: {1}: コールで失敗しました: {0} エラー・コード: {2,number,0} ({3})

原因: 内部関数の呼出しは、指定されたシステム・エラー・コードで失敗しました。特定の関数およびエラー・コードのメッセージ・テキストを調べます。

処置: このメッセージは、多くのコンテキスト内で発生することがあります。これがファイル・システム・エラーを示す場合、自身で解決できる可能性があります。それ以外の場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01591: {2}: コールで失敗しました: {0} プール・インスタンス: {1,number,0}

原因: 内部関数が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01593: {0}: エラー・コード: {1,number,0} ({2})

原因: 指定した関数は、指定されたシステム・エラー・コードで失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01596: {2}: mmapc インスタンス・アドレス: 0x{0} がベース・アドレス 0x{1} と異なります

原因: 内部マッピング・エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01597: {1}: コールで失敗しました: {0}

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01598: {1}: コールで失敗しました: {0} エラー・コード: {2,number,0} ({3})

原因: ライブラリ関数のコールが、指定された関数で失敗しました。この下位レベルのエラーは、コードの上位レベルで処理される例外を返します。

処置: エラー・テキスト、エラー・コード、および先行する関連エラー・メッセージを調べます。ファイル・システム・エラーが発生した場合、修正処理を実行できるかどうかを特定します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01599: {2}: タイプ: {0,number,0} サブタイプ: {1,number,0}

原因: 内部関数が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01600: {1}: 無効なモード: 0x{0}

原因: 指定した関数には、無効なモードがあります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01601: {2}: メモリー・マップの長さ: {0,number,0} が登録された長さ: {1,number,0} と異なります

原因: 指定した仮想メモリー・マップの長さは、登録された長さと等しくありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01602: {0}: メモリー・マップの領域が不足しているため、拡張操作が失敗しました

原因: 仮想メモリー・マップを拡張できませんでした。

処置: 空きスワップ・サイズを確認し、可能な場合は、増やします。このメッセージが解決しない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01603: {0}: NULL のデータ・ソース・ポインタ

原因: 内部仮想メモリー・マップのアドレスがありません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01604: {0}: メモリー・マップを拡張できません: 拡張対象としてマークされません

原因: 拡張不可能な仮想メモリー・マップを拡張しようとしてしました。この下位レベルのエラーは、コードの上位レベルで処理される例外を返します。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01610: {0}: NULL の dhv ポインタが検出されました

原因: 無効な Bounded Recovery の REDO 状態が発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01611: {0}: NULL のオブジェクト・ポインタが検出されました

原因: Bounded Recovery に必要なオブジェクトが存在しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01612: {0}: NULL のタグ・ポインタが検出されました

原因: Bounded Recovery に必要なパラメータが存在しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01613: {4}: NULL のキャッシュ・オブジェクト・ポインタが検出されました: rc_co0: 0x{0} rc_co0->rst_co: 0x{1} rc_co1: 0x{2} rc_co1->rst_co: 0x{3},

原因: Bounded Recovery のデータの永続性に必要なオブジェクトへのポインタが存在しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01614: {5}: {0}: <{1,number,0}, {2,number,0}> <{3,number,0}, {4,number,0}>

原因: 仮想メモリー・マップの整合性エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01615: {7}: dhnode_map_traverse: {0} <{1,number,0}, {2,number,0}> (子: {3,number,0}, <{4,number,0}, {5,number,0}> (子: {6,number,0}))

原因: 仮想メモリー・マップの整合性エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01616: {7}: {0} dn: <{1,number,0}, {2,number,0}> (子: {3,number,0}, <{4,number,0}, {5,number,0}> (子: {6,number,0}))

原因: ノード・プロパティ上の不一致で内部仮想メモリー・マップ・エラーが発生しました。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01617: {7}: {0} <{1,number,0}, {2,number,0}> (長さ: {3,number,0}), <{4,number,0}, {5,number,0}> (長さ: {6,number,0}))

原因: 検出された仮想メモリー・マップの子ノードの長さが、予期された長さに一致しません。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01618: {4}: {0} <{1,number,0}, {2,number,0}> 索引: {3,number,0}

原因: 指定された理由で、仮想メモリー・マップ・ノードが無効です。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01619: {7}: {0} <{1,number,0}, {2,number,0}>, <{3,number,0}, {4,number,0}> 索引: {5,number,0}, {6,number,0}

原因: 仮想メモリー・マップの整合性エラーが発生しました。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01620: {3}: {0} <{1,number,0}, {2,number,0}>

原因: エラー・テキストで指定された状態により、内部仮想メモリー・マップに無効なタイプまたはサブタイプがあります。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01621: {3}: {0} グループ・タイプ: {1,number,0} 検出されたタイプ: {2,number,0}

原因: 内部仮想メモリー・マップ定義に、終了していないグループ・エントリがあります。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01622: {6}: 不一致数: ヘッダー: {0,number,0} のうち {1,number,0} 検出されました リーフ: {2,number,0} のうち {3,number,0} 検出されました 終了文字: {4,number,0} のうち {5,number,0} 検出されました

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、Bounded Recovery に戻ります。

OGG-01623: {5}: 不一致数: processed_nodes: {0,number,0} 検出されたノード: {1,number,0} (ヘッダー: {2,number,0} リーフ: {3,number,0} 終了文字: {4,number,0})

原因: リカバリ・ファイルは、Bounded Recovery 機能が実行する整合性チェックに合格しませんでした。

処置: なし。Extract は、このリカバリの通常のリカバリに戻してから、Bounded Recovery に戻ります。

OGG-01624: {1}: コールで失敗しました: {0}

原因: ライブラリ関数のコールが、指定された関数で失敗しました。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01625: {2}: {0}: {1}

原因: 内部仮想メモリー・マップをコンパイルしようとして失敗しました。先行するエラー・メッセージに、原因が示されています。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01626: {1}: {0}: エラー・コード: {2,number,0} ({3})

原因: Bounded Recovery のファイル操作が失敗しました。原因はメッセージ・テキストに示されています。

処置: ファイルおよびディレクトリを調べて、修正処理を実行できるかどうかを確認します。ファイルの問題を特定できない場合、コマンド・ラインから BR パラメータの BRRESET オプションを使用して、Extract を再起動します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントの、BR パラメータを参照してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01627: {2}: 無効なファイル・モード: {0} モード: 0x{1}

原因: 指定したディレクトリには、無効な権限モードがあります。

処置: ディレクトリ権限を変更します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01628: {2}: 名前変更 ({0}, {1}) エラー・コード: {3,number,0} ({4})

原因: 失効した Bounded Recovery ファイルの名前変更が、指定されたエラーで失敗しました。

処置: エラーに基づいてファイルの問題を解決し、他の Bounded Recovery ファイルに発生するかどうかを特定します。この問題を修正できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01629: BOUNDED RECOVERY: 永続化されたオブジェクトがリカバリされました: {0}{1}

原因: Extract は、ディスクに永続化されたトランザクション・データを正常にリカバリしました。

処置: なし

OGG-01630: {4}: 無効なオブジェクト数: OP リスト上: {0,number,0} アクティブな OP 数: {1,number,0} プール・インスタンス: {2,number,0} ({3})

原因: リカバリに必要な永続オブジェクト数は、検出された実際の長時間のトランザクション数と異なります。Bounded Recovery は、この相違を解決するか、それ以外の場合は通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01631: BOUNDED RECOVERY: 新しい有効な BR チェックポイント: {0}

原因: Extract は、(BR パラメータの BRINTERVAL オプションで特定された) 別の Bounded Recovery の間隔を完了して、新しい Bounded Recovery のチェックポイントを作成しました。

処置: なし

OGG-01632: {4}: アクティブなオブジェクト数が、前のインスタンス BCP からの数と異なります: アクティブな OP 数: {1,number,0} 前の BCP からリカバリされた数: {0,number,0} プール・インスタンス: {2,number,0} ({3})

原因: Bounded Recovery は、チェックポイントで異常を検出し、リカバリのために前の Bounded Recovery のチェックポイントを使用しています。

処置: なし

OGG-01633: BOUNDED RECOVERY: 有効な BCP がありません: 最後に調べたファイル: {0}

原因: Extract は、有効な Bounded Recovery のチェックポイントを検出できなかったため、通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01634: {2}: コールで失敗したファイル操作: {0}: ファイル名 {1}

原因: Extract は、指定したファイルを開けなかったため、通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01635: BOUNDED RECOVERY: 初期または警告されたチェックポイントにリセットします

原因: BR パラメータには BRRESET オプションが含まれます。Extract は、現在の実行には通常のリカバリを使用し、リカバリが完了したら Bounded Recovery を有効にします。

処置: なし

OGG-01636: BOUNDED RECOVERY: 無効: 初期化中にエラーが発生しました。

原因: Extract は、Bounded Recovery のチェックポイントを開始できなかったため、Bounded Recovery を無効化しています。Extract は通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01637: BOUNDED RECOVERY: 無効: チェックポイントの作成中にエラーが発生しました

原因: Extract は、Bounded Recovery のチェックポイントを作成できなかったため、Bounded Recovery を無効化しています。Extract は通常のリカバリに戻します。

処置: なし

OGG-01638: BOUNDED RECOVERY: 無効: チェックポイントのリストア中にエラーが発生しました。

原因: Extract は、予期されたチェックポイントからリカバリできなかったため、Bounded Recovery を無効化しています。Extract は通常のリカバリに戻します。

処置: なし

**OGG-01639: BOUNDED RECOVERY: アクティブ : オブジェクト・プール
{0,number,0}: {1}**

原因 : Extract は、Bounded Recovery が現在アクティブであることを報告しています。

処置 : なし

OGG-01640: BOUNDED RECOVERY: リカバリ開始 XID: {0}

原因 : Extract は、Bounded Recovery を開始するトランザクションの ID を報告しています。

処置 : なし

OGG-01641: BOUNDED RECOVERY: リカバリ開始位置 : {0}

原因 : Extract は、Bounded Recovery を開始するトランザクション・ログ内の位置を報告しています。

処置 : なし

OGG-01642: BOUNDED RECOVERY: リカバリ終了位置 : {0}

原因 : Extract は、Bounded Recovery を終了するトランザクション・ログ内の位置を報告しています。

処置 : なし

**OGG-01643: BOUNDED RECOVERY: 取消 : オブジェクト・プール
{0,number,0}: {1}**

原因 : Bounded Recovery は中止されたため、Extract は通常のリカバリに戻します。

処置 : なし

**OGG-01644: BOUNDED RECOVERY: 完了 : オブジェクト・プール
{0,number,0}: {2} の {1}**

原因 : Extract は Bounded Recovery を完了しました。

処置 : なし

**OGG-01645: 初期ロード EXTRACT では、SOURCEDB パラメータは単一の
APPLID を指定する必要があります**

原因 : このメッセージは非推奨です。

処置 : なし

OGG-01646: 予期しないレコード・タイプ {1,number,0} がファイル {0} で検出されました

原因 : このメッセージは非推奨です。

処置 : なし

OGG-01647: ファイル {0} 列 {1,number,0}、名前の長さ {2,number,0} が、サポートされている最大長 {3,number,0} を超えています

原因 : このメッセージは非推奨です。

処置 : なし

**OGG-01648: ファイル {0} 列 {1} は、データ型が文字、サブ・データ型がバイナリに
設定されます。SYSADATA 値 : {2,number,0}、{3,number,0}、{4,number,0}**

原因 : このメッセージは非推奨です。

処置 : なし

OGG-01649: データセット名 {0} 長さ {1,number,0} が、最大長 {2,number,0} を超えています

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01650: ファイル {0} の FLDATA が失敗しました

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01651: オープンに失敗しました: {0}、エラー {1,number,0}: {2}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01652: 読取り専用ファイルのオープンに失敗しました: {0}、ファイルが空である可能性があります

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01653: 予期しない EOF が {0} で検出されました

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01654: ファイル {0} には列がありません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01655: ファイル {0} キーの開始または終了がフィールド境界上にありません。指定した SYSADATA メンバーが指定したファイルと一致しません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01656: ファイル {0} タイプ {1} はサポートされていません

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01657: データ・セット名 {0} が SOURCEDEFS ファイルに含まれている基準の定義で見つかりませんでした

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01658: 基準の指定 {0} {1} に認識できないタイプ {0} が含まれています。有効な基準のタイプは FOR、USE および WHERE です。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01659: 基準の指定 {0} {1} タイプは順序外です。USE タイプが必要です。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01660: 基準の指定 {0} {1} タイプは順序外です。FOR または WHERE タイプが必要です

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01661: SOURCEDEFS ファイルで最後の基準情報レコードの位置指定をしようとしてエラーが発生しました。ファイルは空の可能性あります。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01662: 無効な WHERE 句 {0} が検出されました。<列名>=<値> が必要です

原因: TABLE または MAP 文で WHERE 句の定義に間違った構文が使用されました。

処置: TABLE および MAP のリファレンス・ドキュメントにリストされている使用可能な WHERE 演算子を参照し、パラメータ・ファイルの構文を修正します。

OGG-01663: 基準の指定 {0} {1} に無効な引用符付き文字列が検出されました。引用符付き文字列は、WHERE 句の値要素の場合のみ有効です。埋込み引用符は 1 対の引用符で表す必要があります。

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01664: 基準値 {0} はタイプ {1} の複製です

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01665: {0}

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01666: 表名のパターン一致での '?' の使用は、WILDCARDRESOLVE IMMEDIATE: 表 {0} に対してはサポートされていません。

原因: 疑問符のワイルドカードは、Oracle GoldenGate ではサポートされていません。アスタリスクのワイルドカード文字 (*) のみがサポートされています。

処置: Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントで記述されているワイルドカード使用のルールに従って、疑問符のワイルドカードをアスタリスクのワイルドカードに置き換えます。

OGG-01667: {1}: プロセス ID {0,number,0} が、診断者がデバッガをアタッチするまでスリープ・ループで待機中です。

原因: _HANGATPROGRAMSTART 内部オプションが指定されているか、_HANGONFATALERROR 内部オプションが使用されて致命的エラーが発生すると、Oracle GoldenGate は、時点診断ができるように一時停止します。

処置: パラメータ・ファイルからそのパラメータを削除し、Oracle サポート・サービスに追加支援についてお問い合わせください。

OGG-01668: プロセスが異常終了しました

原因: 回復不可能なエラーが発生し、処理を続行できません。

処置: 以前に発行されたエラー・メッセージで考えられる原因および処置を調べます。

OGG-01669: {0} を開いています (バイト {1,number,0}、 現行 EOF{2,number,0})

原因: Collector プロセスで指定したファイルが開かれているところです。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01670: {0} を閉じています

原因: Collector プロセスで指定したファイルが閉じられているところです。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01671: バッチ・ファイル {0} を閉じています ({1})

原因: Collector プロセスで指定したバッチ・ファイルが閉じられているところです。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01672: バッチ・ファイル {0} を開いています

原因: Collector プロセスで指定したバッチ・ファイルが開かれているところです。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01673: {0} が切り捨てられました

原因: Collector プロセスで指定したファイルが切り捨てられました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01674: システム・コマンド "{0}" がステータス ({1,number,0}) で実行されました

原因: Collector プロセスで指定したシステム・コマンドが実行されました。戻りステータスが示されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01675: Extract が停止されたために終了しています

原因: 関連の Extrac が終了したために、Collector プロセスが終了しました。

処置: Extract プロセスが異常終了した (正常に停止しなかった) 場合、Extract レポート・ファイルで解決する必要があるエラーを調べ、それらをメッセージの内容に基づいて解決します。

OGG-01676: クライアントが切断されたために終了しています

原因: 関連の Extrac クライアントが切断されたために、Collector プロセスが終了しました。

処置: Extract のホストであるソース・システムとローカル・システムの間とのネットワーク接続性の問題を探します。Extract レポート・ファイルで、問題を診断し解決するのに役立つ可能性のあるエラーが他にないか調べます。

OGG-01677: 接続 (動的に開始) を待っています

原因: Collector プロセスは Manager により開始され、空いているリスニング・ポートを動的に見つけます。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01678: リクエストをリスニング中

原因: Collector プロセスが、指定のリスニング・ポートでコマンドラインから開始されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01679: {0} に接続中

原因: Collector プロセスでは、パッシブ Extract またはデータ・ポンプを実行中のリモート・システムへの接続を検証中です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01680: {0}

原因: 指定したバイト数が受信されました。このメッセージは、Oracle GoldenGate がデバッグ・モードのときに、Collector の起動時に tcpstat パラメータで指定したとおりに表示されます。

処置: デバッグ目的で tcpstat が必要でない場合は、パフォーマンス向上のためにオフにします。

OGG-01681: DD:{1} に {0} が割り当てられました

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01682: DD:{1} で {0} が割当て解除されました

原因: このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01688: スレッド: {0}、メッセージ: {1}

原因: これは、Oracle GoldenGate Monitor の Java エージェント・コンポーネントからエラーを含む別のメッセージを転送する一般的なエラーです。

処置: コンテキストに基づいて返されるエラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01689: スレッド: {0}、メッセージ: {1}

原因: これは、Oracle GoldenGate Monitor の Java エージェント・コンポーネントからエラーを含む別のメッセージを転送する一般的なエラーです。

処置: コンテキストに基づいて返されるエラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01690: スレッド: {0}、メッセージ: {1}

原因: これは、Oracle GoldenGate Monitor の Java エージェント・コンポーネントからエラーを含む別のメッセージを転送する一般的なエラーです。

処置: コンテキストに基づいて返されるエラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01693: BATCHSQL トランザクション {0,choice,0#| 1# in batch error mode} を強制終了中です。

原因: バッチ処理される SQL トランザクションに例外が発生しました。Replicat は通常の処理 (一度に 1 操作) に戻ります。詳細は、BATCHSQL のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

処置: なし

OGG-01702: '{0}' のファイル・ステータスを取得できません。エラー {1,number,0} ({2})

原因: 証跡の最後で不完全なレコードの修理中、プロセスではファイルのステータスを取得できませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01705: 入力証跡ファイル '{0}' の入力チェックポイントの位置 {2,number,0} が、ファイルのサイズ ({1,number,0}) を超えています。指示は、Oracle Knowledge Management Doc ID 1138409.1 を参照してください。

原因: この矛盾は、ディスクまたはシステム障害が原因で、この間にまだキャッシュにあったデータが失われます。この結果、リーダー・プロセス (データ・ポンプまたは Replicat) がより多くのデータを待って停止しているように見えます。ライター・プロセス (Extract またはデータ・ポンプ) では、リカバリの実行時に、新規証跡ファイルを作成し、リーダー・プロセスですでに処理されているデータの一部を書き込む可能性があります。

処置: レコードの重複を避けるには、手動のリカバリを実行し、重複レコードを見つけ、それらのレコードの後で処理を開始するために、リーダー・プロセスを変更する必要があります。指示は、Oracle Knowledge Base のソリューション 1138409.1 を参照してください。

OGG-01706: 表 {0} は索引構成表 (IOT) で、Oracle 10gR2 以上に対してのみサポートされています。

原因: この表タイプはサポートされていません。

処置: Extract を停止します。パラメータ・ファイルを編集して、その表およびこのタイプの他の表を TABLE 文から削除してから、Extract を再起動します。(TABLE でワイルドカードが使用されている場合、TABLEEXCLUDE によりこれらの表を除外できます。)

OGG-01707: {0} の Singleton インスタンスを取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントのメタデータ・キャッシュが正しく初期化されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01708: {0} のインスタンスを作成できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントが正しくインストールされなかったか、Java VM のメモリーがなくなりました。

処置: Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントの指示に従って、Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントを再インストールします。

OGG-01709: {0} のインスタントの配列を作成できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントが正しくインストールされなかったか、Java VM のメモリーがなくなりました。

処置: Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントの指示に従って、Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントを再インストールします。

OGG-01710: {1} からの {0} を取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントのメタデータ・キャッシュが正しく初期化されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01711: {0} の Java クラス ID が見つかりませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントが正しくインストールされませんでした。

処置: Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントの指示に従って、Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントを再インストールします。jagent.jar ファイルが dirjar ディレクトリに存在することを確認します。

OGG-01712: Java クラス {0} 内のメソッド {1} の ID が見つかりませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントが正しくインストールされませんでした。

処置: Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントの指示に従って、Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントを再インストールします。jagent.jar ファイルが dirjar ディレクトリに存在することを確認します。

OGG-01713: Java VM オブジェクトを取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor Manager で Java VM のロードに失敗したか、ロードされた Java VM が無効です。

処置: サポートされているバージョンの Java がローカル・システムにインストールされていることを確認します。サポートされている Java のバージョンについては、Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01714: {0} のメモリーの割当てに失敗しました

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで、Java VM のメモリーがなくなったために、新規 Java オブジェクトの作成に失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01715: クラス {0} メソッド {1} をコールできませんでした。

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで、Java エージェントをコールできませんでした。

処置: Oracle GoldenGate Monitor の管理ドキュメントの指示に従って、Oracle GoldenGate Monitor Java エージェントを再インストールします。jagent.jar ファイルが dirjar ディレクトリに存在することを確認します。

OGG-01716: 所定のプロセス・リストでプロセス {0} が見つかりませんでした

原因: 指定した Extract または Replicat プロセスを Oracle GoldenGate Monitor で見つけれませんでした。

処置: なし。プロセス・リストは、次の更新間隔でリフレッシュされます。

OGG-01717: 所定のオブジェクト ID {1} でラッパー・オブジェクト {0} を作成できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで無効な監視ポイントが検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01718: ロードされた MP メタデータから {0} MpObjectInfo を取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで無効な監視ポイントが検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01719: 初期化中にメタデータをロードできませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで監視ポイントのメタデータが正しく初期化されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01720: {0} に対応する JNI タイプを取得できませんでした

原因: Java エージェントの監視ポイントのデータ型が、C エージェントのデータ型と一致していません。

処置: Java エージェントのバージョンが C エージェントのバージョンと互換性があることを確認するか、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01721: オブジェクト {0} の PseudoObjectProcAssociation オブジェクトを取得できませんでした。

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントのキャッシュで保持されている証跡またはデータベース・オブジェクトは無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01722: {1}JNI 起動で入力パラメータ {0} を取得できませんでした

原因: JNI のコール・パラメータが無効であるために、Java エージェントと C エージェントの間でエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01723: 擬似オブジェクト {0} に返された MP はゼロでした

原因: 証跡またはデータベース・オブジェクトに対して取得された監視ポイントの数が無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01724: 関連プロセス名 {1} の付いた擬似オブジェクト {0} が見つかりません。

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントにより保持されている監視ポイントのメタデータが、Extract または Replicat プロセスで取得された監視ポイントと一致しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01725: 擬似オブジェクト・リスト内の MP の数 {2,number,0} が、プロセス {0} から返された MP の数 {1,number,0} と一致しません

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントにより保持されている監視ポイントのメタデータが、Extract または Replicat プロセスで取得された監視ポイントと一致しません。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01726: Singleton CprocessManager インスタンスを取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01727: collectProcess コールからマネージャ・プロセスを取得できませんでした

原因: Oracle GoldenGate Monitor C エージェントで内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01728: MP ID{0} の形式は objid:mpid です

原因: Java エージェントによって C エージェントに渡された監視ポイントの書式が無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01729: getMappedMpid コールの入出力タイプ {0,number,0} が無効です

原因: 指定した監視ポイントが無効です。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01730: 構成ファイル '{3}' のアペンダ '{0}' では、'MaxFileSize' が {1} の 'RollingFileAppender' の 'BinaryLayout' が使用されていますが、これが最小の {2} より小さいサイズです。

原因: BinaryLayout を使用する場合、RollingFileAppender の 'MaxFileSize' の値は、指定したサイズより大きくする必要があります。

処置: アペンダの定義を XML ファイルで修正します。

OGG-01731: 構成ファイル '{1}' のアペンダ '{0}' では、フィルタ付きの 'BinaryLayout' が使用されていますが、これはサポートされていません

原因: フィルタは BinaryLayout レイアウトではサポートされていません。

処置: フィルタ要素を削除します。

OGG-01733: 証跡ファイル '{0}' の証跡ファイル・ヘッダー・ファイル・サイズの値 {2,number,0} が、ファイルの実際のサイズ ({1,number,0}) と異なります。

原因: ファイル・ヘッダーに記述されている証跡ファイルの予想サイズとファイルの実際のサイズが一致していません。ディスク領域の不足またはファイル・システムの破損があるために、ファイルが切り捨てられました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。データ損失を防ぐには、拡張リカバリが必要です。

OGG-01735: {0} をディスクに同期化中

原因: ターゲット上の指定された証跡ファイルが、開かれたか、閉じられたか、またはロールオーバーされました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01736: {2} : バッファ・オーバーフロー、必要な値 : {1,number,0}、割り当てられた値 : {0,number,0} 表 {3}、列 {4}。

原因: アーカイブ・ログの値の桁数が指定した列に入るより多いために、数値の変換に失敗しました。

処置: 列の定義が正しいか確認します。

OGG-01737: 表 {0} を検証できませんでした。この表はマッピング表付きの IOT で、Extract ではサポートされていません。Extract のパラメータ・ファイルからこの表を削除し、Extract を再起動します。

原因: この表タイプはサポートされていません。

処置: パラメータ・ファイルを編集して、その表およびこのタイプの他の表を TABLE 文から削除してから、Extract を再起動します。(TABLE でワイルドカードが使用されている場合、TABLEEXCLUDE によりそれらの表を除外できます。)

OGG-01738: BOUNDED RECOVERY: CHECKPOINT: オブジェクト・プール {0} の場合 : {1}。

原因: Bounded Recovery チェックポイントが発行されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01739: 正しく機能するには、{0} を {1} パラメータを指定して使用する必要があります。

原因: パラメータ・ファイルに必須オプションまたはパラメータが欠けています。

処置: パラメータ・ファイルに指定したオプションまたはパラメータを追加します。プロセスを停止してから、新規の構成を有効にするために再起動します。

OGG-01740: 無効な数値データが検出され、_CONVERTBADNUMBER によって置き換えられました。列 {0}、表 {1}、行 ID {2}、行長さ {3,number,0}、行データ: {4}

原因: REDO データが破損しています。Extract でゼロ値が割り当てられたか、変換が行われました (Oracle GoldenGate リリース 8 以上)。これは、データが変換されたこと知らせる警告です。

処置: なし

OGG-01741: LSN {0,number,0}、以前のログ・ポジション {1,number,0}、現在のログ・ポジション {2,number,0} で予期しないログ順序が発生しました。

原因: トランザクション・レコードが順序外と思われます。

処置: このメッセージの詳細を Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01742: {0} {1} に送信されたコマンドが、{2,choice,-1#an ERROR|0#an empty|1#an invalid} のレスポンスで返されました。

原因: Manager へ送信されたコマンドが、指定のエラー・レスポンスで返されました。予想されるレスポンスは、無効なデータがエラー・インジケータのいずれかです。

処置: エラーの原因となったコマンドを再試行します。再び失敗した場合、プロセス・レポート・ファイルと、このメッセージの前に生成されたエラーのエラー・ログ (Manager が Windows のサービスの場合は、Windows のイベント・ブラウザ) を調べます。これらのエラーに、原因や考えられる解決策が示されている可能性があります。これらのログに基づいてエラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01745: 表 {0} に追加の列が検出されました。データ変更処理は、表が再編成されるまで効率が悪くなる可能性があります。

原因: 指定した表に 1 つ以上の列を追加するために、ALTER TABLE...ADD COLUMN コマンドが発行されました。

処置: この表のログ・データ処理で必要以上のオーバーヘッドを避けるために、表を再編成します。これにより、今後の更新の前イメージが必ず表の定義に一致するようになります。

OGG-01746: 使用中の RDBMS バージョンでは、パラメータ {0} がサポートされていません。

原因: 関連の Oracle GoldenGate プロセスの接続先であるデータベースまたはデータベース・バージョン (あるいはその両方) に対して、そのパラメータがサポートされていません。

処置: パラメータ・ファイルのパラメータを削除してください。データベースまたはデータベースの特定のリリースに対してサポートされている同様のパラメータがあるかどうかを調べるには、Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01747: 証跡ファイル {0}、RBA {1,number,0} で AES 暗号のリセット中にエラーが発生しました (エラー {2,number,0}, {3})

原因: AES 暗号のリセットを試行中に、エラーが発生しました。このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01748: 証跡ファイル {0}、RBA {1,number,0} で AES 暗号によるデータ・レコードの暗号化中にエラーが発生しました (エラー {2,number,0}, {3})

原因: AES 暗号でデータ・レコードの暗号化中にエラーが発生しました。このメッセージは非推奨です。

処置: なし

OGG-01749: SCN {1} でログ保存の管理を開始するために EXTRACT {0} を正常に登録しました。

原因: Extract でリカバリの目的に必要なログの保存を管理するために、Extract グループをデータベースに登録する ADD EXTRACT または REGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: なし

OGG-01750: データベースから EXTRACT {0} を正常に登録解除しました。

原因: データベースから Extract グループの登録を解除する DELETE EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: なし

OGG-01751: データベースにログインしなかったために、EXTRACT {0} を登録または登録解除できません。DBLOGIN を使用して接続を確立してください。

原因: 最初に DBLOGIN コマンドを発行せずに、REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: DBLOGIN コマンドを発行してから、REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT を再度発行します。

OGG-01752: データベースにログインしなかったために、EXTRACT {0} をデータベースに登録できません。後から REGISTER EXTRACT コマンドを LOGRETENTION を指定して発行することで、手動でこのグループを登録できます。最初に DBLOGIN を発行してください。

原因: 最初に DBLOGIN コマンドを発行せずに、ADD EXTRACT コマンドを発行しました。このバージョンの RDBMS では、Extract グループを作成する前に DBLOGIN が必要です。

処置: DBLOGIN コマンドを発行してデータベースにログインしてから、LOGRETENTION オプションを指定して REGISTER EXTRACT コマンドを発行し、Extract グループに登録します。

OGG-01753: データベースにログインしなかったために、EXTRACT {0} をデータベースから登録解除できません。後から UNREGISTER EXTRACT コマンドを LOGRETENTION を指定して発行することで、手動でこのグループを登録解除できます。最初に DBLOGIN を発行してください。

原因: 最初に DBLOGIN コマンドを発行せずに、DELETE EXTRACT コマンドを発行しました。このバージョンの RDBMS では、Extract グループを削除する前に DBLOGIN が必要です。

処置: DBLOGIN コマンドを発行してデータベースにログインしてから、UNREGISTER EXTRACT コマンドを発行し、Extract グループに登録解除します。

OGG-01754: Extract が現在実行中であるために、EXTRACT {0} を登録または登録解除できません。Extract を停止し、コマンドを再試行してください。

原因: 最初にプロセスを停止せずに、REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: Extract プロセスを停止してから、DBLOGIN コマンドを発行し、次に REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT コマンドを発行します。

OGG-01755: 次の SQL エラーのために、**EXTRACT {0}** を登録または登録解除できません: {1}。『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』で **Extract** のユーザー権限を参照してください。

原因: REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT コマンドが発行され、データベースへの問合せ中、または PL/SQL プロシージャのコール時のいずれかにエラーが発生しました。

処置: REGISTER EXTRACT または UNREGISTER EXTRACT に必要な適切な権限で、DBLOGIN を発行します。Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01756: 次の SQL エラーのために、**EXTRACT {0}** をデータベースに登録できません: {1}。『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』で **Extract** のユーザー権限を参照してください。REGISTER EXTRACT コマンドにより、手動でこのグループを登録できます。

原因: ADD EXTRACT コマンドが発行され、データベースへの問合せ中、または PL/SQL プロシージャのコール時のいずれかにエラーが発生しました。

処置: ADD EXTRACT に必要な適切な権限で DBLOGIN を発行してから、Extract グループに対して REGISTER EXTRACT コマンドを発行します。Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01757: 次の SQL エラーのために、**EXTRACT {0}** をデータベースから登録解除できません: {1}。Oracle GoldenGate for Oracle のドキュメントで **Extract** のユーザー権限を参照してください。UNREGISTER EXTRACT コマンドにより、手動でこのグループを登録解除できます。

原因: DELETE EXTRACT コマンドが発行され、データベースへの問合せ中、または PL/SQL プロシージャのコール時のいずれかにエラーが発生しました。

処置: DELETE EXTRACT に必要な適切な権限で DBLOGIN を発行してから、Extract グループに対して UNREGISTER EXTRACT コマンドを発行します。Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01758: この **EXTRACT {0}** は、すでにデータベースに登録されています。

原因:すでにデータベースに登録されている Extract グループに対して、ADD EXTRACT または REGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: なし

OGG-01759: **EXTRACT {0}** は現在登録されていないために、データベースから登録解除できません。

原因: 現在データベースに登録されていない Extract グループに対して、UNREGISTER EXTRACT コマンドが発行されました。

処置: コマンドで正しい Extract 名が指定されたことを確認します。

OGG-01760: 暗号化された表領域に対して REDO レコードが無視されています。これはデータ整合性の問題の原因になる可能性があります。

原因: パラメータ **_IGNORETSSERECORDS** が指定されていて、REDO ログで暗号化された表領域レコードが検出されました。

処置: 暗号化された表領域レコードを復号化するように Extract を構成します。Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントで、DECRYPTPASSWORD パラメータを指定した DBOPTIONS を参照してください。

OGG-01762: Oracle GoldenGate Monitor サービスを開始できませんでした。監視がこのプラットフォームではサポートされていないか、エージェントが正しくインストールされていない可能性があります。

原因: Oracle GoldenGate では、必要な Java VM のロードに失敗したか、Java エージェントまたは C エージェント・モジュールの起動に失敗したか、監視ポイントに関する情報を公開するサービスの開始に失敗しました。サービスの監視が使用できなくなります。

処置: Oracle GoldenGate Monitor がサポートされているプラットフォームにインストールされていることを確認し、その場合は、エージェントを再インストールします。手順は管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01763: パスワードからキーを生成中に問題が発生しました (エラー [{0}])

原因: Oracle Wallet および Oracle GoldenGate インストールの共有シークレットが同じではありません。

処置: 両方の場所で共有シークレットを同じにするための適切な処置を行います。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01764: パスワードでキーをアンラップできませんでした (エラー [{0}])

原因: Oracle Wallet および Oracle GoldenGate インストールの共有シークレットが同じではありません。

処置: 両方の場所で共有シークレットを同じにするための適切な処置を行います。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01765: キー・ダイジェストの生成に失敗しました (エラー [{0}])

原因: Oracle Wallet および Oracle GoldenGate インストールの共有シークレットが同じではありません。

処置: 両方の場所で共有シークレットを同じにするための適切な処置を行います。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01766: 無効なキー・ダイジェストの生成に失敗しました

原因: Oracle Wallet および Oracle GoldenGate インストールの共有シークレットが同じではありません。

処置: 両方の場所で共有シークレットを同じにするための適切な処置を行います。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-01767: TSE 復号化でエラーが発生しました (エラー [{0}])

原因: 表領域レベルで透過的データ暗号化 (TDE) データが正しく復号化されませんでした。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01768: 整合性アルゴリズムが正しくありません [{0}]

原因: 透過的データ暗号化 (TDE) 列のデータが正しく復号化されませんでした。影響を受けた表で DDL が実行された可能性があります。

処置: 暗号化された表で DDL を実行する場合は、Oracle GoldenGate DDL サポートをインストールして構成します。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントおよび Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01769: TDE の復号化でエラーが発生しました : {0}

原因 : 表領域レベルで透過的データ暗号化 (TDE) データが正しく復号化されませんでした。

処置 : Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01770: 列 [{0}]、表 [{1}]、encalg [{2}]、intalg [{3}]、salt [{4}]、keylen [{5}] の復号化中にエラーが発生しました : {6}

原因 : 透過的データ暗号化 (TDE) 列のデータが正しく復号化されませんでした。影響を受けた表で DDL が実行された可能性があります。

処置 : 暗号化された表で DDL を実行する場合は、Oracle GoldenGate DDL サポートをインストールして構成します。詳細は、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のドキュメントおよび Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01771: 透過的データ暗号化で暗号化されるデータの復号化には、DBOPTIONS DECRYPTPASSWORD を使用する必要があります。それ以外の場合は、暗号化された表領域での表の取得をスキップするために IGNORETSERECORDS を指定した TRANLOGOPTIONS を使用することを、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

原因 : 透過的データ暗号化で暗号化されたデータが検出されたにもかかわらず、パラメータ・ファイルで DECRYPTPASSWORD オプションを指定した DBOPTIONS が使用されていません。

処置 : TDE をサポートするには、DECRYPTPASSWORD オプションを付けて DBOPTIONS パラメータを指定します。TDE データを無視する場合は、内部オプション IGNORETSERECORDS を指定した TRANLOGOPTIONS の使用に関する詳細を、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。TDE をサポートするように Oracle GoldenGate を構成するには、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のインストールおよびセットアップのドキュメントと、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01772: TSE 復号化エラー : {0}、keylen [{1}]

原因 : 表領域レベルで透過的データ暗号化 (TDE) データが正しく復号化されませんでした。

処置 : Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01773: TSE レコードが 64K より大きいことがわかりました

原因 : 透過的データ暗号化 (TDE) データが格納されているバッファが大きすぎます。

処置 : Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01774: AIX Oracle ライブラリにルーチン 'ztvp52' がなく、TDE/TSE を使用するにはパッチが必要です

原因 : Oracle GoldenGate で透過的データ暗号化 (TDE) のサポートに必要な Oracle ライブラリ用のパッチが見つかりません。

処置 : Oracle Patch 10395645 をソース Oracle データベースに適用します。My Oracle Support の Web サイト (<https://support.oracle.com>) でこのパッチが見つからない場合は、サービス・リクエスト (SR) を送信し、バックポートをリクエストしてください。

OGG-01775: このバージョンの Oracle では TDE/TSE はサポートされていません

原因 : 透過的データ暗号化は、このバージョンの Oracle データベースに対してはサポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate パラメータ・ファイルから TDE 関連のパラメータを削除するか、データベースを TDE をサポートするレベルにアップグレードし構成します。

OGG-01776: TDE/TSE 暗号化表を使用するには、DBOPTIONS DECRYPTPASSWORD を設定する必要があります

原因: 透過的データ暗号化で暗号化されたデータが検出されたにもかかわらず、パラメータ・ファイルで DECRYPTPASSWORD オプションを指定した DBOPTIONS が使用されていません。

処置: TDE をサポートするには、DECRYPTPASSWORD オプションを付けて DBOPTIONS パラメータを指定します。TDE データを無視する場合は、内部オプション IGNORETSETERECORDS を指定した TRANLOGOPTIONS の使用に関する詳細を、Oracle サポート・サービスにお問い合わせください。TDE をサポートするように Oracle GoldenGate を構成するには、Oracle データベース用の Oracle GoldenGate のインストールおよびセットアップのドキュメントと、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。

OGG-01777: TRAIL ファイルの作成に使用される順序番号がなくなったために、Extract が異常終了しました。使用できる TRAIL ファイルの最大数は 999999 です。

原因: Extract で証跡ファイルの作成に使用する順序番号がなくなりました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01778: {0} 機能は、現行のデータベース・バージョンではサポートされていません。データベースのバージョンを {1} 以上にアップグレードしてください。

原因: 現行のデータベース・バージョン用の Oracle GoldenGate では、指定した機能がサポートされていません。

処置: 少なくとも指定のデータベース・バージョンにアップグレードしてください。

OGG-01779: {0} コマンドでは無効の指定です。

原因: 指定したコマンドに無効な入力が含まれています。

処置: 無効な入力を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01780: {0} コマンドの引数がないか無効です。

原因: 指定したコマンドに入力した引数が、不完全か無効のいずれかです。

処置: 無効な入力を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate の参照ドキュメントを参照してください。

OGG-01781: {0} コマンドではワイルドカードは使用できません。

原因: 指定したコマンドでは、入力としてワイルドカードを使用できません。

処置: ワイルドカードを明示的な名前の指定に置換します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01782: {0} に対するコマンドが不明です。

原因: 指定したコマンドが無効です。

処置: 構文を確認してから、コマンドを再び発行します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01783: スキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギング、{0} を有効にするために必要な表関数の存在が確認できません。

原因: スキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングを有効にするために使用される関数 (ADD SCHEMATRANDATA コマンド) が、データベースからなくなっています。

処置: ソース・データベースに Oracle パッチ 10423000 を適用します。

OGG-01784: 選択開始中のエラーのために、INFO SCHEMATRANDATA が失敗しました。

原因: INFO SCHEMATRANDATA コマンドの基礎となる SELECT 文が失敗しました。

処置: コマンドを再試行してください。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01785: スキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングが、スキーマ {0} で有効です。

原因: ADD SCHEMATRANDATA コマンドの結果、指定したスキーマでのすべてのオブジェクトに対して、スキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングが有効です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01786: スキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングが、スキーマ {0} で無効です。

原因: DELETE SCHEMATRANDATA コマンドの結果、指定したスキーマでのスキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングが無効です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01787: 次の OCI エラーのために、スキーマ {0} で INFO SCHEMATRANDATA が失敗しました: {1}-{2}

原因: OCI エラーにより、Oracle GoldenGate で INFO SCHEMATRANDATA コマンドによりスキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングに関する情報が取得できませんでした。

処置: OCI エラーを修正し、INFO SCHEMATRANDATA コマンドを再試行します。OCI エラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01788: SCHEMATRANDATA がスキーマ {0} に追加されています。

原因: ADD SCHEMATRANDATA コマンドにより、指定したスキーマのすべてのオブジェクトに対してサブリメンタル・ロギングが有効になりました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01789: スキーマが存在しないために、スキーマ {0} に対する ADD SCHEMATRANDATA に失敗しました。

原因: ADD SCHEMATRANDATA コマンドで指定されているスキーマが存在しません。

処置: 表記上のエラーを修正するか、スキーマを作成してから、コマンドを再試行します。

OGG-01790: 次の SQL エラーのために、スキーマ {0} に対する ADD SCHEMATRANDATA に失敗しました: {1}

原因: 指定した SQL エラーにより、ADD SCHEMATRANDATA コマンドで指定したスキーマに対するサブリメンタル・ロギングを有効にできませんでした。

処置: SQL エラーを修正してから、ADD SCHEMATRANDATA を再試行します。

OGG-01791: 次の内部エラーのために、スキーマ {0} に対する ADD SCHEMATRANDATA に失敗しました: {1}。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01792: SCHEMATRANDATA がスキーマ {0} で削除されています。

原因: DELETE SCHEMATRANDATA コマンドの結果、指定したスキーマでのスキーマ・レベルのサブリメンタル・ロギングが無効です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01793: スキーマが存在しないために、スキーマ {0} に対する DELETE SCHEMATRANDATA に失敗しました。

原因: 指定したスキーマが存在しないために、DELETE SCHEMATRANDATA コマンドに失敗しました。

処置: コマンド入力で正しいスキーマが指定されていることを確認し、コマンドを再試行します。

OGG-01794: 次の SQL エラーのために、スキーマ {0} に対する DELETE SCHEMATRANDATA に失敗しました: {1}

原因: 指定した SQL エラーのために、DELETE SCHEMATRANDATA に失敗しました。

処置: SQL エラーを修正し、コマンドを再試行します。

OGG-01795: 次の内部エラーのために、スキーマ {0} に対する DELETE SCHEMATRANDATA に失敗しました: {1}。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01796: スキーマ: {0} は存在しません。

原因: 指定されたスキーマがありません。

処置: コマンドまたはパラメータの入力でスキーマ名のスペルが正しいことを確認します。データベース内にまだスキーマが存在することを確認します。

OGG-01797: 表 {0} の列値も次のネイティブ形式で取得されます: {1}

原因: TABLE 文で指定した表に ADDNATIVE が使用されています。このモードで、Extract ではサポートされているデータ値もそれらのネイティブ形式で取得します。

処置: なし

OGG-01798: 表 {0}、列 {1} のネイティブ・データが一致していません。

原因: Replicat では 1 つの操作で 1 つの列にネイティブ・データが検出され、別の操作では検出されませんでした。この状態は、関連の Replicat プロセスの停止および開始なしに、_ADDNATIVE パラメータが Extract プロセスに追加されると生じる可能性があります。

処置: Replicat を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01799: ファイル "{0}" の名前を "{1}" に変更できません (エラー {2,number,0}、{3})

原因: プロセスでは、ローカル・ファイル・システムで指定したファイルの名前を変更できませんでした。Oracle GoldenGate は続行できません。

処置: 返されるオペレーティング・システムのエラー・メッセージに基づいて問題を修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01800: ファイル "{0}" の名前を "{1}" に変更できません (エラー {2,number,0}、{3})

原因: プロセスでは、ローカル・ファイル・システムで指定したファイルの名前を変更できませんでした。Oracle GoldenGate ではプロセスが続行されます。

処置: この状態に関連する今後の警告または考えられる失敗を避けるために、返されるオペレーティング・システムのエラー・メッセージに基づいて問題を修正します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01805: 仮想メモリーの割当てエラー: {0,number,0})

原因: 仮想メモリーを割り当てようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01806: 仮想メモリーの mmap 割当てエラー: {0} (エラー: {1,number,0})

原因: 仮想メモリーを割り当てようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01807: 仮想メモリーのカスタム割当てエラー

原因: 仮想メモリーを割り当てようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01808: 仮想メモリーのファイル読取りエラー

原因: ファイルを読み取ろうとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01809: 仮想メモリーのアンマップ・エラー: {0} (エラー: {1,number,0})

原因: 仮想メモリーをアンマップしようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01810: 仮想メモリーのカスタム割当て解除エラー

原因: 仮想メモリーを割当て解除しようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01811: 仮想メモリーのファイル書込みエラー

原因: ファイルに書き込もうとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01812: 仮想メモリーのプローブ・エラー

原因: 仮想メモリーをプローブしようとして失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01813: 無効なパラメータです

原因: 無効なパラメータが VMF コンストラクタに渡されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01814: ファイル・ユーティリティ・エラー: {0}: ファイル: {1}: {2} (エラー: {3,number,0})

原因: 指定したファイル・ユーティリティ関数が失敗しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01815: 仮想メモリーの機能: {0} anon alloc: {1} anon free: {2} file alloc: {3} file free: {4} target directories: {5}

原因: 指定したモジュールおよびディレクトリに対する仮想メモリーの機能は決まっています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-01816: このリリースでは部分操作はサポートされていません。

原因: 部分的な LOB/XML 更新操作は、このデータベース・ソースまたはターゲットに対してはサポートされていません。

処置: Extract パラメータ・ファイルの TRANLOGOPTIONS パラメータで、必要に応じて FETCHPARTIALLOB/FETCHPARTIALXML オプションを追加してから、Extract 再起動します。

OGG-01817: 証跡で検出された DataFormat トークン、0x{0} が不明です。

原因: 証跡レコードのデータ形式トークンに無効なデータが含まれています。

処置: Extract および Replicat のバージョンに互換性があることを確認します。

OGG-01818: XMLDiff データがないため、続行できません: 表 {0}。

原因: 列の XMLDiff データが証跡から読み取られましたが、処理されませんでした。

処置: これは内部エラーです。Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01819: ワークスペースがアクティブなために、遅延可能な制約付きの表 {0} での操作はサポートされません。

原因: 遅延可能な制約付きの表が、一時的な重複処理用にワークスペースが開いているトランザクションで変更されました。

処置: 遅延可能な制約を削除してから、プロセスを再起動します。

OGG-01820: ワークスペースを有効にできませんでした

原因: UPDATE 文で一時的な重複を処理しようとして失敗しました。

処置: Replicat を再起動します。問題が続く場合は、dbms_goldengate_auth.grant_admin_privilege プロシージャを実行して、Replicat ユーザーに権限を付与します。OCI セッション・エラーなどの関連のエラーもすべて解決します。

OGG-01821: DYNAMICPORTREASSIGNDELAY パラメータは非推奨になっています。値は無視されます。

原因: DYNAMICPORTREASSIGNDELAY パラメータは、Oracle GoldenGate の現行バージョンでは無効です。

処置: パラメータ・ファイルから DYNAMICPORTREASSIGNDELAY パラメータを削除します。

OGG-01822: 無効な証跡 FORMAT RELEASE {0} が指定されています。

原因: 無効な証跡 FORMAT RELEASE が指定されています。

処置: 9.0/9.5、10.0、10.4/11.1 および 11.2 などの正しい FORMAT RELEASE を指定します。

OGG-01823: SHELL 構文が無効です: {0}。シェル・コマンドは、カッコまたは二重引用符で囲む必要があります。

原因: EVENTACTIONS SHELL 内のコマンドが、カッコまたは二重引用符で囲まれていません。

処置: コマンドをカッコまたは二重引用符で囲みます。

OGG-01824: プロセス {0} の SUSPEND 状態から処理を再開します。

原因: EVENTACTIONS SUSPEND 状態の後にプロセスを再起動中です。

処置: 処理は不要です。

OGG-01825: EMI [{0}]、optype [{1}]、objtype [{2}]、objowner [{3}]、objname [{4}] のために、DDL 操作は無視されました

原因: EVENTACTIONS で指定したルールに従って、指定した DDL 操作が無視されました。

処置: 処理は不要です。

OGG-01826: SPECIALRUN タスク・タイプは、Extract (取得) に対してサポートされなくなりました。

原因: タスク・タイプとしての SPECIALRUN は、Extract プロセスから削除されました。

処置: Extract プロセスの宣言属性としての SPECIALRUN タスク・タイプを削除します。

OGG-01827: SPECIALRUN タスク・タイプは、Extract (取得) に対してサポートされなくなりました。

原因: タスク・タイプとしての SPECIALRUN は、Extract プロセスから削除されました。

処置: Extract の宣言属性としての SPECIALRUN タスク・タイプを削除します。

OGG-01828: 操作 {1} には証拠 FORMAT {0} 以上が必要です。

原因: EXTFILE、EXTTRAIL、RMTFILE または RMTTRAIL パラメータには FORMAT オプションが含まれていますが、特定の RELEASE 値では指定した操作がサポートされていません。

処置: 指定した操作タイプをサポートするには、少なくともエラー・メッセージに示されているバージョンに FORMAT RELEASE を設定します。リーダー・プロセス (データ・ポンプまたは Replicat) は少なくとも指定したバージョンにする必要があります。

OGG-01829: アーカイブ・ログ・ファイル {0} が切り捨てられています。所定のサイズ {1,number,0} バイト、実際のサイズ {2,number,0} バイト

原因: アーカイブ・ログ・ファイルのサイズが、ログ・ファイルのヘッダーで指定されているより小さいサイズです。

処置: 指定したログ・ファイルを正しいサイズのファイルに置き換えます。

OGG-01830: ARCHIVEDLOGONLY モードではデフォルトで LOGRETENTION が無効です

原因: ARCHIVEDLOGONLY がパラメータ・ファイルで指定されています。LOGRETENTION はデフォルトで無効になります。

処置: 処理は不要です。

OGG-01831: sys.user\$ および sys.obj\$ から選択できないので、dba ビューをかわりに使用します。{0}

原因: sys.user\$ および sys.obj\$ へのアクセス時に OCI エラーが発生しました。

処置: 詳細な OCI エラー・メッセージを読み、sys.obj\$ および sys.user\$ にアクセスするための権限が付与されているかどうかを調べます。

OGG-01832: 表が XMLType かどうかを確認できませんでした: 表 {0}。

原因: 表を XMLType として確認しようとして、内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01833: 表 {0} の OID 値がありません。

原因: オブジェクト表の処理中に内部エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01834: IPv6 ソケットをデュアル・スタック・モードに設定できませんでした (エラー: {0,number,0}, {1}).

原因: システムには IPv6 スタックが有効になっているか、インストールされているのみです。

処置: IPv4 および IPv6 の両スタックが、Oracle Golden Gate で使用されるネットワーク・インタフェースに対して有効であることを確認します。

OGG-01835: 文 '{1}' で表 {0} に対してスキーマが指定されていません。デフォルトのスキーマ {2} を使用しています。

原因: パラメータ・ファイルでこの表に対する指定に、スキーマが明示的に指定されませんでした。プロセスのデフォルトのログイン・スキーマが使用されています。

処置: デフォルトのログイン・スキーマ以外のスキーマを指定するには、パラメータ・ファイルを編集して、正しいスキーマを指定します。

OGG-01836: 文 '{1}' で表 {0} に対してスキーマが指定されていません。マッピングが適用されません。

原因: パラメータ・ファイルでこの表に対する指定に、スキーマが明示的に指定されませんでした。マッピングが適用されません。

処置: スキーマを指定するか、デフォルトのスキーマを使用するために DBLOGIN パラメータを追加します。パラメータ・ファイルを編集して、正しいスキーマを指定するか、DBLOGIN パラメータを追加します。

OGG-01837: フェッチには、{0} 以上のデータベース REDO 互換バージョンが必要です。

原因: 指定したデータベース REDO 互換バージョンでは、フェッチがサポートされていません。

処置: フェッチをサポートするには、データベース REDO 互換バージョンを少なくともエラー・メッセージに示されたバージョンに設定します。

OGG-01841: {0}

原因: CACHESIZE が有効な最小値未満です。

処置: 無効な CACHEMGR CACHESIZE 設定がないか、パラメータ・ファイルを調べます。システム上の使用可能なスワップ領域を調べます。スワップ・サイズの設定は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの CACHEMGR を参照してください。

OGG-01842: {0}

原因: 仮想メモリーが、推奨される最小値未満です。

処置: システムで使用可能なスワップ領域を調べます。推奨されるスワップ・サイズは、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの CACHEMGR パラメータを参照してください。

OGG-01843: {0}

原因: 内部エラーが発生しました。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージとともに記録されます。場合によっては、メッセージ文に原因および考えられる処理が示されます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01844: {0}

原因: 内部エラーが発生しました。通常、このメッセージは、より具体的な情報を提供する他のメッセージとともに記録されます。場合によっては、メッセージ文に原因および考えられる処理が示されます。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01845: {0}

原因: 致命的な mmap/MapViewOfFile エラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01846: {0}

原因: VMF (仮想メモリー機能) エラーが発生しました。詳細は、メッセージ本文を参照してください。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01847: {0}

原因: VMF (仮想メモリー機能) エラーが発生しました。詳細は、メッセージ本文を参照してください。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01900: {0} の {1} 句でキー列 {2} を指定できません

原因: キー列は、MAP 文の ALLEXCLUDING 句で指定されます。

処置: ALLEXCLUDING 句からキー列を削除します。

OGG-01901: {0} に互換性のない解決 {2} が指定されました: {1}

原因: 指定された競合に互換性のない解決が指定されました。

処置: この競合に対して有効な解決を指定します。競合のタイプごとの有効な解決は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの RESOLVECONFLICT を参照してください。

OGG-01902: {0} 句で指定された列 {1} のデータ型がサポートされていません

原因: MAP 文の COMPARECOLS 句または TABLE 文の GETBEFORECOLS 句でサポートされていないデータ型が指定されています。

処置: サポートされているデータ型の列を指定します。サポートされているデータ型は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01903: {0} の列 {2}: 前の競合解決ですでに {1} が使用されました

原因: 複数の競合解決タイプで同じ列が指定されています。

処置: 解決タイプごとに異なる列または列グループを選択します。

OGG-01904: 非デフォルトの競合解決 {0} の COLS 句がありません :{1}

原因: RESOLVECONFLICT パラメータで非デフォルトの解決が指定されていますが、COLS 句が含まれていません。

処置: 非デフォルトの解決に COLS 句を指定します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01905: 非デフォルトの競合解決 {0} の適用 col リストがありません :{1}

原因: RESOLVECONFLICT パラメータで非デフォルトの解決が指定されていますが、COLS 句に列がリストされていません。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

処置: 非デフォルトの解決に COLS 句で 1 つ以上の列を指定します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01906: 競合解決 {0} の解決列がありません :{1}

原因: RESOLVECONFLICT パラメータで USEMIN または USEMAX 解決が指定されていますが、解決列が指定されていません。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

処置: USEMIN または USEMAX 解決に解決列を指定します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01907: NULL 列 {0} はデルタ解決で使用できません

原因: RESOLVECONFLICT パラメータの USEDELTA 解決で NULL 列が指定されました。

処置: USEDELTA を NULL 列の適切な解決に置き換えます。

OGG-01908: {0} 競合に指定の重複が見つかりました

原因: 1 つの競合タイプが 1 つの MAP 文で複数指定されました。

処置: 重複する競合の指定を削除します。

OGG-01909: 競合 {0} の {1} 解決で無効な ({2}) 列が指定されました

原因: 選択された競合タイプに無効な数の解決列が指定されました。

処置: 競合タイプごとに 1 つのみの解決列を指定します。

OGG-01910: 非デフォルトの競合解決 {0} に適用列がありません :{1}

原因: RESOLVECONFLICT で非デフォルトの解決が指定されましたが、適用 (ターゲット) 列が指定されていません。

処置: 1 つの非デフォルトの競合解決で少なくとも 1 つの適用列を指定します。

OGG-01911: {0} の {1} オプションで列の指定がありません

原因: COMPARECOLS/GETBEFORECOLS オプションに列がありません。

処置: COMPARECOLS/GETBEFORECOLS オプションで少なくとも 1 つの列を指定します。

OGG-01912: {0} パラメータの {1} {2} 句の指定が重複しています

原因: MAP 文で COMPARECOLS/GETBEFORECOLS 句の指定が重複しています。

処置: 重複する COMPARECOLS/GETBEFORECOLS 句を削除します。

OGG-01913: {0} パラメータの重複が見つかりました

原因: MAP 文で競合解決パラメータの指定が重複しています。

処置: 重複するパラメータ指定を削除します。

OGG-01914: {0} 競合に {1} 解決の重複が見つかりました

原因: この競合に重複する解決名が指定されています。

処置: 解決ごとに一意の名前を指定します。

OGG-01915: 競合 {0} の DEFAULT 解決がありません

原因: 指定した競合に DEFAULT 解決が含まれていません。

処置: RESOLVECONFLICT パラメータでこの競合に DEFAULT 解決を指定します。

OGG-01916: 競合 {0} に解決 {1} の指定がないか不完全です

原因: 指定した競合の解決がないか不完全です。

処置: この競合に対して有効な解決を指定します。競合のタイプごとの有効な解決は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントの RESOLVECONFLICT を参照してください。

OGG-01917: RESOLVECONFLICT {0} の指定が正しくないか不完全です

原因: RESOLVECONFLICT 文の競合の句が不完全です。

処置: この RESOLVECONFLICT パラメータに有効な競合を指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01918: オプション {1} がないか、{0} の指定が不完全です

原因: COMPARECOLS/GETBEFORECOLS パラメータで指定がないか不完全です。

処置: 有効な COMPARECOL オプションおよび GETBEFORECOLS オプションを指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01919: SQL エラー {0} の RESOLVECONFLICT がありません

原因: 適用競合が検出されましたが、Replicat パラメータ・ファイルにはそれを解決する RESOLVECONFLICT パラメータが含まれていません。

処置: 対応する RESOLVECONFLICT を指定して、競合解決を有効にします。

OGG-01920: ターゲット表 {1} へのマップ中に、前イメージに COMPARECOLS 列 {0} が見つかりません。GETBEFORECOLS にその列を追加してください。

原因: 指定した列は COMPARECOLS パラメータにありますが、GETBEFORECOLS パラメータで指定されていません。

処置: Extract パラメータ・ファイルで GETBEFORECOLS パラメータに列を指定すると、前イメージが比較のために使用可能になります。

OGG-01921: ターゲット表 {0} で競合検出が有効になっていますが、GETBEFORECOLS がありません

原因: 指定した表には RESOLVECONFLICT パラメータがありますが、COMPARECOLS で必要な前の列が GETBEFORECOLS で指定されていません。

処置: Extract パラメータ・ファイルで GETBEFORECOLS を指定すると、前イメージが COMPARECOLS 用に取得されます。

OGG-01922: ターゲット表 {1} へのマップ中に、RESOLUTION COLUMN {0} が見つかりません

原因: 指定した列の前イメージが、競合解決に使用できません。

処置: Extract パラメータ・ファイルの GETBEFORECOLS パラメータにこの列を指定します。

OGG-01923: SQL エラー {1} が発生した元の競合に対して、競合解決が SQL エラー {0} で失敗しました。

原因: 競合解決が、指定した SQL エラーで失敗しました。

処置: SQL エラーの原因を特定してから、Replicat を再起動します。

OGG-01924: {0} のカッコがありません

原因: GETBEFORECOLS または COMPARECOLS パラメータに無効な指定が含まれています。

処置: 有効な COMPARECOL または GETBEFORECOLS オプションを指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-01925: {0} 句で重複する文字列 {2} が無視されています: {1}

原因: 指定したパラメータに重複する文字列が見つかりました。

処置: パラメータから重複する文字列を削除します。

OGG-01926: 順序 {0} をフラッシュできません。sequence.sql スクリプトの設定および実行方法の手順は、Oracle GoldenGate for Oracle のドキュメントを参照してください。エラー {1}

原因: FLUSH SEQUENCE をサポートする必須 Oracle データベース・プロシージャをインストールするために、sequence.sql スクリプトが正しく実行されませんでした。

処置: DDL ユーザーを作成し、このスキーマを再編成するために Oracle GoldenGate を構成し、sequence.sql script でプロシージャを作成して、権限を割り当てる必要があります。Oracle GoldenGate for Oracle のインストール手順の手順を参照してください。

OGG-01927: 子プロセスが起動されました、プロセス ID {0,number,0}、コマンド・ライン '{1}'

原因: 指定した Oracle GoldenGate 子プロセス起動されました。

処置: なし

OGG-01928: 子プロセスが終了しました {0,choice,0#successfully|1#with exit code {0,number,0}}。

原因: 指定した Oracle GoldenGate 子プロセスが終了されました。

処置: なし

OGG-01929: 子プロセスがシグナル {0,number,0} で終了しました

原因: 指定した Oracle GoldenGate 子プロセスがシグナルで終了されました。

処置: なし

OGG-01930: '{0}' でのデータストア・エラー: {1}

原因: 埋込みデータストアでエラーが報告されました。

処置: エラー番号および説明を調べます。支援が必要な場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01931: データストア '{0}' を開けません。エラー {1,number,0} ({2})

原因: データストア環境を開けません。

処置: データストアが作成されていることを確認します。エラー番号および説明を調べます。支援が必要な場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01932: データストアがすでに存在します。

原因: データストア環境は、すでに存在するために作成できません。

処置: なし

OGG-01933: データストアの作成に失敗しました。

原因: データストア環境を作成できません。

処置: 付随の警告を調べ、支援が必要な場合は Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01934: データストアの修復に失敗しました。

原因: データストア環境を修復できません。

処置: 付随の警告を調べ、支援が必要な場合は Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01935: ファイルのフラッシュ・エラー、処理: 0x{0}、エラー: {1,number,0} - {2}

原因: ファイルをフラッシュしようとして、指定されたオペレーティング・システム・エラーが返されました。これは、ディスク障害、不十分な割当てまたは OS 内部エラーなど、ユーザー自身が解決できるものである可能性があります。それ以外の場合は、おそらく Oracle GoldenGate の内部エラーです。

処置: オペレーティング・システム・エラーの修正が可能な場合は、プロセスを再起動します。エラーを解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-01936: DDLERROR_SKIPDDL 使用のため、マーカー順序 {0} の DDL はスキップされました。

原因: DDLERROR_SKIPDDL が、DDL をスキップするために使用されました。

処置: 処理は不要です。

OGG-01937: Extract が、スレッド {0} から変更を取得するように構成されていません。データ損失を避けるには、Extract を削除し、正しい数の RAC インスタンスを指定するために、THREADS オプションにより再作成する必要があります。従う手順は、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください

原因: 既知の Extract プロデューサ・スレッドに対応していない REDO スレッドが見つかりました。これは、RAC 構成に ADD EXTRACT の発行時に指定したより多くのインスタンスがある場合に発生します。

処置: REDO スレッドの数の変更に関する完全な手順は、Oracle GoldenGate の管理ドキュメントを参照してください。すべてのプロセスを停止し、すべてのプロセスを削除して、すべての証跡ファイルを削除します。次に、THREADS を正しい値に設定した主 Extract を追加し、ローカル証跡を追加し、データ・ポンプを追加し、リモート証跡を追加し、すべて前と同じ名前を持つ Replicat を追加します。次に、プロセスを開始します。

OGG-01938: パラメータ・ファイル {0} では OBEY または INCLUDE ファイルはサポートされていません。

原因: パラメータ・ファイルで 1 つ以上の OBEY ファイルまたは INCLUDE ファイルを指定しています。OBEY および INCLUDE はサポートされていません。

処置: パラメータ・ファイルから OBEY/INCLUDE 文を削除するか、コンテンツをマージします。

OGG-01939: パラメータ・ファイル {2} のパラメータ {1} で指定されている表名 {0} が無効です。

原因: 指定されている表名が無効です。

処置: 表名を修正します。

OGG-01940: パラメータ・ファイル {2} のパラメータ {1} で指定されているスキーマ名 {0} が無効です。

原因: 指定されているスキーマ名が無効です。

処置: スキーマ名を修正します。

OGG-01948: パラメータ・ファイル {1} で指定されているキャラクタ・セット {0} が無効かサポートされていません。

原因: CHARSET パラメータで無効またはサポートされていないキャラクタ・セットが指定されています。

処置: 有効なキャラクタ・セットを指定します。

OGG-01949: CHARSET パラメータは、パラメータ・ファイル {0} の最初の行でのみサポートされます。

原因: CHARSET パラメータが、パラメータ・ファイルの最初の行で指定されていません。

処置: CHARSET パラメータをパラメータ・ファイルの最初の行に移動するか、ファイルから削除します。

OGG-01950: MACRO {0} の MACRO 定義が無効です。END キーワードが指定されていません。

原因: MACRO 定義が END キーワードで終わっていません。

処置: END キーワードを追加します。

OGG-01951: MACRO {0} の MACRO 定義が無効です。マクロ本体が指定されていません。

原因: MACRO 定義にマクロ本体が含まれていません。

処置: マクロ本体を追加します。

OGG-01952: MACRO {0} 定義に開きカッコがありません。

原因: マクロがパラメータ・ファイル内で定義されていますが、PARAMS 句で開きカッコがありません。

処置: 開きカッコを追加します。

OGG-01953: MACRO {0} 定義に閉じカッコがありません。

原因: マクロがパラメータ・ファイル内で定義されていますが、PARAMS 句で閉じカッコがありません。

処置: 閉じカッコを追加します。

OGG-01954: マクロ名が無効です ({0} - {1} で始める必要があります)

原因: マクロ名の前にマクロ文字がありません。

処置: このエラー・メッセージに表示されたマクロ文字を追加してください。すべてのマクロ名の前にこの文字が必要です。

OGG-01955: MACRO {0} 定義でパラメータ {1} が使用されていません。

原因: マクロがパラメータ・ファイルで定義されていますが、マクロ本体のテキストに使用されていないパラメータがあります。

処置: マクロ本体のテキストにそのパラメータを追加するか、マクロ本体から削除します。

OGG-01956: MACRO {0} の起動に閉じカッコがありません。

原因: パラメータ・ファイルでマクロが起動されていますが、閉じカッコがありません。

処置: 閉じカッコを追加します。

OGG-01957: パラメータ {0} に開きカッコがありません。

原因: 指定されているパラメータに開きカッコがありません。

処置: 開きカッコを追加します。

OGG-01958: パラメータ {0} に閉じカッコがありません。

原因: 指定されているパラメータに閉じカッコがありません。

処置: 閉じカッコを追加します。

OGG-02000: オプション {0} が、統合取得の構成と互換性がないために無視されます。

原因: 指定のオプションは、統合取得の構成では無効です。

処置: Extract のパラメータ・ファイルから互換性のないオプションを削除します。

OGG-02001: 統合取得オプション {0} が、従来の取得の構成と互換性がないために無視されています

原因: 指定の統合取得オプションは、従来の取得の構成では無効です。

処置: Extract のパラメータ・ファイルから互換性のないオプションを削除します。

OGG-02002: REGISTER LOGRETENTION が、統合取得の構成と互換性がないために無視されています

原因: ログ管理は、DATABASE オプションを指定した REGISTER EXTRACT により自動的に有効になるために、LOGRETENTION を指定した REGISTER EXTRACT は統合取得の構成では不要です。

処置: なし

OGG-02003: Extract {0} は、SCN {1} で正常にデータベースに登録されました

原因: 指定した Extract が、統合取得をサポートするために、データベースに登録されました。

処置: INTEGRATED TRANLOG を指定した ADD EXTRACT または UPGRADE TO INTEGRATED TRANLOG を指定した ALTER EXTRACT を使用して、Extract を同じ名前で追加またはアップグレードします。

OGG-02004: このデータベースには、統合取得のサポートに必要な PL/SQL パッケージが欠けています

原因: データベースには、統合取得をサポートする PL/SQL パッケージが含まれていません。

処置: Oracle データベースをより新しいバージョンにアップグレードします。

OGG-02005: EXTRACT {0} は、すでに統合されています

原因: この Extract は、統合取得用にすでに構成されています。

処置: なし

OGG-02006: REGISTER EXTRACT {0} DATABASE は、統合取得にアップグレードする前に実行する必要があります。

原因: REGISTER EXTRACT コマンドが発行されませんでした。

処置: REGISTER EXTRACT <group> DATABASE コマンドを、Extract を統合取得にアップグレードする前に発行します。詳細は、GGSCI ヘルプまたは Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02007: 現行の Extract チェックポイント値の取得中にエラーが発生しました

原因: Extract では、チェックポイント・ファイルから現行チェックポイントを取得できませんでした。

処置: チェックポイント・ファイルが使用可能であることを確認します。

OGG-02008: Extract リカバリ・チェックポイント値の取得中にエラーが発生しました

原因: Extract では、チェックポイント・ファイルからリカバリ・チェックポイント値を取得できませんでした。

処置: チェックポイント・ファイルが使用可能であることを確認します。

OGG-02009: Extract チェックポイント・ファイルに、無効なチェックポイント・タイプ {0} が含まれています。

原因: 内部エラーが発生したか、チェックポイント・ファイルが破損しています。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-02010: リカバリ SCN 値が設定されていないために、Extract {0} ではアップグレードの準備ができていません

原因: Extract では、まだチェックポイントが設定されていません。

処置: Extract がそのチェックポイント・ファイルに書き込むのを待ってから、このコマンドを再発行します。Extract でチェックポイントが設定されたかどうかを確認するには、SHOWCH オプションを指定して INFO EXTRACT コマンドを使用します。

OGG-02011: リカバリ SCN {1,number,0} が SCN {2,number,0} に達していないために、Extract {0} ではアップグレードの準備ができていません

原因: Extract では、Extract をアップグレードするのに十分な新しいチェックポイントが設定されていません。

処置: UPGRADE 引数を指定して INFO EXTRACT コマンドを発行し、Extract のアップグレードの準備ができたかどうかを確認してから、UPGRADE TO INTEGRATED TRANLOG 引数を指定して ALTER EXTRACT コマンドを発行し、アップグレードを実行します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02012: Extract {0} は、統合取得にアップグレードする準備ができています

原因: Extract は、統合取得にアップグレードできます。

処置: UPGRADE TO INTEGRATED TRANLOG 引数を指定して ALTER EXTRACT コマンドを発行します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02013: Extract {0} が、正常に統合取得にアップグレードされました

原因: Extract が正常に統合取得にアップグレードされました。

処置: なし

OGG-02014: Extract {0} が、正常に統合取得からダウングレードされました

原因: Extract が、統合取得の構成から正常にダウングレードされました。

処置: なし

OGG-02015: Extract {0} は、統合取得からダウングレードする準備ができています。SCN {1,number,0} 以上に対応するアーカイブ・ログは、ダウングレードされた Extract でアクセスできる必要があります

原因: Extract は、統合取得からダウングレードできます。

処置: DOWNGRADE FROM INTEGRATED TRANLOG 引数を指定して ALTER EXTRACT コマンドを発行します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02016: EXTRACT {0} は、統合取得用に構成されていません

原因: この Extract は、統合取得からダウングレードされ、従来の取得になりました。

処置: なし

OGG-02017: Extract {0} は、このデータベースに登録されていません

原因: Extract では、このデータベースから登録情報を取得できません。

処置: GGSI から正しいデータベースにログインしたことを確認します。

OGG-02018: ALTER EXTRACT DOWNGRADE コマンドの無効な構文です

原因: DOWNGRADE オプションを指定した ALTER EXTRACT コマンドに、無効な構文が指定されました。

処置: 正しい構文は、ALTER EXTRACT <group> DOWNGRADE FROM INTEGRATED TRANLOG です。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02019: ALTER EXTRACT UPGRADE コマンドの構文が無効です

原因: ALTER EXTRACT UPGRADE コマンドに無効な構文が指定されました。

処置: 正しい構文は、ALTER EXTRACT <group> UPGRADE TO INTEGRATED TRANLOG です。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02020: エラー {0} のために、MININGDB への接続を初期化できません

原因: MININGDB で指定されたデータベースへのログインには成功しましたが、報告されたエラーのために、接続を初期化できません。

処置: エラーを修正してから、プロセスを再起動します。

OGG-02021: このデータベースには、統合取得のサポートに必要なライブラリが欠けています

原因: データベースには、統合取得をサポートするライブラリが含まれていません。

処置: Oracle データベースをより新しいバージョンにアップグレードします。

OGG-02022: この Oracle データベースにはログマイニング・サーバーが存在しません

原因: このデータベースにログマイニング・サーバーが見つかりません。

処置: GGSI から正しいデータベースにログインしたことを確認します。

OGG-02023: ログマイニング・サーバーを停止しようとして失敗しました

原因: 報告されたエラーのために、ログマイニング・サーバーを停止できませんでした。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02024: Oracle データベースからログマイニング・サーバー構成に関する情報を収集しようとして失敗しました。

原因: Extract がデータベースからログマイニング・サーバーに関する情報を収集しようとして、指定エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02025: ルール・チェックサムを書き込もうとして失敗しました

原因: フィルタ・ルールのチェックサムを書き込むプロセスが失敗しました。

処置: ディスク上で記憶領域が使用可能であることを確認します。

OGG-02026: チェックポイント保存を値 {0} に設定しようとして失敗しました

原因: Extract では、ログマイニング・サーバーのチェックポイント保存の設定に失敗しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02027: Oracle データベースでログマイニング・サーバーを起動しようとして失敗しました

原因: Extract でログマイニング・サーバーを起動しようとして、指定エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02028: ログマイニング・サーバー {0} にアタッチできませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバーにアタッチしようとして、指定エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02029: 報告されたエラーのために、ソース・データベースからグローバル・データベース名を取得できませんでした

原因: Extract でグローバル・データベース名を問い合わせようとして、指定エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02030: ログマイニング・サーバーのパラメータをデフォルト値に戻すことができませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバーのパラメータをデフォルト値に戻そうとして、指定エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02031: TRANLOGOPTIONS INTEGRATEDPARAMS ({0}) の値がありません

原因: TRANLOGOPTIONS INTEGRATEDPARAMS パラメータが値なしで指定されました。

処置: 値を指定します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02032: TRANLOGOPTIONS INTEGRATEDPARAMS ({0}, {1}) を設定できませんでした

原因: TRANLOGOPTIONS INTEGRATEDPARAMS パラメータまたは値が無効です。

処置: パラメータ名または値を修正します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02033: フィルタ・ルールを消去できませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバーのフィルタ・ルールを消去しようとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02034: 対象フィルタ・ルール {0} を追加できませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバーに対象フィルタ・ルールを渡そうとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02035: {0} の除外フィルタ・ルールを追加できませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバーに除外フィルタ・ルールを渡そうとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02036: 統合取得がログマイニング・サーバー {0} に正常にアタッチされました

原因: Extract がログマイニング・サーバーに正常にアタッチされました。

処置: なし

OGG-02037: 欠けている Oracle REDO ログの名前を取得できませんでした。

原因: Extract で欠けている Oracle REDO ログの名前を取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02038: ログマイニング・サーバー・ルールセットを作成できませんでした

原因: Extract でログマイニング・サーバー・ルールセットを作成しようとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02039: ログマイニング・サーバー・パラメータ {0} を値 {1} に設定できませんでした。

原因: Extract でログマイニング・サーバー・パラメータを設定しようとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02040: Extract USERID または TRANLOGOPTIONS MININGUSER {0} が、ログマイニング・サーバー接続ユーザー {1} と一致しません

原因: Extract USERID または TRANLOGOPTIONS MININGUSER パラメータが、DBLOGIN または MININGDBLOGIN および REGISTER EXTRACT を発行したユーザーと一致しません。

処置: このメッセージ示されているユーザーが、USERID または TRANLOGOPTIONS MININGUSER に指定された値であることを確認します。

OGG-02041: ログマイニング・サーバーから LCR レコードを取得できませんでした。

原因: Extract でログマイニング・サーバーから LCR を取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02042: OCI エラー {0}

原因: 予期しない OCI エラーが返されました。

処置: エラーを修正してから、操作を再試行します。

OGG-02043: SQLEXEC EXEC 句に ID{0} が欠けています。EXEC 句にストアド・プロシージャ名のあるスキーマ名が含まれている場合、バグ 12989433 のために ID が必要です。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

原因: SPNAME が存在する場合、ID はオプションですが、バグ 12989433 に記録されている既知の問題では、SPNAME が schema.spname の形式をとる場合には ID が必須となります。

処置: この問題に対処するには、ID オプションを指定した論理名を SQLEXEC 文に追加します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02044: グループ化されたトランザクションが異常終了し、一時的な主キーの重複を処理するために Oracle のワークスペースが使用される可能性が最も高くなります。その他のメッセージを調べてください。

原因: ORA 00001(一意制約)エラーが発生すると、Replicat ではグループ化されたトランザクションを無効にしてから、エラーを解決するために、一時的な主キーの重複の処理を試みます。これらは、トランザクションの実行中に一時的に発生する重複ですが、トランザクションのコミット時に解決されます。これを行うために、Replicat では Oracle のワークスペースを開きます。詳細は、バグ 13105877 を参照してください。

処置: なし

OGG-02045: データベースでは、streams_pool_size 初期化パラメータが構成されていません。

原因: データベース初期化パラメータ streams_pool_size が、統合取得をサポートするように正しく設定されていません。

処置: データベース初期化パラメータ streams_pool_size を設定します。サイズ設定の推奨事項は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02046: 統合取得モードで現在の Extract 数を処理するには、データベース・メモリーが不十分です: {0}。

原因: 統合取得モードで Extract が正常に機能するために構成されたデータベース・メモリーが不十分です。

処置: データベース初期化パラメータ streams_pool_size を増加します。サイズ設定の推奨事項は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02047: Extract {0} を SCN {1,number,0} に位置付けられません

原因: Extract を要求した SCN に位置付けることができませんでした。

処置: 有効な SCN を指定してコマンドを再発行します。

OGG-02048: Extract {0} は、統合取得からダウングレードする準備ができています。THREADS オプションに {2,number,0} 以上の値を指定することが必要になります。SCN {1,number,0} 以上に対応するアーカイブ・ログは、ダウングレードされた Extract でアクセスできる必要があります

原因: Extract は、THREADS オプションで統合取得からダウングレードできます。

処置: ALTER EXTRACT コマンドを DOWNGRADE FROM INTEGRATED TRANLOG 引数と THREADS オプションを指定して発行します。構文の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントまたは GGSCI のオンライン・ヘルプを参照してください。

OGG-02049: 統合取得モードの Extract では、OCI セッションの環境またはエラー・ハンドルの作成または割当てに失敗しました

原因: Extract でハンドルの作成または割当てのために OCI コールを作成したときに、エラーが発生しました。

処置: Extract を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、システム・メモリーが十分であることを確認します。問題を解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-02050: 要求された {0} の MAX_SGA_SIZE を受け付けるには、データベース・メモリーが不十分です。

原因: TRANLOGOPTIONS INTEGRATEDPARAMS での MAX_SGA_SIZE 指定用に構成されたデータベース・メモリーが不十分です。

処置: データベース初期化パラメータ streams_pool_size を増加するか、Extract へのメモリーの割当てを減らします。サイズ設定の推奨事項は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02051: 統合取得モードで Extract を処理するには、データベース・メモリーが不十分です。

原因: 統合取得モードで Extract に対して推奨される量をサポートするには、データベース・メモリーが不十分です。

処置: データベース初期化パラメータ streams_pool_size を増加するか、TRANLOGOPTIONS パラメータの INTEGRATEDPARAMS オプション内の MAX_SGA_SIZE の値を減らすことで、Extract に割り当てるメモリーを減らします。サイズ設定の推奨事項は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02052: このデータベースには、統合取得のサポートに必要なライブラリが欠けています。

原因: データベースには、統合取得をサポートするライブラリが含まれていません。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-02053: 次の SQL エラーのために、EXTRACT {0} でソース・データベースに現行ログファイルをアーカイブできませんでした: {1}。『Oracle GoldenGate Oracle インストールおよびセットアップ・ガイド』で Extract のユーザー権限を参照してください。

原因: おそらく権限が不十分であったために、ダウンストリーム・モードで構成された統合取得に必要な REDO ログファイル・アーカイブのリクエストに失敗しました。

処置: コマンド 'alter system archive log current' により、ソース・データベースで現行 REDO ログファイルを手動でアーカイブします。Extract の権限が正しく

設定されていることを確認するために、Oracle GoldenGate for Oracle のドキュメントを調べます。

OGG-02054: 次の SQL エラーのために、EXTRACT {0} でソース・データベースの現行ログファイルをスイッチできませんでした: {1}。『Oracle GoldenGate Oracle インストールおよびセットアップ・ガイド』で Extract のユーザー権限を参照してください。

原因: おそらく Extract 権限が不十分だったために、ダウンストリーム・モードで統合取得に必要な現行 REOD ログファイルをスイッチできませんでした。

処置: コマンド 'alter system switch logfile' により、ソース・データベースで現行 REDO ログファイルを手動でスイッチします。Extract の権限が正しく設定されていることを確認するために、Oracle GoldenGate for Oracle のドキュメントを調べます。

OGG-02055: ARCHIVELOG モードをこの Oracle データベースで有効にする必要があります

原因: ARCHIVELOG モードがこの Oracle データベースで無効であるために、このデータベースに対しては統合取得がサポートされていません。

処置: このデータベースで ARCHIVELOG モードを有効にするか、統合取得を使用しないでください。

OGG-02056: Oracle 互換バージョン {0} は、統合取得に対してはサポートされていません。バージョン {1} が必要です。

原因: 統合取得は、このデータベースに対する現在の Oracle 互換パラメータの設定ではサポートされません。

処置: 必要な Oracle データベース互換パラメータの設定要件の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02057: Oracle ソース・データベースが、統合取得をサポートするために正しく構成されていません。

原因: この Oracle データベースでは、正しく構成されていないために統合取得を使用できません。

処置: 指定エラーを修正します。Oracle データベースの構成の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02058: Oracle ソース・データベースが、統合取得をサポートするために正しく構成されていません。次の構成エラーを修正する必要があります: {0}

原因: この Oracle データベースでは、正しく構成されていないために統合取得を使用できません。

処置: 指定エラーを修正します。Oracle データベースの構成の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02059: Oracle マイニング・データベースが、統合取得をサポートするために正しく構成されていません。

原因: この Oracle データベースでは、正しく構成されていないために統合取得を使用できません。

処置: 指定エラーを修正します。Oracle データベースの構成の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02060: Oracle マイニング・データベースが、統合取得をサポートするために正しく構成されていません。次の構成エラーを修正する必要があります: {0}

原因: この Oracle データベースでは、正しく構成されていないために統合取得を使用できません。

処置: 指定エラーを修正します。Oracle データベースの構成の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02061: ユーザー {0} には、統合取得の使用に必要な権限がありません。

原因: この操作に関連するユーザーには、十分な Oracle データベース権限がありません。

処置: 必要なユーザー権限の詳細は、『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-02062: ユーザー {0} には、統合取得の使用に必要な権限がありません

原因: この操作に関連するユーザーには、十分な Oracle データベース権限がありません。

処置: 必要なユーザー権限の詳細は、『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-02063: Oracle データベース・バージョン {0} は、統合取得に対してサポートされていません。バージョン {1} が必要です。

原因: 統合取得は、このバージョンの Oracle データベースではサポートされていません。

処置: サポートされている Oracle データベースのバージョンの詳細は、『Oracle GoldenGate Oracle インストレーションおよびセットアップ・ガイド』を参照してください。

OGG-02064: Oracle 互換バージョン {0} には、統合取得に対するデータ型サポートに制限があります。フル・サポートにはバージョン {1} が必要です。

原因: 統合取得は、このデータベースに対する現在の Oracle 互換パラメータの設定では、データ型サポートに制限があります。

処置: 必要な Oracle データベース互換パラメータの設定要件の詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02501: 表 {1} にサポートされていないデータ型コード {0} が検出されました

原因: 指定したデータ型が、統合適用モードではサポートされていません。

処置: Replicat は、サポートされていないデータ型を持つトランザクションに対して標準モードに戻ります。統合適用モードを保持するには、その表を Replicat 構成から削除するか、互換性のないデータ型がサポートされているものに変更します。

OGG-02502: 統合適用モードに指定されたパラメータが無効です

原因: 統合適用パラメータの指定が無効です。

処置: INTEGRATEDPARAMS パラメータに有効な構文を使用します。詳細は、Oracle GoldenGate のリファレンス・ドキュメントを参照してください。

OGG-02503: このデータベース・バージョンでは統合適用モードはサポートされていません

原因: 統合適用が指定されましたが、このデータベース・バージョンではサポートされていません。

処置: Replicat を従来の適用モードで実行するか、データベースを統合適用がサポートされているバージョンにアップグレードします。

OGG-02504: 統合適用 '{0}' の位置長さが、{2} が必要なときに {1} でした

原因: 位置長さの不一致が検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-02505: 統合適用モードでは、操作コード {0} はサポートされていません

原因: 統合適用モード中に、サポートされていない操作コードが検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-03000: 表 {0} に、NOEXTATTR オプションが指定されているときにサポートされない非 ASCII 文字または特殊文字 (空白や点など) があります。

原因: DEFGEN が NOEXTATTR パラメータで実行され、指定した表には非 ASCII または特殊文字が含まれています。

処置: DEFGEN パラメータ・ファイルからその表を除外するか、NOEXTATTR パラメータを指定せずに DEFGEN を実行します。

OGG-03001: 表 {1} の列 {0} に、NOEXTATTR オプションが指定されているときにサポートされない非 ASCII 文字または特殊文字があります。

原因: DEFGEN が NOEXTATTR パラメータを指定して実行され、指定した表の列に非 ASCII または特殊文字 (空白やドット) が含まれています。

処置: DEFGEN パラメータ・ファイルからその表を除外するか、NOEXTATTR パラメータを指定せずに DEFGEN を実行します。

OGG-03002: ターゲット表 {0} は存在しません。ターゲット表に、不正確なワイルドカード一致表 {1} が使用されています。

原因: ターゲット・ワイルドカードの指定に正確に一致する表名がありません。正確に一致しない名前の表が、ターゲットとして使用されました。

処置: 処理は不要です。

OGG-03003: ターゲット表 {0} に、証跡形式レベル {1} と互換性のない非 ASCII または特殊文字 (空白や点など) があります。

原因: ターゲット表の名前が、11.2.1 リリースより前の形式である証跡形式と互換性がありません。

処置: TARGET 句内の表を除外または名前を変更するか、EXTTRAIL、RMTTRAIL、EXTFILE または RMTFILE パラメータの FORMAT RELEASE オプションに 11.2.1 以降を指定します。

OGG-03004: ソース列のキャラクタ・セットが不明です。ソース列 {0} をターゲット列 {1} にマップできません

原因: 証跡ファイルはリリース 11.1 以前の Extract により書かれていますが、_TRAILCHARSET パラメータが指定されています。

処置: _TRAILCHARSET パラメータを指定するか、CHAR/VARCHAR 列を NCHAR/NVARCHAR 列にマップしないでください。

OGG-03005: 場所 {1} でトークン {0} の対応するカッコがみつかりません。

原因: パラメータ・ファイルに構文エラーがあります。

処置: 不完全なカッコを含むトークン指定の構文エラーを修正します。

OGG-03006: ソース・データベースのキャラクタ・セットまたはターゲット・クライアントのキャラクタ・セットが見つかりません。OGG キャラクタ・セットの変換が無効です。

原因: ソース・データベースのキャラクタ・セットまたはターゲット・クライアントのキャラクタ・セットが見つかりません。

処置: キャラクタ・セットまたはターゲット・クライアントのキャラクタ・セットを設定します。

OGG-03007: {1} パラメータで指定した {0} キャラクタ・セットが無効かサポートされていません。

原因: `_TRAILCHARSET` パラメータで無効またはサポートされていないキャラクタ・セットが指定されています。

処置: 有効なキャラクタ・セットを指定してから、Replicat を再起動します。

OGG-03008: ソース列 {0} に無効な文字が含まれており、ソースのキャラクタ・セット {2} からターゲットのキャラクタ・セット {3} への変換のためにターゲット列 {1} にマップできません。

原因: ソース列に無効な文字が含まれており、ターゲット列にマップできません。

処置: 無効な文字をターゲットのキャラクタ・セットの有効な文字に置換するには、内部の `_TRAILCHARSET` パラメータを `REPLACEBADCHAR` オプションで指定します。詳細は、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03009: ソース列 {0} のキャラクタ・セット {2} からターゲット列 {1} のキャラクタ・セット {3} への変換は、ソース列にターゲットのキャラクタ・セットで使えない文字が含まれているために失敗しました。

原因: ソース列にターゲット列のキャラクタ・セットで使えない文字が含まれています。

処置: ターゲット・データベースのキャラクタ・セットを、ソース・データベースのキャラクタ・セットと同じセットまたはスーパーセットに設定します。または、`REPLACEBADCHAR` オプションを指定した内部パラメータ `_TRAILCHARSET` を使用して、無効な文字をターゲット・キャラクタ・セットの有効な文字と置換します。

OGG-03010: キャラクタ・セット {0} から {1} への列データの暗黙的変換を実行中です。

原因: Oracle GoldenGate では、ソース・データのキャラクタ・セットがターゲット・データのキャラクタ・セットと異なるため、キャラクタ・セットの変換を実行中です。

処置: 処理は不要です。

OGG-03011: {1} オプションで指定したキャラクタ・セット {0} が使用されており、証跡ファイルのキャラクタ・セット {2} をオーバーライドします。

原因: `_TRAILCHARSET` で指定されたキャラクタ・セットが、証跡ヘッダーのキャラクタ・セットと異なります。

処置: Replicat パラメータ・ファイルから `_TRAILCHARSET` を削除します。

OGG-03012: ソースのキャラクタ・セットがサポートされていないために、ソース・キャラクタ・セット {2} からターゲット・キャラクタ・セット {3} への変換中に、ソース列 {0} をターゲット列 {1} に変換できません。

原因: ソース列のキャラクタ・セットがサポートされていません。

処置: ターゲット・データベースのキャラクタ・セットをサポートされているものに設定するか、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03013: ターゲットのキャラクタ・セットがサポートされていないために、ソース・キャラクタ・セット {2} からターゲット・キャラクタ・セット {3} への変換中に、ソース列 {0} をターゲット列 {1} に変換できません。

原因: ターゲット列のキャラクタ・セットがサポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03014: 警告: ソース列 {0} にターゲット列 {1} で保持できるより多い文字があります。ソースのキャラクタ・セット {2} からターゲットのキャラクタ・セット {3} への変換中に、一部のソースの文字がマップされません。

原因: ソース列にターゲット列で保持できるより多い文字があります。

処置: もう 1 つのターゲット列を指定するか、ターゲット列のサイズをソース列のサイズと同じまたはそれ以上にします。

OGG-03015: 警告: ソースのキャラクタ・セット {2} からターゲットのキャラクタ・セット {3} への変換時に、キャラクタ・セットの変換の失敗が発生しました。エラー・コード: {4}

原因: キャラクタ・セットの変換中に内部エラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージを保存し、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03016: 警告: ソースのキャラクタ・セット {2} からターゲットのキャラクタ・セット {3} への変換時に、ソース列 {0} の長さがゼロになります。

原因: キャラクタ・セットの変換中に内部エラーが発生しました。証跡ファイルが破損している可能性があります。このメッセージは健全性チェックのためのもので、本番環境で発生してはならないものです。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03017: 警告: ソース列 {0} のキャラクタ・セット {2} からターゲットのキャラクタ・セット {3} への変換時に、ターゲット列 {1} の長さがゼロになります。

原因: このメッセージは健全性チェックのためのもので、本番環境で発生してはならないものです。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03018: 別の形式のデータが見つかりました (コード = {0})。キャラクタ・セットの変換が実行されませんでした。

原因: 別の形式のデータが処理されました。例として、バイナリ XML、XML diff または部分的な LOB があります。

処置: なし

OGG-03019: WHERE 句または FILTER 句の評価に使用されている列が表 {0} ありません。

原因: WHERE 句または FILTER 句の評価に使用されている列が見つからず、プロセスでは必要なデータのフィルタ処理が実行できません。

処置: パラメータ・ファイルで WHERE または FILTER の指定を編集して、見つからない値を格納できない列を指定します。

OGG-03020: 証跡のキャラクタ・セット {0} が指定されています。

原因: _TRAILCHARSET パラメータが指定されています。

処置: なし

OGG-03021: 証跡のキャラクタ・セット {0} が指定されています。無効な文字は代替文字に置換されます。

原因: REPLACEBADCHAR オプション付きで _TRAILCHARSET パラメータが指定されています。

処置: なし

OGG-03022: {0} CCSID 値を取得しようとして、予期しない戻りコード {1} が受信されました。

原因: SQLFetch により、指定された CCSID の値の select getvariable() から、予期しない戻りコードが返されました。

処置: このメッセージの詳細を、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-03023: {0} CCSID {1} が認識されていません。

原因: DB2 から取得した CCSID 値が、Oracle GoldenGate で認識されません。

処置: このメッセージの詳細を、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-03024: MIXED CCSID としてマークされた文字データが検出されましたが、ASCHIMIXEDCCSID または EBCDICMIXEDCCSID のどちらも指定されていません。

原因: MIXED CCSID としてマークされた文字データが検出されましたが、MIXED CCSID パラメータが指定されていません。

処置: Extract パラメータ・ファイルに ASCHIMIXEDCCSID または EBCDICMIXEDCCSID のいずれかを追加します。

OGG-03025: GLOBALS ファイルの A2E パラメータに指定された {0} キャラクタ・セットは、データベースの CCSID と一致しません。

原因: GLOBALS ファイルの A2E パラメータに指定されたキャラクタ・セットは、データベースの CCSID と一致しません。

処置: GLOBALS ファイルの A2E パラメータのキャラクタ・セットの指定を修正するか、Extract パラメータ・ファイルの TABLE 指定を編集して、このネイティブ・エンコーディングで表が処理されるのを避けます。

OGG-03026: APPLICATION ENCODING SCHEME を取得しようとして、予期しない戻りコード {0} が受信されました。

原因: APPLICATION ENCODING SCHEME を選択しようとして失敗しました。この関数は DB2 V9.1 より前ではサポートされていません。

処置: DEFAULT APPLICATION ENCODING SCHEME が EBCDIC であることを確認します。

OGG-03027: DEFAULT APPLICATION ENCODING SCHEME が {0} です。EBCDIC のみがサポートされています。

原因: APPLICATION ENCODING SCHEME が、EBCDIC 以外の値に指定されました。

処置: ODBC 初期化ファイルの CURRENTAPPENSCH に指定された値を変更するか、そのパラメータを削除します。

OGG-03028: {1} エンコーディングの表 {0} は、{2} パラメータの指定では処理できません。

原因: 指定した混合 CCSID パラメータと一致しないエンコーディングの表が検出されました。

処置: パラメータ・ファイルを修正して、この表を処理から除外するか、混合 CCSID パラメータを変更します。

OGG-03029: 無効なソース表名 {0} が指定されました。

原因: TABLE/MAP パラメータで無効なソース表名が指定されています。

処置: 正しいソース表名を指定します。

OGG-03030: 無効なターゲット表名 {0} が指定されました。

原因: TABLE/MAP パラメータで無効なターゲット表名が指定されています。

処置: 正しいターゲット表名を指定します。

OGG-03031: データ・ポンプでは、キャラクタ・セットの変換がサポートされていません。受信 ASCII データは、EBCDIC に変換されません。

原因: 入力ファイルのキャラクタ・セットが、データ・ポンプが実行されているプラットフォームのキャラクタ・セットと一致しません。

処置: 列データは ASCII で、これを EBCDIC として処理しようとすると、すべて失敗する可能性があります。

OGG-03032: データ・ポンプでは、キャラクタ・セットの変換がサポートされていません。受信 EBCDIC データは ASCII に変換されません。

原因: 入力ファイルのキャラクタ・セットが、データ・ポンプが実行されているプラットフォームのキャラクタ・セットと一致しません。

処置: 列データは EBCDIC で、これを ASCII として処理しようとすると、すべて失敗する可能性があります。

OGG-03033: データ・ポンプでは、キャラクタ・セットの変換がサポートされていません。

原因: パラメータ EBCDICTOASCII が、データ・ポンプのパラメータ・ファイルで指定されました。

処置: データ・ポンプのパラメータ・ファイルから、パラメータ EBCDICTOASCII を削除します。

OGG-03034: オペレーティング・システムのキャラクタ・セットを識別できません。ロケール: {0}、LC_ALL: {1}

原因: オペレーティング・システムのキャラクタ・セットまたはロケールが指定されていないか、無効な値が含まれています。

処置: オペレーティング・システムで、正しいキャラクタ・セットおよびロケールを指定します。

OGG-03035: オペレーティング・システムのキャラクタ・セットが、{0} として識別されました。ロケール: {1}、LC_ALL: {2}

原因: プロセスでは、オペレーティング・システムのキャラクタ・セットが検証されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-03036: データベースのキャラクタ・セットが、{0} として識別されました。ロケール: {1}

原因: プロセスでは、データベースのキャラクタ・セットが検証されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-03037: セッションのキャラクタ・セットが、{0} として識別されました。

原因: プロセスでは、データベース接続のキャラクタ・セットが検証されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-03038: 表 {0}、列 {1}、データ型 : {2} は、Unicode の表でのみサポートされます。

原因: 示されたデータ型は、現在のところ Unicode 表に対してのみサポートされています。

処置: TABLE パラメータでの明示的な指定を削除するか、ワイルドカードの指定の結果として含まれている場合は、TABLEEXCLUDE パラメータを使用することにより、Extract の処理からこの表を除外します。

OGG-03039: データベースのキャラクタ・セット {0} は、サポートされていません。

原因: データベースのキャラクタ・セットは、サポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03040: セッションのキャラクタ・セット {0} は、サポートされていません。

原因: セッションのキャラクタ・セットは、サポートされていません。

処置: Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03041: DDL 後のコマンドは成功しました : {0}

原因: Replicat では、DDL 後のコマンドを実行中です。

処置: なし

OGG-03042: キャラクタ・セット値が、defgen CHARSET パラメータに指定されていません。

原因: Defgen CHARSET パラメータに値が指定されていません。

処置: Defgen パラメータ・ファイルで、CHARSET パラメータにキャラクタ・セットを指定します。

OGG-03043: defgen CHARSET パラメータに指定されたキャラクタ・セットの値 {0} は無視されます。

原因: CHARSET パラメータと NOEXTATTR パラメータは、どちらも Defgen パラメータ・ファイルで指定されています。CHARSET パラメータは無視されます。

処置: NOEXTATTR または CHARSET のいずれかを削除します。

OGG-03044: defgen CHARSET パラメータに無効なキャラクタ・セット {0} が指定されています。

原因: Defgen CHARSET パラメータに無効なキャラクタ・セットが指定されています。

処置: CHARSET に正しいキャラクタ・セットを指定します。

OGG-03045: defgen CHARSET パラメータに指定されたキャラクタ・セット {0} は、サポートされていません。

原因: Defgen CHARSET パラメータにサポートされていないキャラクタ・セットが指定されています。

処置: サポートされているキャラクタ・セットを指定します。

OGG-03046: 定義ファイル {0} は、文字エンコーディングおよびロケールの拡張属性をサポートしていないバージョンです。

原因: Defgen は APPEND モードで、既存の内容は、文字エンコーディングおよびロケールの拡張属性が含まれないより古い形式です。一貫性のために、追加される定義には拡張属性はなくなります。

処置: Defgen パラメータ NOEXTATTR を指定して、Defgen で拡張属性が省略されるようにするか、文字エンコーディングおよびロケールをサポートする属性

を含める場合は、新規ファイルへのすべての表に Defgen を再実行します。グローバルバージョン・サポートの詳細は、Oracle GoldenGate のドキュメントを参照します。

OGG-03047: 既存の defs ファイル {0} には拡張属性があります。NOEXTATTR パラメータは無視されます。

原因: Defgen は APPEND モードで、既存の内容は文字エンコーディングおよびローカルの拡張属性を含む形式です。一貫性のために、追加される定義には拡張属性が含まれ、NOEXTATTR は無視されます。

処置: Defgen パラメータ・ファイルから NOEXTATTR パラメータを削除します。

OGG-03048: 既存の定義ファイル {0} は、キャラクタ・セット {1} で書かれています。新しい定義は、同じキャラクタ・セットで追加されます。

原因: Defgen APPEND モードが指定されています。一貫性のために、新しい定義は、既存のファイルと同じキャラクタ・セットで追加されます。

処置: なし

OGG-03049: 既存の defs ファイル {0} は、キャラクタ・セット {1} で書かれています。CHARSET パラメータ値 {2} は無視されます。

原因: Defgen APPEND モードが指定されています。CHARSET パラメータで指定されたキャラクタ・セットは、既存の定義ファイルで使用されているものと異なり、無視されます。

処置: なし

OGG-03050: 既存の定義ファイル {0} に無効なキャラクタ・セット名が含まれているか、ファイルが破損しています。

原因: 既存の定義ファイルに無効なキャラクタ・セットが含まれています。キャラクタ・セットのタグが正しくないか、ファイルが破損している可能性があります。

処置: キャラクタ・セットのタグが間違っている場合は修正するか、新規の定義ファイルを作成して、破損したファイルと置き換えます。

OGG-03051: defgen UPDATECS パラメータに無効なキャラクタ・セット {0} が指定されています。

原因: Defgen UPDATECS パラメータに無効なキャラクタ・セットが指定されています。

処置: 正しいキャラクタ・セットを指定します。

OGG-03052: 定義ファイルは、キャラクタ・セット {0} でエンコードされます。キャラクタ・セットの更新は不要です。

原因: 定義ファイルはすでに、Defgen UPDATECS パラメータで指定されたキャラクタ・セットでエンコードされています。

処置: なし

OGG-03053: キャラクタ・セットを更新するために定義ファイル {0} を開けません。ファイルの属性およびユーザーの権限を調べてください。

原因: 定義ファイルは読取り専用である可能性があるか、Defgen ユーザーにファイルを変更する権限がありません。

処置: ファイルの属性を変更するか、Defgen ユーザーに書き込み権限を付与します。

OGG-03054: 定義ファイル {0} のキャラクタ・セットが {1} から {2} に更新されました。

原因: Defgen パラメータ UPDATECS が指定され、定義ファイルのキャラクタ・セットが正常に更新されました。

処置: なし

OGG-03055: 定義ファイル {0} のキャラクタ・セットを {1} から {2} に更新できませんでした。 {3}

原因: ディスクが一杯か、Defgen ユーザーに定義ファイルへの書き込み権限がありません。

処置: 定義ファイル用に十分なディスク領域があることを確認し、Defgen ユーザーにそのファイルに対する十分な権限があることを確認します。

OGG-03500: 警告: NLS_LANG 環境変数が、データベースのキャラクタ・セットと一致しないか、設定されていません。データベースのキャラクタ・セットの値 {0} を使用しています

原因: NLS_LANG 環境変数が、データベースのキャラクタ・セットと同じ値に設定されていません。Oracle GoldenGate では、データベースのキャラクタ・セットを使用しています。

処置: なし

OGG-03501: 警告: NLS_LANG 環境変数が無効か、設定されていません。オペレーティング・システムのキャラクタ・セットの値 {0} を使用しています

原因: NLS_LANG 環境変数が設定されていないか、有効な値が含まれていません。Oracle GoldenGate では、オペレーティング・システムのキャラクタ・セットを使用しています。

処置: なし

OGG-03502: NLS_LANG 環境変数が設定されていません。

原因: NLS_LANG 環境変数が設定されていません。このエラーは本番で発生してはならないもので、内部アプリケーション・エラーである可能性があります。

処置: NLS_LANG 環境変数を設定します。それでも問題を解決できない場合は、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03503: NLS_LANG 環境変数 {0} は無効です。

原因: NLS_LANG 環境変数が、無効な値に設定されています。このエラーは本番で発生してはならないもので、内部アプリケーション・エラーである可能性があります。

処置: 有効な NLS_LANG 値を指定してください。それでも問題を解決できない場合は、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-03504: NLS_LANG のキャラクタ・セット {0} が、ソース・データベースのキャラクタ・セット {1} と異なります。ソース・データにターゲットの NLS_LANG キャラクタ・セットと互換性のない文字が含まれている場合、レプリケーションが無効になる可能性があります。

原因: NLS_LANG 環境変数が、ソース・データベースのキャラクタ・セット以外のキャラクタ・セットに設定されています。

処置: NLS_LANG 環境変数を、メッセージに示されているソース・データベースのキャラクタ・セットに設定します。

OGG-03505: NLS_LANG キャラクタ・セットは、AL32UTF8 ではありません。
 ユーザー定義のデータ型に NCHAR、NVARCHAR2 および NCLOB 属性がある場合、NLS_LANG は AL32UTF8 として設定する必要があります。そうしないと、データが失われる可能性があります。

原因: The NLS_LANG キャラクタ・セットが、AL32UTF8 に設定されていません。

処置: NLS_LANG キャラクタ・セットを AL32UTF8 として指定してから、Replicat を再起動します。それでも問題が解決できない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-04000: VAM モジュールで、GG_ATTR_MD_CDRCOLS_DEL 配列からの削除のために、競合検出解決列の索引を取得しようとしたが、使用可能な索引がありません (GG_ATTR_MD_CDRCOLS_COUNT_DEL =0)。

原因: VAM モジュールでは、表での削除のために、競合検出解決列を表す索引の列配列を取得できませんでした。GG_ATTR_MD_CDRCOLS_COUNT_DEL は、配列で削除 CDR 列の索引数を示します。ゼロの場合は、索引が存在しません。この場合、GG_ATTR_CDRCOLS_DEL へのコールを作成することはできません。これは開発エラーで、バグ・レポートが必要になる可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-04001: VAM モジュールで、GG_ATTR_MD_CDRCOLS_UPD 配列からの更新のために、競合検出解決列の索引を取得しようとしたが、使用可能な索引がありません (GG_ATTR_MD_CDRCOLS_COUNT_UPD =0)。

原因: VAM モジュールでは、表で更新のために、競合検出解決列を表す索引の列配列を取得できませんでした。GG_ATTR_MD_CDRCOLS_COUNT_UPD は、配列で更新 CDR 列の索引数を示します。ゼロの場合は、索引が存在しません。この場合、GG_ATTR_CDRCOLS_UPD へのコールを作成することはできません。これは開発エラーで、バグ・レポートが必要になる可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-04002: VAM モジュールで、3 つの CDR および圧縮関連のパラメータが正しく設定されていません。

原因: VAM モジュールで、3 つの CDR および圧縮関連のパラメータが正しく設定されていません。GG_ATTR_VAMMOD_CDR_SUPPORTED が GG_VALUE_TRUE に設定されている場合、GG_ATTR_VAMMOD_CDEL_SUPPORTED および GG_ATTR_VAMMOD_CUPD_SUPPORTED は、どちらも GG_VALUE_TRUE に設定する必要があります。VAM API での圧縮の削除および更新中に VAM モジュールで CDR を処理するシナリオは、サポートされていません。これは開発エラーで、バグ・レポートが必要になる可能性があります。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-04501: キャラクタ・セット情報: クライアントのキャラクタ・セット: [{0}]、データベース/サーバーのキャラクタ・セット: [{1}]、CHARSETCONVERT: [{2,choice,0#OFF|1#ON}].

原因: Oracle GoldenGate では、キャラクタ・セットの変換を実行しています。このメッセージには、ソースおよびターゲットのキャラクタ・セット、および変換セットが示されています。

処置: 処理は不要です。

OGG-04502: クライアントのキャラクタ・セット: {0} はサポートされていません。

原因: クライアントで使用されているキャラクタ・セットは、Sybase では非推奨、Oracle Goldengate ではサポートされていません。

処置: サポートされているキャラクタ・セットの詳細は、Sybase および Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-04503: サーバーのキャラクタ・セット: {0} はサポートされていません。

原因: データベース・サーバーで使用されているキャラクタ・セットは、Sybase では非推奨、Oracle Goldengate ではサポートされていません。

処置: サポートされているキャラクタ・セットの詳細は、Sybase および Oracle GoldenGate のドキュメントを参照してください。

OGG-04504: Sybase の警告 2401 が発生しました。キャラクタ・セットの変換は、クライアントとサーバーの間では実行できません。これは、データの整合性を損なう可能性があります。変換のデフォルト設定を使用しています: クライアントのキャラクタ・セット: [{0}]、データベース/サーバーのキャラクタ・セット: [{1}]、CHARSETCONVERT: [OFF]。

原因: Sybase サーバーではクライアントのキャラクタ・セットの一部を解釈できないために、プロセスではクライアントとサーバーの異なるキャラクタ・セットとの間の変換を強制できません。

処置: クライアントまたはサーバーのキャラクタ・セットを、Sybase のメッセージ 2401 を修正し、変換を有効にするキャラクタ・セットに変更します。

OGG-04521: ユーザー・イグジットのリクエストで停止中です。

原因: ユーザー・イグジットのリクエストで停止中です。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-04522: ユーザー・イグジットの互換性レベルを確認できません。{0} は、ユーザー・イグジット・ライブラリ {1} で実行され、デフォルトの互換性レベル ({2}) を使用しています。

原因: プロセスでは、ユーザー・イグジットの互換性レベルを確認できませんでした。デフォルトの互換性レベルが使用されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-04523: ユーザー・イグジット・ライブラリ {1} で実行中の {0} は、互換性レベル ({2}) が最新ではなく、互換性レベル ({3}) を使用しています。

原因: ユーザー・イグジット互換性レベルが最新ではありません。指定した互換性レベルが使用されます。

処置: なし

OGG-04524: ユーザー・イグジット・ライブラリ {1} で実行中の {0} は、互換性レベル ({2}) が最新です。

原因: ユーザー・イグジット互換性レベルが最新ではありません。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-04525: ユーザー・イグジット・ライブラリ {1} で実行中の {0} は、現行セッションのキャラクタ・セットが {2} です。

原因: 指定したユーザー・イグジット・ライブラリおよびセッションのキャラクタ・セットが使用されています。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-04526: {0} は、ユーザー・イグジット・ライブラリ {1} で実行中です。現行セッションのキャラクタ・セットは、オペレーティング・システムのデフォルトのキャラクタ・セットです。

原因: ユーザー・イグジット・セッションのキャラクタ・セットは、オペレーティング・システムのデフォルトのキャラクタ・セットです。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-04527: データ・ソースまたはセッションのキャラクタ・セットを確認できませんでした。ULIB_CS_DEFAULT を使用しています。列データに対してキャラクタ・セット変換が実行されません。

原因: データ・ソースまたはセッションのキャラクタ・セットを確認できませんでした。デフォルトのオペレーティング・システムのキャラクタ・セットが使用されています。

処置: なし

OGG-05000: ULibCharset {0} に対応する MySQL データベースのキャラクタ・セットがありません

原因: SOURCEDB または TARGETDB パラメータに、MySQL でサポートされていないキャラクタ・セットが指定されています。

処置: MySQL でサポートされているキャラクタ・セットを指定します。それでも問題を解決できない場合は、Oracle GoldenGate サポートに連絡してください。

OGG-05101: '{0}' に対して、ETOLDFORMAT と ENCRYPTTRAIL を同時に指定することはできません

原因: Extract パラメータ ETOLDFORMAT が、ENCRYPTTRAIL パラメータとともに指定されています。

処置: パラメータ・ファイルから ENCRYPTTRAIL を削除します。

OGG-05102: 前の試行の失敗後、Oracle データベースへのログオンを再試行しています。

原因: Oracle データベースが起動または停止の最中であることを示したデータベース・エラーのために、プロセスではデータベースにログオンできませんでした。プロセスでは操作が再試行されます。

処置: 処置は不要です。

OGG-05200: 表 {0} のスキーマ (オブジェクト ID{1}) が変更されました。{2} 変更が物理データ・レイアウトに影響を与えた場合、ソース・データベースとターゲット・データベースを再同期化する必要があります。

原因: 指定されたオブジェクトに対して、サポートされていない DDL 変更が実行されました。

処置: TABLE パラメータから表を除外するか、ソース表とターゲット表を再同期化します。

OGG-05201: バックアップ {0} が上書きされています。LSN 範囲 {1} から {2} が検出されましたが、所定の LSN 範囲は {3} から {4} でした。

原因: バックアップは後続のバックアップにより上書きされました。

処置: ソース表とターゲット表を再同期化します。

OGG-05301: シェル・コマンドの出力: '{0}'

原因: EVENTACTIONS 式の一部として宣言された SHELL コマンドにより、レポート作成の目的で取得された出力が生成されました。情報提供のみ。

処置: なし

OGG-05302: 処理のコミット中にエラーが発生しました。

原因: 処理のコミット中にエラーが発生しました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-05303: GRAPHIC/VARGRAPHIC/DBCLOB 列サポートには、UNICODE キャラクタ・セットが必要です。

原因: Oracle GoldenGate では、列のキャラクタ・セットが UNICODE の場合にのみ、GRAPHIC、VARGRAPHIC および DBCLOB 列がサポートされます。

処置: UNICODE データベースで、または UNICODE キャラクタ・セットにより GRAPHIC、VARGRAPHIC または DBCLOB 列を作成し、それができない場合は、Oracle GoldenGate 構成からその表を除外します。

OGG-05304: データベース・インスタンス {0} では、logarchmeth1 がオフに設定されます。

原因: DB2 構成パラメータ LOGARCHMETH1 が、オフに設定されています。

処置: LOGARCHMETH1、LOGRETAIN または USEREXIT 構成パラメータを適切に設定して、DB2 ログ保存を有効にします。

OGG-05305: プロセス {0} は、一時停止状態ではありません。RESUME が無視されています。

原因: SUSPEND 状態ではないプロセスに対して、RESUME を指定した SEND コマンドが発行されました。RESUME 要求が無視されています。

処置: なし

OGG-05500: 現行の証跡ファイル {0} と前の順序との間にデータベース・メタデータの不一致が検出されました。{1}

原因: 現行および前の証跡ファイルの間で、データベース・メタデータの不一致が検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-05501: 現行の証跡ファイル {0} と前の順序との間に証跡形式の不一致を検出しました

原因: 現行および前の証跡ファイルの間で、証跡形式の不一致が検出されました。

処置: Oracle サポート・サービスに連絡してください。

OGG-05502: 警告: 表 {0} はマッピング表付きの IOT です。このタイプの表の DML レプリケーションは、サポートされていません。

原因: マッピング付き IOT は、サポートされていません。マッピング付きの IOT の DDL は正しくレプリケートされますが、マッピング付き IOT の DML はされません。

処置: パラメータ・ファイルを編集して、その表およびこのタイプの他の表を TABLE 文から削除してから、Extract を再起動します。(TABLE でワイルドカードが使用されている場合、TABLEEXCLUDE によりそれらの表を除外できます。) この表に DDL サポートが構成されていなかった場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。